

つくば市

# 上境滝の台古墳群 上境作ノ内遺跡2 上境作ノ内古墳群

中根・金田台特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXXI

令和3年3月

独立行政法人都市再生機構  
東日本都市再生本部  
公益財団法人茨城県教育財団



つくば市

かみざかいたきのだい  
上境滝の台古墳群  
かみざかいさくのうち  
上境作ノ内遺跡2  
かみざかいさくのうち  
上境作ノ内古墳群

中根・金田台特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXXI

令和3年3月

独立行政法人都市再生機構  
東日本都市再生本部  
公益財団法人茨城県教育財団



## 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部による中根・金田台特定土地地区画整理事業に伴って実施した、つくば市上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、旧石器時代から古墳時代にかけての石器集中地点や堅穴建物跡、古墳などが多数確認でき、古墳時代の墓城の一端が明らかになりました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 柴原 宏 一



## 例 言

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成30年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市上境297番地ほかに所在する上境滝の台古墳群及び、茨城県つくば市上境185番地の1ほかに所在する上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

### 調査

- 上境滝の台古墳群 平成30年5月1日～9月30日  
上境作ノ内遺跡 平成30年9月1日～12月31日  
上境作ノ内古墳群 同上

### 整理

- 上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群 令和2年7月1日～令和3年3月31日

- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

- 首席調査員兼班長 胸澤悦郎  
次席調査員 三浦裕介  
調査員 仙波 亨 平成30年5月1日～7月31日  
調査員 経沼智博 平成30年8月1日～12月31日

- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、以下の者が担当した。

- 次席調査員 三浦裕介

- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

- 三浦裕介 第1章～第3章第2節(1)、第3節1～4(1)、5～第4章第2節(1)  
第3節～第4節  
埋蔵文化財の保存処理 いしかわ 第3章第3節4(2)  
バリノ・サーヴェイ株式会社 第3章第2節(2)、第3節4(3)、第4章第2節(2)  
株式会社 イビソク 第3章第3節4(4)、第4章第3節2

- 6 本書の作成にあたり、以下の機関に業務委託した。

- 石器実測及びトレース業務委託 石器の実測トレース Technologic 太田  
ローム層序自然科学分析及び金属製品X線撮影、保存処理、木質付着鉄製品の自然科学分析業務委託  
バリノ・サーヴェイ株式会社  
金属製品X線撮影及び保存処理、蛍光X線分析業務委託 埋蔵文化財の保存処理 いしかわ  
金属製品X線撮影及び保存処理、ガラス小玉成分分析業務委託 株式会社 イビソク

- 7 本書の作成にあたり、諸氏よりご指導・ご協力いただいた。(敬称省略)

- 植輪指導 賀来孝代  
旧石器指導 窪田恵一  
石棺石材鑑定 茨城大学名誉教授 田切美智雄

- 8 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

# 凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系座標に準拠し、上境滝の台古墳群は $X = +12,320$  m,  $Y = +26,200$  mの交点を、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は $X = +12,640$  m,  $Y = +26,080$  mの交点をそれぞれ基準点(A1a)とした。なお、この原点は、世界測地系(測地成果2011)による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j, 西から東へ1, 2, 3, …0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a区」のように呼称した。

- 2 実測図・表等で使用した記号は次のとおりである。

遺 構	HT - 方形竪穴遺構	P - ビット	PG - ビット群	SD - 溝跡	SI - 竪穴建物跡	
	SK - 土坑	TM - 古墳	SS - 石器集中地点	SN 粘土探掘坑	HD - 遺構外	
土層解説	ローム-ロームブロック	粘土-粘土ブロック	粘-粘性	締-締まり	K - 攪乱	
	含有量	A - 多量	B - 中量	C - 少量	D - 微量	○' - 極めて
		粘性-締まり	A - 強い	B - 普通	C - 弱い	○' - 極めて
		サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。				

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は500分の1(上境滝の台古墳群)、600分の1(上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群)、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉		炉・繊維土器		柱あたり
	須恵器		布状物質		
●土器	○土製品	□石器・石製品	△金属製品	- - -	硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位はm, cm, gで示した。なお、現存値は( )を、推定値は[ ]を付して示した。
- (2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、表、写真図版に記した番号と同一とした。
- (3) 遺物一覧の備考の欄は、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

- 7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下のとおりである。

上境滝の台古墳群

変更 SI 1 → PG 2, SI 7 → HT 1, FP 1 → SK308

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群

変更 SD18 → SD 3, SK164 → SN 2, SN 1 → SN 2

欠番 SS 2・4, SK39・62・91・92・99・108・110・112・130・134・136・164



# 目 次

序

例 言

凡 例

目 次

上境滝の古墳群、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 上境滝の古墳群	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
1 基本層序	11
2 自然化学分析	12
第3節 遺構と遺物	15
1 旧石器時代の遺構と遺物	15
(1) 石器集中地点	15
(2) 集中地点外出土遺物	41
2 縄文時代の遺構と遺物	47
土坑	47
3 弥生時代の遺構と遺物	76
竪穴建物跡	76
4 古墳時代の遺構と遺物	82
(1) 古墳	82
(2) 鉄製品蛍光X線分析報告	92
(3) 木質付着鉄製品の自然科学分析	94
(4) ガラス小玉等の蛍光X線分析	97
5 その他の遺構と遺物	100
(1) 竪穴建物跡	100
(2) 方形竪穴遺構	100

(3) 土坑	101
(4) 溝跡	102
(5) ビット群	103
(6) 遺構外出土遺物	103
第4節 総 括	107
第4章 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群	110
第1節 調査の概要	110
第2節 基本層序	110
1 基本層序	110
2 然化学分析	111
第3節 遺構と遺物	115
1 旧石器時代の遺構と遺物	115
(1) 石器集中地点	115
(2) 集中地点外出土遺物	125
2 古墳時代の遺構と遺物	128
古墳	128
3 平安時代の遺構と遺物	155
土坑	155
4 江戸時代の遺構と遺物	156
溝跡	156
5 その他の遺構と遺物	156
(1) 土坑	156
(2) 溝跡	157
(3) 粘土探掘坑	157
(4) 遺構外出土遺物	157
第4節 総 括	158
写真図版	PL 1～PL50
抄 録	

# 挿 図 目 次

第 1 図 周辺道路分布図	6
第 2 図 調査区設定図	9
第 3 図 上境滝の古墳群遺構全体図	10
第 4 図 基本土層図	11
第 5 図 上境滝の古墳群のテストビットの重なり組成および火山ガラス比	14
第 6 図 第1号石器集中地点出土遺物分布図(石材)	15
第 7 図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(1)	16
第 8 図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(2)	17
第 9 図 第2号石器集中地点遺物分布図(石材)	19
第10図 第2号石器集中地点出土遺物実測図	19
第11図 第3号石器集中地点遺物分布図(石材)	20
第12図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料)	21
第13図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1)	22
第14図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料2)	23
第15図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料3・4)	24

第16図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(1)	25
第17図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(2)	26
第18図 第4号石器集中地点遺物分布図(石材)	27
第19図 第4号石器集中地点遺物分布図(接合資料)	28
第20図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1・2)	29
第21図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料3)	30
第22図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料4・5)	31
第23図 第5号石器集中地点遺物分布図(石材)	34
第24図 第5号石器集中地点出土遺物実測図	34
第25図 第5号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1)	35
第26図 第6号石器集中地点遺物分布図	36
第27図 第6号石器集中地点出土遺物実測図(1)	37
第28図 第6号石器集中地点出土遺物実測図(2)	38
第29図 第6号石器集中地点出土遺物実測図(3)	39
第30図 集中地点外出土遺物実測図(1)	42

第 31 国	集地点外出土遺物実測図 (2)	43	第 90 国	第 3 号墳主体部実測図・遺物出土状況	84
第 32 国	集地点外出土遺物実測図 (3)	44	第 91 国	第 3 号墳主体部掘方実測図	85
第 33 国	第 3 号土坑・出土遺物実測図	48	第 92 国	第 3 号墳出土遺物実測図 (1)	87
第 34 国	第 11 号土坑・出土遺物実測図	48	第 93 国	第 3 号墳出土遺物実測図 (2)	88
第 35 国	第 33 号土坑・出土遺物実測図	49	第 94 国	第 3 号墳出土遺物実測図 (3)	89
第 36 国	第 34 号土坑・出土遺物実測図	49	第 95 国	第 5 号壜穴建物跡実測図	100
第 37 国	第 35・36 号土坑・出土遺物実測図	50	第 96 国	第 1 号方形壜穴遺構実測図	101
第 38 国	第 38 号土坑・出土遺物実測図	51	第 97 国	第 1 号溝跡・出土遺物実測図	102
第 39 国	第 45 号土坑・出土遺物実測図	51	第 98 国	第 1 号ビット群出土遺物実測図	103
第 40 国	第 61 号土坑・出土遺物実測図	52	第 99 国	遺構外出土遺物実測図 (1)	103
第 41 国	第 66 号土坑・出土遺物実測図	52	第 100 国	遺構外出土遺物実測図 (2)	104
第 42 国	第 73 号土坑・出土遺物実測図	53	第 101 国	遺構外出土遺物実測図 (3)	105
第 43 国	第 78・131 号土坑・出土遺物実測図	53	第 102 国	上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群遺構全体図	109
第 44 国	第 85 号土坑実測図	54	第 103 国	上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群基本土層図	111
第 45 国	第 85 号土坑出土遺物実測図	55	第 104 国	上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群のテストビットの重鉱物組成および火山ガラス比	113
第 46 国	第 96 号土坑・出土遺物実測図	56	第 105 国	第 1 号石器集地点遺物分布図 (石材)	115
第 47 国	第 99 号土坑・出土遺物実測図	56	第 106 国	第 1 号石器集地点出土遺物実測図 (接合資料 1)	116
第 48 国	第 112・150 号土坑実測図	57	第 107 国	第 1 号石器集地点出土遺物実測図 (接合資料 2)	117
第 49 国	第 150 号土坑出土遺物実測図	57	第 108 国	第 3 号石器集地点遺物分布図 (石材)	118
第 50 国	第 113 号土坑・出土遺物実測図	57	第 109 国	第 3 号石器集地点出土遺物実測図	119
第 51 国	第 119 号土坑・出土遺物実測図	58	第 110 国	第 5 号石器集地点遺物分布図 (石材)	120
第 52 国	第 126 号土坑実測図	58	第 111 国	第 5 号石器集地点遺物分布図 (接合資料)	121
第 53 国	第 126 号土坑出土遺物実測図	59	第 112 国	第 5 号石器集地点出土遺物実測図 (接合資料 2)	121
第 54 国	第 127 号土坑・出土遺物実測図	59	第 113 国	第 5 号石器集地点出土遺物実測図 (接合資料 1)	122
第 55 国	第 130 号土坑・出土遺物実測図	60	第 114 国	第 5 号石器集地点出土遺物実測図 (接合資料 3-6)	123
第 56 国	第 138・139 号土坑実測図	60	第 115 国	第 5 号石器集地点出土遺物実測図	124
第 57 国	第 138・139 号土坑出土遺物実測図	61	第 116 国	集地点外出土遺物実測図 (1)	125
第 58 国	第 142 号土坑・出土遺物実測図	62	第 117 国	集地点外出土遺物実測図 (2)	126
第 59 国	第 143 号土坑・出土遺物実測図	62	第 118 国	第 1 号墳完掘実測図	128
第 60 国	第 147 号土坑実測図	62	第 119 国	第 1 号墳周溝土層断面図	129
第 61 国	第 147 号土坑出土遺物実測図	63	第 120 国	第 1 号墳埋輪出土状況図	130
第 62 国	第 160 号土坑・出土遺物実測図	63	第 121 国	第 1 号墳出土遺物実測図 (1)	131
第 63 国	第 169・172 号土坑・出土遺物実測図	64	第 122 国	第 1 号墳出土遺物実測図 (2) 厨形埴輪 (機織)	132
第 64 国	第 171 号土坑・出土遺物実測図	64	第 123 国	第 1 号墳出土遺物実測図 (3) 厨形埴輪 (機織・人物)	133
第 65 国	第 193 号土坑実測図	65	第 124 国	第 1 号墳出土遺物実測図 (4) 形象埴輪 (馬)	134
第 66 国	第 194 号土坑・出土遺物実測図	65	第 125 国	第 1 号墳出土遺物実測図 (5)	135
第 67 国	第 193 号土坑出土遺物実測図	66	第 126 国	第 8 号墳完掘実測図	141
第 68 国	第 197 号土坑・出土遺物実測図	66	第 127 国	第 8 号墳土層断面図・石棺内遺物出土状況図・箱式石棺展開図	142
第 69 国	第 216 号土坑・出土遺物実測図	67	第 128 国	第 8 号墳埋葬施設掘方土層断面実測図	143
第 70 国	第 220 号土坑・出土遺物実測図	67	第 129 国	第 8 号墳出土遺物実測図 (1)	144
第 71 国	第 242 号土坑・出土遺物実測図	68	第 130 国	第 8 号墳出土遺物実測図 (2)	145
第 72 国	第 256 号土坑・出土遺物実測図	69	第 131 国	第 9 号墳完掘実測図	147
第 73 国	第 257 号土坑・出土遺物実測図	69	第 132 国	第 9 号墳周溝土層断面図・埋葬施設土層断面図	148
第 74 国	第 260 号土坑・出土遺物実測図	70	第 133 国	第 9 号墳出土遺物実測図	149
第 75 国	第 261 号土坑・出土遺物実測図	70	第 134 国	第 10 号墳完掘実測図	153
第 76 国	第 276 号土坑・出土遺物実測図	71	第 135 国	第 10 号墳周溝・埋葬施設・土層断面・出土遺物実測図	154
第 77 国	第 282 号土坑・出土遺物実測図	71	第 136 国	第 128 号土坑・出土遺物実測図	155
第 78 国	第 286 号土坑・出土遺物実測図	72	第 137 国	第 17 号溝跡・第 58・159 号土坑・遺構外出土遺物実測図	157
第 79 国	第 286 号土坑・出土遺物実測図	72	第 138 国	上境作ノ内古墳群分布図	158
第 80 国	第 302 号土坑・出土遺物実測図	73	第 139 国	第 1 号墳掘式石棺展開図	158
第 81 国	第 2 号壜穴建物跡実測図 (1)	76	第 140 国	第 1 号墳出土機織形埴輪復元図 (1)	160
第 82 国	第 2 号壜穴建物跡実測図 (2)	77	第 141 国	第 1 号墳出土機織形埴輪復元図 (2)	161
第 83 国	第 2 号壜穴建物跡出土遺物実測図	77			
第 84 国	第 3 号壜穴建物跡実測図	78			
第 85 国	第 3 号壜穴建物跡出土遺物実測図	79			
第 86 国	第 4 号壜穴建物跡実測図	80			
第 87 国	第 6 号壜穴建物跡・出土遺物実測図	81			
第 88 国	第 3 号墳完掘実測図	82			
第 89 国	第 3 号墳墳丘・周溝土層断面実測図	83			

# 挿表目次

第 1 表	周辺道路一覧	7	第 58 表	第 216 号土坑出土遺物一覧	67
第 2 表	上城岡の古墳群の重葺物・火山ガラス比分析結果	-14	第 59 表	第 220 号土坑出土遺物一覧	68
第 3 表	第 1 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧	17	第 60 表	第 242 号土坑出土遺物一覧	68
第 4 表	第 1 号石器集中地点層位別石材重量一覧	17	第 61 表	第 256 号土坑出土遺物一覧	69
第 5 表	第 1 号石器集中地点出土遺物一覧	17	第 62 表	第 257 号土坑出土遺物一覧	69
第 6 表	第 2 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧	18	第 63 表	第 260 号土坑出土遺物一覧	70
第 7 表	第 2 号石器集中地点層位別石材重量一覧	18	第 64 表	第 261 号土坑出土遺物一覧	70
第 8 表	第 2 号石器集中地点出土遺物一覧	20	第 65 表	第 276 号土坑出土遺物一覧	71
第 9 表	第 3 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧	21	第 66 表	第 282 号土坑出土遺物一覧	71
第 10 表	第 2 号石器集中地点層位別石材重量一覧	21	第 67 表	第 286 号土坑出土遺物一覧	72
第 11 表	第 3 号石器集中地点出土遺物一覧	26	第 68 表	第 295 号土坑出土遺物一覧	73
第 12 表	第 4 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧	28	第 69 表	第 302 号土坑出土遺物一覧	73
第 13 表	第 4 号石器集中地点層位別石材重量一覧	28	第 70 表	縄文時代土坑一覧	73
第 14 表	第 4 号石器集中地点出土遺物一覧	32	第 71 表	第 2 号竪穴建物跡出土遺物一覧	77
第 15 表	第 5 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧	33	第 72 表	第 3 号竪穴建物跡出土遺物一覧	79
第 16 表	第 5 号石器集中地点層位別石材重量一覧	33	第 73 表	第 6 号竪穴建物跡出土遺物一覧	80
第 17 表	第 5 号石器集中地点出土遺物一覧	35	第 74 表	弥生時代竪穴建物跡一覧	81
第 18 表	第 6 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧	39	第 75 表	第 3 号噴出土遺物一覧	90
第 19 表	第 6 号石器集中地点層位別石材重量一覧	39	第 76 表	その他の土坑一覧	101
第 20 表	第 6 号石器集中地点出土遺物一覧	40	第 77 表	第 1 号溝跡出土遺物一覧	103
第 21 表	集中地点外石材別器種一覧	42	第 78 表	第 1 号ピット群出土遺物一覧	103
第 22 表	集中地点外石材別重量一覧	42	第 79 表	第 1 号ピット群ピット一覧	103
第 23 表	集中地点外出土遺物一覧	44	第 80 表	第 2 号ピット群ピット一覧	103
第 24 表	第 3 号土坑出土遺物一覧	48	第 81 表	遺構外出土遺物一覧	106
第 25 表	第 11 号土坑出土遺物一覧	48	第 82 表	出土地点・層位別器種・石材一覧	107
第 26 表	第 33 号土坑出土遺物一覧	49	第 83 表	上境作ノ内道路・上境作ノ内古墳群の重葺物・火山ガラス比分析結果	113
第 27 表	第 34 号土坑出土遺物一覧	49	第 84 表	第 1 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧	115
第 28 表	第 35 号土坑出土遺物一覧	50	第 85 表	第 1 号石器集中地点層位別石材重量一覧	115
第 29 表	第 36 号土坑出土遺物一覧	50	第 86 表	第 1 号石器集中地点出土遺物一覧	117
第 30 表	第 38 号土坑出土遺物一覧	51	第 87 表	第 3 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧・層位別石材重量一覧	118
第 31 表	第 45 号土坑出土遺物一覧	51	第 88 表	第 3 号集中地点出土遺物一覧	118
第 32 表	第 61 号土坑出土遺物一覧	52	第 89 表	第 5 号石器集中地点層位別単位石材器種一覧	120
第 33 表	第 66 号土坑出土遺物一覧	52	第 90 表	第 5 号石器集中地点層位別石材重量一覧	120
第 34 表	第 73 号土坑出土遺物一覧	53	第 91 表	第 5 号石器集中地点出土接合資料	121
第 35 表	第 78 号土坑出土遺物一覧	54	第 92 表	第 5 号集中地点出土遺物一覧	124
第 36 表	第 131 号土坑出土遺物一覧	54	第 93 表	集中地点外石材単位器種・石材重量一覧	125
第 37 表	第 85 号土坑出土遺物一覧	54	第 94 表	集中地点外出土遺物一覧	126
第 38 表	第 96 号土坑出土遺物一覧	56	第 95 表	第 1 号噴出土遺物一覧	136
第 39 表	第 99 号土坑出土遺物一覧	56	第 96 表	第 1 号噴出土遺物一覧(円筒埴輪)	136
第 40 表	第 150 号土坑出土遺物一覧	57	第 97 表	第 1 号噴出土遺物一覧(形象埴輪)	139
第 41 表	第 113 号土坑出土遺物一覧	58	第 98 表	第 8 号噴出土遺物一覧	145
第 42 表	第 119 号土坑出土遺物一覧	58	第 99 表	第 8 号噴出土遺物一覧(円筒埴輪)	146
第 43 表	第 126 号土坑出土遺物一覧	59	第 100 表	第 8 号噴出土遺物一覧(形象埴輪)	146
第 44 表	第 127 号土坑出土遺物一覧	59	第 101 表	第 9 号噴出土遺物一覧	149
第 45 表	第 130 号土坑出土遺物一覧	59	第 102 表	第 10 号噴出土遺物一覧	155
第 46 表	第 138 号土坑出土遺物一覧	61	第 103 表	古墳一覧	155
第 47 表	第 139 号土坑出土遺物一覧	61	第 104 表	第 128 号土坑出土遺物一覧	155
第 48 表	第 142 号土坑出土遺物一覧	62	第 105 表	第 3 号溝跡	156
第 49 表	第 143 号土坑出土遺物一覧	62	第 106 表	その他の土坑一覧	156
第 50 表	第 147 号土坑出土遺物一覧	63	第 107 表	第 17 号溝跡、第 58・159 号土坑、遺構外出土遺物一覧	157
第 51 表	第 160 号土坑出土遺物一覧	63	第 108 表	その他の溝跡一覧	157
第 52 表	第 169 号土坑出土遺物一覧	64	第 109 表	その他の粘土探掘坑	157
第 53 表	第 172 号土坑出土遺物一覧	64	第 110 表	遺構外出土遺物一覧	157
第 54 表	第 171 号土坑出土遺物一覧	65			
第 55 表	第 193 号土坑出土遺物一覧	65			
第 56 表	第 194 号土坑出土遺物一覧	65			
第 57 表	第 197 号土坑出土遺物一覧	67			

## 写真図版目次

PL1	上境作ノ内古墳群第1号墳出土土壌輪	PL12	第10号墳 埋葬施設掘方
	上境河の台古墳群全景 (鉾直から)	PL12	第19号溝跡
PL1	上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群全景 (鉾直から)	PL13	第17号溝跡 (南から)
PL2	第3号墳 (西から)	PL13	第3号溝跡 (西から)
PL2	第3号墳 墳丘残存部	PL13	第95号土坑 (石上)
PL2	第3号墳 埋葬施設埋没状況	PL13	第117号土坑
PL2	第3号墳 埋葬施設	PL13	第128号土坑 遺物出土状況
PL2	第3号墳 埋葬施設掘方	PL13	第1号粘土採掘坑
PL3	第3号墳 埋葬施設 (北壁)	PL14	第1号石器集中地点 遺物出土状況
PL3	第3号墳 埋葬施設裏込土土層 (北壁)	PL14	第3号石器集中地点 遺物出土状況
PL3	第3号墳 埋葬施設 (南壁)	PL15	第1号テストピット
PL3	第3号墳 埋葬施設裏込土土層 (南壁)	PL15	第5号石器集中地点 遺物出土状況
PL3	第3号墳 埋葬施設 (東壁)	PL15	テストピット1 分析用試料土壌採取状況
PL3	第3号墳 埋葬施設裏込土土層 (東壁)	PL15	テストピット2
PL3	第3号墳 埋葬施設 (西壁)	PL15	テストピット3
PL3	第3号墳 埋葬施設裏込土土層 (西壁)	PL16	第1・2号石器集中地点出土石器
PL4	第2号竪穴建物跡	SS1	1・2・3・4・6・7・12・13・22 48・49・56・57・73・74・80・93
PL4	第3号竪穴建物跡	SS2	1・7・15・19
PL4	第1号方型竪穴遺構	PL17	第2・3号石器集中地点出土石器
PL4	第85号土坑 遺物出土状況	SS2	2・4・6・8・9・11・12・16・17
PL4	第193号土坑 遺物出土状況	SS3	8・20・22・27・34・45・49・50・52 59・63・64・65・69・1・69・2・72・74
PL4	第220号土坑 遺物出土状況	PL18	第3号石器集中地点出土石器 (接合資料1)
PL4	テストピット		接合資料1
PL4	テストピット 分析用試料土壌採取状況	PL19	第3号石器集中地点出土石器 (接合資料2・3)
PL5	第1号石器集中地点 遺物出土状況		接合資料2 (51・73)
PL5	第2号石器集中地点 遺物出土状況		接合資料3
PL6	第3号石器集中地点 遺物出土状況	PL20	第3号石器集中地点出土石器 (接合資料3)
PL6	第4号石器集中地点 遺物出土状況		接合資料3 (30・58・60・61・66)
PL7	第5号石器集中地点 遺物出土状況		14・18・19・23・28・39・47・48・54・55・62・67・75
PL7	第6号石器集中地点 遺物出土状況	PL21	第3号石器集中地点出土石器 (接合資料4)
PL8	第8号墳		第4号石器集中地点出土石器 (接合資料1)
PL8	箱式石棺蓋石確認状況	SS3	接合資料4 (9)
PL8	箱式石棺蓋石検出状況		1
PL8	第8号墳 箱式石棺内部確認状況 (1)	SS4	接合資料1 (10・51)
PL8	第8号墳 箱式石棺内部確認状況 (2)		33・34・55・84
PL9	第8号墳 箱式石棺内部確認状況 (3) (東から)	PL22	第4号石器集中地点出土石器 (接合資料2・4)
PL9	第8号墳 石棺内遺物出土状況 (東から)		接合資料2 (43・45・47・48)
PL9	第8号墳 箱式石棺 (鉾直)		接合資料4 (78・85)
PL9	第8号墳 石棺掘方裏込土土層断面 (西から)		1・5・18・32・37・40・44・54・70・75・79
PL9	第8号墳 石棺南東コーナー部日地粘土 (南壁)	PL23	第4号石器集中地点出土石器 (接合資料3・5)
PL9	第8号墳 箱式石棺板石検出状況		接合資料3 (52・81)
PL9	第8号墳 埋葬施設掘方 (西から)		接合資料5 (77・80・82・92)
PL10	第1号墳		9・39・57・58・61・67・86・88
PL10	第1号墳 因濟南東部遺物出土状況 形象埴輪	PL24	第4号石器集中地点出土石器
PL10	第1号墳 第1号墳 因濟北東部遺物出土状況 形象埴輪		第5号石器集中地点出土石器 (接合資料1)
PL10	第1号墳 因濟南西部遺物出土状況 円筒埴輪	SS4	19・24・25・27・42・65・72・73・74・87・94
PL10	第1号墳 埋葬施設掘方	SS5	19
PL11	第9号墳		接合資料1 (14・17)
PL11	第9号墳 埋葬施設確認状況	PL25	第5・6号石器集中地点出土石器
PL11	第9号墳 埋葬施設内石材検出状況	SS5	1・5
PL11	第9号墳 埋葬施設 (南から)	SS6	2・6・7・18・28・37・52・53・57・81・128 149・155・162・193・195・196・198・200・201 204
PL11	第9号墳 埋葬施設掘方		
PL12	第10号墳		
PL12	第10号墳 埋葬施設内石材検出状況		

PL26	第6号石器集中地点・集中地点外出土石器 SS 6 3・4・10・14・19・26・27・44・60・67・84 110・125・148・161・164・171・178・191・192 194・205 集中地点外 4・8・12・13・257	PL38	第3号墳出土ガラス製品 TM 3-116 ~ 227
PL27	集中地点外出土石器 (1) 1・2・3・5・9・11・14・15・17・18・103 188・209・223・225・240	PL39	第1号石器集中地点出土石器 (接合資料1・2) 第3号石器集中地点出土石器 SS 1 接合資料1・接合資料2 SS 1-1・3・5・8・10・11 SS 3-2
PL28	集中地点外出土石器 (2) 6・7・10・16・19・21・22・24・25・26・27・30・32 33・34・35・150・232・245・248	PL40	第5号石器集中地点出土石器 (接合資料1~3・6) 接合資料1 (9・17・20・22・23・31・42・43) 接合資料2 (18・19) 接合資料3 (27・35・37・39) 接合資料6 (33・40)
PL29	第2・3・6号竪穴建物跡。第33・85号土坑出土遺物 SI 2-1・2, SI 3-1, SI 6-1, SK33-1, SK85-1	PL41	第5号石器集中地点出土石器 (接合資料4・5) 接合資料4 (30・36・38) 接合資料5 (32・41)
PL30	第3・34・36・38・45・61・66・73・85・90号土坑出土石器 SK 3-1, SK34-2, SK36-1・2, SK38-1・2 SK45-1, SK61-1, SK66-1・2, SK73-1・2・3 SK85-4, SK99-1	PL42	集中地点外出土石器 (接合資料1) 接合資料1 4・10・11・16・21・22・45・47・48・50・62・65 69・79・82・83・86・91・127
PL31	第78・85・96・113・126・130号土坑出土石器 SK78-1, SK85-2・3, SK96-1, SK113-1 SK126-1・2, SK130-1	PL43	第17号溝跡。第95・128・141号土坑。第10号墳出土石器。 第1号墳出土円筒埴輪 SD17-1, SK95-1, SK141-1, 128-1・2, TM10-1 TM1-11・14・21・24・25・30・38・65・68・109・119
PL32	第119・126・127・130・131・142・143・147・169・ 172・194・197・256号土坑出土石器 SK119-1, SK126-3, SK127-1, SK130-2 SK131-1・2, SK142-1・2, SK143-1, SK147-2 SK169-1, SK173-1, SK194-1, SK197-1, SK256-1 第130・138・147・150・160・216・220・257・286 302号土坑出土石器	PL44	第1号墳出土形象埴輪 128・129・142・143・144・146・147・148・149 151・152
PL33	SK130-3, SK138-1, SK147-1, SK150-1・2・3・ 4, SK160-1, SK216-1, SK220-1, SK257-1, SK286-1, SK302-1	PL45	第1号墳出土形象埴輪 (馬形) 138・139・140
PL34	第193・242・260・261・276号土坑。第1号溝跡。 第3号墳。遺構外出土遺物 SK193-1, SK242-1, SK261-1, SK260-1, SK276-1, SD 1-1, TM 3-5, 遺構外-22・24・25・26	PL46	第1号墳出土器財埴輪 (模織形) 135・136
PL35	第3・4・5号石器集中地点。第11・66号土坑。第1 号ピット群。遺構外出土石器 第3号墳出土金属製品 (1) SS 3-31・33, SS 4-22, SS 5-15, SK11-1, SK66-3 FG 1-1, 遺構外-27・30・31・33・34, TM 3-6・7・ 10・11・12・15・16	PL47	第1号墳出土器財埴輪 (模織形・人物) 135・137
PL36	第3号墳出土金属製品 (2) TM 3-13・14・17・19・20・23・35・36・37・38・39 40・41・42・43・44・45・58・59	PL48	第8・9号墳。第17号溝跡。第58・159号土坑。遺構外 出土埴輪 (円筒・形象) SD17-8, SD17-15, SK58-7・159-1, 遺構外-1・2・4・5, TM 8-1・2・3, TM 9-2・3
PL37	第3号墳出土金属製品 (3) TM 3-24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34	PL49	第8号墳出土金属製品 TM 8-7・8・9・11・12・13・14・15・16・17
		PL50	第8・9・10号墳出土金属製品 第9号墳出土ガラス製品 TM 8-4・5・6・10・18 TM 9-6・7・8・29 TM10-2



## 上境滝の台古墳群, 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の概要

### 遺跡の位置と調査の目的

上境滝の台古墳群, 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は、つくば市の東部、桜川右岸の台地上に立地しています。2つの古墳群は谷津を挟んで250 mの距離で隣り合っています。今回、中根・金田台特定土地区画整理事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成30年度に、上境滝の台古墳群の3,415 m<sup>2</sup>について、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の5,522 m<sup>2</sup>について発掘調査を行いました。



筑波山を望む調査区全景（北：上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群調査前 南：上境滝の台古墳群調査終了）

### 上境滝の台古墳群の調査の内容と成果

旧石器時代の石器集中地点6か所、縄文時代の土坑184基、弥生時代の堅穴建物跡4棟、古墳時代の古墳1基などが確認できました。

石器群のなかには、約3万年前に噴火した鹿児島県の始良カルデラの火山灰が含まれる地層よりも古い地層から出土している石器があります。

第3号墳は全長約30mの前方後円墳で、埋葬施設は盗掘を受けていました

が、銀象嵌ぎんぞうかんや鉄地金銅張りの刀装具てつじこんどうぼや直径約3～5mmのガラス小玉とうそうぐが122点出土しています。出土した刀装具の破片などから、少なくとも3振の大刀ふぐが副葬品として納められていたことが推定されます。



第1号石器集中地点調査風景



第3号墳主体部調査風景

### 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の調査の内容と成果

旧石器時代の石器集中地点3か所、古墳時代の古墳4基、平安時代の土坑1基、江戸時代の溝跡1条などを確認しました。

当古墳群は、これまで7基から構成される古墳群とされていましたが、今回の調査で新たに3基の古墳（第8～10号墳）が確認でき、10基の古墳で構成されていたことが分かりました。いずれの古墳も墳丘が削平され、埋葬施設は盗掘を受けていましたが、第8号墳は箱式石棺はこしきせつかんが残っていました。

第1号墳の周溝からは、円筒埴輪えんとうはにわや形象埴輪けいいうはにわ、器財埴輪きざいはにわが出土しています。覆土上層の自然堆積土から出土しているため、投棄されたものと考えられます。器財埴輪は、機織はたおり（地機じばた）をかたどった埴輪と推測され、全国でも類例の少ない資料となります。



第1号墳周溝遺物出土状況



第8号墳蓋石検出状況



# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

中根・金田台地区については、独立行政法人都市再生機構が施行者となり土地画整理事業を実施した。この事業は、平成6年9月に、茨城県知事・つくば市長から住宅・都市整備公団（当時）へ事業施行要請を行い、その後、事業実施に向けた検討を進め、平成16年5月に事業認可され、計6回の事業計画変更認可の手続きを経て、平成30年11月に換地処分公告されたものである。なお、独立行政法人都市再生機構は平成16年7月に設立されたが、その前身は、都市基盤整備公団（平成11年10月設立）、更にその前身は、住宅・都市整備公団（昭和56年10月設立）と、数回、組織改編が行われている。

平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は、茨城県教育委員会教育長あてに中根・金田台特定土地画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受け茨城県教育委員会は、平成7年度、上境作ノ内遺跡及び上境作ノ内古墳群について、平成11年度、上境滝の台古墳群について現地踏査を実施し、平成11年度に3遺跡の試掘調査を実施した。平成11年12月10日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに事業地内に遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成30年2月5日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成30年2月13日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、発掘調査を実施するよう通知した。平成30年2月26日、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役は、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成30年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役あてに、3遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構首都圏ニュータウン本部つくば・千葉常磐担当推進役から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成30年5月1日から12月31日まで発掘調査を実施した。

## 第2節 調査経過

上境滝の台古墳群は、平成30年5月1日から9月30日までの5か月間、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は、平成30年9月1日から12月31日までの4か月間にわたり調査を実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■				■		
遺構調査			■	■	■	■	■		
遺物洗淨 注記 写真整理		■	■	■	■	■	■	■	■
撤収									■

■ 上境滝の台古墳群    ■ 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

上境滝の台古墳群は、茨城県つくば市上境 297 番地ほかに、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は、茨城県つくば市上境 185 番地の1ほかに所在している。

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、東方約 5 km には霞ヶ浦、北端には筑波山がある。市域の地勢は、筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と、市の西側を南下する小貝川の低地及びそれらに挟まれた標高 25 ～ 26 m のほぼ平坦な筑波・稲敷台地からなっている。この台地には、花室川、蓮沼川、谷田川、西谷田川など中小河川が南流して、台地縁辺部を樹枝状に開析している。そのため、谷津や低地が南北に細長く発達し、北から南に細長く延びる舌状台地が形成されている。桜川によって大きく開析された流域には、標高約 5 m の沖積低地が形成され、台地との標高差は約 20 m である。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり、地質的には新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積している。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上部に常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層、さらにその上部に関東ローム層が堆積し、最上部は腐植土層となっている<sup>1)</sup>。

上境滝の台古墳群は、桜川右岸の支谷に北面する標高 18 ～ 27 m の台地上に立地している。調査前の現況は開発のため整地されており、調査区西側の支谷は一部埋め立てられ、第 3 号墳墳丘南側は削平されていた。つくば市の踏査により 3 基の古墳が確認されており、第 1・2 号墳は<sup>185-2</sup>體見神社の南東 50 m、北西 250 m にそれぞれ位置しており、径 14 m、高さ 1 m の円墳である<sup>2)</sup>。第 3 号墳は第 2 号墳の南 50 m に位置し、南側が調査区にかかっている。支谷を挟んだ約 250 m 北の台地上には、上境作ノ内遺跡と上境作ノ内古墳群が所在している。

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は桜川右岸の標高 22 ～ 26 m の台地上に立地し、遺跡範囲は一部重複している。調査前の現況は開発のため整地されていた。北西側及び南側に桜川の低地から延びる支谷が入り込み、台地は扇状に北東側へ広がり、その基部に向かい合うように位置している。低位面との比高は約 10 m である。古墳はつくば市の踏査により、台地縁辺部の東側に 6 基、南側に 1 基確認されており、今回の調査で新たに 3 基の古墳を確認した。第 1 号墳は旧地権者の信仰対象であったため、平成 12 年度につくば市により調査が行われ移設されている<sup>3)</sup>。支谷を挟んだ約 300 m 北西の台地上には、上野古屋敷遺跡が所在している。

上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群周辺の土地利用の現状は、台地縁辺部の一部が雑木林と杉林となっており、上境作ノ内遺跡の一部は、茨城県教育財団の調査以降、宅地として開発されている。また、遺跡の位置する台地を挟むように入り込む支谷は水田または休耕田である。

### 第2節 歴史的環境

桜川右岸に位置する上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡、上境作ノ内古墳群周辺の台地上には、旧石器時代から近世に至るまで、各時代の遺跡が多数分布している。ここでは、桜川と花室川流域の同時代の遺跡を中心に分布の概要について述べる。

旧石器時代の遺跡は、他の時代と比べて遺跡数は極めて少ない。これらの遺跡は、主に桜川・花室川流域の

台地上や谷田川・運沼川流域の台地上に立地している。桜川・花室川流域の遺跡では、当遺跡をはじめ、上野古屋敷遺跡<sup>1)</sup>(33)、中根中谷津遺跡<sup>2)</sup>(10)、東岡中原遺跡<sup>3)</sup>(21)で石器集中地点が確認されている。中でも東岡中原遺跡では、荒屋型彫刻刀形石器を含む細石刃石器群、ナイフ形石器、尖頭器、搔器、彫刻刀形石器、楔形石器、石刃、石核などが、多層位にわたって出土しており、これらは県内の旧石器時代を考える上で重要な資料となっている。また、花室川左岸の北条中台遺跡<sup>7)</sup>や、柴崎遺跡<sup>8)</sup>(31)からもナイフ形石器や尖頭器が出土している。花室川の川底からは、ナウマンゾウやニホンアシカの化石が出土しており、旧石器時代の人々が狩猟対象としていたことが考えられている<sup>8)</sup>。谷田川・運沼川流域の遺跡は、馬名前野東遺跡、面野井北ノ前遺跡、苅間神田遺跡などがあり、面野井北ノ前遺跡からは、2点の荒屋型彫刻刀形石器が出土している<sup>9)</sup>。

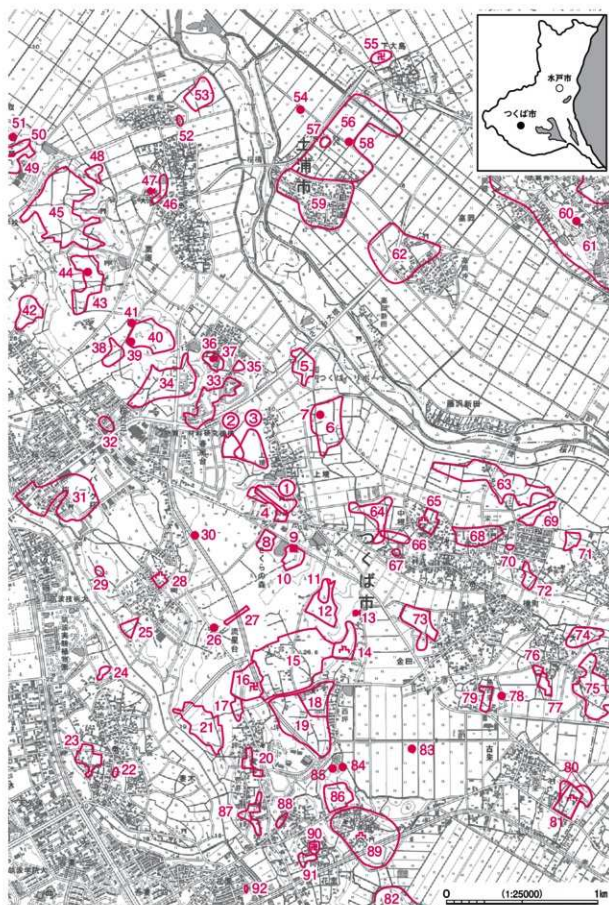
縄文時代の遺跡は、多数確認されている。柴崎遺跡では、早期の炉穴が確認されている。上野陣場遺跡<sup>10)</sup>(34)、上野古屋敷遺跡、東岡中原遺跡では、前期の集落跡が確認されており、当該地域に人が定住し始めたことを示している。中期に入ると、集落の規模が大きくなり、遺跡数も増加している。北条中台遺跡や、花室川下流左岸の下仏岡遺跡<sup>12)</sup>では、大規模な集落跡が確認されている。後期には、周辺地域で貝塚が形成されるようになる。上境旭台貝塚<sup>13)</sup>(8)や桜川下流域に存在する国指定史跡の土浦市上高津貝塚<sup>14)</sup>では、後期から晩期にかけて形成された貝塚が存在する。これらの貝塚からは、土器などの遺物のほか、動物の骨などの自然遺物も多量に出土しており、当該期の生業活動を推測する上で良好な資料となっている。また、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡、上境旭台貝塚、東岡中原遺跡からは、縄文時代に作られたと考えられる陥し穴が確認されており、台地上が狩猟の場としても利用されていたことが分かる。

弥生時代の遺跡は他の時代と比べて少なく、隣接する上野古屋敷遺跡や上野陣場遺跡、やや上流にある土取山遺跡<sup>15)</sup>で、後期の集落跡が確認されているが遺跡数は少ない。

古墳時代になると遺跡数が急増し、桜川周辺の微高地や台地全域に広がっている。桜川右岸では、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡で前期と後期、東岡中原遺跡で中期、柴崎遺跡で後期の集落跡がそれぞれ確認されている。古墳は、前期古墳として、当遺跡から北方500mに位置する当地域最大の全長80mの前方後円墳である上野天神塚古墳<sup>16)</sup>(37)が存在している。後期古墳として、栗原十日塚古墳(39)、栗原愛宕塚古墳(41)をはじめ、桜川右岸台地縁辺部に、帆立貝式前方後円墳の周溝内土壇から埴輪棺が確認された上野古屋敷遺跡第1号墳<sup>17)</sup>などが知られている。

奈良・平安時代の当該地域は、河内郡菅田郷に属し、その後12世紀には田中荘に属していた。この時代の遺跡は、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。金田西坪A遺跡(18)は従来から河内郡街の正倉跡と推定されていたが、平成14年に金田西遺跡(15)、九重東岡庵寺(16)、金田西坪B遺跡(19)の確認調査を実施したところ、多数の掘立柱建物跡等が確認され、河内郡街の郡庁院、正倉院及び関連建物群であることが明らかになった<sup>18)</sup>。九重東岡庵寺からは、礎石、瓦塔、瓦、蔵骨器などが出土しており、確認調査で基壇の一部と溝、堂宇と想定される掘立柱建物跡が検出されているが、寺域や伽藍配置等については不明である<sup>19)</sup>。その他、柴崎遺跡や東岡中原遺跡でも大規模な集落跡が確認されている。

中世の遺跡も数多く確認されている。柴崎遺跡では、12～13世紀の方形堅穴遺構を中心とした集落跡が、上野古屋敷遺跡では、溝で区画された掘立柱建物跡を中心とする集落跡が確認されている。桜川左岸には小田氏の居城であった国指定史跡小田城跡があり、それに関連すると考えられる城館跡も多い。桜川右岸には、柴崎片岡上館跡(28)、金田城跡(14)、花室城跡(89)、上ノ室城跡(82)、古米館跡(81)などが位置している。仏教関連遺跡としては、筑波山の南、三村山麓一帯に中世寺院群が存在しており、つくば市三村山清冷院極楽寺跡には、13世紀の半ば、大和の高僧忍性が来住して、布教に努めたと伝えられている<sup>20)</sup>。当地域は鎌倉時



第1図 周辺遺跡分布図(国土地理院 25,000分の1「上郷」常陸藤沢)

第1表 周辺遺跡一覧

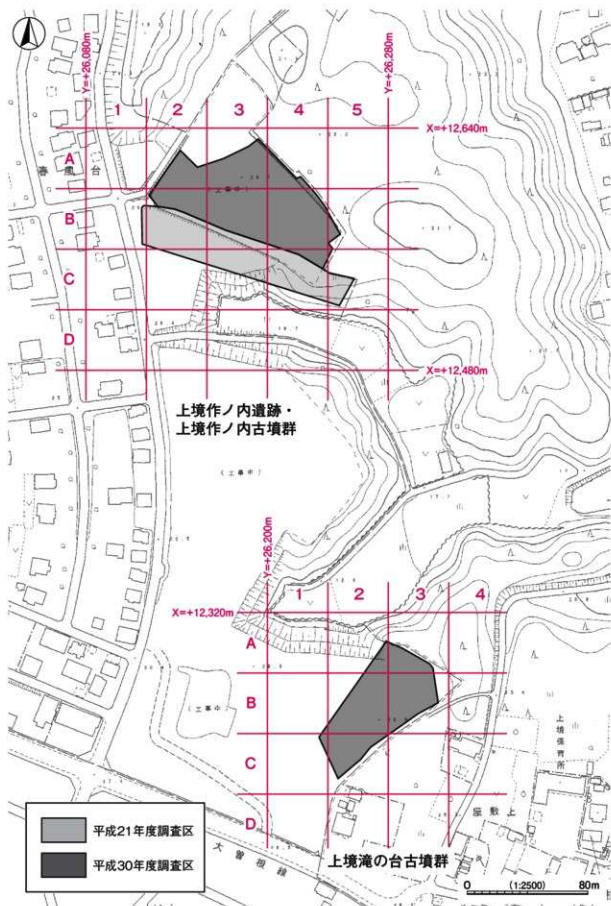
番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町
①	上境滝の台古墳群	○	○	○	○			47	栗原古塚古墳				○			
②	上境作ノ内遺跡	○	○		○		○	48	栗原登戸遺跡				○	○		
③	上境作ノ内古墳群				○			49	玉取遺跡	○	○	○	○			○
4	上境滝ノ臺遺跡	○	○	○	○			50	玉取古墳群				○			
5	上境北ノ内遺跡					○	○	51	玉取弁天塚						○	○
6	上境古屋敷遺跡					○	○	52	栗原遺跡				○	○	○	○
7	上境じんじん塚古墳				○			53	栗原沼向遺跡				○	○	○	
8	上境旭台貝塚	○	○	○				54	桶荷塚古墳				○			
9	中根中谷津古墳				○			55	下大鳥遺跡							
10	中根中谷津遺跡	○	○			○		56	広畑遺跡				○	○	○	○
11	横町古墳群				○			57	田土部明神古墳群							
12	横町庚申塚遺跡		○		○	○	○	58	供養塚							○
13	金田古墳							59	田土部館跡							○
14	金田城跡						○	60	大日塚古墳(龍島神社)				○			
15	金田西遺跡		○		○	○	○	61	岡の宮遺跡	○		○	○			
16	九重東岡庵寺					○	○	62	五斗内遺跡				○	○		
17	東岡中畑遺跡					○	○	63	中根遺跡				○	○	○	
18	金田西坪A遺跡						○	64	中根不業拔遺跡		○			○	○	○
19	金田西坪B遺跡		○	○	○	○		65	中根屋敷附館跡				○	○	○	○
20	東岡南遺跡					○	○	66	中根とりおい塚古墳群				○			
21	東岡中原遺跡	○	○		○	○	○	67	中根宮ノ前遺跡				○	○	○	○
22	妻木宮前遺跡					○	○	68	栄土器屋遺跡				○	○	○	○
23	妻木坪内遺跡					○	○	69	松塚鷲打遺跡				○	○	○	○
24	妻木鴻ノ巣遺跡					○	○	70	栄屋敷付遺跡				○	○	○	○
25	栄崎南遺跡		○		○		○	71	松塚高畑遺跡				○	○	○	
26	栄崎桶前古墳				○			72	栄尼塚遺跡						○	○
27	栄崎大塚遺跡						○	73	金田竜宮橋遺跡					○	○	○
28	栄崎片岡上館跡						○	74	大白畑遺跡				○	○	○	○
29	栄崎ボツケ遺跡					○		75	大寺前遺跡				○	○	○	○
30	栄崎大日古墳					○		76	阿弥陀寺跡						○	○
31	栄崎遺跡		○		○	○	○	77	大南遺跡				○	○	○	○
32	上野中塚遺跡		○			○		78	古来島ノ前塚						○	○
33	上野古屋敷遺跡	○	○	○	○	○	○	79	古来北ノ崎遺跡				○	○	○	○
34	上野障場遺跡		○	○	○	○		80	古来遺跡				○	○		
35	上野定使古墳群					○		81	古来館跡				○	○		
36	上野天神遺跡		○					82	上ノ室城跡	○			○	○	○	○
37	上野天神塚古墳				○			83	金田本田遺跡				○	○		
38	栗原大山西遺跡					○	○	84	花室大日塚古墳				○			
39	栗原十日塚古墳				○			85	花室後田塚						○	○
40	栗原大山遺跡				○	○		86	花室遺跡	○			○			
41	栗原愛宕塚古墳							87	東岡天神前遺跡				○	○	○	○
42	栗原才十郎遺跡		○					88	花室溝向遺跡				○	○		
43	栗原五竜遺跡		○		○	○	○	89	花室城跡	○	○	○	○	○	○	○
44	栗原五龍塚古墳				○			90	花室寺畑庵寺						○	○
45	栗原中台遺跡		○	○	○	○	○	91	花室寺山前遺跡						○	○
46	栗原古塚遺跡					○	○	92	花室大根遺跡				○			

代から室町時代にかけては小田氏、戦国時代においては小田氏と佐竹氏の支配下となり、中世末まで柴崎地区は上境・中根・土器屋・松塚・横町・柴崎地区で一郷を構成し、筑波郡と境を接することから境郷とも呼ばれていた。江戸時代は、堀氏玉取藩の知行地となった上野・栗原地区を除き、当該地域の多くが土浦藩に属することになり、明治4年(1871年)の廃藩置県に至っている。

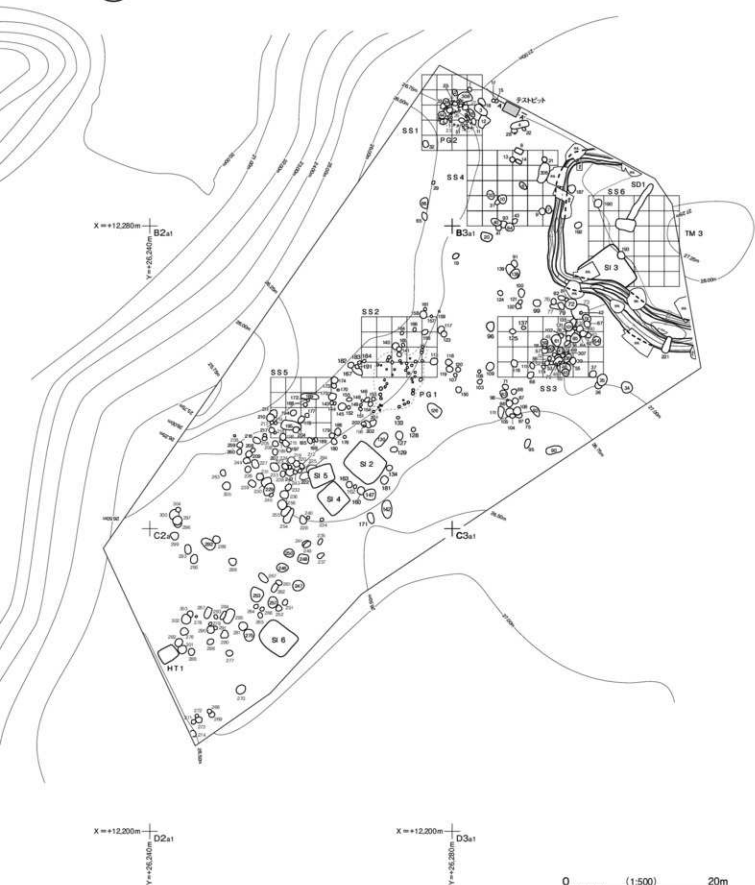
なお、文中の〈 〉内の番号は、第2図及び第1表の該当番号と同じである。

註

- 1) a 大山次監修『茨城県 地質のガイド』コロナ社 1977年8月  
b 日本の地質「関東地方」編集委員会「関東地方」日本の地質 3 共立出版 2007年5月桜村史編さん委員会『桜村史』上巻
- 2) 桜村教育委員会 1982年3月
- 3) 石橋光・広瀬孝一郎・関口友紀『つくば市内道路-平成12年度発掘調査報告書-』「上境作ノ内1号墳発掘・確認調査」つくば市教育委員会 2001年3月
- 4) a 三谷正・大塚雅昭・委村裕『上野古原敷道跡1 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』茨城県教育財団文化財調査報告第285集 2007年3月  
b 川井正一『上野古原敷道跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』茨城県教育財団文化財調査報告第307集 2008年3月  
c 川井正一・齋藤和信『上野古原敷道跡3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ』茨城県教育財団文化財調査報告第324集 2009年3月  
d 櫻井完全・江原美余子『上野古原敷道跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ』茨城県教育財団文化財調査報告第334集 2010年3月
- 5) a 川村満博『(仮称)中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 中谷津道跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第139集 1998年9月  
b 荒崎一郎『中根中谷津道跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ』茨城県教育財団文化財調査報告第367集 2013年3月
- 6) a 成島一也『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 中谷津道跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第155集 2000年3月  
b 成島一也・宮田和男『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 中谷津道跡2』茨城県教育財団文化財調査報告第159集 2000年3月  
c 高野祐夫・白田正子・待村浩一郎・島田和宏『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 原道跡3』茨城県教育財団文化財調査報告第170集 2001年3月  
d 駒澤悦郎『東国中谷津道跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ』茨城県教育財団文化財調査報告第251集 2005年3月
- 7) 吉川明宏・新井聡・黒澤秀雄『(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台道跡 茨城県教育財団文化財調査報告第102集 1995年12月』
- 8) a 高村秀『研究学園地区計画桜架梁跡土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ) 柴崎道跡Ⅰ・Ⅱ-1区』茨城県教育財団文化財調査報告第54集 1989年9月  
b 佐藤正好・松浦敏『研究学園地区計画桜架梁跡土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ) 柴崎道跡Ⅱ区 中塚道跡』茨城県教育財団文化財調査報告第63集 1991年3月  
c 土生潤治『研究学園地区計画桜架梁跡土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 柴崎道跡Ⅲ区』茨城県教育財団文化財調査報告第72集 1992年3月  
d 萩野谷信『研究学園地区計画桜架梁跡土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 柴崎道跡Ⅱ区・Ⅲ区』茨城県教育財団文化財調査報告第93集 1994年3月
- 9) 飯泉克典・国府田良樹・小池淳・西本豊弘・安藤寿男・伊達元成『茨城県霞ヶ浦西部花室川河床埋積より産出した後期更新世末期のニホニアシカ化石』『地質学雑誌』第116巻第5号 2010年5月
- 10) 黒島直樹『高名関ノ台南B道跡 野野井北ノ前道跡 常磐新築建設工事地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第231集 2004年3月
- 11) a 川上直孝・長谷川聡・大塚雅昭『上野降場道跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』茨城県教育財団文化財調査報告第182集 2009年3月  
b 川井正一・齋藤和信『上野降場道跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ』茨城県教育財団文化財調査報告第323集 2009年3月
- 12) 加藤雅美・小河邦男『常磐自動車道開通埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 下広岡道跡』茨城県教育財団文化財調査報告第10集 1981年3月
- 13) a 柴山正広・須賀正一・小野政美・小川貴行・越川欣和『上境旭台貝塚 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅦ』茨城県教育財団文化財調査報告第325集 2009年3月  
b 江原美余子『上境旭台貝塚2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅧ』茨城県教育財団文化財調査報告第364集 2012年3月  
c 荒崎一郎『上境旭台貝塚3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅨ』茨城県教育財団文化財調査報告第368集 2013年3月  
d 小林和彦『上境旭台貝塚4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩ』茨城県教育財団文化財調査報告第397集 2015年3月
- 14) a 佐藤孝雄『大内千年稲「国指定史跡上高津貝塚A地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告-Ⅰ」土浦市教育委員会 1994年3月  
b 塩谷福福『国指定史跡上高津貝塚E地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告-Ⅱ』土浦市教育委員会 2000年3月  
c 石川功・藤田礼子『国指定史跡上高津貝塚C地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告-Ⅲ』土浦市教育委員会 2006年3月
- 15) a 石橋光・関口友紀『玉取遺跡-火葬場跡に伴う発掘調査報告-Ⅰ』つくば市教育委員会 2000年3月  
b 奥沢哲也『玉取川土道跡 奥立つくば養護学校(仮称)整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第263集 2006年3月
- 16) 石橋光『つくば市域の古墳群』『常陸の古墳群』2010年2月
- 17) 註3 aに同じ
- 18) 白田正子『金田西道跡 金田西坪B道跡 九重東岡岡寺 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告第209集 2003年3月
- 19) a 九重庵寺道跡発掘団『東岡道跡-九重庵寺跡調査報告-Ⅰ』桜村教育委員会 1984年3月  
b 白田正子『九重庵寺跡確認調査報告書Ⅰ』茨城県教育財団 2001年3月
- 20) 筑波史編纂部『筑波史 上巻』つくば市 1991年3月



第2図 調査区設定図（つくば市都市計画図2,500分の1）



第3図 上境滝の台古墳群遺構全体図



## 第3章 上境滝の台古墳群

### 第1節 調査の概要

上境滝の台古墳群は、つくば市の東部に位置し、桜川右岸の標高約28mの台地上に立地している。調査面積は3,415㎡である。

調査の結果、石器集中地点6か所(旧石器時代)、土坑308基(縄文時代184、時期不明124)、竪穴建物跡5棟(弥生時代4、時期不明1)、溝跡1条(時期不明)、古墳1基(古墳時代)、方形竪穴遺構1基(時期不明)、ピット群2か所(時期不明)を確認した。

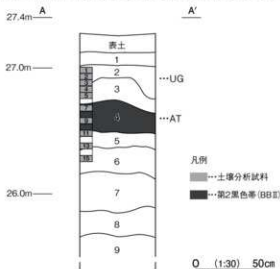
遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に28箱出土している。主な遺物は、縄文土器片(深鉢・浅鉢)、弥生土器(広口壺)、土製品(紡錘車・埴輪)、石器・石製品(ナイフ形石器・台形礫石器・石刃・石鏃・剥片・石核・垂飾り・打斧・磨斧・凹石)、金属製品(直刀・鏢・鏹・靱尻金具・刀子・鉄鏃・鳩目金具)、ガラス製品(小玉)などである。

### 第2節 基本層序

#### 1 基本層序 (第4図 PL 4)

調査区北部の台地上の平坦面(A3g4区)にテストピットを設定した。遺構確認時から旧石器時代の遺物が数点確認できたため、テストピットのローム層序自然科学分析を行った。

第1層は、黒褐色(10YR2/3)を呈する黒色土層である。ローム粒子・黒色土ブロックを少量含み、粘性は普通で締まりが弱い。第2層は、暗褐色(10YR3/4)を呈する漸移層である。立川ローム最上部ガラス質火山灰(UG)を微量含み、粘性・締まりともに普通である。標準層序のⅢ層上部に対比される。第3層は、褐色(10YR4/4)を呈するソフトローム層である。始良Tnテフラ(AT)を少量含み、粘性・締まりともに普通である。標準層序のⅥ層とⅦ層の層界付近に対比される。第4層は、黒褐色(10YR3/2)を呈するソフトローム層で、粘性・締まりともに普通である。標準層序のⅦ層の第2黒色帯上半部に対比される。第5層は、黒褐色(10YR3/2)を呈するソフトローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強い。標準層序のⅦ層に対比される。第6層は、暗褐色(10YR3/4)を呈するハードローム層である。白色粒子・細礫を少量含み、粘性・締まりともに普通である。第7層は、褐色(10YR4/4)を呈するハードローム層である。白色粒子を多量、細礫を少量含み、粘性は強く、締まりは普通である。第8層は、褐色(10YR4/4)を呈するハードローム層である。細礫を少量含み、粘性・締まりともに普通である。第9層は、褐色(10YR4/4)を呈するハードローム層で、粘性は普通で締まりは強い。



第4図 基本土層図

遺構は、第3層の上面で縄文時代から古墳時代の遺構を、第6層上面までで旧石器時代の遺物を確認した。

## 2 自然化学分析（第5図 第2表 PL4）

### 上境滝の台古墳群のローム層の層序対比

パリオ・サーヴェイ株式会社

つくば市上境に所在する上境滝の台古墳群は、常総台地の南西部を構成する筑波・稲敷台地の北西部に位置している。この台地は、霞ヶ浦に流南する桜川の右岸に広がる台地であり、貝塚ほか（2000）による地形分類図では、上位台地Cに分類されている。上位台地の形成年代は、酸素同位体ステージ5A（約8万年前頃）と考えられており、武蔵野台地における中位面であるM2面に対比される。

本分析調査では、上境滝の台古墳群の立地する台地の表層を覆うローム層の分析をすることにより、ローム層の層序対比の指標を設け、周辺地域や関東地方における他の台地上のローム層との対比を行う。

#### (1) 試料

試料は、上境滝の台古墳群の調査区内に作成されたテストピットの断面より採取された。断面では、ローム層の最上部とされる層位より、厚さ5cmで連続に上位より試料番号1～15までが採取されている（PL4）。ここでは、これらのうちの上部の試料を中心に試料番号1～5の5点と試料番号7～15の奇数番号の試料5点の合計10点を分析の対象とする。

#### (2) 分析方法

重鉱物分析では、当社がこれまでにに行った相模野台地と武蔵野台地の立川ローム層の多くの分析事例と比較することにより、層序の対比が可能である。また、火山ガラス比分析は、本遺跡でも検出が予想される立川ローム層上部ガラス質テフラ（UG：山崎、1978）および始良Tnテフラ（AT：町田・新井、1976）などの火山ガラス質テフラに由来する火山ガラスの量比の層位的な変化を求め、その降灰層準を推定する。試料の処理過程は以下の通りである。

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスの形態分類は、バブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。なお、火山ガラス比における「その他」は、主に石英および長石などの軽鉱物粒と変質等で同定の不可能な粒子や未分解の粘土粒子などを含む。

#### (3) 結果

結果を表2、図4に示す。重鉱物組成は、試料番号1～4では、斜方輝石が非常に多く、少量の単斜輝石と不透明鉱物を伴い、微量のカンラン石を含む組成であり、試料番号5と試料番号13と15では、斜方輝石が最も多いが、次いでカンラン石が多く、少量または微量の単斜輝石と不透明鉱物を伴う。さらに試料番号

13と15では微量の角閃石も含まれる。試料番号7～11では、カンラン石が最も多く、次いで斜方輝石が多く、少量または微量の単斜輝石と不透明鉱物を伴う組成である。その中で、試料番号7と9にはカンラン石の量比の極大（上位と下位の両者よりも高い値を示すこと）が認められる。

火山ガラス比では、試料番号3～7に少量のバブル型火山ガラスが含まれ、試料番号1と2には微量の中間型火山ガラスも含まれる。

#### (4) 考察

有効な対比指標としては、TP2の試料番号3～7に認められた少量のバブル型火山ガラスがあげられる。この火山ガラスは、その形態と産出層位から、鹿児島県の始良カルデラを給源とするATに由来すると考えられる。土壌中に特定テフラが混交して産出する場合はテフラ最濃集部の下限がそのテフラの降灰層準には一致するとされている（早津, 1988）ことを考慮すると、TP2におけるATの降灰層準は、試料番号7付近に推定される。ATの噴出年代については、福井県の水月湖のボーリングコアの年縞堆積物の研究により、 $30,000 \pm 189$ 年前の年縞年代が示されており、暦年代で30,000年前頃であることが定まったとされる（Smithet. al. 2013）。したがって、試料番号7付近のローム層はおよそ3万年前頃の年代を示す層位となる。一方、TP2の試料番号1と2には微量ではあるが中間型火山ガラスが特徴的に含まれる。この形態的特徴とATよりも上位の出現傾向とから、中間型火山ガラスは、UGに由来する可能性がある。産出量が微量なため、本地点におけるUGの降灰層準を推定することは難しいが、試料番号1を含むその付近と考えられる。上述したATとUGは、武蔵野台地の立川ローム層における多くの分析事例から、その降灰層準は、それぞれ標準層序のⅥ層とⅦ層の層界付近とⅢ層上部に推定されている（矢作・橋本, 2012）。したがって、本地点の試料番号1～7までのローム層は、武蔵野台地の立川ローム層の上半部、標準層序で言えば、Ⅲ層からⅥ層付近までのローム層に対比されると考えられ、試料番号9以下は、立川ローム層の下部の標準層序のⅦ層以下に対比されると考えられる。

なお、これまでの分析事例から、武蔵野台地の立川ローム層における重鉱物組成の層位的特徴として、標準層序のⅦ層以下は特にカンラン石の量比の高いことがあげられる。上述したATの降灰層準を指標とした対比により、この層位的な重鉱物組成の特徴は、本地点の位置する筑波稲敷台地にも共通する特徴として広域的な対比指標になり得ると考えられる。

#### 引用文献

- 早津賢治, 1988. テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフラクロノロジー -ATにまつわる議論に關係して-, 考古学研究, 34, 18-32.  
 貝塚典平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編, 2000. 日本の地形4 関東・伊豆小笠原, 東京大学出版会, 349p.  
 町田洋・新井房夫, 1976. 広域に分布する火山灰 -始良 Tn 火山灰の発見とその意義-, 科学, 46, 339-347.  
 町田洋・新井房夫, 2003. 新編 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 336p.  
 Smith, V.C., Staff, R.A., Blockley, S.P.E., Ramsey, C.B., Nakagawa, T., Mark, D.F., Takemura, K., Danbara, T., Saigetsu 2006 Project Members, 2013. Identification and correlation of visible tephra in the Lake Saigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronizing of east Asian/west Pacific palaeoclimatic records across the last 150 ka. *Quaternary Science Reviews*, 67, 121-137.  
 矢作健二・橋本真紀夫, 2012. 重鉱物組成と火山ガラス比による武蔵野台地の立川ローム層序対比, 新西部文化, 2, 7-18.  
 山崎晴雄, 1978. 立川層とその第四紀後期の運動, 第四紀研究, 16, 231-246.



### 第3節 遺構と遺物

#### 1 旧石器時代の遺構と遺物

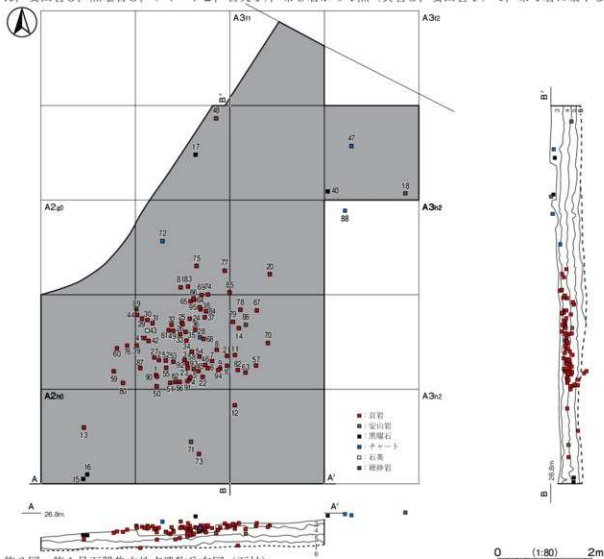
遺構確認作業中、基本層序第3層上面（以下、第3層）から石核4点、剥片8点が、調査区北西部A2g0区の1m四方から出土したため、当時代の石器などにも注意して調査を進めた。他時代の遺構覆土中から当時代の石器が出土した地点を中心にグリッドを設定し調査したところ、当時代の遺構は、石器集中地点を6か所確認した。出土層位は、第3～5層である。

##### (1) 石器集中地点

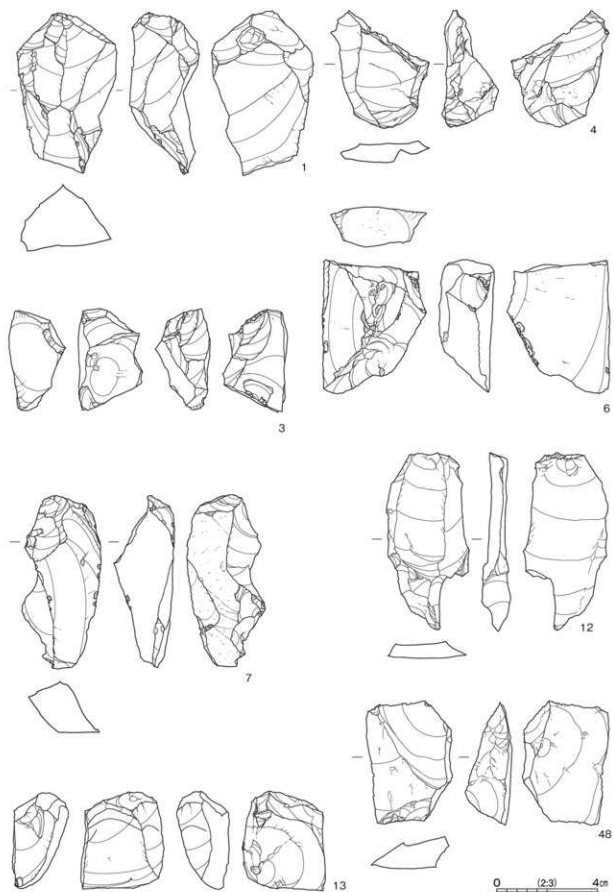
##### 第1号石器集中地点（第6～8図 第3～5表 PL 5・14・16）

**位置** 調査区北部のA3f1・A2f0～A3g1・A2h0～A3h1区、標高26mほどの台地縁部に位置している。

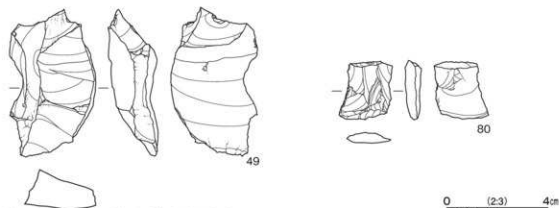
**遺物出土状況** 南北7.6m、東西6.8mの範囲内で、標高26.062～26.812mから、96点（総重量511.36g）の石器が出土している。内訳は、第3層から4点（黒曜石1、チャート2、硬砂岩1）、第4層から88点（頁岩79、安山岩3、黒曜石3、チャート2、石英1）、第5層から4点（頁岩3、安山岩1）で、第4層に集中し



第6図 第1号石器集中地点遺物分布図（石材）



第7图 第1号石器集中地点出土物实测图(1)



第8図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(2)

ている。構成器種は、石核6点(頁岩)、二次加工剥片2点(頁岩、安山岩)、剥片75点(頁岩67、安山岩1、黒曜石3、チャート3、石英1)、砕片11点(頁岩8、安山岩1、黒曜石1、チャート1)、礫1点(硬砂岩)、石礫1点(安山岩)である。

所見 当石器集中地点の構成器種は、頁岩製の石核と剥片が主で、平面分布が2m四方内に、垂直分布が第4層に集中している。同一時期の石器製作跡の可能性が考えられるが、ツールや接合資料は確認できなかった。

第3表 第1号石器集中地点層別別単位石材器種一覧

	頁岩					安山岩					黒曜石			チャート			硬砂岩 礫	石英 礫	合計		
	石核	剥片	二次加工	砕片	計	石核	剥片	二次加工	砕片	計	剥片	砕片	計	剥片	砕片	計					
3層																					
4層	6	1	64	8	79		1	1	1	3	3		1	1	1	2	1			4	
5層			3		3	1				1											4
合計	6	1	67	8	81	1	1	1	1	4	3	1	4	3	1	4	1		1	96	

第4表 第1号石器集中地点層別別単位石材重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	硬砂岩	石英	合計(g)
3層			0.06	0.33	126.22		126.61
4層	350.45	0.70	2.58	1.65		0.25	355.63
5層	6.05	23.07					29.12
合計(g)	356.50	23.77	2.64	1.98	126.22	0.25	511.36

第5表 第1号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	特徴	層位	備考
1	石核	頁岩	56.90	37.11	25.77	58.15	剥片素材石核 後面に素材剥片の主要剥離面 後面右側縁上半に貫孔による熟染け	4層	PL16
3	石核	頁岩	32.16	24.22	21.28	18.19	剥片を素材とする石核 後面に素材剥片の主要剥離面 左側面及び背面下半には熟染け	4層	PL16
4	剥片	頁岩	43.48	36.51	21.35	21.24	打点部崩折れ、右側面及び背面下半に熟染け	4層	PL16
6	石核	頁岩	49.40	39.05	21.34	43.95	剥片素材石核 上面及び背面中央熟染け 背面右側縁下半部熱の影響で中央凹状 素材剥片の打点部に後面から背面側へ作業面が設定され、剥片剥離がなされている	4層	PL16
7	石核	頁岩	64.11	29.81	22.98	34.45	独特な主要剥離面は認められない。背面中央及び後面右側縁にはボジティブ面が反転したボジティブ面がボジティブ反転は熱の影響によるものと推定	4層	PL16
12	剥片	頁岩	66.03	31.04	11.10	15.08	調整面の縦長剥片 背面構成から河設打面の石核から剥離された石突とも評価できる	4層	PL16
13	石核	頁岩	30.99	31.90	21.59	31.36	主要剥離面は認められない。背面上部に熟染け 後面は割れ凹縁状を呈する	4層	PL16
48	二次加工	安山岩	46.03	32.19	18.02	23.07	平らな底面を有する有底縦長剥片を素材とする二次加工剥片 背面下半に後面から背面側に二次加工	5層	PL16
49	石核	頁岩	54.85	32.35	17.79	38.89	縦長剥片を素材 背面から後面側にボジティブ面を底面として持つ剥片を剥離したもの	4層	PL16
80	二次加工	頁岩	21.69	19.84	6.24	2.45	二次加工剥片 背面左側縁下半に主要剥離面から背面側になされた二次加工	4層	PL16

番号	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	層位	備考
2	剥片	頁岩	26.56	16.62	7.70	2.73	4層	PL16
5	砕片	頁岩	6.91	4.19	0.06	0.01	4層	
8	剥片	頁岩	12.99	10.92	2.50	0.30	4層	
9	剥片	頁岩	28.43	23.38	14.90	9.03	4層	
10	剥片	頁岩	17.10	15.61	7.89	1.34	4層	
11	剥片	頁岩	13.33	6.98	2.49	0.24	4層	
14	剥片	頁岩	13.48	11.71	8.75	1.57	4層	
15	剥片	黒曜石	17.14	9.13	7.10	1.19	4層	
16	剥片	黒曜石	18.62	8.29	4.36	0.65	4層	
17	砕片	黒曜石	8.10	6.67	1.32	0.06	3層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
18	破片	安山岩	13.17	7.23	2.19	0.18	4層	
19	破片	頁岩	43.08	20.57	20.28	8.53	4層	
21	破片	頁岩	12.97	10.13	3.02	0.38	4層	
22	破片	頁岩	32.63	20.93	16.09	8.87	4層	PL16
23	破片	頁岩	21.47	11.50	4.29	0.99	4層	
24	破片	頁岩	10.29	7.05	1.59	0.08	4層	
25	破片	頁岩	19.85	17.67	7.19	1.74	4層	
26	破片	頁岩	12.11	6.21	0.83	0.07	4層	
27	破片	頁岩	11.35	8.20	1.50	0.13	4層	
28	破片	頁岩	14.83	4.21	1.69	0.11	4層	
29	破片	チャート	6.90	4.51	1.33	0.04	4層	
30	破片	頁岩	25.25	16.86	3.41	1.33	4層	
31	破片	頁岩	9.17	3.72	0.78	0.04	4層	
32	破片	頁岩	13.07	12.23	2.87	0.24	4層	
33	破片	頁岩	18.75	6.58	1.92	0.23	4層	
34	破片	頁岩	19.12	11.25	3.58	0.96	4層	
35	破片	頁岩	14.08	6.79	1.41	0.13	4層	
36	破片	頁岩	10.15	5.15	1.02	0.06	4層	
37	破片	頁岩	6.33	3.70	0.77	0.03	4層	
38	破片	頁岩	17.50	11.45	2.62	0.58	4層	
39	破片	頁岩	12.07	5.31	5.01	0.31	4層	
40	破片	黒曜石	18.48	12.09	4.91	0.74	4層	
41	破片	頁岩	12.94	4.46	3.43	0.12	4層	
42	破片	頁岩	13.01	7.03	2.49	0.18	4層	
43	破片	石英	11.91	3.81	3.13	0.25	4層	
44	破片	頁岩	13.36	8.84	1.55	0.18	4層	
45	破片	頁岩	9.83	6.96	1.84	0.11	4層	
46	破片	頁岩	22.17	13.05	4.48	0.75	4層	
47	破片	チャート	20.06	13.13	5.10	1.61	4層	
50	破片	頁岩	14.48	5.60	3.03	0.23	4層	
51	破片	頁岩	12.69	5.94	2.27	0.19	4層	
52	破片	頁岩	23.58	18.02	10.02	3.16	4層	
53	破片	頁岩	13.54	6.61	3.16	0.21	4層	
54	破片	頁岩	10.53	5.15	1.59	0.07	4層	
55	破片	頁岩	13.88	7.93	3.12	0.35	4層	
56	破片	頁岩	28.29	25.16	4.95	4.09	4層	PL16
57	破片	頁岩	33.13	18.79	17.32	7.15	4層	PL16

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
58	破片	頁岩	7.30	5.55	2.21	0.09	4層	
59	破片	頁岩	15.86	9.06	1.51	0.19	4層	
60	破片	頁岩	14.27	9.56	4.78	0.45	4層	
61	破片	頁岩	22.19	12.12	2.86	0.80	4層	
62	破片	頁岩	9.83	6.96	1.15	0.11	4層	
63	破片	頁岩	14.95	8.19	4.23	0.42	4層	
64	破片	頁岩	23.34	8.41	2.64	0.41	4層	
65	破片	頁岩	14.16	7.53	3.66	0.19	4層	
66	破片	頁岩	8.63	4.85	1.58	0.10	4層	
67	破片	頁岩	9.42	3.66	1.02	0.03	4層	
68	破片	頁岩	8.62	6.54	0.67	0.04	4層	
69	破片	頁岩	16.50	13.48	2.24	0.42	4層	
70	破片	頁岩	20.36	15.73	11.01	3.79	4層	
71	石鏝	安山岩	20.65	10.40	2.66	0.49	4層	
72	破片	チャート	8.59	6.51	2.62	0.09	3層	
73	破片	頁岩	32.00	11.97	3.73	1.96	4層	PL16
74	破片	頁岩	57.72	24.36	14.28	15.74	4層	PL16
75	破片	頁岩	38.49	14.39	6.32	3.91	4層	
76	破片	頁岩	22.92	10.81	4.58	1.12	4層	
77	破片	頁岩	15.66	12.58	2.03	0.42	4層	
78	破片	頁岩	8.00	7.82	1.59	0.07	4層	
79	破片	頁岩	22.86	10.78	3.62	0.20	4層	
81	破片	頁岩	28.79	11.14	4.56	1.00	4層	
82	破片	頁岩	17.17	13.97	1.56	0.47	5層	
83	破片	頁岩	9.14	6.50	2.73	0.12	4層	
84	破片	頁岩	20.17	5.91	5.13	0.45	4層	
85	破片	頁岩	23.02	14.98	3.15	0.70	4層	
86	破片	安山岩	6.39	4.64	0.84	0.02	4層	
87	破片	頁岩	27.06	15.87	13.45	5.11	5層	
88	破片	チャート	16.45	9.94	1.25	0.24	3層	
89	礫	凝結岩	51.64	47.36	31.89	126.22	3層	
90	破片	頁岩	16.07	11.09	2.92	0.47	5層	
91	破片	頁岩	13.98	11.28	3.76	0.46	4層	
92	破片	頁岩	13.27	7.39	6.82	0.42	4層	
93	破片	頁岩	43.04	16.75	7.02	4.73	4層	PL16
94	破片	頁岩	16.61	12.27	3.18	0.59	4層	
95	破片	頁岩	12.09	8.69	1.18	0.14	4層	
96	破片	頁岩	10.00	6.77	0.86	0.09	4層	

## 第2号石器集中地点 (第9・10図, 第6～8表, PL5・16・17)

位置 調査区中央部のB2d8～B2e0区, 標高27mほどの台地縁部に位置している。

遺物出土状況 南北3.7m, 東西8.1mの範囲内で, 標高26258～26714mから, 19点(総重量85.40g)の

第6表 第2号石器集中地点層別単位石器材種一覧

	頁岩				安山岩		黒曜石		チャート				凝結岩		デイスサイト	合計
	割加工	割	砕	集	割	割	割	割	割	砕	集	割	割			
4層			1		1				6		2	1	3	1	1	12
5層	1				1	1								1		3
覆乱		1	1		2				1	1			2			4
合計	1	2	1	4	1	1		6	1	3	1	5	2	1	19	

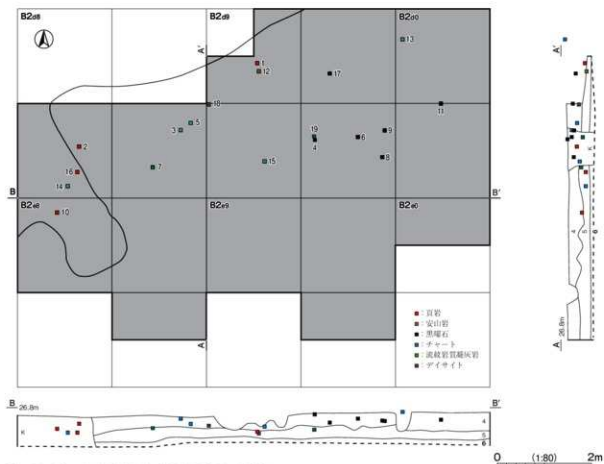
第7表 第2号石器集中地点層別石器材種重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	凝結岩	デイスサイト	合計(g)
4層	5.94		33.57	0.91	3.96	0.56	44.94
5層	7.48	5.54			3.69		16.71
覆乱	19.58			4.17			23.75
合計(g)	33.00	5.54	33.57	5.08	7.65	0.56	85.40

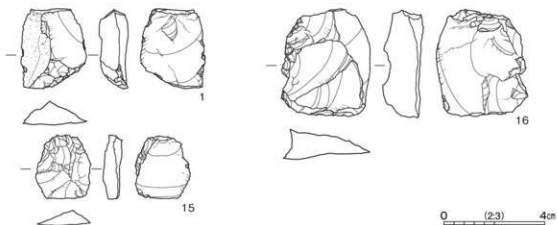


石器が出土している。内訳は、第4層から12点（頁岩1、黒曜石6、チャート3、流紋岩1、デイサイト1）、第5層から3点（頁岩、安山岩、流紋岩）、攪乱から4点（頁岩2、チャート2）で、第4層に集中している。構成器種は、二次加工剥片2点（頁岩、チャート）、剥片15点（頁岩2、安山岩1、黒曜石6、チャート3、流紋岩質凝灰岩2、デイサイト1）、碎片2点（頁岩、チャート）である。

所見 当石器集中地点の構成器種は、二次加工剥片及び剥片である。平面分布が広範囲に分散し、垂直分布が第4層に集中している。



第9図 第2号石器集中地点遺物分布図（石材）



第10図 第2号石器集中地点出土遺物実測図

第8表 第2号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
1	二次加工片	頁岩	30.13	24.15	10.86	7.48	4層	背面下部に主要剥離面側から背面側になされた二次加工
15	二次加工片	チャート	23.76	20.17	7.30	3.96	4層	背面左縁縁上半に押圧痕跡による二次加工
16	剥片	頁岩	39.64	32.46	15.06	19.49	4層	剥離面打面の剥片 後面打点部付近は潜在的な剥離の影響を受けたもの

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
2	剥片	頁岩	43.63	28.28	4.12	5.94	4層	PL17
3	剥片	チャート	18.00	13.62	2.43	0.57	4層	
4	剥片	黒曜石	28.35	21.54	8.03	4.13	4層	PL17
5	剥片	チャート	6.73	6.22	1.05	0.05	4層	
6	剥片	黒曜石	39.66	26.48	14.06	8.89	4層	PL17
7	剥片	流紋岩質 凝灰岩	34.92	22.83	5.28	3.96	4層	PL16
8	剥片	黒曜石	33.63	22.76	9.23	7.17	4層	PL17
9	剥片	黒曜石	37.42	15.56	7.12	2.96	4層	PL17

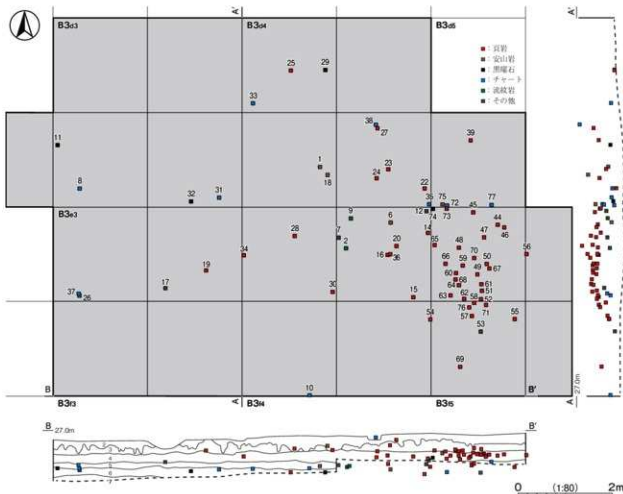
  

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
10	剥片	頁岩	12.41	6.08	1.45	0.09	攪乱	
11	剥片	黒曜石	42.67	28.32	7.37	7.82	4層	PL17
12	剥片	安山岩	40.01	18.61	9.87	5.54	5層	PL17
13	剥片	チャート	19.25	8.89	2.07	0.29	4層	
14	剥片	チャート	11.55	7.54	2.97	0.23	攪乱	
17	剥片	黒曜石	33.18	12.41	7.74	3.01	4層	PL17
18	剥片	テイクサイト	15.24	14.50	2.27	0.56	4層	
19	剥片	流紋岩質 凝灰岩	37.12	17.84	7.46	3.69	5層	PL16

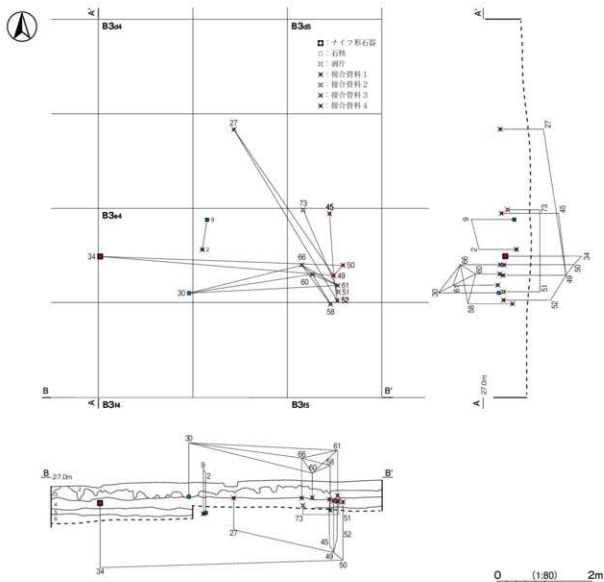
第3号石器集中地点 (第11～17図, 第9～11表, PL 6・14・17～21・35)

位置 調査区北東部のB3d3～B3e5区, 標高27mほどの台地上に位置している。

遺物出土状況 南北7.6m, 東西6.8mの範囲内で, 標高26.062～26.812mから, 71点(総重量1842.88g)の石器が出土している。内訳は, 第3層から9点(安山岩1, 黒曜石1, チャート4点, 流紋岩2, 硬砂岩1), 第4層から14点(頁岩12, 安山岩1, ホルンフェルス1), 第5層から28点(頁岩26, 安山岩1, チャート1), 攪乱から20点(頁岩6, 安山岩1, 黒曜石3, チャート8, 硬砂岩1, 凝灰岩1)で第5層に集中して



第11図 第3号石器集中地点遺物分布図(石材)



第12図 第3号石器集中地点遺物分布図 (接合資料)

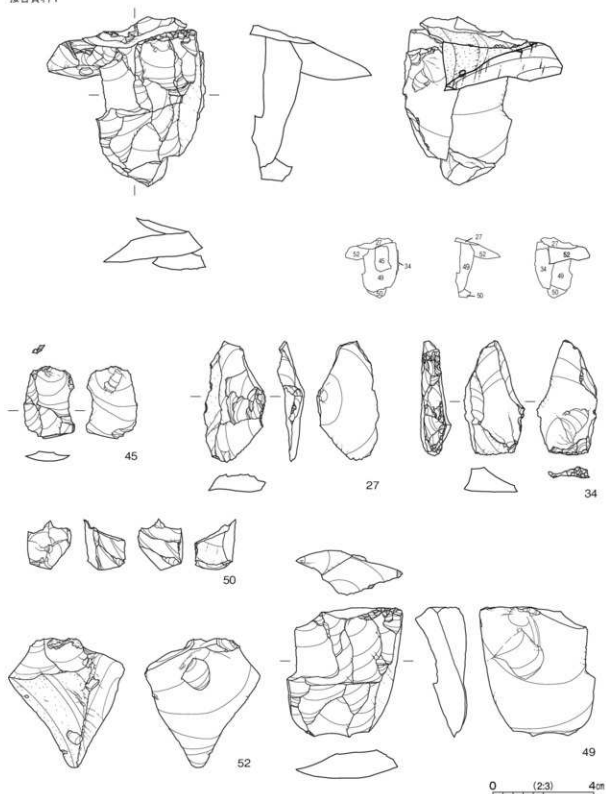
第9表 第3号石器集中地点層別単位石器材種一覧

	頁岩			安山岩			黒曜石			チャート			流紋岩			凝砂岩			凝灰岩		合計
	ナイフ 器形	石 核	燧 片	石 核	燧 片	未石 製品	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	
3層							1		1		3		4	1	1	2			1	1	9
4層	1	11	12	1			1									1					14
5層	1	2	23	26	1							1	1								28
攪乱			6	6		1	1	3	1	1	1	5	8					1	1	1	20
合計	2	2	40	44	2	1	1	4	4	1	2	1	8	1	1	2	1	1	1	2	71

第10表 第3号石器集中地点層別別石材重量一覧

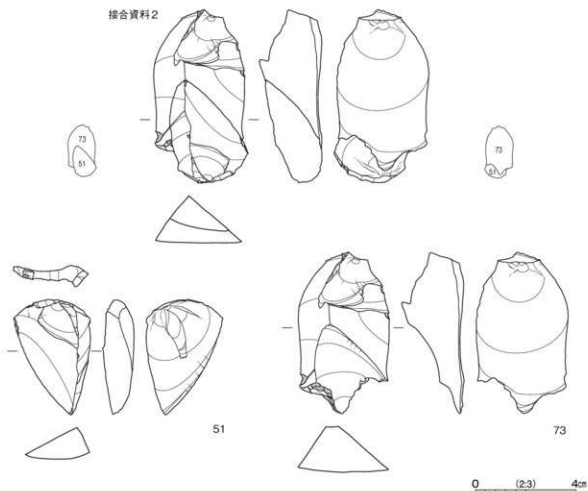
	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホルンフェルス	凝砂岩	凝灰岩	合計 (g)
3層		8.56	0.91	16.20	54.65		638.61		718.93
4層	34.27	425.20				8.84			468.31
5層	255.07	43.90		1.02					299.99
攪乱	45.13	7.29	2.93	41.52			11.32	247.46	335.65
合計 (g)	334.47	484.95	3.84	58.74	54.65	8.84	649.93	247.46	1842.88

接合資料 1



第13図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1)

いる。構成器種は、ナイフ形石器2点(頁岩)、石核5点(頁岩2、安山岩2、流紋岩1)、二次加工剥片1点(チャート)、剥片56点(頁岩40、安山岩1、黒曜石4、チャート8、流紋岩1、ホルンフェルス1、硬砂岩1)、砕片1点(チャート1)、礫3点(チャート、硬砂岩、凝灰岩)、石鏃2点(チャート)、石鏃未製品1点(安山岩)である。石鏃は、第3層から出土しており混入と考えられる。



第14図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料2)

**所見** 当石器集中地点からは接合資料4点が出土している。接合資料1(頁岩6点:ナイフ形石器1, 剥片5), 接合資料2(頁岩2点:剥片), 接合資料3(頁岩5点:石核1, 剥片4)は, 平面分布が2m四方(B3e5)に集中し, 垂直分布が第4層に集中する。

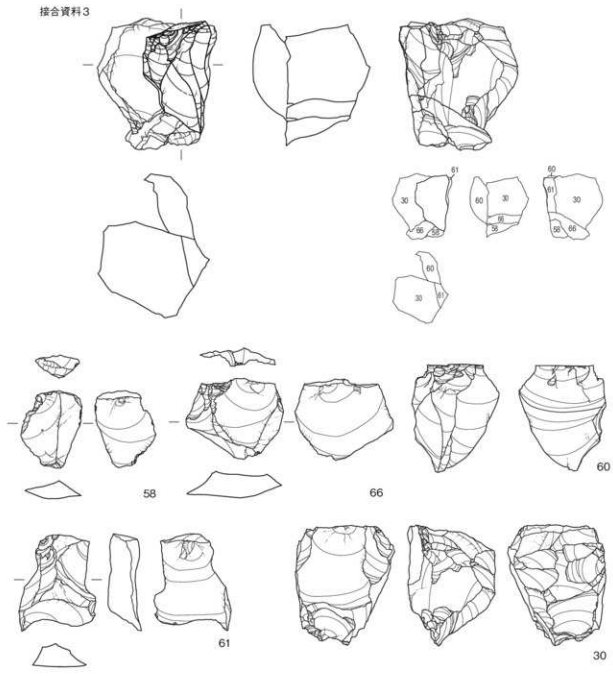
接合資料1の分離順序は27→52→45→49→50→34で, 打面調整剥片1点と剥片4点, ナイフ形石器1点から構成されている。27, 52の打面調整剥片の剥離後, 打面と作業面をほぼ固定して45, 49, 34の剥片剥離が行われ, 34は剥離後一側縁加工のナイフ形石器となっている。50は被熱による剥落が著しく, 素材面をあまり留めていないため判然としなが, 打撃軸がやや異なる。27の左側面と45, 49の右側縁にはポジティブ面とも考えられる大きなフラット面が認められることから, 大きな剥片の小口面で側面にポジティブ面を取り込む剥片を目的とした可能性がある。

接合資料2の分離順序は51→73で, 両設打面の縦長剥片2点で構成されている。51は剥離後に入念な石核調整がなされ, その後打面を転移して73が剥離されている。

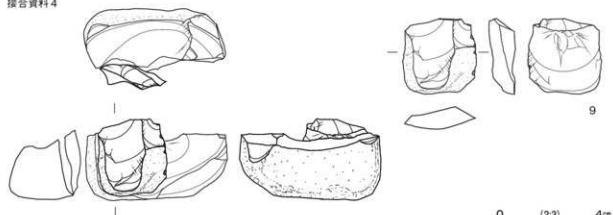
接合資料3の分離順序は60→58→66→(61+30)で, 石核とそれに接合する剥片4点で構成されており, 母岩消費の最終段階を示す資料といえる。腹面中央には分割面と考えられる大きなポジティブ面が認められる。58, 66が連続的に剥離された後に打面転移がなされ, 61を剥離して剥片剥離が終了している。

石材は頁岩の比率が高く, ナイフ形石器や石核, 多数の剥片が出土している。接合資料1～3は, 平面・垂直分布から, 同一母岩であり, 同一時期の石器製作跡の可能性が考えられる。

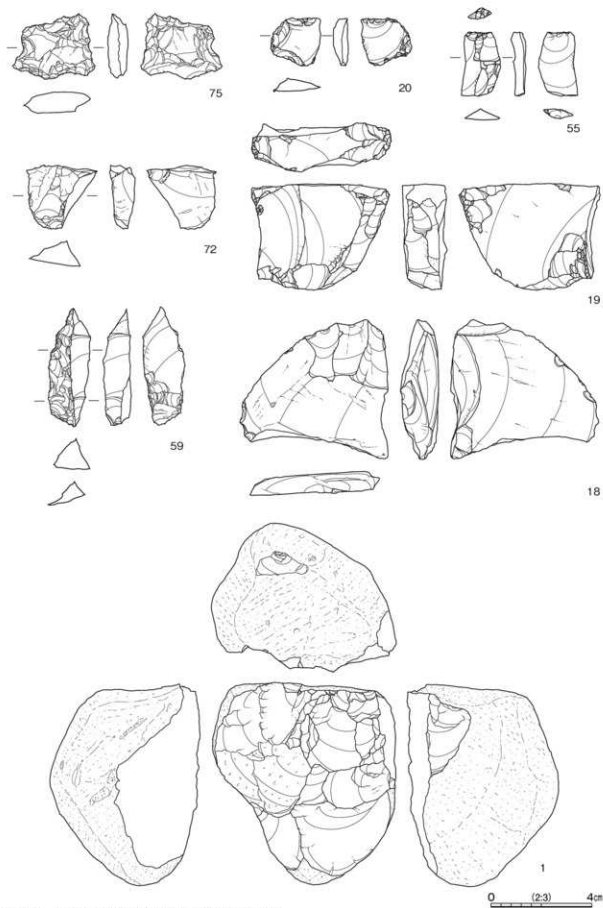
接合資料3



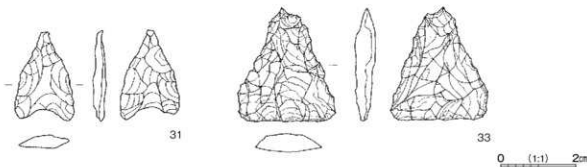
接合資料4



第15图 第3号石器集中地点出土物实测图(接合資料3·4)



第16図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第17図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(2)

第11表 第3号石器集中地点出土遺物一覧

番号	石種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	層位	備考
総合資料1	頁岩	66.85	62.53	48.07	75.60	分離順序: 27 → 52 → 45 → 49 → 50 → 33	4層	PL18
総合資料2	頁岩	57.63	31.92	21.41	43.18	分離順序: 51 → 73	5層	PL19
総合資料3	頁岩	52.40	47.42	46.66	109.89	調整順序: 00 → 58 → 66 → 101 × 30	5層	PL19
総合資料4	流紋岩	33.80	52.22	36.92	54.65	調整順序: 2 → 9 2と9の間で割片1枚調整	5層	PL21

番号	器種	石種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	層位	備考
1	石核	安山岩	78.90	72.77	58.83	425.20	準大の礫が素材	4層	PL20
2	石核	流紋岩	25.28	32.22	23.46	46.17	総合資料4 小型の礫が素材	3層	
9	割片	流紋岩	27.72	27.23	10.35	8.48	総合資料4 調整面打面の矩形割片	3層	PL21
18	石核	安山岩	51.31	54.99	14.62	43.90	割片素材石核 ボジティブ面を底面とする有底長割片が調整 開口部技法の調整面が石核に類似	5層	PL20
19	石核	頁岩	51.01	39.35	18.28	48.48	大きな割片が素材 小口面に背面面 打面調整後ボジティブ面を側面に取り囲む長割片が連続的に調整	5層	PL20
20	割片	頁岩	18.17	18.80	6.20	1.93	調整面打面の割片 背面側面の上端及び下端に両側調整による調整痕 機状石器から調整された割片	5層	PL17
27	割片	頁岩	47.25	24.25	10.81	6.68	総合資料1 総合状況から打面調整割片	4層	PL17
30	石核	頁岩	44.61	36.45	32.41	71.20	総合資料3 右側面中央には大きなボジティブ面 大きな割片を石核の素材としていたもの	5層	PL20
34	ナイフ形器	頁岩	45.31	30.89	12.07	9.23	総合資料1 調整面より調整された長割片を素材 一種加工のナイフ形石器 フランティングでは背面調整が多用されているほか、フランティング面に背面から後面に平削調整	4層	PL17
45	割片	頁岩	28.44	19.96	6.00	2.30	総合資料1 無打面の割片	4層	PL17
49	割片	頁岩	51.13	45.40	19.94	33.50	総合資料1 調整面打面の割片 背面の調整痕の調整痕はほぼ平行	5層	PL17
50	割片	頁岩	20.09	17.78	16.20	4.00	総合資料1 版面中央に主要調整面 上半部が指痕に左側面及び下側の調整痕が調整 不明な部分が多い 主要調整面は大きく平削で割片調整時は大きな割片	5層	PL17
51	割片	頁岩	42.32	28.47	11.86	12.80	総合資料2 調整面打面の長割片	5層	PL19
52	割片	頁岩	51.68	45.18	14.19	19.83	総合資料1	5層	PL17
55	割片	頁岩	23.88	14.54	5.98	1.90	調整面打面の長割片 下面に切り取りとも考えられる割れ面	5層	PL20
58	割片	頁岩	28.57	23.02	9.50	3.80	総合資料3 調整面打面の長割片	5層	PL20
59	ナイフ形器	頁岩	43.94	15.79	10.36	6.27	調整面打面の長割片 一種加工のナイフ形石器 長割片を底面に打ち付けた後を調整 フランティングでは背面調整が多用されたほか、後面下半部の主要調整面がほぼ平行に平削調整	5層	PL17
60	割片	頁岩	41.91	33.88	12.57	14.41	総合資料3	5層	PL20
61	割片	頁岩	35.96	28.27	11.94	11.2	総合資料3 調整面打面の長割片	5層	PL20
66	割片	頁岩	29.73	26.05	10.00	10.10	総合資料3 調整面打面の矩形割片	5層	PL20
72	二次加工	チャート	23.88	26.07	9.21	6.15	割片の上半部が割れた後に、後面に割れ面を切る平削調整面下部には版面から背面側に二次加工	痕	PL17
73	割片	頁岩	53.42	30.69	21.31	30.90	総合資料2	痕	PL19
75	石核未品	安山岩	25.79	32.58	8.31	7.29	背面側面に平削調整による二次加工痕 版面中央に素材割片の主要調整面が残る	痕	PL20

番号	器種	石種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
5	割片	チャート	8.63	5.94	1.88	0.08	痕	
6	割片	安山岩	30.04	29.41	10.72	8.56	3層	
7	割片	トコノエ石	37.46	24.62	13.20	8.81	4層	
8	割片	チャート	23.67	14.13	4.27	1.25	3層	PL17
10	割片	チャート	23.20	22.23	17.78	9.66	痕	
11	割片	黒曜石	12.55	11.56	6.52	0.91	3層	
12	礫	黒曜石	101.74	56.19	38.42	247.46	痕	
14	割片	頁岩	26.03	15.31	5.04	1.53	痕	PL20
15	割片	頁岩	18.10	8.94	7.49	1.10	4層	
16	割片	頁岩	15.21	11.23	2.81	0.51	4層	
17	礫	黒砂岩	102.00	73.31	61.60	638.61	3層	
22	割片	頁岩	34.70	23.69	9.20	8.10	痕	PL17
23	割片	頁岩	45.58	12.60	16.06	6.56	4層	PL20
24	割片	頁岩	23.47	20.17	3.89	1.46	4層	
25	割片	頁岩	22.42	9.83	5.98	0.93	痕	
26	割片	チャート	25.07	14.07	8.21	3.47	3層	
28	割片	頁岩	36.87	23.77	13.13	4.54	5層	PL20
29	割片	黒曜石	21.96	11.59	2.60	0.59	痕	
31	石核	チャート	24.43	15.09	3.02	0.93	痕	PL25
32	割片	黒曜石	12.10	11.96	3.71	0.34	痕	
33	石核	チャート	29.96	25.57	4.64	3.71	3層	PL25
35	砕片	チャート	40.28	22.10	14.77	20.14	痕	
36	割片	頁岩	14.82	5.24	2.00	0.12	5層	
37	割片	チャート	24.99	17.63	11.73	7.77	3層	
38	礫	チャート	16.02	7.96	9.78	1.02	5層	
39	割片	頁岩	30.03	23.71	5.69	3.00	痕	PL20
44	割片	頁岩	23.80	15.87	8.42	2.21	4層	
46	割片	頁岩	18.66	11.61	2.43	0.58	4層	
47	割片	頁岩	23.92	18.21	3.70	1.56	4層	PL20
48	割片	頁岩	41.70	31.09	5.37	4.34	5層	PL20



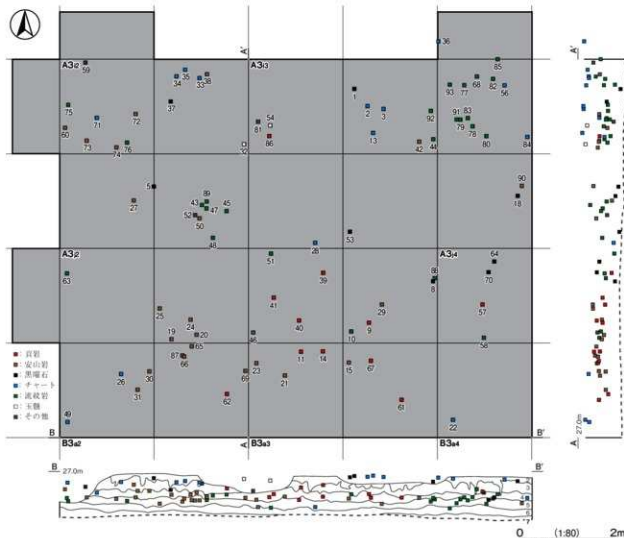
番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
53	瀬片	硬砂岩	33.99	22.27	15.86	11.32	攪乱	
54	瀬片	頁岩	22.54	16.27	6.03	1.13	4層	PL20
56	瀬片	頁岩	9.96	8.20	1.42	0.11	5層	
57	瀬片	頁岩	16.43	9.21	3.32	0.28	5層	
62	瀬片	頁岩	28.06	8.60	3.45	0.88	5層	PL20
63	瀬片	頁岩	15.55	15.54	1.84	0.38	5層	PL17
64	瀬片	頁岩	16.42	15.90	4.97	1.02	5層	PL17
65	瀬片	頁岩	18.30	12.21	2.43	0.49	5層	PL17
67	瀬片	頁岩	22.14	15.97	9.24	2.88	5層	PL20

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
68	瀬片	頁岩	11.90	6.01	1.84	0.12	5層	
69上	瀬片	チャート	23.46	12.88	4.92	0.97	攪乱	PL17
69中	瀬片	頁岩	19.60	10.97	6.06	0.77	攪乱	PL17
70	瀬片	頁岩	5.93	5.37	0.88	0.02	5層	
71	瀬片	頁岩	14.47	10.98	4.00	0.47	5層	
74	瀬片	黒曜石	29.41	15.65	4.41	2.00	攪乱	PL17
76	瀬片	頁岩	22.02	8.27	5.12	0.58	4層	
77	瀬片	チャート	20.58	16.89	5.86	1.68	攪乱	
79	瀬片	チャート	21.04	13.95	6.98	1.91	攪乱	

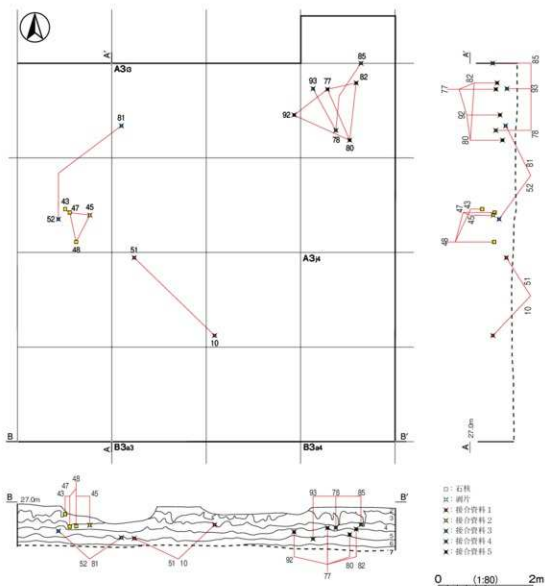
#### 第4号石器集中地点 (第18～22図, 第12～14表, PL 6・21～24・35)

位置 調査区北部のA3i2～A3j4区, 標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

遺物出土状況 南北8m, 東西9.8mの範囲内で, 標高26.219～26.910mから, 88点(総重量91656g)の石器が出土している。内訳は, 第3層から13点(頁岩1, 安山岩1, 黒曜石4, チャート5点, 硬砂岩1, 玉髓1), 第4層から42点(頁岩9, 安山岩10, チャート1, 流紋岩20, ホルンフェルス1, デイサイト1), 第5層から20点(頁岩1点, 安山岩11, 黒曜石2, チャート1, 流紋岩4, デイサイト1), 攪乱から13点(安山岩2, 黒曜石2, チャート8, 玉髓1)で, 第4層に集中している。構成器種は, ナイフ形石器2点(玉



第18図 第4号石器集中地点遺物分布図(石材)



第19図 第4号石器集中地点遺物分布図(接合資料)

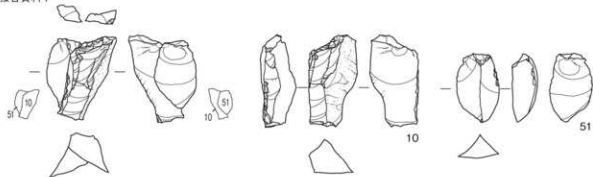
第12表 第4号石器集中地点層別別単位石材器種一覧

	頁岩		安山岩		黒曜石		チャート		流紋岩		その他 不明	玉髓	合計									
	石核 片	二次 加工 片	石核 片	石片 計	石核 片	石片 計	石核 片	石片 計	石核 片	石片 計												
3層		1	1		1	1	4	3	1	1	5		1	13								
4層	1	1	7	9	10	10		1			1	3	1	16								
5層		1	1	1	10	11	2	1			1	3	1	4								
複乱					2	2	2	6	1		1	8		1								
合計	1	1	9	11	1	23	24	8	11	2	1	15	3	1	19	1	24	1	2	1	2	88

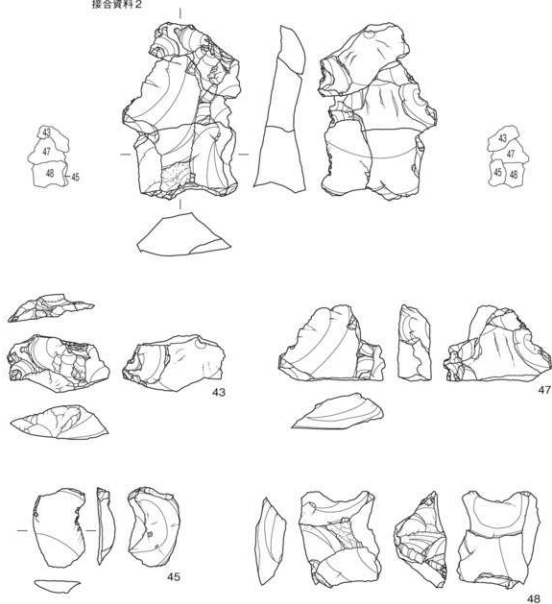
第13表 第4号石器集中地点層別別単位石材重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホムンフェルス	アイサイト	硬砂岩	玉髓	合計(g)
3層	14.35	13.59	9.38	21.76				9.88	5.35	74.31
4層	89.87	157.63		1.73	175.61	16.86	18.45			460.15
5層	0.56	166.98	3.93	1.81	109.96		54.11			337.35
複乱		13.56	5.07	22.20					3.92	44.75
合計(g)	104.78	351.76	18.38	47.50	285.57	16.86	72.56	9.88	9.27	916.56

接合資料 1



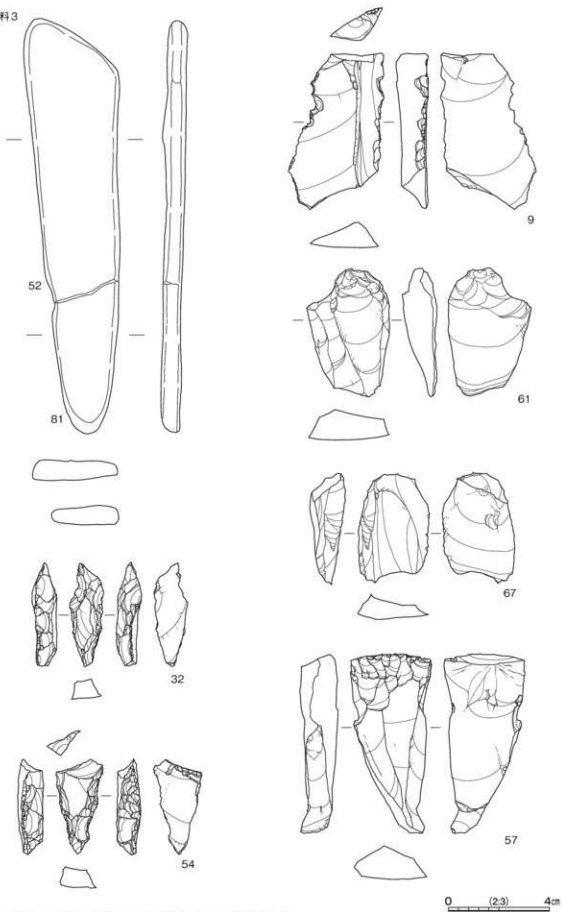
接合資料 2



第 20 図 第 4 号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料 1・2)

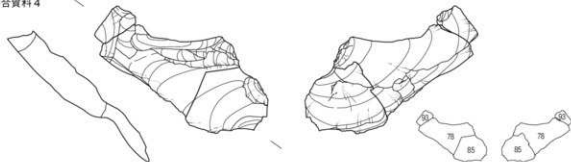
0 (2.3) 4cm

接合資料3

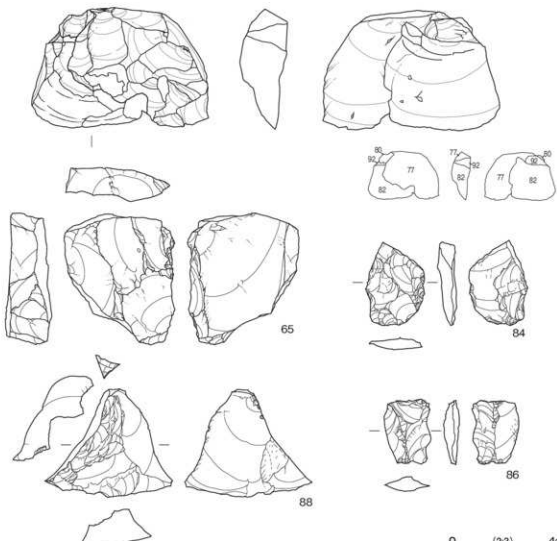


第21图 第4号石器集中地点出土遺物実測図 (接合資料3)

接合資料4



接合資料5



第22図 第4号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料4・5)

髓)、石核4点(安山岩1、流紋岩3)、二次加工剥片2点(頁岩、流紋岩)、剥片74点(頁岩9、安山岩23、黒曜石8、チャート11、流紋岩19、ホルンフェルス1、デイサイト2、硬砂岩1)、碎片2点(チャート2)、礫1点(凝灰岩)、石礫1点(チャート)、石礫未製品1点(チャート)である。

**所見** 当石器集中地点からは接合資料5点が出土している。

接合資料1(流紋岩2点:二次加工剥片、剥片)は、平面分布が2m四方(A3j3)に、垂直分布が第4層に集中している。分離順序は、10→51で、10は剥離後に二次加工もしくは微細剥離がなされている。

接合資料2（流紋岩4点：石核3、剥片1）は、平面分布が1m四方（A3i2）に、垂直分布が第4層に集中している。分離順序は、(43/45) → (47+48)で、縦長剥片を素材とした石核と剥片から構成されている。縦長剥片の主要剥離面側の両側縁を作業面とし、45のような背面にポジティブ面を有する剥片を剥離していたと推定される。45の剥離後も数枚同様の剥片が得られているが、作業中に折れたものと推定される。47は折れた後もさらに同様の剥離が行われている。

接合資料1・2は平面分布がずれるが、垂直分布が第4層に集中し、同一母岩と考えられる。

接合資料3（アイサイト2点：礫）は、平面分布が2m四方（A3i2～A3i3）に、垂直分布が第4・5層に分散している。

接合資料4（流紋岩3点：剥片）と接合資料5（流紋岩4点：剥片）は、平面分布が2m四方（A3i3～A3i4）に、垂直分布が第4層に集中している。68・79・83・91は、接合資料4・5の平面分布と同じ範囲から出土しており、同一母岩と考えられる。接合資料4は、打点部を折損しているが、潜在的な剥離の影響を受けているものと推定される。接合資料5の剥離順は、77 → 92+ (80+82)で、80と82、92の下部は節理面での折れである。

石材は安山岩、流紋岩の比率が高く、ナイフ形石器、楔形石器、石核、多数の剥片が出土していることから石器製作の可能性がある。

第14表 第4号石器集中地点出土遺物一覧

番号	部類名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	層位	備考
9	二次加工剥片	頁岩	57.98	35.30	12.37	19.37	縦長剥片を素材とする二次加工剥片。打点部は折り取りと推定される折れ面が認められる。折れ面を形成する二次加工工程「サイドスライパー」の可能性もあるが、剥離面としての連続性が欠く二次加工剥片とした	4層	PL21
10	二次加工剥片	流紋岩	37.30	24.88	14.74	8.30	接合資料1 剥離面打面の縦長剥片を素材とする二次加工剥片。背面左側縁下半に主要剥離面側から背面側へ二次加工もしくは微細調整	4層	PL21
32	ナイフ形石器	玉髄	41.14	13.86	10.26	3.92	縦長剥片を素材とする。縦長加工ナイフ型石核。背面上面にわずかに素材となった剥片の先行一次剥離面打面が劣化して残る。左側縁中央上下にわずかな折れ面	埋込	PL22
43	石核	流紋岩	39.51	23.06	14.54	10.40	接合資料2 調整打面の縦長剥片が素材。後面縁を作業面としてポジティブ面を底面として有する剥片を剥離していたもの。調整作業中に右縁が折損し、その際に左側面の折れ面が形成され、その折れ面形成後もその折れ面を打面として背面側に微細な調整	4層	PL22
45	剥片	流紋岩	29.52	19.58	7.26	2.70	接合資料2 剥離面打面の縦長剥片。背面に素材となった剥片のポジティブ面のみで構成	4層	PL22
47	石核	流紋岩	30.85	42.85	13.65	14.20	接合資料2 調整打面の縦長剥片が素材。後面縁を作業面としてポジティブ面を底面として有する剥片を剥離していたもの。調整作業中に右縁が折損し、その際に右側面上半及び下面の折れ面が形成され、その折れ面形成後もその折れ面を打面として背面側に微細な調整	4層	PL22
48	石核	流紋岩	38.77	32.57	21.70	20.30	接合資料2 調整打面の縦長剥片が素材。後面にポジティブ面を持つ剥片を剥離した微細調整	4層	PL22
51	剥片	流紋岩	27.34	17.56	10.84	3.30	接合資料1 剥離面打面の縦長剥片。背面右側縁には主要剥離面側から背面側になされた微細調整	5層	PL21
52	礫	アイサイト	104.02	39.29	9.35	54.11	接合資料3	5層	PL23
54	ナイフ形石器	玉髄	37.80	19.11	11.17	3.55	縦長剥片を素材とする二次加工ナイフ型石器。縦長剥片を底面に用いる。素材剥片の主要剥離面打点縁を光面としているが、上縁を折損。折れ面形成後の折れ面を打面として、後面側に半削調整	3層	PL22
57	剥片	頁岩	71.05	32.56	15.40	31.38	剥離面打面の縦長剥片。背面側縁から右方*	4層	PL21
61	剥片	頁岩	47.32	31.08	13.38	17.56	無打面の縦長剥片。背面側縁から右方*	4層	PL23
65	石核	安山岩	51.88	43.56	18.78	45.79	ポジティブ面は認められない。背面縁の剥離縁は垂直的である。上半部を折損	5層	PL24
67	剥片	頁岩	40.70	26.06	13.64	11.45	剥離面打面の縦長剥片。彫彫な打面及び作業面の転移。右側調整面とも推定される	4層	PL23
77	剥片	流紋岩	64.50	39.97	15.23	36.63	接合資料5	4層	PL23
78	剥片	流紋岩	35.19	36.66	11.72	21.83	接合資料4 縦長剥片。打点部を折損。潜在的な剥離の影響を受けているものとも推定	4層	PL22
80	剥片	流紋岩	21.87	11.28	8.05	1.65	接合資料5	4層	PL23
81	礫	アイサイト	60.18	26.42	8.13	18.45	接合資料3	4層	PL23
82	剥片	流紋岩	50.06	42.16	10.28	20.03	接合資料5	4層	PL23
84	石核未製品	チャート	31.07	21.94	7.87	5.08	縦長剥片素材の石核未製品。後面に素材となった剥片の主要剥離面が残る。上半部背面に沿った折れ	5層	PL21
85	剥片	流紋岩	35.49	32.28	5.19	6.78	接合資料4	4層	PL22
86	楔形石器	頁岩	24.00	17.68	6.29	2.25	小形	4層	PL23
88	剥片	流紋岩	39.87	46.78	30.15	14.53	調整打面の矩形剥片	5層	PL23
92	剥片	流紋岩	15.52	11.13	2.40	0.63	接合資料5	4層	PL23
93	剥片	流紋岩	18.63	12.28	6.25	1.65	接合資料4	5層	PL23
接合資料1	流紋岩	29.43	24.74	14.66	11.96	分離順序: 10 → 51		4層	PL21
接合資料2	流紋岩	62.35	42.24	18.44	47.61	分離順序: (43/45) → (47+48)		4層	PL22
接合資料3	アイサイト	164.20	39.29	9.35	72.45	52+81		5層	PL23
接合資料4	流紋岩	78.29	40.54	11.77	30.25	78+85+93		4層	PL22
接合資料5	流紋岩	47.05	49.72	15.77	37.90	77 → 92+ (80+82)		4層	PL23

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
1	割片	黒曜石	19.55	12.27	4.09	0.79	攪乱	PL22
2	砕片	チャート	24.11	18.20	12.25	6.32	攪乱	
3	割片	チャート	22.60	17.49	8.64	3.83	攪乱	
5	割片	17.08	11.27	10.92	3.30	3層	攪乱	PL22
8	割片	黒曜石	13.75	9.37	4.30	0.40	3層	
11	割片	頁岩	28.46	13.23	11.74	3.73	4層	
13	割片	チャート	22.33	11.89	8.17	1.31	攪乱	
14	割片	頁岩	15.84	11.66	3.12	0.56	5層	
15	割片	安山岩	21.18	17.49	5.27	1.32	5層	
18	割片	黒曜石	28.46	16.75	8.13	4.87	3層	PL22
19	割片	安山岩	39.79	26.16	14.59	9.70	4層	PL24
20	割片	安山岩	17.74	15.17	3.57	1.09	4層	
21	割片	安山岩	27.51	15.97	4.73	2.15	4層	
22	石鏃	チャート	18.01	17.21	4.11	0.67	3層	PL25
23	割片	安山岩	30.39	15.73	8.33	6.35	5層	
24	割片	安山岩	40.55	23.28	8.83	6.14	5層	PL24
25	割片	安山岩	41.63	31.17	18.06	22.16	5層	PL24
26	割片	チャート	23.81	13.45	6.57	1.97	3層	
27	割片	安山岩	52.53	38.31	6.86	11.95	4層	PL24
28	割片	チャート	25.90	11.09	4.99	1.81	5層	
29	割片	安山岩	32.43	23.76	16.77	11.38	5層	
30	割片	安山岩	30.76	17.71	10.10	2.45	4層	
31	割片	安山岩	23.69	21.94	4.05	1.78	4層	
33	割片	チャート	23.38	15.37	4.86	2.26	攪乱	PL21
34	割片	チャート	19.80	13.59	1.97	0.64	攪乱	PL21
35	割片	チャート	28.76	29.04	3.06	2.26	攪乱	
36	割片	チャート	15.28	10.68	2.35	0.30	攪乱	
37	割片	黒曜石	25.14	22.28	8.87	4.28	攪乱	PL22
38	割片	安山岩	29.27	25.40	9.61	4.50	攪乱	
39	割片	頁岩	35.27	34.96	14.31	14.35	3層	PL23
40	割片	頁岩	22.08	15.62	4.70	1.30	4層	PL22
41	割片	頁岩	25.31	14.70	6.35	2.03	4層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
42	割片	安山岩	41.89	35.01	8.19	12.35	5層	PL24
44	割片	流紋岩	34.31	23.47	6.11	5.28	4層	PL22
46	割片	35.7×3.3	64.87	30.28	7.13	16.86	4層	
49	割片	チャート	39.33	31.24	15.65	14.39	3層	
50	割片	安山岩	33.75	23.90	6.43	5.85	5層	
53	割片	黒曜石	18.39	11.35	4.88	0.81	3層	
55	割片	チャート	26.11	21.82	8.44	4.60	3層	PL21
56	砕片	チャート	12.65	8.78	1.00	0.13	3層	
58	割片	流紋岩	42.33	12.29	11.50	5.20	4層	PL23
59	割片	凝灰岩	36.40	36.23	7.77	9.88	3層	
60	割片	安山岩	41.00	32.54	11.14	13.59	3層	
62	割片	頁岩	25.70	11.21	1.69	0.60	4層	
63	割片	流紋岩	32.91	38.91	3.80	3.18	4層	
64	割片	黒曜石	19.65	12.37	3.63	0.68	5層	
66	割片	安山岩	50.27	35.67	13.42	21.56	4層	
68	割片	流紋岩	14.70	10.68	1.37	0.15	4層	
69	割片	安山岩	30.92	22.38	11.82	7.95	5層	
70	割片	黒曜石	32.02	21.37	4.30	3.25	5層	PL22
71	割片	チャート	22.50	15.58	5.05	1.73	4層	
72	割片	安山岩	53.34	37.14	18.03	40.46	4層	PL24
73	割片	頁岩	36.20	35.49	19.23	32.39	4層	PL24
74	割片	安山岩	53.56	53.10	16.51	34.08	4層	PL24
75	割片	流紋岩	41.04	28.42	9.77	15.61	4層	PL22
76	割片	流紋岩	22.63	14.62	2.60	0.87	4層	
79	割片	流紋岩	27.71	17.92	4.89	2.59	4層	PL22
83	割片	流紋岩	13.23	6.52	3.01	0.19	4層	
87	割片	安山岩	50.25	44.29	12.78	35.72	5層	PL24
89	燧	流紋岩	35.39	36.44	21.82	90.48	5層	
90	割片	安山岩	49.98	34.42	7.55	11.97	5層	
91	割片	流紋岩	9.21	4.88	1.61	0.11	4層	
94	割片	安山岩	38.69	28.63	6.04	9.96	攪乱	PL24

## 第5号石器集中地点 (第23～25図, 第15～17表, PL 7・24・25・35)

位置 調査区中央部のB2f6・B2g5・B2g6区, 標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

遺物出土状況 南北6.8m, 東西3.2mの範囲内で, 標高26215～26599mから, 16点の石器が出土している。

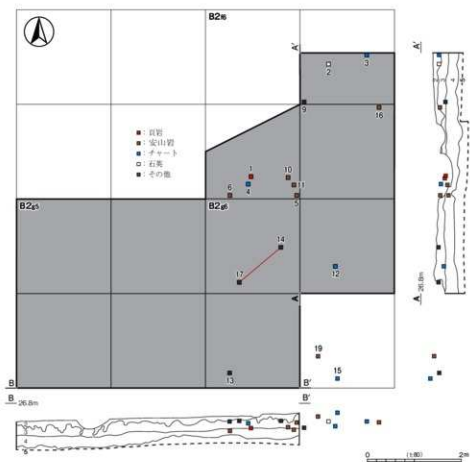
内訳は, 第2層から9点(頁岩1, 安山岩5, 硬砂岩1, デイサイト1, 凝灰岩1), 第3層から5点(チャート3, 硬砂岩1, 石英1), 攪乱から2点(安山岩, チャート)で第2・3層に集中している。構成器種は, 彫器1点(頁岩), 石斧1点(硬砂岩), 割片8点(安山岩6, チャート1, 石英1), 砕片2点(チャート),

第15表 第5号石器集中地点層位別単位別石材器種一覧

	頁岩	安山岩	チャート			硬砂岩	デイサイト	凝灰岩	石英	合計
			割片	砕片	燧					
2層	1	5				1	1	1		9
3層				2	1	3	1		1	5
攪乱		1	1			1				2
合計	1	6	1	2	1	4	2	1	1	16

第16表 第5号石器集中地点層位別石材重量一覧

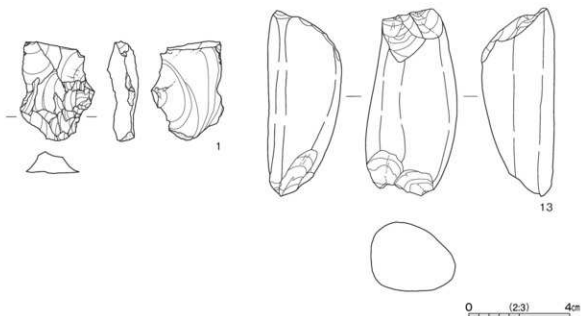
	頁岩	安山岩	チャート	硬砂岩	デイサイト	凝灰岩	石英	合計(g)
2層	12.89	28.91		33.56	104.62	172.44		352.42
3層			1.63	71.78			3.42	76.83
攪乱		34.39	3.13					37.52
合計(g)	12.89	63.30	4.76	105.34	104.62	172.44	3.42	466.77



第23図 第5号石器集中地点遺物分布図(石材)

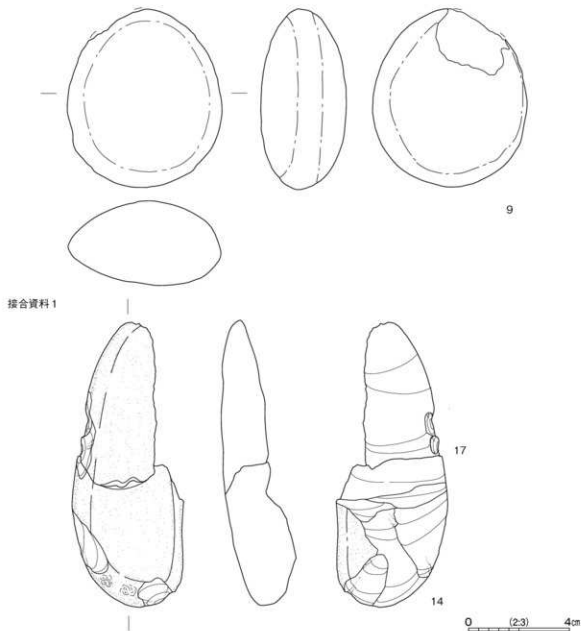
磨石1点(凝灰岩), 敲石1点(デイサイト), 石鏃1点(チャート)である。磨石, 敲石, 石鏃は混入と考えられる。

**所見** 当石器集中地点からは接合資料1点が出土している。接合資料1(硬砂岩2点:石斧)は平面分布が1m四方(B2g6)に、垂直分布が第2層に集中している。



第24図 第5号石器集中地点出土遺物実測図





第25図 第5号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1)

第17表 第5号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	層位	備考
1	磨石	頁岩	36.64	27.32	11.33	12.89	磨礫面打面の楕長薄片が素材。背面右側縁は素材薄片の打点部を残し、フランクティア状の二次加工。上部は主要磨礫面に切られることから主要磨礫面形成以前の丸きなフラット面である。フラット面を打面とし、背面左上にフランクティア状の磨礫面	2層	PL25
14	石斧	硬砂岩	57.20	4.81	24.87	71.78	接合資料1	3層	PL24
17	石斧	硬砂岩	61.81	36.59	12.36	33.56	接合資料1	2層	PL24
接合資料1	硬砂岩	108.47	42.52	23.97	105.26	14+17			PL24

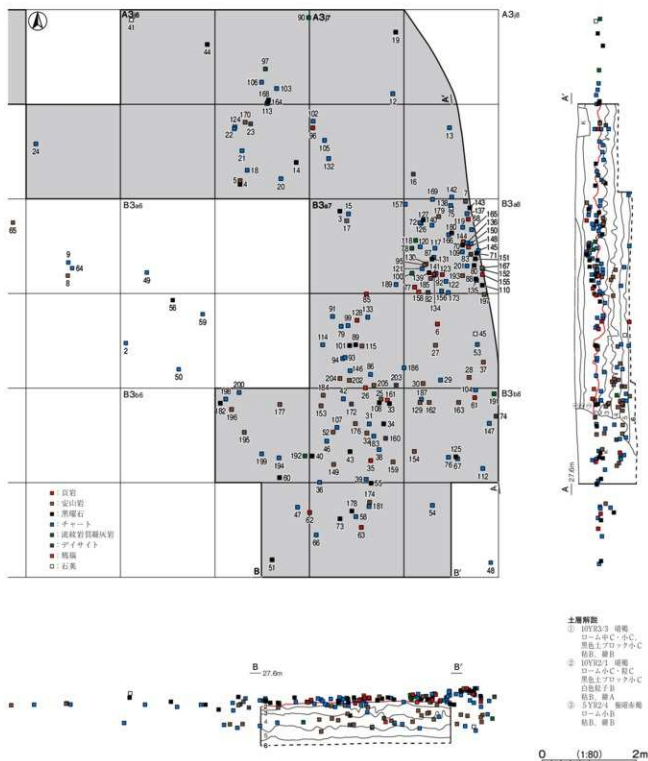
  

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
2	網片	石英	26.36	17.28	9.66	3.42	3層	
3	網片	チャート	10.65	9.53	2.21	0.17	3層	
4	網片	チャート	14.48	11.77	1.74	0.25	3層	
5	網片	安山岩	45.48	26.09	18.92	25.02	2層	PL25
6	網片	安山岩	23.95	12.83	4.61	1.17	2層	
9	磨石	凝灰岩	71.21	61.40	34.39	172.44	2層	
10	網片	安山岩	18.16	11.00	1.99	0.39	2層	
11	網片	安山岩	22.63	11.01	2.95	0.86	2層	
12	網片	チャート	29.30	11.83	7.52	3.13	覆瓦	
13	磨石	デイスイト	73.68	36.64	27.73	104.62	2層	
15	石鏝	チャート	19.97	12.39	5.72	1.21	3層	
16	網片	安山岩	20.47	14.19	4.80	1.47	2層	
19	網片	安山岩	66.65	43.79	13.87	34.39	覆瓦	PL24

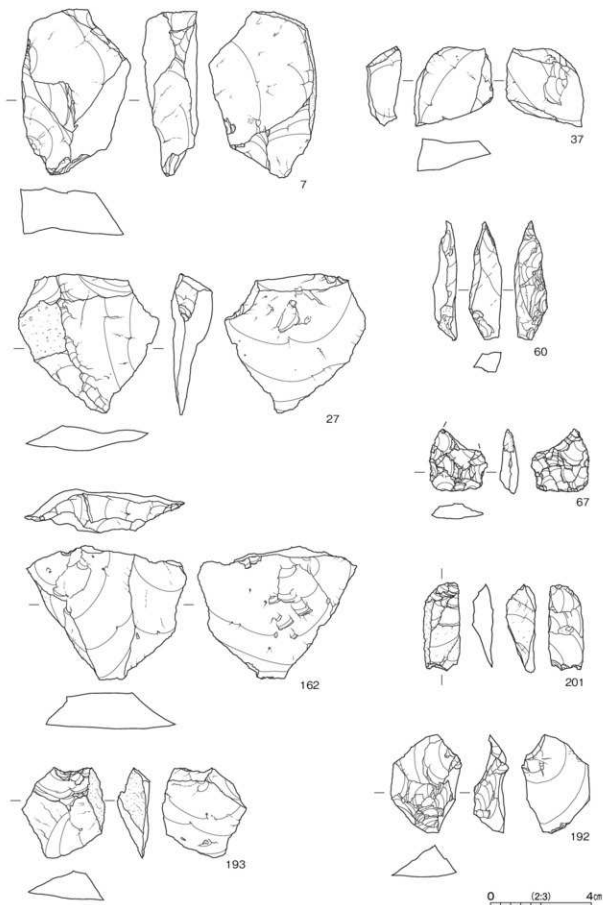
第6号石器集中地点 (第26～29図、第18～20表、PL 7・25・26)

位置 調査区北部の第3号墳丘陵基底面のA3j5～B3b7区、標高27mほどの台地上に位置している。

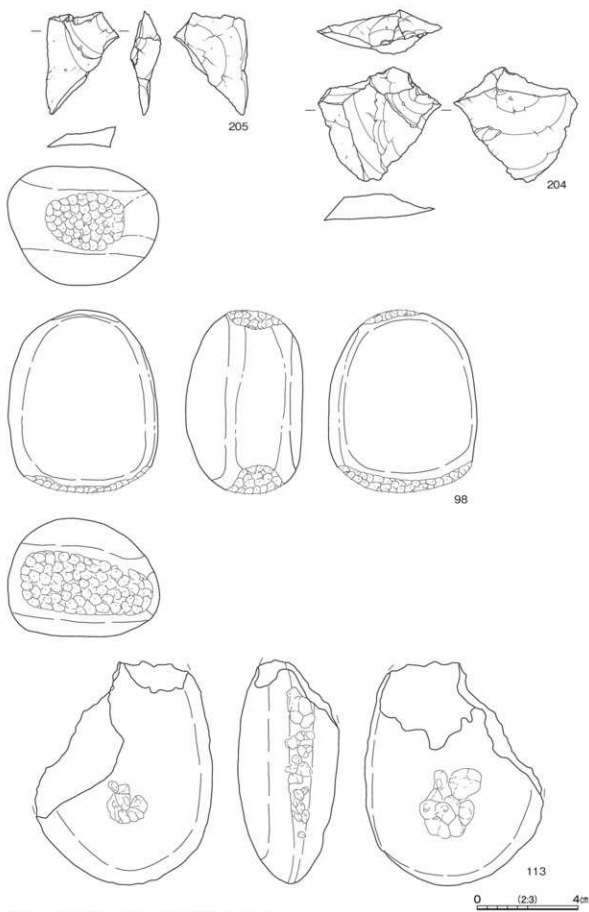
遺物出土状況 南北133m、東西132mの範囲内で、標高26367m～27280mから、201点(総重量1263.74g)の石器が出土している。内訳は、第1層から第2層にかけて140点(頁岩11、安山岩12、黒曜石29、チャート70、流紋岩5、ホルンフェルス1、ダイサイト3、硬砂岩2、瑪瑙4、石英2)、第3層から4点(安山岩2、黒曜石1、チャート1)、第4層から13点(安山岩8、黒曜石1、チャート3、硬砂岩1)、第5層



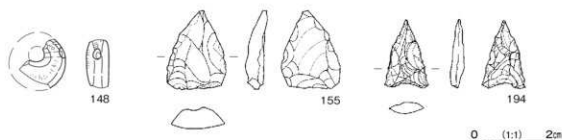
第26図 第6号石器集中地点遺物分布図



第27図 第6号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第 28 图 第 6 号石器集中地点出土遗物实测图 (2)



第29図 第6号石器集中地点出土遺物実測図(3)

から21点(安山岩10, 黒曜石1, チャート5, 流紋岩2, 硬砂岩1, 瑪瑙1, 石英1), 攪乱から23点(頁岩1, 安山岩4, 黒曜石5, チャート10, デイサイト1, 凝灰岩1, 石英1)である。構成器種は、楔形石器1点(チャート), 石核2点(安山岩, チャート), 剥片128点(頁岩8, 安山岩35, 黒曜石20, チャート50, 流紋岩6, デイサイト2, 硬砂岩2, 瑪瑙3, 石英2), 砕片57点(頁岩4, 黒曜石15, チャート33, デイサイト2, 瑪瑙1, 石英2), 礫4点(流紋岩1, ホルンフェルス1, 硬砂岩2), 玉1点(瑪瑙), 石鎌7点(頁岩1, 黒曜石2, チャート4), 磨石1点(凝灰岩)である。石鎌は混入と考えられる。

**所見** 当石器集中地点は、分布状況から2つの石器群に分けられる。チャートと黒曜石を主体とした石器群は、平面分布が広範囲に、垂直分布が第1層から第2層に集中している。また、安山岩を主とした石器群は、平面分布が6m四方(B3a6~B3b7), 垂直分布が第4・5層に集中している。

第18表 第6号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

	頁岩				安山岩				黒曜石				チャート					合計
	剥片	礫	片	集計	剥片	礫	片	集計	剥片	礫	片	集計	石核	石片	剥片	砕片	石	
2層	6	4	1	11	1	11	12	14	2	13	29		1	38	28	3		70
3層					2	2		1		1					1			1
4層					8	8		1	1	1					3			3
5層					10	10		1	1	1				1	3	1		5
攪乱	1			1	4	4		5	5						5	4	1	10
遷移層	1			1														
合計	8	4	1	13	1	35	36	15	2	20	37	1	1	50	33	4		89

	流紋岩			瑪瑙			ホルンフェルス			デイサイト			硬砂岩		凝灰岩		石英		合計	
	剥片	礫	集計	剥片	砕片	玉	集計	礫	剥片	砕片	集計	剥片	礫	集計	磨石	剥片	砕片	集計		
2層	4	1	5	2	1	1	4	1	1	2	3	1	1	2			1	1	2	139
3層																				4
4層															1	1				13
5層	2		2	1			1					1	1				1			21
攪乱									1		1					1		1	1	23
遷移層																				1
合計	6	1	7	3	1	1	5	1	2	2	4	2	2	4	1	2	2	4	20	201

第19表 第6号石器集中地点層位別石材重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホルンフェルス	デイサイト	硬砂岩	凝灰岩	瑪瑙	石英	合計(g)
2層	5.30	83.27	19.99	309.00	54.61	37.11	1.86	43.99		6.86	5.13	567.12
3層		6.16	0.01	0.82								6.99
4層		65.55	2.63	2.79				5.58				76.55
5層		117.27	1.73	19.03	13.81			15.22		5.20	2.33	174.59
攪乱	0.94	23.09	10.81	114.07			2.08	260.00			14.57	425.56
遷移層	12.93											12.93
合計(g)	19.17	295.34	35.17	445.71	68.42	37.11	3.94	64.79	260.00	12.06	22.03	1363.74

第20表 第6号石器集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備 考	層位	備考
7	石核	安山岩	61.03	40.82	22.21	57.20	両片素材石核 腹面にボジティブ面を持つ両片を剥離した両断片	2層	PL25
27	両片	安山岩	54.88	55.82	16.28	32.63	両断片行面の矩形両片 背面構成は糸心状	5層	PL26
37	両片	安山岩	31.05	31.92	14.50	12.94	両断片行面の両片 下手を折曲	5層	PL25
60	両片	黒曜石	44.03	12.41	9.46	4.39	両断片行面の長尺両片 背面両断片上端には微細な剥離痕	桜茂	PL26
67	石核	チャート	24.30	22.69	7.56	3.41	上端を折曲 素材面はほとんど残されていない	2層	PL25
162	両片	チャート	51.97	63.25	17.36	43.36	両断片行面の矩形両片 背面を構成する両断片の剥離痕は主要剥離面にはほぼ平行	5層	PL26
192	両片	流紋岩	35.86	26.33	12.94	9.65	両断片行面の縦長ないしは矩形両片 縁上調整を石核に対して施した片、横断の作目を出したものの	5層	PL26
193	両片	安山岩	36.09	32.83	12.73	11.33	両断片行面の矩形両片 背面下手をボジティブ面 両片素材石核から剥離されたものと推定	4層	PL25
201	両断片石器	チャート	34.18	14.87	8.24	6.20	小形 背腹両面の上下端には両断片縁による剥離痕 右断片にはいわゆる鋭利断面	4層	PL25
204	両片	安山岩	48.77	45.30	17.05	19.78	両断片行面の矩形両片 背面上端にはボジティブ面とも推定される大きなフラット面	5層	PL25
305	両片	安山岩	40.32	28.52	12.54	7.47	両断片行面の長尺両片 背面左端はボジティブ面とも推定される大きなフラット面 両断片行面調整のほぼほぼ頂点に打点 断面は後述の遺物と関連する有底長尺両片	5層	PL26

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
1	両片	チャート	12.27	10.68	1.91	0.35	2層	
2	両片	チャート	19.5	18.58	3.9	1.58	2層	PL25
3	両片	黒曜石	13.6	11.79	1.89	0.3	2層	PL26
4	両片	黒曜石	23.26	13.11	3.04	0.94	2層	PL26
5	両片	安山岩	28.9	14.31	4.89	2.04	2層	
6	両片	頁岩	43.52	26.88	15.41	12.93	折曲	PL25
8	両片	安山岩	19.11	17.46	6.31	2.43	2層	
9	両片	チャート	19.33	19.02	4.07	0.71	2層	
10	両片	黒曜石	20.06	17.01	9.12	2.22	両断片	PL26
12	両片	チャート	22.23	14.79	1.87	0.75	桜茂	
13	両片	チャート	30.91	17.12	5.48	3.46	2層	
14	両片	黒曜石	21.25	20.64	9.09	2.91	2層	PL26
15	両片	チャート	18.43	8.55	5.33	0.6	2層	
16	両片	黒曜石	26.37	17.64	5.66	3.24	2層	
17	磨	スリガラス	55.74	35.15	21.25	37.11	2層	
18	両片	チャート	12.45	12.20	2.15	0.34	2層	PL25
19	両片	黒曜石	22.61	25.09	9.67	4.94	2層	PL26
20	両片	チャート	31.38	19.41	7.98	3.87	2層	
21	両片	チャート	16.86	9.49	2.73	0.43	2層	
22	両片	チャート	31.8	19.25	9.62	5.24	2層	
23	磨	焼砂岩	45.41	36.49	22.15	40.73	2層	
24	両片	チャート	21.69	15.54	1.83	0.88	2層	
25	両片	安山岩	28.53	16.83	6.63	2.56	2層	
26	両片	黒曜石	28.98	16.68	6.74	3.41	2層	PL26
28	両片	安山岩	51.09	41.04	11.45	16.59	4層	PL25
29	両片	チャート	22.11	15.57	4.54	1.1	4層	
30	両片	安山岩	36.84	36.48	7.78	9.92	4層	
31	砕片	チャート	10.49	5.38	2.64	0.13	2層	
32	両片	安山岩	32.62	30.98	11.17	9.4	2層	
33	砕片	黒曜石	5.42	4.96	0.93	0.02	2層	
34	砕片	黒曜石	11.9	5.92	2.6	0.13	2層	
35	両片	頁岩	15.42	8.86	2.13	0.37	2層	
36	両片	チャート	10.41	6.12	1.86	0.1	2層	
38	両片	チャート	8.54	4.25	0.74	0.02	2層	
39	両片	チャート	13.54	11.22	2.02	0.32	2層	
40	両片	黒曜石	10.88	8.97	1.65	0.15	2層	
41	砕片	石英	33.92	15.81	7.75	4.98	2層	
42	両片	チャート	29.51	15.03	2.47	1.14	2層	
43	両片	黒曜石	16.1	15.1	2.9	0.98	2層	
44	両片	黒曜石	20.44	17.28	6.36	2.06	桜茂	PL26
45	両片	石英	21.2	14.46	4.7	2.33	5層	
46	両片	チャート	17.2	10.54	1.82	0.41	2層	
47	両片	チャート	13.64	9.09	1.63	0.22	2層	
48	両片	チャート	18.33	13.05	2.52	0.57	2層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	備考
49	両片	チャート	18.24	12.12	3.37	0.76	2層	
50	両片	チャート	16.55	9.9	2.31	0.31	2層	
51	石核	黒曜石	12.91	8.07	3.05	0.37	2層	
52	両片	安山岩	30.41	25.45	5.99	3.36	2層	PL25
53	両片	チャート	16.72	15.22	4.05	1.17	5層	PL25
54	両片	チャート	18.01	10.54	5.62	0.79	2層	
55	両片	黒曜石	16.13	10.96	4.71	0.8	2層	
56	砕片	黒曜石	8.3	7.77	1.66	0.12	2層	
57	両片	チャート	22.72	19.89	6.51	3.27	桜茂	PL25
58	砕片	チャート	28.24	16.64	13.65	6.19	2層	
59	両片	チャート	30.55	23.92	16.41	10.89	2層	
61	両片	頁岩	11.93	11.54	1.75	0.3	2層	
62	両片	頁岩	12.79	11.52	2.16	0.39	2層	
63	両片	頁岩	13.2	7.45	2.74	0.23	2層	
64	両片	チャート	14.95	8.13	2.31	0.27	2層	
65	両片	安山岩	21.35	14.15	4.34	1.11	2層	
66	両片	チャート	8.67	7.85	2.06	0.17	2層	
68	砕片	頁岩	8.76	5.29	2.06	0.11	2層	
69	砕片	チャート	4.83	3.65	0.61	0.01	2層	
70	砕片	黒曜石	7.8	7.47	0.88	0.06	2層	
71	砕片	黒曜石	9.1	7.54	3.27	0.18	2層	
72	砕片	チャート	8.06	4.56	1.06	0.04	2層	
73	石核	黒曜石	20.9	10.69	3.2	0.7	2層	
74	両片	ライスサイト	18.27	14.01	5.72	1.42	2層	
75	両片	石英	9.07	4.92	2.41	0.15	2層	
76	両片	チャート	11.87	7.98	1.94	0.18	2層	
77	砕片	頁岩	7.57	5.11	1.19	0.05	2層	
78	両片	流紋岩	17.53	7.47	3.58	0.41	2層	
79	両片	チャート	14.17	6.72	1.52	0.18	2層	
80	砕片	黒曜石	11.57	6.93	2.09	0.13	2層	
81	両片	チャート	21.88	16.67	5.24	1.45	桜茂	PL25
82	砕片	ライスサイト	9.95	8.54	2.73	0.22	2層	
83	砕片	ライスサイト	12.86	8.85	1.78	0.22	2層	
84	両片	黒曜石	32.19	17.06	5.79	2.63	4層	PL26
85	両片	頁岩	23.06	8.37	4.68	0.94	桜茂	
86	両片	チャート	14.26	10.42	3.65	0.5	2層	
87	砕片	チャート	3.1	26.23	19.22	22.95	2層	
88	砕片	黒曜石	16.18	6.4	2.66	0.24	2層	
89	砕片	黒曜石	13.92	8.69	1.62	0.23	2層	
90	両片	流紋岩	41.28	24.56	8.9	7.59	2層	
91	砕片	チャート	7.31	7.23	2.27	0.18	2層	
92	砕片	チャート	14.96	9.68	4.16	0.44	2層	
93	砕片	チャート	12.32	9.99	1.37	0.11	2層	
94	砕片	チャート	6.62	3.49	0.94	0.02	2層	

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	部位	備考
95	剥片	安山岩	132	1098	156	0.25	2層	
96	剥片	頁岩	1571	939	236	0.37	2層	
97	剥片	流紋岩	1704	1443	622	1.51	2層	
98	磨石	黒曜石	7203	0961	6609	260	複丸	
99	剥片	チャート	596	517	0.53	0.03	2層	
100	剥片	流紋岩	4913	3334	3687	44.57	2層	
101	剥片	黒曜石	1442	791	1.72	0.2	2層	
102	剥片	チャート	21.3	1167	385	0.74	2層	
103	剥片	チャート	15.51	11.72	1.9	0.3	2層	
104	剥片	チャート	13.9	11.47	2.78	0.36	2層	
105	剥片	チャート	20.35	7.38	3.04	0.59	2層	
106	剥片	チャート	17.21	10.67	3.88	0.63	2層	
107	剥片	チャート	11.83	9.76	2.55	0.24	2層	
108	剥片	黒曜石	6.86	6.72	1.68	0.09	2層	
109	剥片	チャート	5.42	4.18	1.81	0.03	2層	
110	剥片	黒曜石	29.82	16.02	5.35	2.07	2層	PL26
112	剥片	チャート	47.58	46.91	29.76	80.32	複丸	
113	石核	チャート	89.13	69.15	49.31	231.79	2層	
114	剥片	チャート	13.16	11.72	1.74	0.28	2層	
115	剥片	安山岩	22.41	10.81	2.38	0.55	2層	
117	剥片	チャート	6.42	3.81	0.65	0.01	2層	
118	剥片	流紋岩	12.82	10.92	3.22	0.53	2層	
119	剥片	チャート	9.89	6.36	1.19	0.07	2層	
120	剥片	チャート	14.26	8.81	1.2	0.26	2層	
121	剥片	チャート	14.79	8.44	1.53	0.25	2層	
122	剥片	チャート	3.59	3.07	0.88	0.01	2層	
123	剥片	頁岩	7.88	5.69	2.17	0.66	2層	
124	剥片	チャート	7.43	3.9	0.91	0.03	2層	
125	剥片	黒曜石	24.01	8.74	7	1.81	2層	PL26
126	剥片	チャート	11.76	7.52	2.07	0.14	2層	
127	剥片	黒曜石	10.21	3.44	2.33	0.66	2層	
128	剥片	頁岩	26.25	20.51	6.29	1.77	2層	PL25
129	剥片	安山岩	31.33	15.84	7.64	3.42	2層	
130	剥片	安山岩	11.26	10.06	2.67	0.27	2層	
131	剥片	黒曜石	13.82	6.93	1.76	0.18	2層	
132	剥片	チャート	9.47	6.33	1.90	0.14	2層	
133	剥片	チャート	8.57	8.07	1.88	0.13	2層	
134	剥片	黒曜石	10.93	4.96	2.2	0.08	2層	
135	剥片	チャート	6.46	4.18	1.55	0.01	2層	
136	剥片	チャート	13.34	7.57	1.75	0.15	2層	
137	剥片	チャート	7.47	6.77	1.04	0.06	2層	
138	剥片	チャート	10.74	7.75	1.86	0.1	2層	
139	剥片	黒曜石	6.93	3.01	0.91	0.01	2層	
140	剥片	チャート	12.3	8.1	0.97	0.12	2層	
141	剥片	頁岩	9.95	6.21	1.45	0.09	2層	
142	石鏝	チャート	20.18	9.37	2.27	0.33	2層	
143	剥片	黒曜石	14.85	11.26	4.11	0.36	2層	
144	剥片	黒曜石	11.24	9.97	5.96	0.56	2層	
145	剥片	チャート	9.18	5.88	2.75	0.12	2層	
146	剥片	チャート	18.47	12.35	9.24	1.28	2層	
147	剥片	チャート	16.95	13.81	4.11	0.79	4層	

番号	器種名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	部位	備考
148	玉	黒曜石	18.57	18.08	8.53	2.84	2層	PL26
149	剥片	安山岩	37.6	16.02	5.48	3.4	5層	PL25
150	剥片	チャート	11.02	6.48	2.48	0.12	2層	
151	剥片	黒曜石	12.85	10.51	4.24	0.86	2層	
152	剥片	チャート	11.64	8.17	2.09	0.21	2層	
153	剥片	安山岩	16.73	1.21	2.85	0.67	5層	
154	剥片	安山岩	30.22	14.53	3.67	1.37	5層	
155	石鏝	頁岩	20.67	15.21	5.51	1.87	2層	PL25
156	剥片	チャート	7.46	6.95	1.28	0.07	2層	
157	剥片	チャート	15.23	10.59	1.79	0.27	2層	
158	剥片	黒曜石	9.24	5.33	0.93	0.05	2層	
159	剥片	安山岩	40.39	24.71	6.32	6.43	5層	
160	剥片	アイサイト	22.71	14.57	6.45	2.08	複丸	
161	剥片	黒曜石	27.32	19.01	15	5.2	5層	PL26
163	剥片	安山岩	24.1	18.93	4.99	2.01	5層	
164	剥片	黒曜石	14.41	13.92	4.87	1.24	2層	PL26
165	石鏝	チャート	23.28	11.51	3.88	0.96	2層	
166	剥片	チャート	8.51	7.68	1.08	0.08	2層	
167	剥片	安山岩	13.17	9.29	1.51	0.18	2層	
168	剥片	黒曜石	11.77	9.31	2.5	0.23	2層	
169	剥片	チャート	22.65	14.53	3.67	1.32	2層	
170	剥片	安山岩	32.26	15.69	2.31	1.19	複丸	
171	剥片	黒曜石	19.8	19.15	6.98	1.63	複丸	PL26
172	磨	硯砂岩	34.38	22.54	9.81	5.58	4層	
173	剥片	チャート	19.97	12.34	3.69	0.82	3層	
174	剥片	安山岩	30.53	23.67	6.5	4.51	3層	
175	剥片	石鏝	43.27	31.28	13.67	14.57	複丸	
176	剥片	安山岩	18.8	8.1	2.22	0.34	4層	
177	剥片	安山岩	50.49	30.06	9.06	12.76	複丸	
178	剥片	黒曜石	24.68	15.56	5.06	1.73	5層	PL26
179	剥片	安山岩	27.76	12.1	5.79	1.65	3層	
180	剥片	黒曜石	10.68	3.01	1.01	0.01	3層	
181	剥片	チャート	22.27	20.44	2.88	0.9	4層	
182	剥片	黒曜石	17.14	11.99	2.14	0.51	複丸	
183	剥片	チャート	13.91	7.83	1.8	0.14	複丸	
184	剥片	安山岩	44.4	30.52	6.3	7.01	5層	
185	剥片	安山岩	32.67	23.45	5.38	3.17	4層	
186	剥片	チャート	31.17	19.8	8.78	4.96	5層	
187	剥片	チャート	34.61	20.27	8.93	6.55	5層	
188	剥片	チャート	15.05	9.37	2.74	0.32	複丸	
189	剥片	チャート	10.29	9.5	1.71	0.15	5層	
191	剥片	流紋岩	36.21	17.98	6.47	4.16	5層	PL26
194	石鏝	チャート	18.18	11.44	3.56	0.55	複丸	PL26
195	剥片	安山岩	40.23	23.84	6.82	2.33	複丸	PL25
196	剥片	安山岩	34.2	25.19	12.45	6.81	複丸	PL25
197	剥片	安山岩	24.69	18.55	9.06	3.09	4層	
198	剥片	チャート	46.21	24.95	16.31	17.85	複丸	PL25
199	剥片	チャート	13.96	7.43	1.91	0.19	複丸	
200	剥片	チャート	27.32	20.29	13.99	9.23	複丸	PL25
202	剥片	安山岩	20.46	15.65	3.26	1.33	4層	
203	剥片	硯砂岩	43.46	30.98	13.25	15.22	5層	

## (2) 集中地点外出土遺物 (第30～32図, 第21～23表, PL26～28)

当遺跡では、石器集中地点以外からも石器が出土している。出土遺物は合計347点(総重量1906.23g)で、内訳は、ナイフ形石器4点(頁岩、黒曜石、流紋岩、アイサイト)、楔形石器7点(安山岩3、チャート3、硬砂岩1)、削器1点(黒曜石)、搔器1点(頁岩)、台形様石器1点(流紋岩)、尖頭器2点(黒曜石、アイサイト)、二次加工剥片5点(頁岩2、黒曜石2、チャート1)、石器未製品1点(チャート)、石核9点(頁岩1、安山岩2、黒曜石3、流紋岩1、瑪瑙2)、剥片271点(頁岩15、安山岩41、黒曜石83、チャート110、流紋

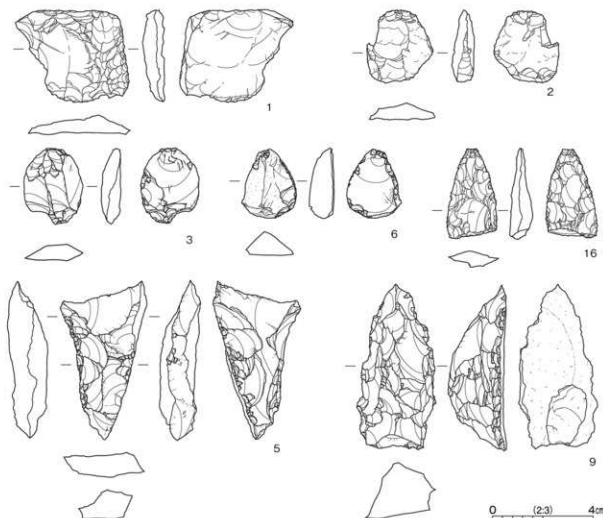
頁11, ホルンフェルス3, デイサイト5, 瑪瑙2, 石英1), 碎片41点(頁岩5, 黒曜石3, チャート29, 瑪瑙1, 石英3) 石鏃3点(黒曜石1, チャート2), 石鏃未製品1点(チャート)である。これらについては, 主な石器について図示するとともに, 一覧に特徴を記載する。

第21表 集中地点外石材別器種一覧

	頁岩 器形	安山岩 器形	黒曜石 器形	チャート 器形	流紋岩 器形	ホルンフェルス 器形	デイサイト 器形	硬砂岩 器形	瑪瑙 器形	石英 器形	合計
頁岩	1			1			2		1	15	25
安山岩		3							2	41	46
黒曜石	1		1		1	2		3	83	3	95
チャート		3				1	1		110	29	147
流紋岩	1			1				1	11		14
ホルンフェルス									3		3
デイサイト	1				1				5		7
硬砂岩		1									1
瑪瑙								2	2	1	5
石英									1	3	4
合計	4	7	1	1	1	2	5	1	9	271	347

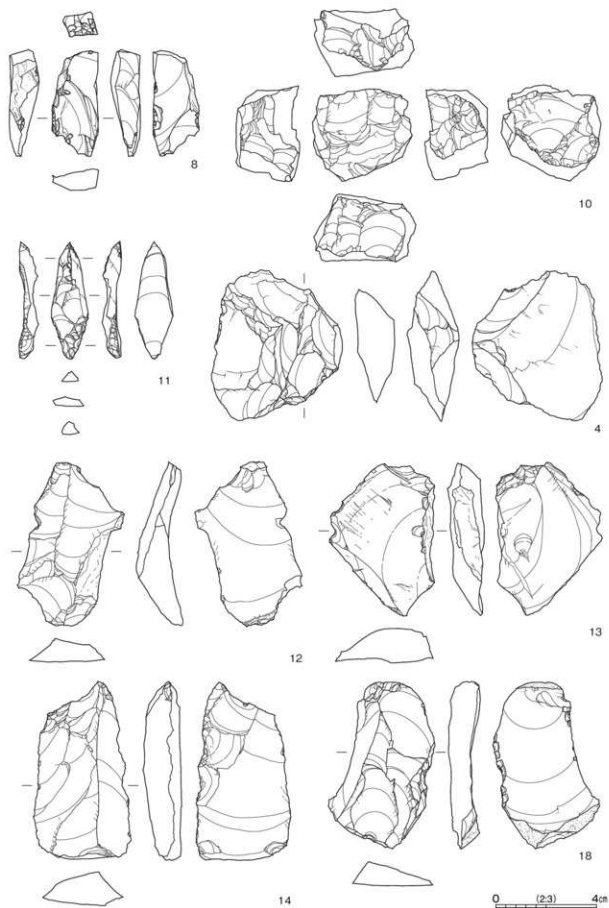
第22表 集中地点外石材別重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホルンフェルス	デイサイト	硬砂岩	瑪瑙	石英	合計 (g)
合計 (g)	203.88	444.14	334.49	496.37	145.60	10.12	84.99	39.36	98.34	49.94	1906.23

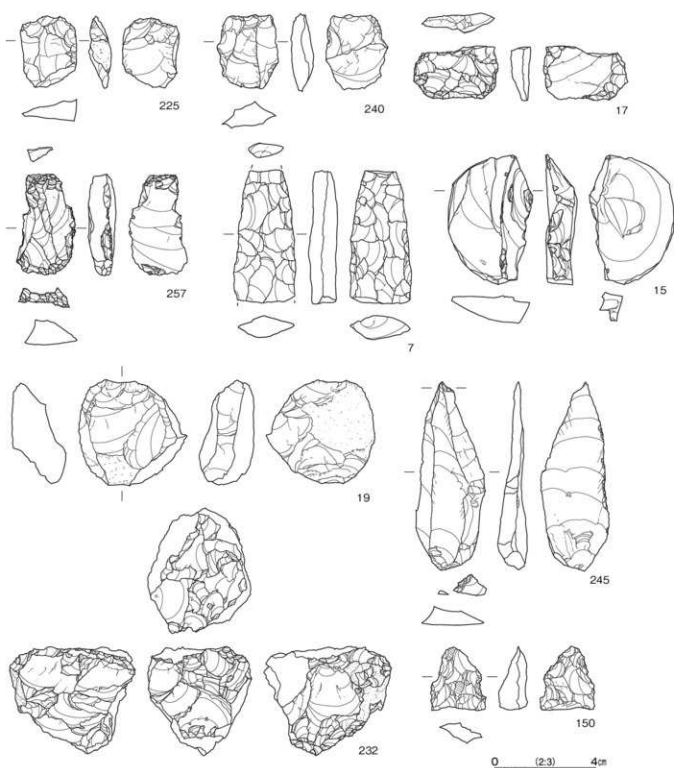


第30図 集中地点外出土遺物実測図(1)





第31図 集中地点外出土遺物実測図(2)



第 32 図 集中地点外出土遺物実測図 (3)

第 23 表 集中地点外出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	出土層	備考
1	楔形石器	チャート	32.05	40.75	8.38	12.90	楔状石器 上下及び左右に対応する両側刃縁	HD	PL.27
2	楔形石器	チャート	25.97	23.68	8.31	6.33	小形の礫が素材 ポジティブ面は認められず、背面両面に磨面	HD	PL.27
3	楔形石器	チャート	26.79	25.11	7.65	5.28	小形の礫片が素材	HD	PL.27
4	ナリ形石器	頁岩	41.07	7.29	13.49	3.36	右厚方の縦長割片を素材とする匙形加工ナイフ形石器 右側面上半にはポジティブ面、側面にポジティブ面を持つ割片が素材 二次加工は両側縁系部、左端縁両側縁 切り合い痕跡は不明 背面上半に線上調整の刃縁部	HD	PL.26
5	台形礫石器	流紋岩	56.34	30.85	14.32	22.03	縦長割片が素材 背腹両面の両側縁に連続する平坦刃縁 両側縁部：腹面打点付着→背面打点付着→背面末端部	HD	PL.27
6	削器	流紋岩	24.77	19.52	8.95	4.72	縦長割片が素材 背面右側縁及び腹面右側縁に連続する二次加工	HD	PL.28

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺跡	備考
7	矢鏃器	アイワイト	4662	22.32	10.55	13.67		
8	二次加工刃	頁岩	37.96	16.94	10.55	9.03		
9	石核	武蔵岩	5829	28.30	30.73	36.95		
10	石核	黒曜石	3372	35.50	22.69	40.17		
11	石核	安山岩	5293	46.00	18.60	46.17		
12	副片	頁岩	5811	37.41	16.69	21.31		
13	二次加工刃	頁岩	5366	37.43	12.98	29.29		
14	石核	頁岩	6228	34.88	13.80	35.61		
15	副片	頁岩	4650	29.96	11.72	21.29		
16	矢鏃器	黒曜石	3191	17.97	8.26	4.47		
17	石製土製品	チャート	1923	30.10	7.38	6.18		
18	二次加工刃	チャート	5025	37.92	11.59	24.53		
19	黒形石器	琥珀岩	3685	38.34	19.66	39.36		
20	石製土製品	馬場	2215	19.85	10.44	5.21		
25	黒形石器	安山岩	2534	19.9	8.15	5.38		
232	石核	黒曜石	3773	44.71	36.78	73.17		
240	黒形石器	安山岩	2633	21.88	7.96	5.75		
245	ナマリ形石	黒曜石	6627	24.71	10.46	13.91		
257	磁器	頁岩	3508	20.46	9.97	9.61		

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺跡	備考
30	石核	黒曜石	2481	17.56	16.89	6.15	HD	
31	二次加工刃	黒曜石	2883	23.11	11.17	4.84	HD PL28	
22	副片	黒曜石	3455	21.83	10.45	5.21	HD PL28	
23	副片	黒曜石	1557	11.78	2.71	0.51	HD	
24	副片	黒曜石	3703	27.43	9.42	6.69	HD PL28	
25	砕片	黒曜石	2468	21.39	10.40	3.69	HD PL28	
26	二次加工刃	黒曜石	2937	22.16	9.55	3.17	HD PL28	
27	副片	黒曜石	3833	21.63	9.23	6.90	HD PL28	
28	副片	黒曜石	3660	19.44	11.60	7.57	HD	
29	副片	黒曜石	3592	14.26	15.29	7.92	HD	
30	副片	黒曜石	2771	14.43	4.35	1.67	HD PL28	
31	副片	黒曜石	2520	12.15	8.37	2.86	HD	
32	副片	黒曜石	2529	18.83	7.44	3.95	HD PL28	
33	副片	黒曜石	2377	17.70	5.00	1.58	HD PL28	
34	副片	黒曜石	2274	17.54	10.22	3.78	HD PL28	
35	副片	黒曜石	2373	16.36	6.72	1.92	HD PL28	
36	副片	黒曜石	2473	9.77	6.70	2.08	HD	
37	副片	黒曜石	2530	12.39	8.99	3.35	HD	
38	副片	黒曜石	2697	18.58	8.42	3.26	HD	
39	副片	黒曜石	2462	12.48	5.93	1.76	HD	
40	副片	黒曜石	2513	17.87	11.47	3.31	HD	
41	副片	黒曜石	1878	15.95	5.35	1.60	HD	
42	副片	黒曜石	1809	12.94	4.20	0.88	HD	
43	副片	黒曜石	1480	12.55	2.51	0.53	HD	
44	副片	黒曜石	1688	12.54	7.21	1.71	HD	
45	副片	黒曜石	1590	11.73	6.23	1.28	HD	
46	副片	黒曜石	1866	16.15	3.31	1.02	HD	
47	副片	黒曜石	1474	13.92	5.97	0.90	HD	
48	副片	黒曜石	1718	12.81	5.20	0.84	HD	
49	副片	黒曜石	2106	15.20	3.74	0.71	HD	
50	副片	黒曜石	1948	12.40	3.54	0.66	HD	
51	砕片	黒曜石	—	—	—	4.18	HD	13点
52	砕片	黒曜石	—	—	—	0.90	HD	11点
53	砕片	チャート	3498	26.68	27.02	25.26	HD	
54	副片	チャート	1806	11.71	2.17	0.52	HD	
55	副片	チャート	2630	15.26	11.27	4.12	HD	
56	副片	チャート	3933	25.85	5.61	8.41	HD	
57	副片	チャート	2383	12.77	6.52	1.69	HD	
58	砕片	チャート	4.62	4.58	0.71	0.01	HD	
59	副片	チャート	2994	8.28	4.68	1.18	HD	
60	副片	チャート	22.88	13.25	9.23	3.30	HD	
61	副片	チャート	18.19	13.91	2.65	0.39	HD	
62	副片	チャート	50.75	27.45	12.96	16.74	HD	
63	副片	チャート	26.49	15.44	5.38	2.18	HD	
64	副片	チャート	32.94	27.44	6.91	7.96	HD	
65	石製土製品	チャート	35.52	21.11	9.01	7.63	HD	
66	副片	チャート	39.43	29.24	6.65	11.25	HD	
67	副片	チャート	41.54	27.86	14.49	19.67	HD	
68	副片	チャート	38.75	35.09	8.02	4.81	HD	
69	副片	チャート	44.76	19.74	7.43	5.50	HD	
70	副片	チャート	32.08	21.30	11.31	9.30	HD	
71	副片	チャート	28.65	25.69	9.91	6.61	HD	
72	副片	チャート	39.55	28.76	7.92	6.70	HD	
73	副片	チャート	31.92	19.04	12.45	9.99	HD	
74	副片	チャート	25.00	22.04	7.79	3.83	HD	
75	副片	チャート	32.22	17.34	10.04	5.07	HD	
76	副片	チャート	24.01	23.30	8.69	6.11	HD	
77	副片	チャート	28.92	16.62	5.00	2.30	HD	
78	副片	チャート	29.41	20.23	5.56	4.46	HD	
79	副片	チャート	37.08	19.94	6.99	5.07	HD	
80	副片	チャート	24.23	16.17	5.91	2.25	HD	
81	副片	チャート	24.27	15.96	5.15	1.70	HD	
82	副片	チャート	17.60	16.96	2.04	0.48	HD	
83	副片	チャート	26.02	15.92	5.42	1.62	HD	
84	副片	チャート	23.30	17.80	4.96	2.09	HD	
85	副片	チャート	14.68	13.71	2.60	0.66	HD	
86	副片	チャート	20.64	12.76	2.84	0.61	HD	
87	副片	チャート	20.56	18.18	4.03	1.30	HD	
88	副片	チャート	19.77	17.14	3.77	0.71	HD	
89	副片	チャート	16.01	13.99	3.33	0.66	HD	
90	副片	チャート	27.67	8.60	7.09	1.22	HD	
91	副片	チャート	24.10	18.71	7.41	2.47	HD	
92	副片	チャート	20.44	17.13	2.33	0.74	HD	
93	副片	チャート	15.42	12.46	4.38	0.97	HD	
94	副片	チャート	18.16	11.40	4.39	0.99	HD	
95	副片	チャート	15.22	12.12	3.95	0.60	HD	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	質量 (g)	出土遺跡	備考
96	銅片	チャート	20.20	10.16	4.58	105	HD	
97	銅片	チャート	19.78	14.26	6.67	167	HD	
98	銅片	チャート	18.58	11.00	1.93	940	HD	
99	銅片	チャート	15.77	14.32	4.21	987	HD	
100	銅片	チャート	14.22	12.30	4.56	945	HD	
101	銅片	チャート	23.32	8.97	6.11	172	HD	
102	棒片	チャート	—	—	—	2.43	HD	21点
103	銅片	安山岩	43.16	30.51	14.23	1748	HD	PL27
104	銅片	安山岩	49.62	38.62	25.77	3859	HD	
105	石核	安山岩	59.37	32.73	29.31	7646	HD	
106	彫刻石器	安山岩	44.33	24.10	5.09	831	HD	
107	銅片	安山岩	31.27	23.58	5.45	428	HD	
108	銅片	安山岩	38.22	21.81	10.81	1309	HD	
109	銅片	安山岩	42.09	24.87	7.48	637	HD	
110	銅片	安山岩	44.69	19.74	7.05	727	HD	
111	銅片	安山岩	55.89	25.55	17.82	2161	HD	
112	銅片	安山岩	37.34	21.90	4.49	351	HD	
113	銅片	安山岩	31.28	17.30	6.75	336	HD	
114	銅片	安山岩	25.06	23.30	8.91	477	HD	
115	銅片	安山岩	24.33	14.25	5.36	167	HD	
116	銅片	安山岩	22.94	11.48	4.31	114	HD	
117	銅片	安山岩	21.55	13.42	8.09	212	HD	
118	銅片	安山岩	14.66	12.84	2.53	941	HD	
119	銅片	安山岩	13.18	12.16	1.81	643	HD	
120	銅片	安山岩	21.35	12.87	3.64	984	HD	
121	銅片	タラシ	48.89	24.31	6.59	711	HD	
122	銅片	タラシ	17.02	16.27	3.73	103	HD	
123	棒片	頁岩	—	—	—	368	HD	5点
124	棒片	瑪瑙	23.40	17.50	10.07	462	HD	
125	銅片	頁岩	31.28	10.00	4.97	151	HD	
126	銅片	頁岩	33.59	32.50	10.96	785	HD	
127	銅片	頁岩	42.91	31.81	12.58	1392	HD	
128	銅片	頁岩	44.57	28.16	9.24	1240	HD	
129	銅片	頁岩	31.74	25.95	5.56	348	HD	
130	銅片	頁岩	30.16	23.61	4.15	193	HD	
131	銅片	頁岩	39.52	21.41	5.41	303	HD	
132	銅片	頁岩	24.10	18.56	6.40	234	HD	
133	銅片	頁岩	25.46	16.23	6.50	992	HD	
134	銅片	頁岩	27.66	14.72	7.34	297	HD	
135	銅片	玄武岩	43.34	29.86	18.72	1566	HD	
136	ナイフ形石器	玄武岩	38.73	15.62	5.80	339	HD	
137	銅片	玄武岩	39.50	23.78	10.16	828	HD	
138	銅片	玄武岩	25.47	11.56	5.46	112	HD	
139	銅片	玄武岩	29.23	19.12	6.75	254	HD	
140	棒片	石英	29.63	20.41	12.96	985	HD	
141	棒片	石英	33.76	27.15	15.15	1147	HD	
142	棒片	石英	45.91	31.79	7.72	1289	HD	
143	銅片	石英	29.84	28.39	14.07	1573	HD	
144	銅片	ゲイキト	41.26	27.67	7.91	782	HD	
145	銅片	ゲイキト	57.27	44.54	11.46	2904	HD	
146	銅片	ゲイキト	62.39	44.08	8.16	2871	HD	
147	銅片	ゲイキト	24.33	11.64	7.95	229	HD	
148	石核	瑪瑙	55.56	46.22	23.67	6601	S12	
149	銅片	燧石	40.46	20.33	6.21	369	S12	
151	銅片	頁岩	36.19	19.23	4.75	2	S12	
152	銅片	チャート	31.1	26.37	11.97	1016	S12	
153	銅片	燧石	23.75	18.27	10.48	414	S12	
154	銅片	チャート	24.76	16.25	6.3	206	S12	
155	石核	チャート	18.89	10.25	4.71	672	S13	
156	石核	チャート	25.68	12.5	7.82	236	S13	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	質量 (g)	出土遺跡	備考
157	銅片	安山岩	35.04	16.17	5.93	343	S13	
158	銅片	安山岩	25.18	16.01	8.16	243	S13	
159	銅片	瑪瑙	18.24	15.19	5.47	188	S15	
160	銅片	燧石	20.08	19.37	6.15	173	S16	
161	銅片	チャート	42.76	27.28	5.56	102	S17	
162	銅片	チャート	19.08	10.66	7.24	115	S17	
163	銅片	チャート	18.4	15.45	6	151	SK-20	
164	銅片	チャート	21.42	8.62	4.79	971	SK-20	
165	棒片	チャート	10.23	9.37	5.37	0.3	SK-20	
166	棒片	チャート	11.95	6.98	1.07	0.13	SK-20	
167	銅片	安山岩	15.68	14.04	4.27	687	SK21	
168	銅片	安山岩	15.23	11.88	4.15	969	SK21	
169	銅片	チャート	16.89	12.87	3.37	984	SK21	
170	銅片	チャート	19.23	11.79	2.84	968	SK21	
171	銅片	チャート	14.49	8.6	3.52	0.34	SK21	
172	銅片	チャート	15	9.19	3.11	0.41	SK21	
173	銅片	チャート	12.78	10.34	1.63	0.23	SK21	
174	銅片	チャート	14.32	10.44	4.44	0.55	SK25	
175	棒片	チャート	7.84	4.96	1.2	0.68	SK26	
176	銅片	チャート	16.73	10.33	2.97	963	SK30	
177	銅片	安山岩	27.3	12.03	6.06	186	SK31	
178	銅片	チャート	29.26	26.64	6.4	364	SK34	
179	銅片	チャート	32.61	29.39	11.22	877	SK36	
180	銅片	燧石	24.29	12.37	3.07	932	SK36	
181	銅片	チャート	17.32	13.27	3.25	0.44	SK40	
182	銅片	チャート	17.34	17.22	6.15	1.3	SK41	
183	銅片	チャート	14.3	13.38	2.83	0.56	SK41	
184	銅片	燧石	17.44	10.61	2.57	0.44	SK41	
185	銅片	玄武岩	19.16	8.85	1.91	0.28	SK44	
186	銅片	玄武岩	12.98	9.45	2.45	0.3	SK44	
187	銅片	チャート	12.9	8.98	2.39	0.24	SK46	
188	銅片	玄武岩	47.26	32.16	20.56	2168	SK61 PL27	
189	銅片	チャート	18.93	13.23	6.08	1.61	SK64	
190	銅片	チャート	17.29	16.36	6.12	1.99	SK66	
191	銅片	玄武岩	24.22	9.33	3.33	1.02	SK71	
192	銅片	燧石	18.73	12.84	2.58	966	SK73	
193	石核	燧石	19.33	9.25	3.74	0.51	SK73	
194	銅片	チャート	16.45	11.83	3.35	0.83	SK73	
195	棒片	燧石	7.9	7.08	1.4	0.06	SK73	
196	銅片	チャート	13.03	6.29	3.12	0.21	SK73	
197	銅片	チャート	8.52	7.54	2.52	0.2	SK73	
198	銅片	チャート	15.21	10.18	2.38	0.34	SK73	
199	銅片	チャート	31.96	19.56	13.46	9.5	SK94	
200	銅片	燧石	26.28	19.71	14.94	8.6	SK99	
201	銅片	安山岩	33.32	29.51	10.58	935	SK113	
202	銅片	チャート	16.07	7.99	3.65	0.51	SK114	
203	銅片	燧石	16.39	12.97	3.94	0.75	SK127	
204	銅片	安山岩	51.53	15.49	14.42	1154	SK130	
205	銅片	チャート	25.49	17.91	3.78	1.16	SK138	
206	銅片	チャート	45.07	23.47	8.16	6.66	SK138	
207	銅片	安山岩	21.97	10.34	3.32	0.8	SK139	
208	銅片	安山岩	29.59	19.16	7.06	3.37	SK139	
209	銅片	燧石	51.47	27.43	18.48	15.9	SK139 PL27	
210	銅片	安山岩	36.16	15.08	3.69	3.07	SK139	
211	銅片	燧石	18.43	18.14	3.14	0.94	SK139	
212	銅片	燧石	16.7	13.09	3.14	0.69	SK139	
213	銅片	チャート	13.24	10.81	4.12	0.66	SK139	
214	銅片	チャート	28.7	21.41	3.65	1.58	SK139	
215	銅片	チャート	17.06	16.86	2.07	0.76	SK139	
216	銅片	チャート	21.72	17.3	6.9	1.98	SK139	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺構	備考
217	瀬片	チャート	1176	8.85	2.58	0.24	SK139	
218	瀬片	安山岩	2433	18.12	13.16	5.22	SK142	
219	瀬片	チャート	1955	16.94	4.07	1.4	SK147	
220	瀬片	黒曜石	2112	12.94	5.03	1.55	SK130	
221	瀬片	安山岩	2534	9.23	3.42	0.84	SK132	
222	瀬片	チャート	3046	15.19	5.36	2.25	SK162	
223	瀬片	チャート	293	26.04	9.88	7.09	SK166	PL27
224	瀬片	安山岩	2055	13.99	5.98	1.44	SK176	
226	瀬片	黒曜石	3523	22.4	8.82	6.91	SK187	
227	瀬片	安山岩	2053	14.1	3.32	0.8	SK187	
228	瀬片	安山岩	2746	19.04	6.45	4.62	SK194	
229	瀬片	チャート	5528	25.81	18.07	19.09	SK195	
230	瀬片	チャート	2619	24.9	6.02	4.98	SK195	
231	瀬片	チャート	1248	12.88	5.42	1.12	SK195	
233	瀬片	黒曜石	3389	10.91	6.59	4.02	SK221	
234	瀬片	黒曜石	2783	16.41	14.98	6.01	SK221	
235	瀬片	チャート	4984	16.69	6.31	3.44	SK247	
236	瀬片	チャート	1899	7.8	7.51	1.17	SK247	
237	瀬片	チャート	2007	11.76	9.81	2.7	SK247	
238	瀬片	安山岩	1743	10.34	3.43	0.56	SK247	
239	瀬片	安山岩	1549	13.88	3.11	0.68	SK247	
241	瀬片	チャート	3245	29.54	19.71	18.29	SK256	
242	瀬片	安山岩	4645	38.64	38.43	43.8	SK257	
243	瀬片	チャート	2149	19.43	9.02	3.25	SK257	
244	瀬片	チャート	1746	14.74	4.36	0.99	SK257	
246	瀬片	黒曜石	1229	10.68	5.85	0.48	SK292	
247	瀬片	安山岩	2192	15.41	4.11	1.17	SK298	
248	瀬片	黒曜石	5164	29.82	7.58	13.1	SK304	PL28
249	瀬片	チャート	1787	14.81	7.57	0.93	SK306	
250	瀬片	チャート	1667	12.3	2.52	0.47	SK306	
251	瀬片	黒曜石	1432	10.53	1.65	0.21	SK306	
252	瀬片	チャート	2992	13.55	7.66	2.46	SK306	
253	瀬片	チャート	2133	12.44	3.75	0.63	SK306	
254	瀬片	流紋岩	2354	22.39	5.88	3.17	SD1	
255	瀬片	ダイサイト	20	14.54	5.69	1.57	SD1	
256	ナイフ型石	ダイサイト	6483	19.69	8.63	6.89	PG1	
258	瀬片	チャート	23.8	18.21	6.16	1.83	PG 2	
259	瀬片	チャート	1846	17.88	3.19	1.15	TM3	主塚域
260	瀬片	チャート	2671	22.13	18.04	9.53	TM3	主塚域
261	瀬片	チャート	2982	21.77	7.06	2.98	TM3	主塚域

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺構	備考
262	瀬片	黒曜石	1887	17.06	4.44	1.38	TM3	主塚域
263	瀬片	チャート	1831	14.54	12.23	4.09	TM3	主塚域
264	瀬片	チャート	2857	12.34	4.38	1.27	TM3	主塚域
265	砕片	黒曜石	3.26	1.61	0.29	0.01	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
266	瀬片	チャート	3443	23.41	9.76	7.42	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
267	瀬片	黒曜石	2498	8.68	1.99	0.42	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
268	瀬片	安山岩	2472	19.43	6.35	2.48	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
269	瀬片	黒曜石	2385	15.10	6.37	1.81	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
270	砕片	チャート	11.03	9.53	2.58	0.26	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
271	瀬片	チャート	2626	20.37	2.62	1.73	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
272	瀬片	安山岩	3375	26.28	4.75	3.77	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
273	砕片	チャート	5.72	4.24	0.53	0.01	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
274	瀬片	黒曜石	2495	19.30	5.38	2.27	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
275	瀬片	チャート	3607	20.42	16.33	8.80	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
276	瀬片	チャート	3532	29.54	7.72	8.11	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
277	瀬片	安山岩	2907	17.88	5.88	3.41	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
278	瀬片	黒曜石	1948	14.90	4.05	1.04	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
279	瀬片	黒曜石	2013	12.53	4.42	0.93	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
280	瀬片	チャート	3218	12.73	4.55	1.82	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
281	瀬片	チャート	1954	12.72	6.70	1.61	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
282	瀬片	ホルワックス	2315	16.86	6.12	1.98	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
283	瀬片	黒曜石	3460	22.05	5.86	4.49	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
284	瀬片	チャート	1829	10.71	3.03	0.57	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
285	瀬片	黒曜石	2912	19.11	8.11	3.97	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
286	瀬片	黒曜石	1732	12.09	2.01	0.38	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
287	瀬片	黒曜石	1827	10.34	5.54	0.84	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
288	瀬片	安山岩	2666	20.07	7.61	5.10	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
289	瀬片	チャート	4717	15.49	9.23	6.25	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
290	瀬片	頁岩	5281	21.79	5.81	8.38	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
291	瀬片	チャート	4054	25.60	13.16	16.00	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
292	瀬片	安山岩	5796	39.21	19.47	33.92	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
293	瀬片	流紋岩	4741	30.76	13.53	13.08	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
294	瀬片	黒曜石	2198	16.30	7.84	2.36	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
295	瀬片	黒曜石	3700	31.66	15.88	17.30	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
296	瀬片	黒曜石	37.01	15.18	9.09	4.68	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
297	瀬片	黒曜石	2331	14.96	5.38	1.46	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
298	瀬片	チャート	3368	28.60	10.42	8.32	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
299	瀬片	チャート	3810	34.10	7.43	9.60	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
300	石核	黒曜石	3474	27.69	18.83	20.62	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ
301	瀬片	安山岩	5742	47.42	12.18	29.91	TM3	主塚域 Ⅰ区Ⅴ

## 2 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑 184 基を確認した。出土遺物を図示した土坑を中心に、遺構及び遺物について記述する。出土遺物が小片で図示できなかった土坑については、平面図及び一覧表で掲載する。

### 土坑

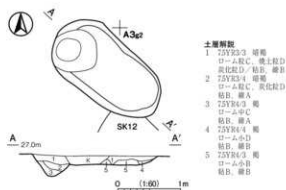
#### 第3号土坑（第32図 第24表 PL30）

**位置** 調査区北部のA 3g1区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第12号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.96m、短径1.00mの楕円形で、長径方向はN-52°-Wである。深さ14~41cmで壁は外傾し、底面は平坦で、北西部がくぼんでいる。

**覆土** 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。



第33図 第3号土坑・出土遺物実測図

第24表 第3号土坑出土遺物一覧

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	長石・石英	10YR4-2 灰黄褐色	普通	磨り赤文 1段の施文	覆土中	見島 PL30

**遺物出土状況** 縄文土器片3点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期前葉と推定される。



第11号土坑 (第34図 第25表 PL35)

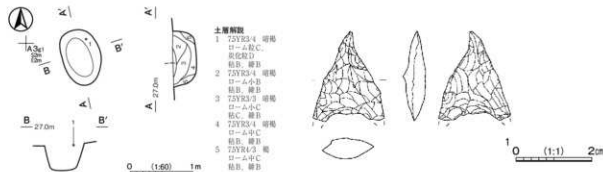
**位置** 調査区北部のA3g1区、標高27mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径0.90m、短径0.62mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。深さ40cmで壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

**覆土** 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片4点(深鉢)、石器2点(石鏃・磨石)が出土している。1は覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代と推定される。



第34図 第11号土坑・出土遺物実測図

第25表 第11号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石鏃	2.4	1.9	0.6	1.39	流紋岩	円形無葉縁 両面押付溝磨	覆土上層	PL35

第33号土坑 (第35図 第26表 PL29)

**位置** 調査区北部のA2f0区、標高27mほどの台地縁辺部に位置している。

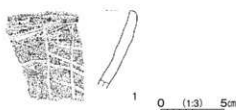
**重複関係** 第24号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部が攪乱を受けているため、長径0.70m、短径0.68mしか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向はN-48°-Eと推定される。深さ12cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 5層に分層できる。焼土が混入していることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片4点(深鉢)、土製品1点(不明)が出土している。1は覆土上層から出土している。

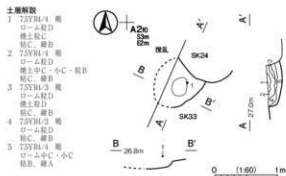
**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期中葉と推定される。



第35図 第33号土坑・出土遺物実測図

第26表 第33号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(62)	—	粘土・石英	5YR5/4 に近い程度	普通	平行波線文	甕土層	田口下層 PL29



第34号土坑 (第36図・第27表 PL30)

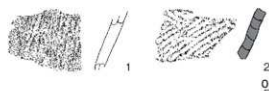
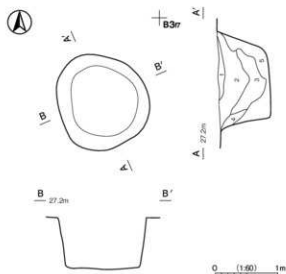
**位置** 調査区東部のB36区、標高27mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径1.54m、短径1.40mの楕円形で、長径方向はN-24°-Wである。深さ83cmで壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

**覆土** 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片22点(深鉢)が出土している。2は混入したものと考えられる。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第36図 第34号土坑・出土遺物実測図

第27表 第34号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(48)	—	粘土・石英・雲母	5YR5/4 に近い程度	普通	波線文	甕土中	甕之内
2	縄文土器	深鉢	—	(40)	—	粘土・石英・雲母	7.5YR5/4 に近い程度	普通	羽状線文	甕土中	石部 PL30

第35号土坑 (第37図 第28表)

**位置** 調査区東部のB35区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第36号土坑を掘り込んでいる。

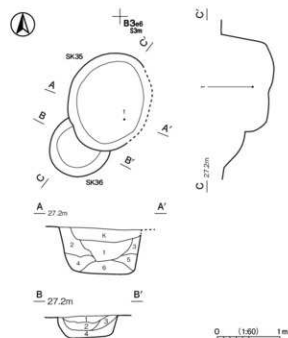
**規模と形状** 長径1.61m、短径1.28mの楕円形で、長径方向はN-11°-Eである。深さ80cmで壁はほぼ直立し、底面は凹凸状である。

**覆土** 6層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	10YR2/2	深鉢	—	—	—	ローム小C・粘B、粘B					
2	10YR2/3	深鉢	—	—	—	ローム小B、炭化粒C/粘B、粘B					
3	10YR2/3	深鉢	—	—	—	ローム中C・小B/粘B、粘B					
4	10YR2/3	深鉢	—	—	—	ローム中C・粘B、粘B					
5	10YR3/3	深鉢	—	—	—	ローム中B、粘B、粘B					

**遺物出土状況** 縄文土器片 29 点（深鉢）が出土している。1 は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代と推定される。



**SK35 土層解説**

- 1 5YR2/3 黒地 ローム粒B, 炭化粒D/粘B, 礫B
- 2 5YR3/4 暗地 ローム中C/粘B, 礫B
- 3 5YR2/4 暗地 ローム小B/粘B, 礫B
- 4 5YR3/2 暗地 ローム小C, 炭化粒D/粘B, 礫B
- 5 5YR2/2 黒地 ローム小C, 炭化粒D/粘B, 礫B
- 6 5YR3/3 暗地 ローム小C, 炭化粒D/粘B, 礫B

**SK36 土層解説**

- 1 5YR2/3 暗地 ローム小C, 炭化粒D/粘B, 礫B
- 2 5YR3/4 暗地 ローム小C/粘B, 礫B
- 3 5YR4/4 暗地 ローム小B/粘B, 礫B
- 4 5YR4/4 暗地 ローム中C/粘B, 礫B



第 37 図 第 35・36 号土坑・出土遺物実測図

第 28 表 第 35 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.0)	6.4	黒石・石灰・雲母	5YR6/6 暗	普通	炭質	無文	覆土中層

第 29 表 第 36 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	黒緑・黒石・石灰	5YR5/4 におい赤黒	普通	炭質	無文	覆土中 小山平層 PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	黒緑・黒石・石灰	5YR4/6 赤黒	普通	炭質	無文	覆土中 小山平層 PL30

**第 38 号土坑**（第 38 図 第 30 表 PL30）

**位置** 調査区東部の B 3e4 区、標高 27 m ほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 39・55 号土坑を掘り込んでいる。

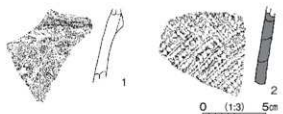
**規模と形状** 長径 1.28 m、短径 0.80 m の楕円形で、長径方向は N - 27° - E である。深さ 12 cm で壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 4 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片 7 点（深鉢）が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



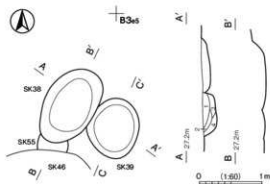


SK38 土層解説  
 1 10YR2.3 黒褐色 ローム小粒、炭化殻C/粘土、礫土  
 2 10YR2.3 黒褐色 ローム小粒、炭化殻C/粘土、礫土  
 3 10YR3.2 黒褐色 ローム小粒、炭化殻D/粘土、礫土  
 4 10YR3.3 暗褐色 ローム小粒/粘土、礫土

第38図 第38号土坑・出土遺物実測図

第30表 第38号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(58)	—	長石・石英	7.5YR7/4	Li・Ai・Fe	普通 幾何文 隆帯	覆土中	表層直下 PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(62)	—	長石・石英・ 礫土	7.5YR5/6	明焼	普通 羽状縄文	覆土中	表層直下 PL30



第45号土坑 (第39図 第31表 PL30)

**位置** 調査区東部のB3e4区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第46号土坑を掘り込んでいる。

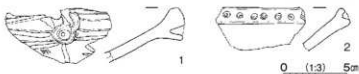
**規模と形状** 長径0.99m、短径0.95mの円形である。深さ56cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片15点(深鉢)が出土している。1は、覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

SK45 土層解説  
 1 10YR3.2 黒褐色 ローム小粒、炭化殻D/粘土、礫土  
 2 10YR3.2 黒褐色 ローム小粒/粘土、礫土  
 3 10YR3.2 黒褐色 ローム中粒・小粒/粘土、礫土  
 4 10YR3.3 暗褐色 ローム中粒・粘土、礫土  
 5 10YR3.3 暗褐色 ローム中粒/粘土、礫土



第39図 第45号土坑・出土遺物実測図

第31表 第45号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(43)	—	長石・石英	7.5YR7/6	暗	普通 Li線部円環状突起 沈線文 爪形文	覆土上層	表層直下 PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(34)	—	長石・石英	7.5YR5/4	Li・Ai・Fe	普通 Li線部円形刺状文	覆土中	表層直下 PL30

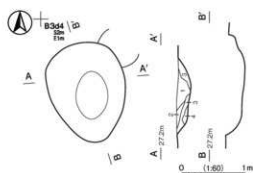
第61号土坑 (第40図 第32表 PL30)

**位置** 調査区東部のB3d4区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第102号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.62m、短径1.22mの楕円形で、長径方向はN-15°-Wである。深さ24cmで壁は外傾し、底面はやや凹凸がある。

**覆土** 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。



第40図 第61号土坑・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片8点(深鉢)、石器1点(石核)が出土している。1は覆土中から出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



- 土器解説**
- 1 10YR4/4 褐色 ローム粒C/粘B、線B
  - 2 10YR3/4 暗褐色 ローム粒C/粘C、線A
  - 3 10YR4/4 褐色 ローム小粒/粘B、線A
  - 4 10YR3/3 暗褐色 ローム小粒、黒色粒子粒D/粘C、線A

第32表 第61号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.6)	—	長石・石英・雲母	5YR2/1 黒 5YR3/4 暗褐色	普通	浅彫文	覆土中	縄文内 PL30

### 第66号土坑 (第41図 第33表 PL30・35)

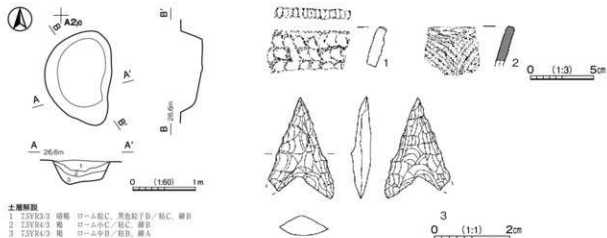
**位置** 調査区北部のA2j0区、標高27mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径1.48m、短径1.04mの楕円形で、長径方向はN-7°-Wである。深さ32cmで壁は外傾し、底面は南西側へ傾斜している。

**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片16点(深鉢)、石器1点(石鏃)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。



- 土器解説**
- 1 2.5YR3/3 暗褐色 ローム粒C、黒色粒子B/粘C、線B
  - 2 2.5YR4/3 暗褐色 ローム小粒C/粘C、線B
  - 3 2.5YR4/3 暗褐色 ローム中粒/粘B、線A

第41図 第66号土坑・出土遺物実測図

第33表 第66号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	長石・石英	7.5YR6/6 橙	普通	1) 野郎キヤミ目 半截竹炭文	覆土中	浮高5 PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	凝結・長石・石英	5YR5/6 明赤黄	普通	籠空の33深文	覆土中	浮高10 PL30
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
3	石鏃	2.7	1.7	0.5	1.80	チャート	四角形基鏃	覆土中	PL35		

### 第73号土坑 (第42図 第34表 PL30)

**位置** 調査区東部のB3c5区、標高27mほどの台地上に位置している。

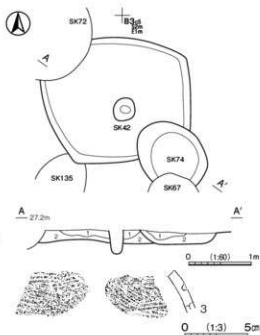
**重複関係** 第42・72・74号土坑に掘り込まれ、第135号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸 2.36 m、短軸 1.94 m の長方形で、主軸方向は N-88°-E である。深さ 22 cm で壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 2層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片 57 点（深鉢）、石器 3 点（石皿・磨石）が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。



**土層解説**  
1 2Y1R3-3 黄 ローム小C、炭化灰D/粘土、礫B  
2 2Y1R3-3 黄 ローム中C、小石/粘土、礫B



第 42 図 第 73 号土坑・出土遺物実測図

第 34 表 第 73 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(48)	—	織物・粘土・石莖	7.5Y7.5/4 に近い黄	普通	沈殿文 内面野杓		覆土中	字山下層 13.3m
2	縄文土器	深鉢	—	(43)	—	粘土・石莖	7.5Y7.5/4 に近い黄	普通	外面目条状文 内面条状文		覆土中	字山下層 13.3m
3	縄文土器	深鉢	—	(33)	—	粘土・石莖	5Y7.5/6 橙	普通	表面条状文		覆土中	字山下層 13.3m

第 78 号土坑（第 43 図 第 35 表 PL31）

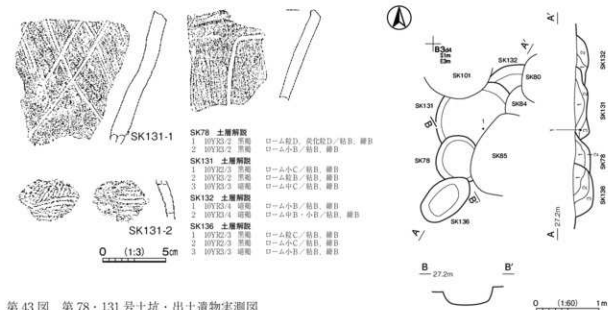
**位置** 調査区東部の B 3d4 区、標高 27 m ほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 131 号土坑を掘り込み、第 85・136 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 0.84 m、短径 0.68 m の楕円形で、長径方向は N-25°-W である。深さ 26 cm で壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 2層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片 14 点（深鉢）、石器 1 点（剥片）が出土している。剥片は、旧石器時代のもので混



第 43 図 第 78・131 号土坑・出土遺物実測図

入と考えられる。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

#### 第131号土坑 (第43図 第36表 PL32)

位置 調査区のB3d4区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第132号土坑を掘り込み、第78・85・101号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.32m、短径0.86mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。深さ20cmで壁は外傾し、底面はやや凹凸がある。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。1は、覆土中層から出土し、第194号土坑出土遺物の1と接合した。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。2は混入したものと考えられる。

#### 第35表 第78号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 に近い橙	普通	沈殿文	覆土中	地名寺 PL31

#### 第36表 第131号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/3 に近い橙	普通	格子目状沈殿文	覆土中層	層之内 PL32
2	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	長石・石英・雲母	5YR6/4 に近い橙	普通	外面沈殿文 内面条紋文	覆土中	手山下層 PL32

#### 第85号土坑 (第44・45図 第37表 PL4・29～31)

位置 調査区東部のB3d5区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第78・84・131号土坑を掘り込んでいる。

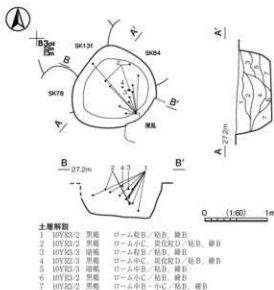
規模と形状 長径1.38m、短径0.82mの楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さ66cmで壁はほぼ直立し、底面は平坦である。

覆土 7層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることや遺物の出土状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片71点(深鉢)が出土している。

1は、覆土上層から下層にかけ出土し、破片が接合したものである。4は、遺構の切り合いがあることから混入したものと考えられる。

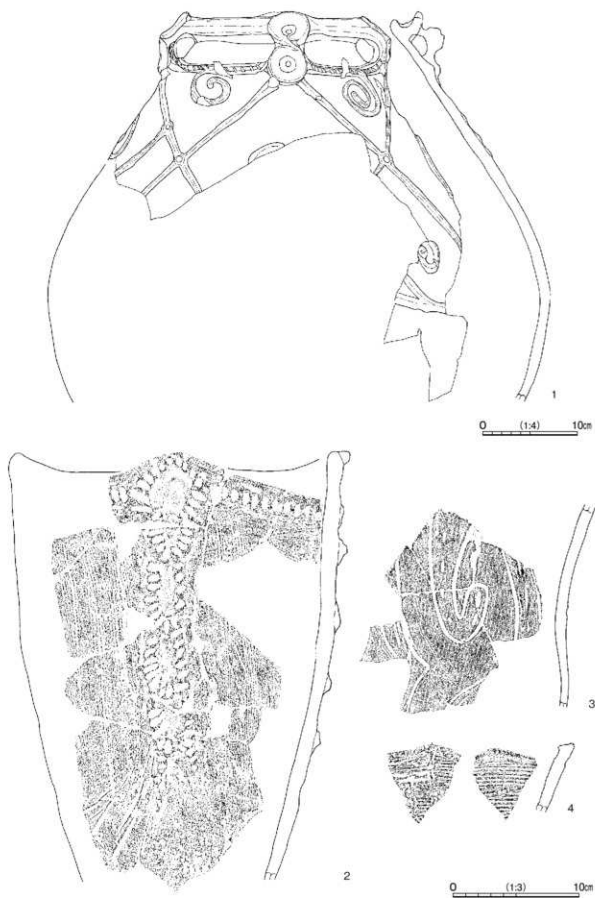
所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



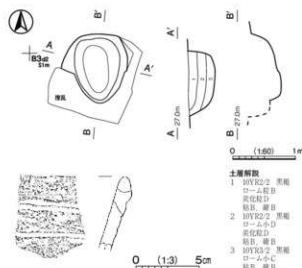
第44図 第85号土坑実測図

#### 第37表 第85号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	18.6	(41.5)	—	長石・石英・単色粘土	10YR6/4 に近い黄橙	普通	1は細部まで格子目・渦巻文 5層まで1文字に区画	覆土中層	調査 PL29
2	縄文土器	深鉢	(25.4)	(34.0)	—	長石・石英・雲母	10YR6/4 に近い黄橙	普通	隆帯にキザミ目 沈殿文	覆土中層	調査 PL31
3	縄文土器	深鉢	—	(16.1)	—	長石・石英	7.5YR6/4 に近い橙	普通	シの字文内に刺状文	覆土上層	地名寺 PL31
4	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	7.5YR7/6 橙	普通	表面条紋文 刺状文	覆土上層	手山下層 PL30



第 45 図 第 85 号土坑出土遺物実測図



第46図 第96号土坑・出土遺物実測図

第38表 第96号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(59)	—	灰石・石英・雲母	7.5YR7/4 に近い橙	普通	沈澱文 刺突列点文	覆土中	称番号 PL35

### 第96号土坑 (第46図 第38表 PL31)

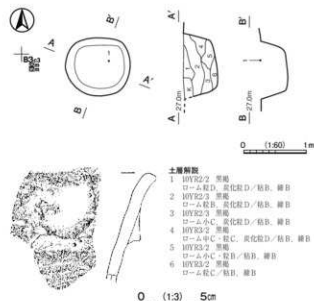
**位置** 調査区東部のB3d2区、標高27mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径130m、短径105mの楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。深さ32cmで壁は外傾し、底面は皿状である。

**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片12点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第47図 第99号土坑・出土遺物実測図

第39表 第99号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(66)	—	灰石・石英・雲母	7.5YR7/3 に近い橙	普通	1線刻線帯 沈澱文	覆土上層	称番号 PL36

### 第99号土坑 (第47図 第39表 PL30)

**位置** 調査区東部のB3c3区、標高26mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径103m、短径100mの円形である。深さ40cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 6層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片11点(深鉢)、石器1点(剥片)が出土している。1は、覆土上層から出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。

### 第112号土坑 (第48図)

**位置** 調査区東部のB3f1区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第150号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.18m、短径0.86mの楕円形である。深さ70cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 6層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

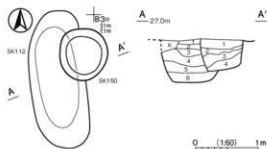
**遺物出土状況** 縄文土器片8点(深鉢)が出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期、規模や形状から陥し穴と考えられる。

SK112 土層解説			
1	75YR3-2 礫層	ロ-ム小C/粘C、礫B	
2	75YR3-2 礫層	ロ-ム小C/粘C、炭化灰D/粘C、礫B	
3	75YR3-3 礫層	ロ-ム小C/粘B、礫A	
4	75YR3-4 礫層	ロ-ム中B/粘B、礫B	
5	75YR4-3 礫	ロ-ム中C/粘B、礫B	
6	75YR4-4 礫	ロ-ム中C/粘B、礫B	

SK150 土層解説			
1	10YR2-2 礫層	ロ-ム小C/粘B、礫B	
2	10YR2-2 礫層	ロ-ム小C/粘B、礫B	
3	10YR3-3 礫層	ロ-ム中C/小C/粘B、礫B	
4	10YR3-4 礫層	ロ-ム中C/小B/粘B、礫B	



第48図 第112・150号土坑実測図

#### 第150号土坑 (第48・49図 第40表 PL33)

位置 調査区東部のB3f1区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第112号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.82m、短径0.75mの円形である。深さ50cmで壁は直立し、底面は平坦である。

覆土 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片36点(深鉢)、石器1点(剥片)が出土している。3と4、石器は混入と考えられる。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。



第49図 第150号土坑出土遺物実測図

第40表 第150号土坑出土遺物一覧

番号	種別	図様	口径	底径	底厚	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	(32)	—	長石・石英・雲母	75YR6/4	1:45~型	普通	口縁部平行沈線文 波状沈線文	覆土中	浮島 PL33
2	縄文土器	深鉢	—	(27)	—	長石・石英	5YR5/2	6~型	普通	貝殻散在文	覆土中	浮島 PL33
3	縄文土器	深鉢	—	(41)	—	長石・石英	5YR6/4	1:45~型	普通	口縁部平煎 口縁部竹筴形刺突文	覆土中	高松下層 PL33
4	縄文土器	深鉢	—	(50)	—	繊維・長石・石英	75YR5/4	1:45~型	普通	表面散在文	覆土中	高松下層 PL33

#### 第113号土坑 (第50図 第41表 PL31)

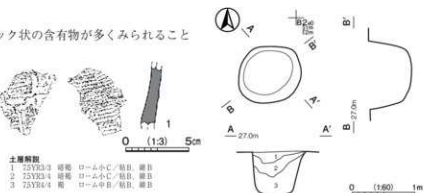
位置 調査区中央部のB2e0区、標高26mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.07m、短径0.94mの楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。深さ66cmで壁はほぼ直立し、底面は皿状である。

覆土 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)、石器1点(剥片)が出土している。

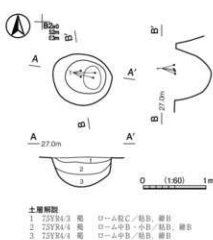
所見 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉と推定される。



第50図 第113号土坑・出土遺物実測図

第41表 第113号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(53)	—	織織・長石・石英	75YR5/6 橙	普通	表面赤褐色 隆帯で区画し内に刺突文	覆土中	平山下層 PL32



第119号土坑 (第51図 第42表 PL32)

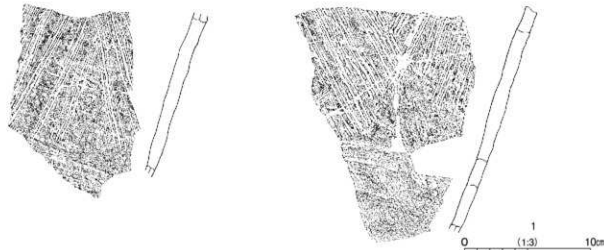
**位置** 調査区中央部のB 2e0区、標高26mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径0.95m、短径0.82mの楕円形で、長径方向はN-64°-Wである。深さ58cmで壁は外傾し、底面はU字状である。

**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。1は、覆土上層から出土している。

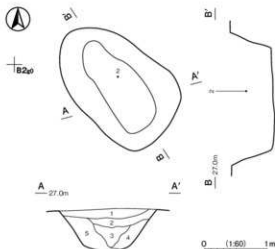
**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期中葉と推定される。



第51図 第119号土坑・出土遺物実測図

第42表 第119号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(130)	—	長石・石英	5YR5/4 濃い赤褐	普通	胴部上段刺突文 胴部下段無文	覆土上層	平山下層 PL32



第52図 第126号土坑実測図

第126号土坑 (第52・53図 第43表 PL31・32)

**位置** 調査区中央部のB 2g0区、標高27mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径2.18m、短径1.34mの楕円形で、長径方向はN-32°-Wである。深さ66cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1	75YR5/2 黒褐	ローム粒C、炭化灰D / 粘土、腐土
2	75YR5/3 暗褐	ローム中C / 粘土、腐土
3	75YR5/3 暗褐	ローム中C / 小石 / 粘土、腐土
4	75YR4/3 腐	ローム中D / 小石 / 粘土、腐土
5	75YR4/4 腐	ローム中B / 粘土、腐土



**遺物出土状況** 縄文土器片 14 点（深鉢）が出土している。2 は、覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉と推定される。



第 53 図 第 126 号土坑出土遺物実測図

第 43 表 第 126 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	繊維・長石・石英・雲母	2.5YR5/4 に近い赤褐色	普通	肌成状文	覆土中	深鉢 PL31
2	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	繊維・長石・石英・雲母	5.YR6/4 に近い橙	普通	表面条痕文	覆土中層	基山下層 PL31
3	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	繊維・長石・石英・雲母	7.5YR6/3 に近い黄	普通	平織竹管文を沈澱でつぎ内に刺突文	覆土中	基山下層 PL32

第 127 号土坑（第 54 図 第 44 表 PL32）

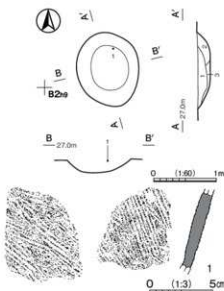
**位置** 調査区中央部の B 2 g9 区、標高 27 m ほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径 1.20 m、短径 0.98 m の楕円形で、長径方向は N-13°-W である。深さ 20 cm で壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 3 層に分層できる。堆積状況から、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片 2 点（深鉢）、石器 1 点（剥片）が出土している。1 は、覆土上層から出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉と推定される。



第 54 図 第 127 号土坑・出土遺物実測図

土層別記

1. 7.5YR4/3 黄 ローA小C・粗A、粗B

2. 7.5YR4/4 黄 ローA中C・粗A、粗B

3. 7.5YR4/4 黄 ローA小C・粗C・粗A、粗A

第 44 表 第 127 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	繊維・長石・石英・雲母	2.5YR6/6 橙	普通	表面条痕文	覆土上層	基山下層 PL32

第 130 号土坑（第 55 図 第 45 表 PL31～33）

**位置** 調査区中央部の B 2 h8 区、標高 27 m ほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径 2.21 m、短径 1.02 m の楕円形で、長径方向は N-41°-E である。深さ 115 cm で壁は直立し、底面は平坦である。

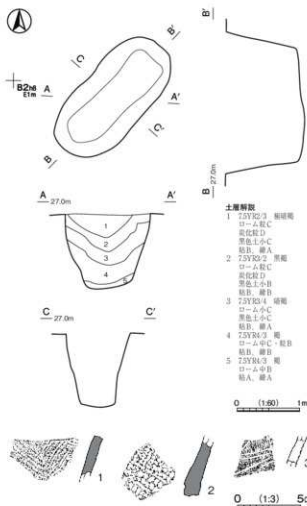
**覆土** 5 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片 49 点（深鉢）、石器 2 点（剥片、磨石）が出土している。1 と 3、剥片は混入と考えられる。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉、規模や形状から陥し穴と推定される。

第 45 表 第 130 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	繊維・長石・石英	5.YR4/3 に近い赤褐色	普通	縦紋の羽状縄文 沈澱文	覆土中	深鉢 PL31
2	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	繊維・長石・石英	7.5YR5/3 に近い黄	普通	羽状縄文 結状第一種縄文	覆土中	基山下層 PL32
3	縄文土器	深鉢	—	(1.9)	—	長石・石英・砂	7.5YR7/4 に近い黄	普通	平織竹管による沈澱文	覆土中	基山下層 PL33



第55図 第130号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 8層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片 141点(深鉢)、石器8点(剥片)が出土している4~6は覆土上層から出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉、規模や形状から陥し穴と推定される。

### 第138号土坑 (第56図 第46表 PL33)

**位置** 調査区東部のB3b3区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第139号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.42m、短径1.03mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。壁は高さ38cmで外傾し、底面は皿状である。

**覆土** 2層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片14点(深鉢)、石器2点(剥片)が出土している。1~3は、覆土中層から出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

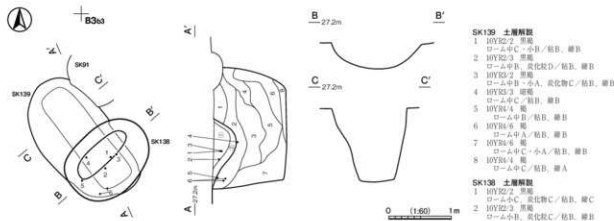
**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉、規模や形状から陥し穴と推定される。

### 第139号土坑 (第56・57図 第47表)

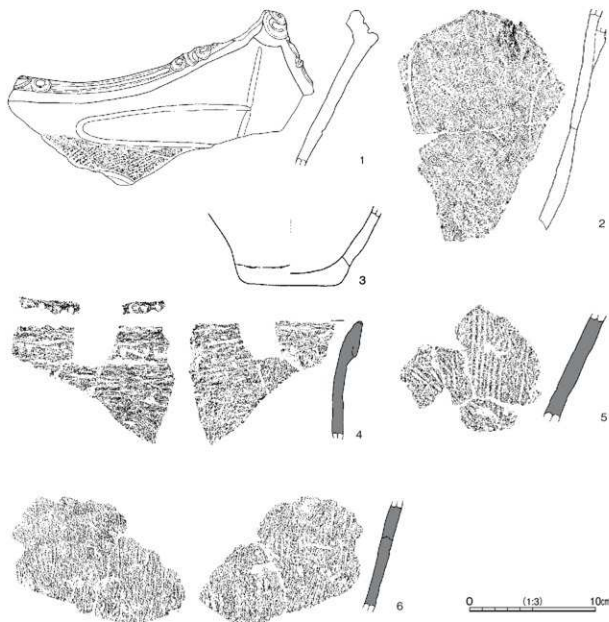
**位置** 調査区東部のB3b2区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第91・138号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.16m、短径1.16mの隅丸方形で、長径方向はN-42°-Wである。深さ116cmで壁は外傾し、底面は平坦である。



第56図 第138・139号土坑実測図



第57図 第138・139号土坑出土遺物実測図

第46表 第138号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(12.4)	—	長石・石英・緑礫	7.5YR5/4 に近い暗	普通	口縁部内環状突起 沈線文	覆土中層	堀之内 内3
2	縄文土器	深鉢	—	(17.5)	—	長石・石英・針状鉱物	5.YR7/4 に近い暗	普通	隆帯に刺突文 沈線文	覆土中層	堀之内
3	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	長石・石英・針状鉱物	7.5YR7/4 に近い暗	普通	丸平底 無文	覆土中層	堀之内4

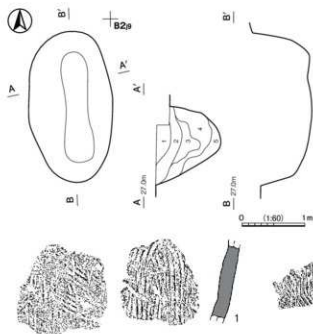
第47表 第139号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	—	(19.3)	—	緑礫・長石・石英	5.YR6/6 暗	普通	口縁部キザミ目 隆帯にキザミ目 内面朱文	覆土上層	茅山7層
5	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	緑礫・長石・石英・雲母	7.5YR5/6 明暗	普通	表面朱文	覆土上層	茅山7層
6	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	緑礫・長石・石英	2.5YR5/6 明赤暗	普通	表面朱文	覆土上層	茅山7層

## 第142号土坑 (第58図 第47表 PL32)

位置 調査区中央部のB28区、標高27mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径242m、短径128mの楕円形で、長径方向はN-6°-Wである。深さ92cmで壁は外傾し、底面はU字状である。



第58図 第142号土坑・出土遺物実測図

第48表 第142号土坑出土遺物一覧

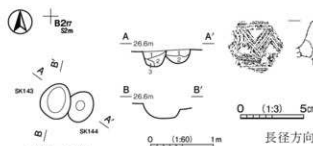
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	繊維・長石・石英	25YR6/6	橙	普通	表面染褐色	墓土中	芋山下層 PL32
2	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	繊維・長石・石英	5YR6/4	にぶい橙	普通	表面染褐色	墓土中	芋山下層 PL32

**覆土** 5層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉、規模や形状から陥し穴と推定される。

- 土層解説**
- 1 3YR2/1 黄 ローム小C/粘B、礫A
  - 2 3YR3/1 黄褐色 ローム小C・粒C、炭化灰D/粘B、礫B
  - 3 3YR2/3 黄褐色 ローム小C・粒C/粘B、礫B
  - 4 3YR2/2 黄褐色 ローム中B/粘B、礫A
  - 5 3YR3/2 黄褐色 ローム中B・小C/粘B、礫A



第59図 第143号土坑・出土遺物実測図

第49表 第143号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	(29)	—	長石・石英・雲母	5YR6/4	にぶい橙	普通	沈積文 三角刺文	墓土中	高塚・付 坑A

第143号土坑 (第59図 第49表 PL32)

**位置** 調査区東部のB277区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第144号土坑を掘り込んでいる。

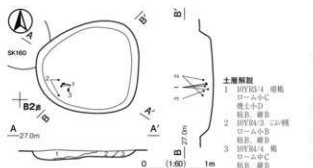
**規模と形状** 長径0.58m、短径0.48mの楕円形で、長径方向はN-13°-Eである。深さ14cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 3層に分層できる。堆積状況から、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片11点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉と推定される。

- SK143 土層解説**
- 1 25YR3/3 暗黄褐色 ローム粒C、炭化灰D/粘A、礫A
  - 2 25YR4/4 暗黄褐色 ローム粒C、粘A、礫A
  - 3 25YR4/4 暗黄褐色 ローム小C/粘A、礫A
- SK144 土層解説**
- 1 25YR4/3 暗黄褐色 ローム小D・粒C/粘B、礫A
  - 2 25YR4/4 暗黄褐色 ローム小B/粘A、礫A



第60図 第147号土坑実測図

第147号土坑 (第60・61図 第50表 PL32・33)

**位置** 調査区中央部のB287区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第160号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.62m、短径1.60mの円形である。深さ20cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

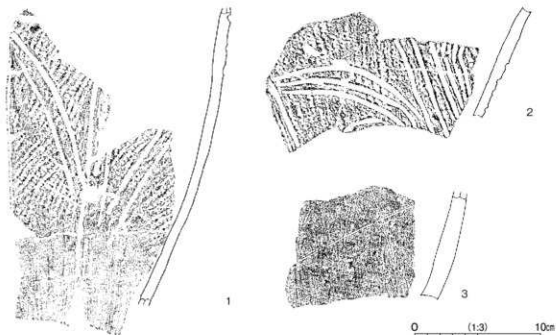
**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多く

- 土層解説**
- 1 3YR3/4 暗黄褐色 ローム小C  
粒小C  
粘B、礫B
  - 2 3YR4/3 暗黄褐色 ローム小B  
粘B、礫B
  - 3 3YR4/4 暗黄褐色 ローム中C  
粘B、礫B

みられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片 23 点 (深鉢)、石器 1 点 (剥片) が出土している。1～3 は、覆土中層から出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第 61 図 第 147 号土坑出土遺物実測図

第 50 表 第 147 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考		
1	縄文土器	深鉢	—	(23.6)	—	灰石・石英	5YR5/6 明赤層	普通	罫目の上に沈線文 凸凹線(角型)あり	平截打習文胴部下段文で磨き	覆土中層	罫之内 PL33
2	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	灰石・石英	10YR7/4 に近い黄橙	普通	縄文の上に沈線文		覆土中層	罫之内 PL32
3	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	灰石・石英・雲母	7.5YR6/4 に近い橙	普通	十字文に沈線文		覆土中層	罫取

第 160 号土坑 (第 62 図 第 51 表 PL33)

**位置** 調査区中央部の B 27 区、標高 27 m ほどの台地上に位置している。

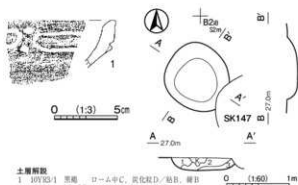
**重複関係** 第 147 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 径 1.06 m の円形である。

深さ 18 cm で壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 3 層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片 10 点 (深鉢) が出土している。

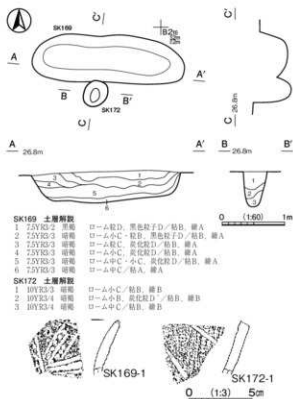


第 62 図 第 160 号土坑・出土遺物実測図

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第 51 表 第 160 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	灰石・石英	5YR5/6 明赤層	普通	罫目線形刺形文 沈線文	覆土中層	罫之内 PL33



- SK169 土層解説**
- 1 75YR3-2 黄褐色ローム小C、黒色灰土D、粘B、腐A
  - 2 75YR3-3 暗褐色ローム小C、黄褐色灰土D、粘B、腐A
  - 3 75YR3-3 暗褐色ローム小C、黄褐色灰土D、粘B、腐A
  - 4 75YR3-3 暗褐色ローム小C、黄褐色灰土D、粘B、腐A
  - 5 75YR3-3 暗褐色ローム小C、黄褐色灰土D、粘B、腐A
  - 6 75YR3-3 暗褐色ローム小C、粘B、腐A
- SK172 土層解説**
- 1 10YR3-3 暗褐色ローム小C、粘B、腐B
  - 2 10YR3-4 暗褐色ローム小B、黄褐色灰土D'、粘B、腐B
  - 3 10YR3-4 暗褐色ローム小C、粘B、腐B



第63図 第169・172号土坑・出土遺物実測図

**規模と形状** 長径0.46 m、短径0.36 mの楕円形で、長径方向はN-38°-Eである。深さ60 cmで壁は直立し、底面はU字状である。

**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物がみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第52表 第169号土坑出土遺物一覧

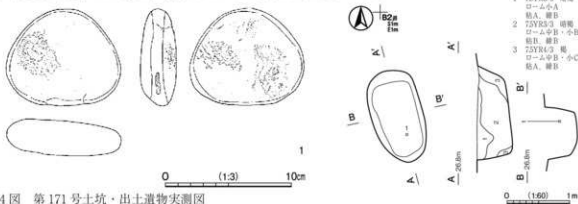
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	番号	
1	縄文土器	深鉢	—	(44)	—	長石・石英	75YR6/4	に高い橙	普通	円形刺突文 平行沈線文	覆土中	製之内 PL32

第53表 第172号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	番号	
1	縄文土器	深鉢	—	(43)	—	長石・石英	5YR5/4	に高い赤黄	普通	沈線で区画し内に縄文	覆土中	製之内 PL32

第171号土坑 (第64図 第54表)

**位置** 調査区中央部のB2j8区、標高27 mほどの台地上に位置している。



第64図 第171号土坑・出土遺物実測図

第169号土坑 (第63図 第52表 PL32)

**位置** 調査区中央部のB2j6区、標高26 mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第172号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.42 m、短径0.77 mの楕円形で、長径方向はN-87°-Wである。深さ48 cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 6層に分層できる。ブロック状の含有物がみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片10点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第172号土坑 (第63図 第53表 PL32)

**位置** 調査区中央部のB2j6区、標高26 mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第169号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.50 m、短径0.83 mの楕円形で、長径方向はN-17°-Wである。深さ45 cmで壁は外傾し、底面は南に向かってやや下がっている。

**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片3点(深鉢)、石器1点(敲石)、1は、覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期と推定される。

第54表 第171号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	敲石	2.7	9.1	2.9	286.03	輝石岩	両面研磨	覆土中層	

第193号土坑 (第65・67図 第55表 PL.4・34)

**位置** 調査区東部のB3a6区、標高27 mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第3号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.06 m、短径1.00 mの円形である。深さ25 cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 2層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片26点(深鉢25、浅鉢1)が出土している。1・2は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第55表 第193号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	[29.8]	[36.5]	—	長石・石英	7.5YR4/1	焼灰	普通	口縁部無文、口内側に隆帯、隆帯に刺状文	覆土中層	調査 PL.31
2	縄文土器	浅鉢	[26.6]	[11.8]	[8.6]	長石・石英	7.5YR6/4	にじみ焼	普通	無文	覆土中層	

第194号土坑 (第66図 第56表 PL.32)

**位置** 調査区中央部のB2g5区、標高26 mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径0.85 m、短径0.78 mの円形である。深さ51 cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

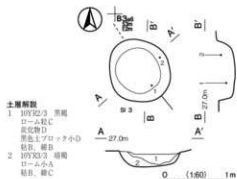
**覆土** 3層に分層できる。埋没状況から、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。1は、第131号土坑出土遺物1と接合した。

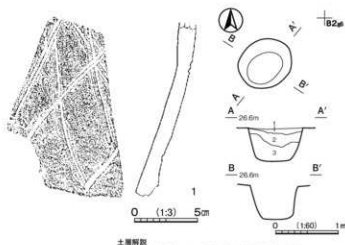
**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第56表 第194号土坑出土遺物一覧

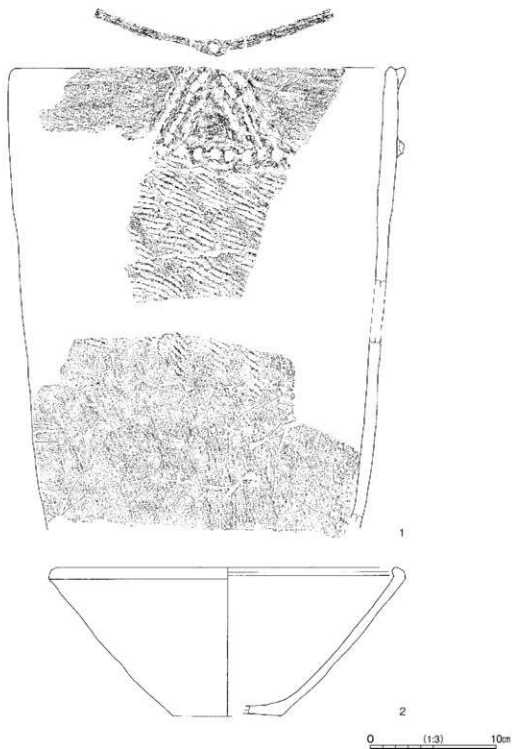
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	[33.7]	—	長石・石英	10YR3/1	黒焼	普通	沈積文	覆土中 第5号 PL.32



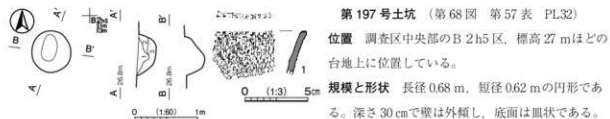
第65図 第193号土坑実測図



第66図 第194号土坑・出土遺物実測図



第 67 図 第 193 号土坑出土遺物実測図



第 68 図 第 197 号土坑・出土遺物実測図



**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代前期後葉と推定される。

第57表 第197号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(34)	—	繊維・長石・石英	5YR6/4 におい橙	普通	口唇部キズミ目 円形刺突文	覆土中	図説 PL32

第216号土坑 (第69図 第58表 PL33)

**位置** 調査区中央部のB2h4区、標高26mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径1.12m、短径0.80mの楕円形で、長径方向はN-54°-Wである。深さ48cmで壁は直立し、底面は平坦である。

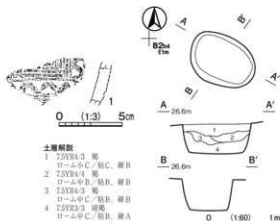
**覆土** 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片15点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉と推定される。

第58表 第216号土坑出土遺物一覧

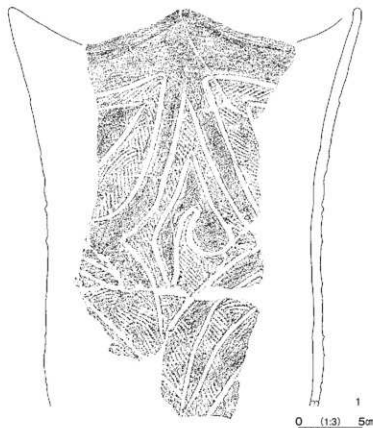
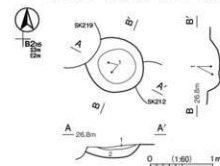
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(34)	—	長石・石英・雲母	7.5YR5/4 におい黄	普通	沈線文 交互三刺突文	覆土中	PL33



第69図 第216号土坑・出土遺物実測図

第220号土坑

(第70図 第59表 PL4・33)



第70図 第220号土坑・出土遺物実測図

**位置** 調査区中央部のB2h5区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第212号土坑を掘り込み、第219号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径0.90m、短径0.76mの楕円形で、長径方向はN-33°-Wである。深さ14cmで壁は外傾し、底面は皿状である。

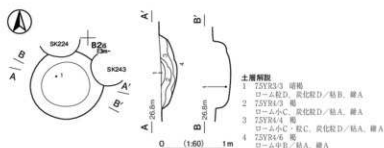
**覆土** 2層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片3点(深鉢)が出土している。1は、覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

第59表 第220号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	27.0	31.7	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4	—	滑	しの字文 沈殿で区画し内刻突文	覆土中層	松本等 PL33



### 第242号土坑

(第71図 第60表 PL34)

**位置** 調査区東部のB2h5区、標高27mほどの台地上に位置している。

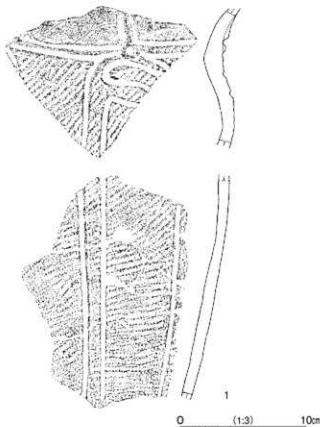
**重複関係** 第224・243号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.11m、短径1.10mの円形である。深さ26cmで壁は外傾し、底面は皿状である。

**覆土** 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片18点(深鉢)が出土している。1は、覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第71図 第242号土坑・出土遺物実測図

第60表 第242号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	(11.1)	—	長石・石英	5.YR6/6	—	滑	沈殿文 円形刺突文	覆土下層	堀之内 PL34

## 第256号土坑 (第72図 第61表 PL32)

**位置** 調査区中央部のB25区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第255号土坑を掘り込んでいる。

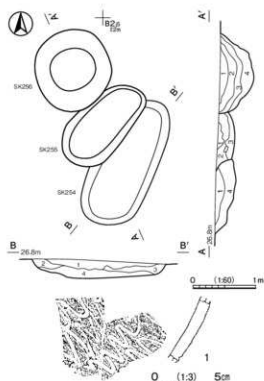
**規模と形状** 長径1.26m、短径1.22mの円形である。深さ54cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片13点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

<b>SK254 土層解説</b>	
1 75YK3/4 深鉢	ローム小中・粘土、礫A
2 75YK3/4 深鉢	ローム小中・粘土、礫B
3 75YK3/3 深鉢	ローム小中・粘土、炭化灰D/粘土、礫B
4 75YK4/4 深鉢	ローム中C・小C/粘土、礫B
<b>SK255 土層解説</b>	
1 75YK3/4 深鉢	ローム中C・粘土、炭化灰D/粘土、礫B
2 75YK3/3 深鉢	ローム中C・小C/粘土、礫B
3 75YK3/4 深鉢	ローム中中・小C・焼土、炭化灰D/粘土、礫B
<b>SK256 土層解説</b>	
1 75YK3/4 深鉢	ローム小中・粘土、礫B
2 75YK3/3 深鉢	ローム小中・小C/粘土、礫B
3 75YK3/4 深鉢	ローム小中・粘土、礫B
4 75YK3/3 深鉢	ローム中中/粘土、礫B



第72図 第256号土坑・出土遺物実測図

## 第61表 第256号土坑出土遺物一覧

番号	種別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(52)	—	長石・石英	75YK3/6 橙	普通	沈殿文 縦行沈殿文	層土中	層之内PL32

## 第257号土坑 (第73図 第62表 PL33)

**位置** 調査区南部のC2c4区、標高27mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径1.52m、短径1.27mの楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さ110cmで壁は直立し、底面は平坦である。

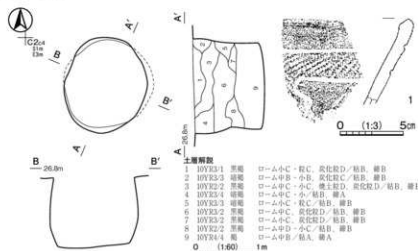
**覆土** 9層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片34点(深鉢)、石器3点(剥片)が出土している。石器は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

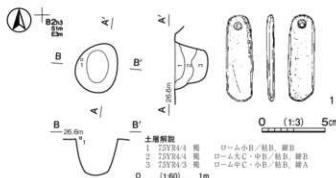
**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

## 第62表 第257号土坑出土遺物一覧

番号	種別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(69)	—	長石・石英	5YR6/6 橙	普通	沈殿で区画内に縄文	層土中	層之内PL33



第73図 第257号土坑・出土遺物実測図



第74図 第260号土坑・出土遺物実測図

### 第260号土坑 (第74図 第63表 PL34)

**位置** 調査区中央部のB2h3区、標高27mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径0.82m、短径0.68mの楕円形で、長径方向はN-32°-Eである。深さ58cmで壁は外傾し、底面は皿状である。

**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片2点(深鉢)、石製

品1点(垂飾り)が出土している。1は、覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。

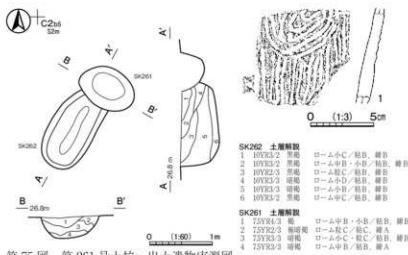
第63表 第260号土坑出土遺物一覧

番号	品名	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	垂飾り	6.8	2.1	0.6	0.6	16.46	アイサイト	西方向からの穿孔、横方向への磨き痕	覆土上層	PL34

### 第261号土坑 (第75図 第64表 PL34)

**位置** 調査区南部のC2b5区、標高27mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第262号土坑を掘り込んでいる。



第75図 第261号土坑・出土遺物実測図

**規模と形状** 長径0.89m、短径0.38mの楕円形で、長径方向はN-57°-Wである。深さ33cmで壁は外傾し、底面は皿状である。

**覆土** 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片5点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉と推定される。

第64表 第261号土坑出土遺物一覧

番号	品名	品種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	17.5	—	長石・石英	7.5Y26/4	1:50程度	香濃 沈着	雑土中	5層+台 PL34

### 第276号土坑 (第76図 第65表 PL34)

**位置** 調査区南部のC2d2区、標高27mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径1.07m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。深さ62cmで壁は外傾し、底面は凹凸がある。

**覆土** 4層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片9点(深鉢)、石器1点(磨製石斧)が出土している。1は、覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第76図 第276号土坑・出土遺物実測図

第65表 第276号土坑出土遺物一覧

番号	品様	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	磨製石斧	35	16	0.7	6.03	流紋岩	定角式 小形 全面磨削 ハマグリ男	覆土上層	PL34

## 第282号土坑 (第77図 第66表)

位置 調査区南部のC2d1区、標高27mほどの台地上に位置している。

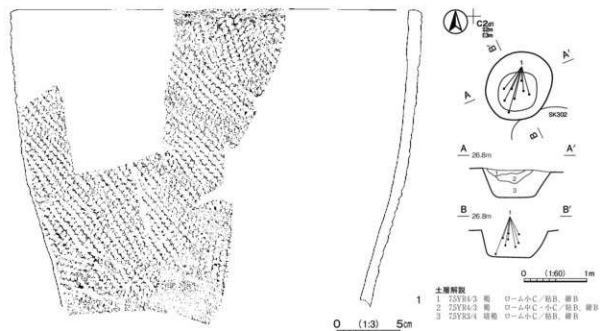
重複関係 第302号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.11m、短径1.00mの楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。深さ40cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。埋没状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)が出土している。1は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第77図 第282号土坑・出土遺物実測図

第66表 第282号土坑出土遺物一覧

番号	種別	品様	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	33.6	29.7	—	辰石・石灰・赤色粒子	75YR6/4 に近い橙	普通	口縁部から胴部にたい横溝	覆土中層	胴之内

## 第286号土坑 (第78図 第67表 PL33)

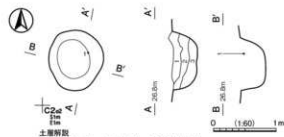
位置 調査区南部のC2e2区、標高26mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径0.98m、短径0.86mの楕円形で、長径方向はN-2°-Eである。深さ44cmで壁は外傾し、底面は平坦である。

**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。1は、覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



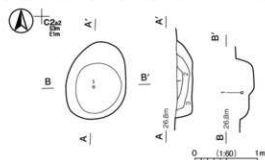
土層解説

- 1 5YR4/4 腐 rome小B・粘C/粘B、礫B
- 2 5YR4/4 腐 rome小C・粘C、腐土粒D/粘B、礫B
- 3 5YR2/4 腐 rome中C/粘B、礫B

第78図 第286号土坑・出土遺物実測図

第67表 第286号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	使用	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	220	282	-	長石・石英・雲母	5YR5/6 橙	普通	底状1線 口縁部から胴部にたい横目	覆土上層	掘之内PL35



第295号土坑 (第79図 第68表)

**位置** 調査区南部のC2a2区、標高27mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長径2.50m、短径1.90mの楕円形で、長径方向はN-10°-Eである。深さ26cmで壁は外傾し、底面は有段である。

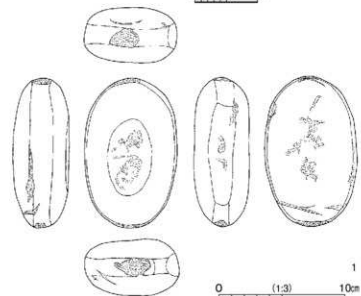
**覆土** 3層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片4点(深鉢)、石器1点(磨石)が出土している。1は、覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から縄文時代早期後葉と推定される。

土層解説

- 1 7.5Y5/3 腐 rome粘C、炭化粒D/粘B、礫B
- 2 7.5Y5/3 腐 rome小C/粘B、礫B
- 3 7.5Y5/4 腐 rome中B/粘A



第79図 第295号土坑・出土遺物実測図

第68表 第295号土坑出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	磨石	24	1.9	0.6	632.89	輝綠岩	西面磨削	覆土上層	

第302号土坑 (第80図 第69表 PL33)

位置 調査区南部のC2c2区、標高27mほどの台地上に位置している。

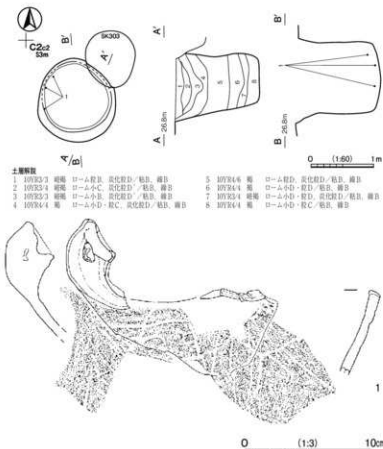
重複関係 第303号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.32m、短径1.27mの楕円形で、長径方向はN-18°-Wである。深さ130cmで壁は直立し、底面は平坦である。

覆土 8層に分層できる。ブロック状の含有物が多くみられることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片125点(深鉢)が出土している。1は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉と推定される。



第69表 第302号土坑出土遺物一覧

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	黄石・石灰	5Y9/6	磨	普通	口縁部円筒状突起	覆土下層 地名寺 PL33

第80図 第302号土坑・出土遺物実測図

第70表 縄文時代土坑一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係	備考
				長軸×短軸(m)	深さ							
1	A31	N-34°-W	楕円形	0.66 × 0.54	26	内傾	U字状	人為	縄文土器			
3	A3d	N-52°-W	楕円形	1.96 × 1.00	14-41	外傾	平坦	人為	夏島		SK12 → 本跡	早期前葉
4	A3d	N-78°-E	楕円形	(2.53) × 0.92	27	外傾	平坦	人為	縄文土器		SK28 → 本跡 → SK22	
5	A2d	N-69°-E	不整形円形	1.06 × 0.74	39	外傾	凸凹	人為	縄文土器		PG2P40 → 本跡	
8	A3d	N-66°-W	隅丸長方形	1.12 × 0.72	30、33	外傾	U字状	人為	縄文土器			
9	A3d	N-26°-W	楕円形	0.90 × 0.83	27	外傾	U字状	人為	縄文土器			
10	A3c2	—	不整形円形	1.30 × 1.14	13	外傾	凸凹	人為	縄文土器		SK31 → 本跡	
11	A3d	N-20°-W	楕円形	0.90 × 0.62	40	外傾	平坦	人為	縄文土器、石炭、磨石			
12	A3d	N-12°-E	不整形	(1.79) × 1.47	14-48	外傾	平坦	人為	縄文土器		本跡 → SK3	
21	A3d	N-30°-W	楕円形	0.77 × 0.68	28	外傾	U字状	人為	縄文土器			
23	A2d	N-45°-E	楕円形	0.87 × 0.73	33	外傾	平坦	人為	縄文土器			
24	A2d	N-39°-W	楕円形	(1.01) × 0.82	21	外傾	平坦	人為	縄文土器		SK3、PG2P6 → 本跡	
25	A21	N-76°-W	楕円形	0.70 × 0.56	27	外傾	平坦	人為	縄文土器			
36	A3d	—	円形	0.89 × 0.49	33	外傾	U字状	人為				
28	A3d	N-75°-W	楕円形	0.85 × 0.69	21	外傾	平坦	人為	縄文土器		本跡 → SK4	
30	A3c2	N-23°-W	楕円形	1.21 × 0.93	28、44	外傾	U字状	人為	縄文土器			
31	A3c2	N-54°-E	楕円形	(0.66) × 0.60	29	外傾	U字状	人為	縄文土器		本跡 → SK10	
33	A2d	N-48°-E	楕円形	(0.70) × 0.68	12	外傾	平坦	人為	田戸下層		本跡 → SK24	早期中葉
34	B3d	N-24°-W	楕円形	1.54 × 1.40	83	外傾	平坦	人為	堀之内			早期前葉
35	B3d	N-11°-E	楕円形	1.61 × 1.28	80	外傾	凸凹	人為	縄文土器		SK36 → 本跡	

序號	位置	主軸方向	平面形	規 格		壁 面	底 面	頂 上	主軸の上遺物	重複関係	備 考
				長×短( m )	深さ						
36	B35	-	円形	0.96 × 0.60	34	外壁	平坦	人瓦	字山下層	本跡→SK35	前期後葉
37	B34	-	円形	0.90 × 0.71	19	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
38	B34	N-27°-E	楕円形	1.28 × 0.80	12	外壁	平坦	人瓦	楕取	SK39-55→本跡	後期前葉
41	B32	N-27°-W	楕円形	0.75 × 0.60	25	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK93→本跡→SK40	
44	A20	-	円形	1.00 × 0.97	22	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	PG2P30→本跡	
45	B34	-	円形	0.99 × 0.96	56	外壁	平坦	人瓦	礎之内	SK66→本跡	後期前葉
48	B34	N-58°-E	楕円形	1.32 × 0.85	30	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK49-53→本跡→SK69-70	
54	B34	-	円形	0.62 × 0.60	18	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK33→本跡	
57	B34	-	円形	0.84 × 0.79	20	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK60→本跡→SK38	
58	B34	-	円形	0.92 × 0.90	21	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK37→本跡→SK39	
59	B34	-	円形	0.99 × 1.00	26	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK36→本跡	
60	B34	N-38°-E	楕円形	1.01 × 0.69	25	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK57	
61	B34	N-15°-W	楕円形	1.62 × 1.22	24	外壁	西凸	人瓦	礎之内		後期前葉
64	B35	-	円形	1.16 × 1.12	40	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK102→本跡	
65	A20	N-15°-W	楕円形	1.18 × 0.70	48	外壁	平坦	人瓦	礎文土部、石籠、礎石		
66	A20	N-7°-W	楕円形	1.48 × 1.04	32	外壁	平坦	人瓦	浮島屋、石籠		前期後葉
67	B35	-	円形	0.90 × 0.82	28	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK74→本跡	
72	B34	-	円形	1.56 × 1.42	24	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK73→本跡→SK81	前期
73	B35	N-88°-E	方形	2.36 × 1.94	22	外壁	平坦	人瓦	字山下層	SK135→本跡→SK42-72-74	早期後葉
74	B35	N-40°-W	楕円形	1.22 × 1.00	20	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK73→本跡→SK67	
76	B34	-	楕円形	0.86 × 0.68	22	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK77→本跡	
77	B34	N-88°-W	楕円形	11.10 × 0.76	50	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK76-79	
78	B34	N-25°-W	楕円形	0.84 × 0.68	26	外壁	平坦	人瓦	作名寺	SK131→本跡→SK85-136	後期前葉
79	B34	N-21°-W	楕円形	1.06 × 0.74	42	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK77	
85	B35	N-25°-W	楕円形	1.38 × 0.82	66	外壁	平坦	人瓦	楕取	SK78-84-131→本跡	後期前葉
86	B32	N-23°-E	楕円形	1.60 × 0.88	26	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK67→本跡→SK38	
88	B33	N-35°-E	楕円形	0.80 × 0.70	46	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
90	B34	N-79°-E	楕円形	2.18 × 1.01	66	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
91	B33	N-20°-W	楕円形	1.00 × 0.80	18	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK139→本跡	
93	A32	N-62°-W	楕円形	11.10 × 0.96	16	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK40-41-94	
96	B32	N-5°-W	楕円形	11.30 × 11.05	50	外壁	平坦	人瓦	作名寺		後期前葉
99	B33	-	円形	1.03 × 1.00	40	外壁	平坦	人瓦	礎之内		前期後葉
100	B32	N-8°-W	楕円形	1.16 × 0.78	18	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
101	B34	-	円形	1.29 × 1.18	18	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK131-132-133→本跡	
105	B32	-	円形	1.17 × 1.10	34	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK104-106	
106	B33	-	円形	1.08 × 1.01	26	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK97-105→本跡	
109	B32	N-30°-E	楕円形	1.15 × 1.00	52	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
111	B32	N-5°-W	楕円形	11.60 × 0.79	46	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
112	B31	N-6°-W	楕円形	2.18 × 0.86	70	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK130	早期後葉
113	B30	N-32°-E	楕円形	1.07 × 0.94	66	外壁	圓状	人瓦	字山下層		早期後葉
115	B33	N-22°-W	楕円形	0.91 × 0.62	26	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
117	B30	N-27°-E	楕円形	11.10 × 0.63	32	-	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK123	
118	B30	N-83°-W	楕円形	0.94 × 0.83	78	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		早期中葉
119	B30	N-64°-W	楕円形	0.96 × 0.82	58	外壁	U字状	人瓦	出入口下層		早期中葉
120	B31	-	円形	0.68 × 0.65	74	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
124	B32	N-58°-W	楕円形	0.76 × 0.62	22	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
125	B32	N-80°-W	楕円形	0.90 × 0.70	18	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
126	B30	N-32°-W	楕円形	2.18 × 1.34	66	外壁	平坦	人瓦	浮島		前期後葉
127	B29	N-13°-W	楕円形	1.29 × 0.86	20	外壁	平坦	人瓦	字山下層		早期後葉
129	B30	N-87°-E	楕円形	1.00 × 0.74	20	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
130	B30	N-41°-E	楕円形	2.21 × 1.02	115	外壁	平坦	人瓦	字山下層		早期後葉
131	B34	N-50°-E	楕円形	11.20 × 0.80	20	外壁	平坦	人瓦	礎之内		後期前葉
132	B35	N-58°-E	楕円形	11.60 × 0.62	24	外壁	U字状	人瓦	礎文土部	SK132→本跡→SK78-83-101	
134	B30	-	円形	0.89 × 0.74	20	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK80-84-85-101-131	
137	B33	N-80°-W	楕円形	0.60 × 0.40	42	外壁	U字状	人瓦	礎之内		
138	B33	N-50°-W	楕円形	1.42 × 1.03	38	外壁	圓状	人瓦	礎之内	SK139→本跡	後期前葉
139	B32	N-42°-W	隅丸長方形	2.16 × 1.36	116	外壁	平坦	人瓦	礎之内	本跡→SK91-138	後期前葉
142	B36	N-6°-W	楕円形	2.42 × 1.28	92	外壁	U字状	人瓦	字山下層		早期後葉
143	B27	N-13°-E	楕円形	0.58 × 0.48	14	外壁	平坦	人瓦	五福台	SK144→本跡	中期前葉
145	B27	-	円形	1.00 × 1.02	21	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
147	B30	-	円形	1.62 × 1.60	20	外壁	平坦	人瓦	礎之内	SK160→本跡	後期前葉
150	B31	-	円形	0.82 × 0.75	50	外壁	平坦	人瓦	浮島	SK112→本跡	前期後葉
152	B27	N-3°-E	楕円形	0.53 × 0.44	64	外壁	U字状	人瓦	礎文土部		
155	B27	N-76°-E	楕円形	0.77 × 0.50	50	有段	U字状	人瓦	礎文土部		
158	B30	-	円形	1.02 × 0.95	24	外壁	平坦	人瓦	礎文土部		
160	B37	-	円形	1.06 × 1.06	18	外壁	平坦	人瓦	礎之内	本跡→SK147	後期前葉
167	B37	N-50°-W	楕円形	11.91 × 0.87	32	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK182-191	
169	B26	N-87°-W	楕円形	2.42 × 0.77	48	外壁	平坦	人瓦	礎之内	本跡→SK172	後期前葉
170	B27	N-69°-W	楕円形	0.35 × 0.30	68	外壁	U字状	人瓦	礎文土部		
171	B30	N-17°-W	楕円形	1.50 × 0.83	45	外壁	平坦	人瓦	礎文土部、礎石		早期
172	B26	N-38°-E	楕円形	0.46 × 0.36	60	有段	U字状	人瓦	礎之内	SK169→本跡	後期前葉
173	B27	-	円形	0.70 × 0.64	22	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	本跡→SK174	
174	B27	-	円形	0.90 × 0.80	48	外壁	平坦	人瓦	礎文土部	SK173→本跡	



番号	位置	主軸方向	平面形	規模		築	底	覆土	主な出土遺物	重要関係	備考
				長軸×短軸(m)	深さ						
175	I296	N-51°-E	楕円形	1.10 × 1.00	80	外積	有段	人高	縄文土器		
176	I297	-	円形	0.86 × 0.62	66	外積	U字状	人高	縄文土器		
179	I305	-	円形	0.70 × 0.68	20	外積	平坦	人高	縄文土器		
180	I295	N-18°-W	楕円形	0.86 × 0.72	20	外積	平坦	人高	縄文土器		
181	I298	N-35°-E	楕円形	1.10 × 1.00	34	外積	圓状	人高	縄文土器		
182	I297	-	円形	0.85 × 0.80	30	外積	圓状	人高	縄文土器	SK167 → 本跡	
185	I296	N-21°-W	楕円形	0.88 × 0.67	12~30	外積	四凸	人高	縄文土器	本跡 → SK188	
187	A304	-	円形	1.00 × 1.05	70	外積	平坦	人高	縄文土器		
190	A305	N-22°-E	楕円形	1.15 × 0.99	49	外積	平坦	人高	縄文土器		
191	I297	N-54°-W	楕円形	0.61 × 0.54	58	外積	U字状	人高	縄文土器	SK167 → 本跡	
192	A305	N-49°-E	楕円形	1.01 × 0.80	36	外積	平坦	人高	縄文土器		
193	I306	-	円形	1.06 × 1.00	25	外積	平坦	人高	銅製	本跡 → S13	後期古墳
194	I294	-	円形	0.85 × 0.78	51	外積	平坦	人高	石名寺		
195	I295	N-76°-W	楕円形	2.62 × 1.20	82	外積	平坦	人高	縄文土器	本跡 → SK204	
196	I298	N-68°-W	楕円形	0.36 × 0.23	25	外積	平坦	人高	縄文土器	SK203 → 本跡	
197	I295	-	円形	0.69 × 0.62	30	外積	圓状	人高	漆器		前期古墳
201	I298	N-32°-E	不定形	0.95 × 0.80	56	外積	平坦	人高	縄文土器	SK202 → 本跡	
202	I298	N-41°-W	楕円形	1.11 × 0.58	18	外積	平坦	人高	縄文土器	本跡 → SK201、203	
204	I295	-	円形	0.79 × 0.70	74	外積	平坦	人高	縄文土器	SK196 → 本跡	
206	I295	-	円形	0.82 × 0.78	24	外積	平坦	人高	縄文土器		
208	I294	N-48°-E	楕円形	0.603 × 0.55	16	外積	平坦	人高	縄文土器	本跡 → SK209	
210	I294	-	円形	1.03 × 1.02	34	外積	平坦	人高	縄文土器	SK211 → 本跡 → SK213	後期古墳*
211	I295	N-37°-E	楕円形	1.04 × 0.75	38	外積	平坦	人高	縄文土器	本跡 → SK210	
213	I295	N-76°-W	楕円形	0.53 × 0.45	53	外積	平坦	人高	縄文土器	SK210 → 本跡	
214	I295	-	円形	0.45 × 0.44	33	外積	平坦	人高	縄文土器		後期古墳*
216	I294	N-54°-E	楕円形	1.12 × 0.80	48	非直	平坦	人高	縄文土器		中期古墳
217	I295	-	円形	0.80 × 0.76	25	外積	平坦	人高	縄文土器		
219	I295	-	円形	0.94 × 0.90	32	外積	圓状	人高	縄文土器	SK220 → 本跡	後期古墳*
220	I295	N-33°-W	楕円形	0.90 × 0.76	14	外積	圓状	人高	石名寺	SK212 → 本跡 → SK229	後期古墳*
221	I308	N-22°-E	個人東方形	2.26 × 0.94	104	非直	平坦	人高	山石下層	TM 3取壊 → 本跡	早期古墳
222	I296	N-69°-E	楕円形	1.120 × 0.91	20	外積	平坦	人高	縄文土器	本跡 → S15	後期古墳*
224	I295	-	円形	0.54 × 0.46	26	外積	圓状	人高	縄文土器	本跡 → SK223	
226	I294	-	円形	0.83 × 0.79	24	外積	平坦	人高	縄文土器		後期古墳*
227	I294	N-16°-W	楕円形	1.16 × 0.88	26	外積	平坦	人高	縄文土器		後期古墳*
229	I294	N-39°-E	楕円形	1.84 × 1.34	14	外積	平坦	人高	縄文土器	SK220 → 本跡 → SK245	後期古墳*
230	I294	N-39°-E	楕円形	1.30 × 1.06	14	外積	平坦	人高	縄文土器	本跡 → SK229	前期古墳*
231	I294	-	円形	1.00 × 1.00	22	外積	平坦	人高	縄文土器		後期古墳*
232	I295	N-33°-E	楕円形	0.96 × 0.73	26	外積	平坦	人高	縄文土器		
233	I295	N-47°-W	楕円形	1.27 × 1.07	35	外積	有段	人高	縄文土器		早期古墳*
237	C296	N-54°-E	楕円形	1.00 × 0.68	72	外積	有段	人高	縄文土器		後期古墳*
238	I295	N-17°-E	楕円形	0.86 × 0.66	54	非直	U字状	人高	縄文土器		前期古墳*
240	I296	-	円形	0.41 × 0.40	42	外積	有段	人高	縄文土器		前期古墳*
241	C296	N-52°-E	楕円形	1.10 × 0.280	30	外積	平坦	人高	縄文土器	本跡 → SK299	
242	I295	-	円形	1.11 × 1.10	26	外積	圓状	人高	甕之内	本跡 → SK231、243	後期古墳*
243	I295	-	円形	0.62 × 0.58	70	外積	有段	人高	縄文土器	SK242 → 本跡	前期*
244	I294	N-56°-E	不定形	0.90 × 0.86	58	非直	U字状	人高	縄文土器		後期古墳*
245	I294	N-40°-E	楕円形	0.62 × 0.46	20	外積	平坦	人高	縄文土器	SK229 → 本跡	後期古墳*
246	C296	N-86°-W	楕円形	1.37 × 1.18	35	外積	平坦	人高	縄文土器		前期*
247	C296	N-71°-E	楕円形	1.28 × 1.37	46	外積	平坦	人高	縄文土器		後期古墳*
248	C296	N-76°-W	個人東方形	1.10 × 1.22	96	外積	平坦	人高	縄文土器		後期古墳*
250	C295	N-74°-W	楕円形	1.35 × 1.13	60	外積	平坦	人高	縄文土器		早期古墳
253	C294	N-19°-W	楕円形	2.00 × 1.76	48	外積	有段	人高	縄文土器		後期古墳*
254	I295	N-28°-E	楕円形	2.15 × 1.00	32	外積	平坦	人高	縄文土器	本跡 → SK225	中期古墳*
255	I295	N-43°-E	楕円形	1.57 × 0.88	24	外積	平坦	人高	縄文土器	SK254 → 本跡 → SK226	後期*
256	I295	-	円形	1.28 × 1.22	54	外積	平坦	人高	甕之内	SK255 → 本跡	後期古墳
257	C295	N-25°-E	楕円形	1.32 × 1.22	110	非直	平坦	人高	縄文土器		後期古墳
259	I293	-	円形	0.81 × 0.80	50	外積	U字状	人高	縄文土器		後期古墳*
260	I293	N-32°-E	楕円形	0.82 × 0.68	58	外積	圓状	人高	縄文土器・垂輪石		後期古墳*
261	C295	N-57°-W	楕円形	0.89 × 0.88	33	外積	圓状	人高	五輪ヶ台	SK282 → 本跡	中期古墳*
262	C294	N-28°-E	楕円形	1.130 × 0.71	64	外積	平坦	人高	縄文土器	本跡 → SK281	後期古墳*
263	I293	N-25°-W	楕円形	0.89 × 0.70	16	外積	平坦	人高	縄文土器		後期古墳*
264	C294	N-38°-E	楕円形	0.89 × 0.60	80	非直	U字状	人高	縄文土器		後期古墳*
265	C294	N-15°-W	楕円形	0.78 × 0.59	59	外積	U字状	人高	縄文土器		後期古墳*
273	C294	N-13°-W	楕円形	1.62 × 1.36	52	外積	平坦	人高	縄文土器		前期古墳*
276	C292	N-52°-E	楕円形	1.07 × 0.96	62	外積	四凸	人高	縄文土器		後期古墳
277	C293	N-80°-W	楕円形	0.96 × 0.81	48	外積	平坦	人高	縄文土器		中期*
280	C293	N-30°-E	楕円形	1.14 × 0.96	84	外積	圓状	人高	縄文土器		後期古墳*
281	C294	-	円形	1.14 × 1.14	77	外積	平坦	人高	縄文土器		後期古墳*
282	C291	N-52°-E	楕円形	1.11 × 1.00	40	外積	平坦	人高	甕之内	SK301 → 本跡	後期古墳*
283	C293	N-38°-W	楕円形	0.62 × 0.50	70	非直	U字状	人高	縄文土器		後期古墳*
284	C293	N-33°-E	楕円形	1.24 × 0.54	48	非直	平坦	人高	縄文土器	SK285 → 本跡	後期古墳*
285	C293	N-25°-E	楕円形	2.06 × 1.12	78	外積	圓状	人高	縄文土器	本跡 → SK284	後期古墳*
286	C292	N-2°-E	楕円形	0.98 × 0.86	44	外積	平坦	人高	甕之内		後期古墳*

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主要の上遺物	重複関係	備考
				長軸×短軸 (m)	深さ						
287	C3-2	N - 17° - E	不要積円形	1.55 × 0.85	71	外堀	U字状	人瓦	礎文土部		後期前巻
288	C2-3	-	円形	1.05 × 0.98	35	外堀	有段	人瓦	礎文土部		後期前巻
289	C2-3	-	円形	1.05 × 1.00	28	外堀	平坦	人瓦	礎文土部	SK292 → 本跡	後期前巻
290	C2-2	-	円形	0.99 × [0.94]	51	外堀	平坦	人瓦	礎文土部	SK291 → 本跡	後期前巻
292	C3-2	N - 54° - W	楕円形	1.94 × 1.22	31	外堀	凸凹	人瓦	礎文土部	本跡 → SK289	後期前巻
293	C3-2	N - 5° - W	楕円形	1.29 × 0.83	35	外堀	平坦	人瓦	礎文土部		後期前巻
294	B3-6	N - 67° - E	楕円形	[1.50] × [1.24]	24	外堀	平坦	人瓦	礎文土部	本跡 → S15	後期前巻
295	C2-2	N - 10° - E	楕円形	2.50 × 1.90	26	外堀	有段	人瓦	子母口		早期後巻
296	B3-1	N - 15° - W	[楕円形]	[0.35] × 1.05	45	外堀	平坦	人瓦	礎文土部	本跡 → SK297	後期前巻
297	B3-1	-	円形	1.25 × 1.15	72	外堀	平坦	人瓦	礎文土部	SK296・300 → 本跡	後期前巻
298	C2-3	N - 50° - E	楕円形	0.96 × 0.72	32	外堀	平坦	人瓦	礎文土部		後期前巻
299	C2-1	N - 60° - W	楕円形	1.12 × 1.00	62	外堀	平坦	人瓦	礎文土部		後期前巻
300	B3-1	N - 28° - E	楕円形	1.50 × 1.26	38	外堀	平坦	人瓦	礎文土部	本跡 → SK297・304	後期前巻
301	C2-1	-	円形	1.16 × 1.14	50	外堀	有段	人瓦	礎文土部	本跡 → SK282	後期前巻
302	C3-2	N - 18° - W	楕円形	1.32 × 1.27	130	垂直	平坦	人瓦	礎文土部	本跡 → SK303	後期前巻
304	B3-1	-	円形	0.67 × 0.65	32	外堀	平坦	人瓦	礎文土部	SK300 → 本跡	後期前巻
305	B3-3	-	円形	[1.08] × [1.07]	22	外堀	風状	人瓦	礎文土部		後期前巻
306	A3-4	N - 28° - E	楕円形	2.78 × 1.43	22-56	外堀	有段	人瓦	礎文土部		後期前巻

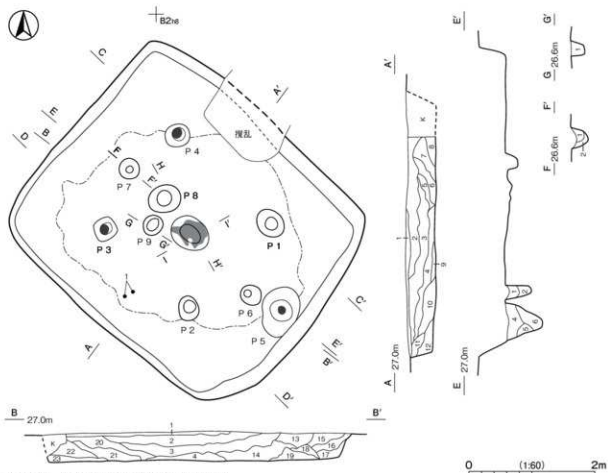
### 3 弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡4棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

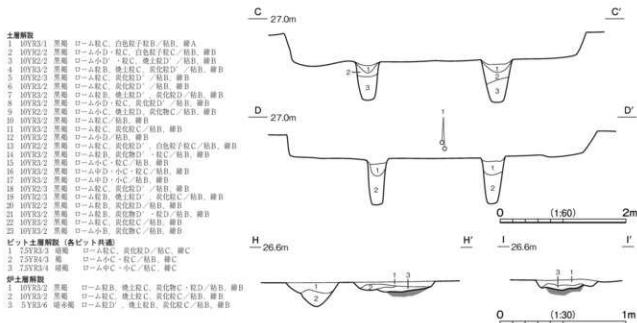
#### 竪穴建物跡

##### 第2号竪穴建物跡 (第81～83図 第71表 PL 4・29)

位置 調査区中央部のB 2h7区、標高27mほどの台地縁部の平坦面に位置している。



第81図 第2号竪穴建物跡実測図(1)



第82図 第2号竪穴建物跡実測図(2)

**規模と形状** 長軸 4.91 m、短軸 4.20 m の長方形で、主軸方向は  $N-51^{\circ}-W$  である。壁は高さ 38 ~ 48 cm で、外傾している。

**床** 平坦で、出入り口部から炉の周辺にかけて踏み固められている。

**炉** 中央部に付設されている。長径 65 cm、短径 50 cm の楕円形で、深さ 10 cm の地床炉である。炉床は皿状にくぼみ、炉床面から厚さ 6 cm ほどが焼土化している。

**ピット** 9か所。P1 ~ P4 は深さ 60 ~ 75 cm で、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5 は深さ 55 cm で、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6 ~ P9 は深さ 20 ~ 45 cm である。柱は、すべて抜き取られている。

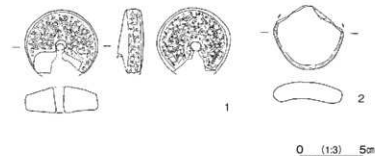
**覆土** 23層に分層できる。第4 ~ 23層はロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから、埋め戻され、第1 ~ 3層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

**遺物出土状況** 弥生土器片 142 点 (広口壺)、土製品 3 点 (紡錘車 1、不明 2)、石器 11 点 (剥片 9、石核 1、

磨石 1) が出土している。そのほかに、

縄文土器片 165 点 (深鉢)、石器の内 7 点 (剥片 6、石核 1) は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。土器片は、いずれも小片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土遺物から弥生時代後期後半に比定できる。

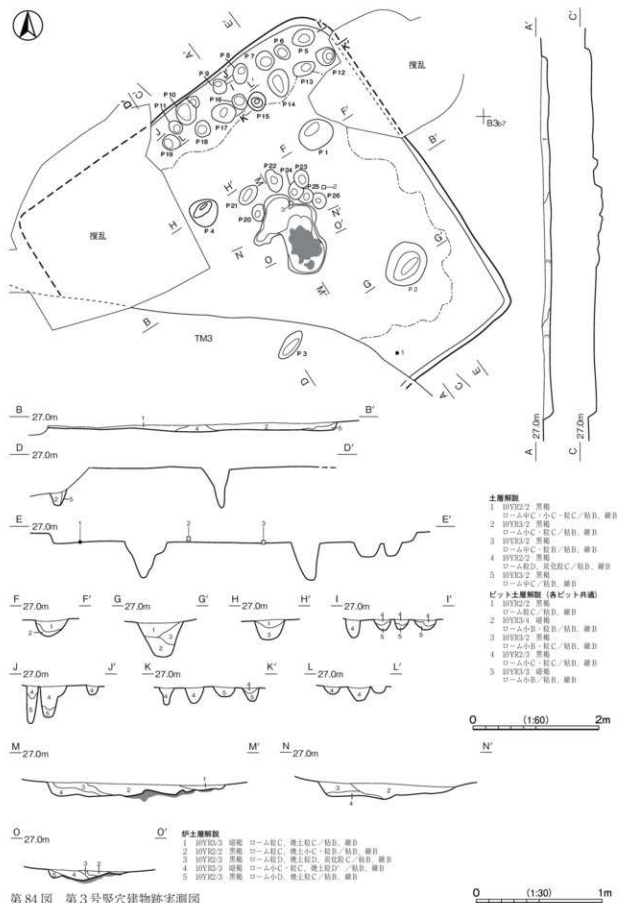


第83図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

第71表 第2号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	器種	外径	厚さ	孔径	重量	粘土	色調	特徴	出土位置	備考
1	紡錘車	5.8	2.1	0.9	(51.86)	粘土・石英	5YR5/6 明赤黄	全面刺状文 一方向からの穿孔 一部欠損	覆土中層	Pl.29
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
2	磨石	(50)	5.5	1.6	(57.94)	瑪瑙	片面磨き痕 一部欠損	覆土中	Pl.29	

第3号竖穴建物跡 (第84・85図 第72表 PL4・29)



第84図 第3号竖穴建物跡実測図

**位置** 調査区北東部のB3b5区、標高27mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第193号土坑を掘り込み、第3号墳に掘り込まれている。

**規模と形状** 重複と攪乱のため確認できた規模は、北東・南西軸5.78m、北西・南東軸4.64mの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁は高さ10-16cmで、外傾している。

**床** 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

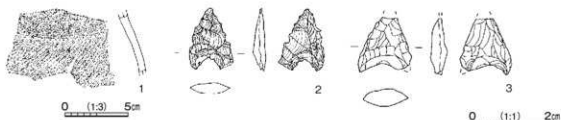
**炉** 中央部に付設されている。長径110cm、短径60cmの楕円形で、深さ10cmの地床炉である。炉床は皿状にくぼみ、炉床面から厚さ5cmほどが焼土化している。

**ピット** 26か所。P1~P4は深さ60cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5~P19は深さ15~60cmで、北西壁際に、P20~P26は深さ9~20cmで炉北西側に集中している。

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 弥生土器片51点(広口壺)、土製品1点(不明)、石器54点(剥片52、石鏃2)が出土している。そのほか、縄文土器片76点(深鉢)、石器の内14点(剥片)は旧石器時代のものであり、混入と考えられる。

**所見** 時期は、出土遺物から弥生時代後期後半に比定できる。



第85図 第3号堅穴建物跡出土遺物実測図

第72表 第3号堅穴建物跡出土遺物一覧

番号	種類	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	構成	手法	特徴	備考
1	弥生土器	広口壺	—	(5.3)	—	灰石・石灰・雲母	7.5YR5/4	にじみ焼	普通	腹部斜格子目文	床面
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
2	石鏃	(1.6)	1.2	0.3	(0.41)	燧石	製法 両面押圧剥離		床面		
3	石鏃	(1.5)	1.4	0.4	(0.70)	チャート	製法 両面押圧剥離		床面		

#### 第4号堅穴建物跡 (第86図)

**位置** 調査区中央部のB2b6区、標高27mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

**規模と形状** 長軸3.48m、短軸3.30mの方形で、主軸方向はN-40°-Wである。壁は高さ6~12cmで、外傾している。

**床** 平坦で、中央部から炉にかけて踏み固められている。

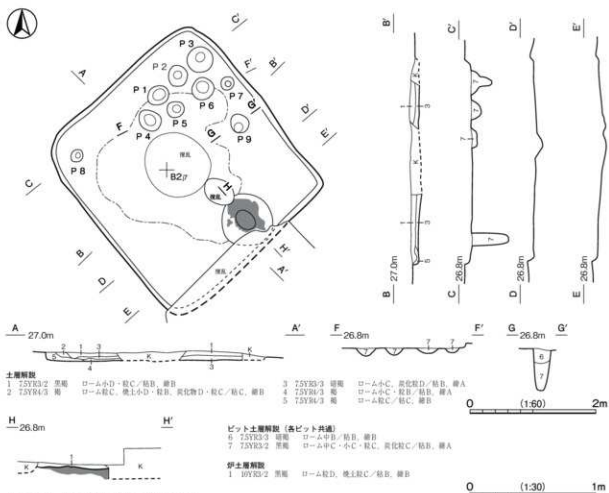
**炉** 南東壁際に付設されている。長径80cm、短径70cmの楕円形で、深さ5cmの地床炉である。炉床は皿状にくぼみ、炉床面から厚さ10cmほどが焼土化している。

**ピット** 9か所。P1~P9は深さ10~66cmで、北側に集中している。P3・P8が主柱穴の可能性がある。

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 弥生土器片57点(広口壺)が出土している。そのほか、混入した縄文土器片38点(深鉢)、土師器片11点(甕)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土遺物から弥生時代後期後半に比定できる。



第86図 第4号竪穴建物跡実測図

### 第6号竪穴建物跡 (第87図 第73表 PL29)

**位置** 調査区南部のC2d4区、標高27mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

**規模と形状** 長軸4.52m、短軸3.65mの隅丸長方形で、主軸方向はN-50°-Wである。壁は高さ12~24cmで、外傾している。

**床** 平坦で、炉の周辺が踏み固められている。

**炉** 中央部に付設されている。長径120cm、短径80cmの楕円形で、深さ10cmの地床炉である。炉床は皿状にくぼみ、炉床面から厚さ10cmほどが焼土化している。

**ピット** 5か所。P1~P5は深さ40~80cmで、配置から支柱穴と考えられる。P3はP5から建て替えた可能性がある。

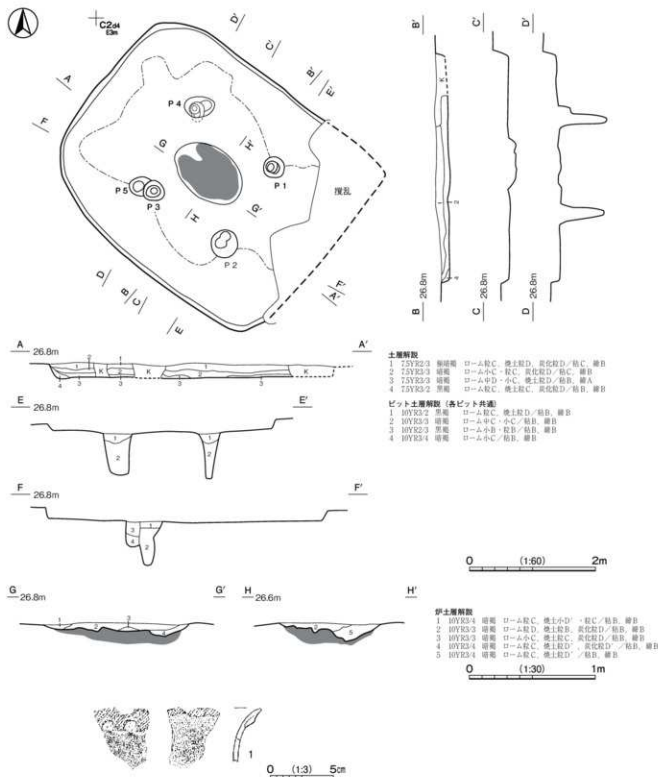
**覆土** 4層に分层できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 弥生土器片57点(広口壺)が出土している。そのほか、混入した土師器片11点(甕)、縄文土器片38点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から弥生時代後期後半に比定できる。

第73表 第6号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種類	図録	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	手造の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	—	(43)	—	長石・石英・雲母	TSYR4/2 灰褐色	普通	口縁部外・内面縄文・口縁部下層部磨研部	覆土中	PL29



第 87 図 第 6 号 堅穴建物跡・出土遺物実測図

第 74 表 弥生時代堅穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	幅 相	壁高	床面	地溝	内 部 構 造			質土	主な出土遺物	時期	備 考			
								注有穴	出入口	ピット					竪穴		
2	B 247	N-51°-W	長方形	4.91 × 4.20	38~48	平坦	-	4	1	9	1	-	入丸	赤土土器片	土製品	後期弥生	
3	B 345	N-33°-W	方形	5.28 × 4.64	10~16	平坦	-	4	-	22	1	-	入丸	赤土土器片	石鏝	後期弥生	SK190→本跡→TM 3
4	B 246	N-40°-W	方形	3.48 × 3.30	6~12	平坦	-	-	-	9	1	-	入丸	赤土土器片	-	後期弥生	
6	C 244	N-50°-W	圓形	4.52 × 3.65	12~24	平坦	-	4	-	1	1	-	入丸	赤土土器片	-	後期弥生	

#### 4 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、古墳1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### (1) 古墳

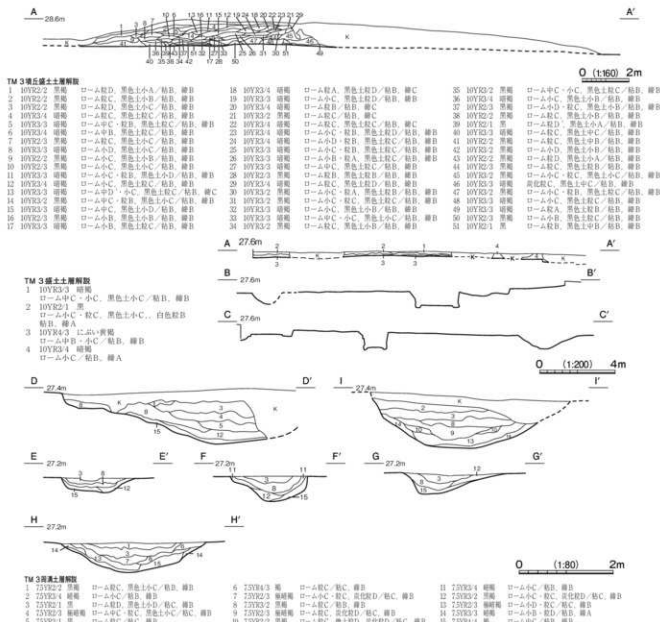
##### 第3号墳 (第88～94図 第75表 PL 2・3・34～38)

位置 調査区北部のA 3f1～A 3h2区、標高27.5mほどの台地縁部の平坦面に位置している。墳丘及び周溝の東部は調査区外へ延びている。



第88図 第3号墳完掘実測図





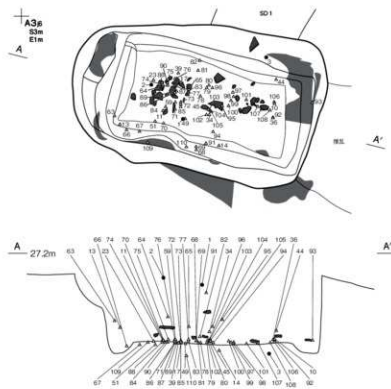
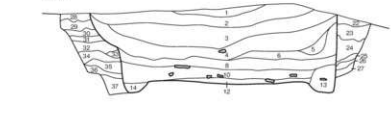
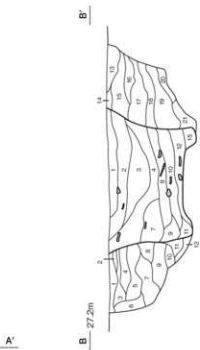
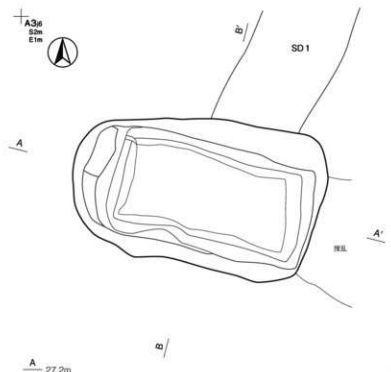
第 89 図 第 3 号墳丘・周溝土層断面実測図

**現況及び調査経過** 調査区内では前方部及び後門部の 3 分の 1 が確認でき、後門部の 3 分の 2 は調査区外に位置している。調査開始時、調査区内の墳丘は削平されていたため、調査区外に残存していた墳丘の記録を行い、古墳の形状を確定した。埋葬施設はくびれ部中央に位置しており、裏込土と抜き取り跡に雲母片岩の破片が散らばっていた。

**重複関係** 埋葬施設は、北東方向から第 1 号溝に掘り込まれている。

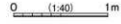
**規模と平面形** 墳形は前方後円墳(帆立貝形)で、主軸方向は N - 84° - W である。規模は、総長 30 m、墳長 28.5 m、後門径 20 m、後門高 1 m、後門頂径 2 m、くびれ幅 15.5 m、前方幅 15 m、前方高不明である。詳細な後門部最高点は標高 28.549 m である。

**周溝** 調査区外へ延びる後門部東側は未確認であるが、全周すると推測される。周溝は前方部で幅 2.2 - 1.6 m、深さ 0.6 - 0.3 m、後門部で幅 4.8 - 3.5 m、深さ 1.6 - 0.8 m である。後門部南側中央部付近が幅、深さともに最大値である。後門部の内周側は 40 度ほど、外周側は 30 度ほどで立ち上がる。深さは前方部は中央が深く、



- TM3 主体部南土層解層**
- |    |            |                          |
|----|------------|--------------------------|
| 1  | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム小C、黑色土段C/粘土、雜草        |
| 2  | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム段C、黑色土段C/粘土、雜草        |
| 3  | 10YK4-4 埋藏 | ロ-ム小A、粘土/粘土、雜草           |
| 4  | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム段C、黑色土段C、粘土段C/粘土、雜草   |
| 5  | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム段D、粘土段D/粘土、雜草         |
| 6  | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム小B、粘土小C/粘土、雜草         |
| 7  | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム小C、黑色土段D、粘土小C/粘土、雜草   |
| 8  | 10YK4-4 埋藏 | ロ-ム小D、黑色土小D、粘土小C/粘土、雜草   |
| 9  | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム段C、粘土段C/粘土、雜草         |
| 10 | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム小B、粘土小D/粘土、雜草         |
| 11 | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム段D、粘土段D/粘土、雜草         |
| 12 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム小C段C、粘土段D、空母管小C/粘土、雜草 |
| 13 | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム段D、粘土小D/粘土、雜草         |
| 14 | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム小B、粘土、雜草              |
| 15 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム小B、粘土、雜草              |

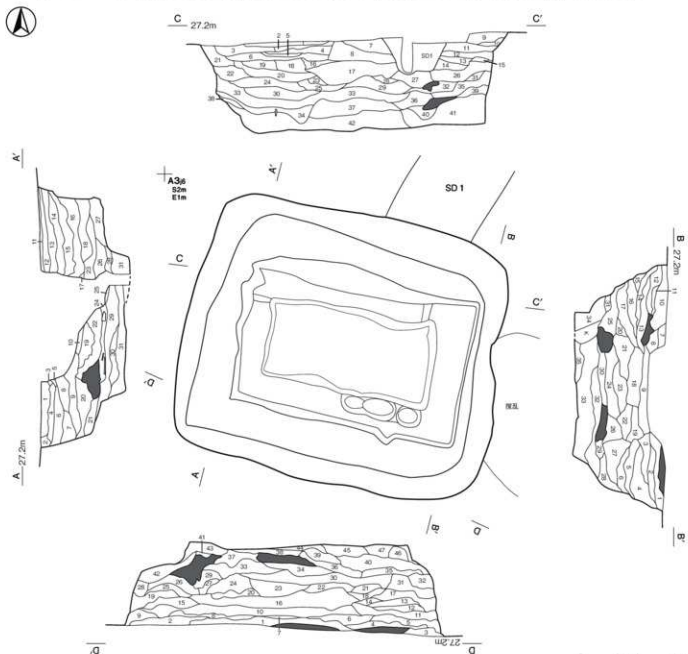
- TM3 主体部北土層解層**
- |    |            |                           |
|----|------------|---------------------------|
| 1  | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム小C、粘土、粘土小D/粘土、雜草       |
| 2  | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム段B、黑色土小C/粘土、雜草         |
| 3  | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム小C、黑色土小B/粘土、雜草         |
| 4  | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム中C、小B、粘土、黑色土小C/粘土、雜草   |
| 5  | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム小C、段C、黑色土小D/粘土、雜草      |
| 6  | 10YK4-4 埋藏 | ロ-ム小B/粘土、雜草               |
| 7  | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム中D、小B、黑色土小B/粘土、雜草      |
| 8  | 10YK4-4 埋藏 | ロ-ム中C、小C、黑色土段C/粘土、雜草      |
| 9  | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム小A、黑色土段C/粘土、雜草         |
| 10 | 10YK4-4 埋藏 | ロ-ム中A、粘土、雜草               |
| 11 | 10YK3-3 埋藏 | 粘土中A/粘土、雜草                |
| 12 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム小B/粘土、雜草               |
| 13 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム小C、段C、黑色土段C/粘土、雜草      |
| 14 | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム段C、粘土小C/粘土、雜草          |
| 15 | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム小B、粘土、黑色土段B/粘土、雜草      |
| 16 | 10YK4-4 埋藏 | ロ-ム中C、小B、黑色土段C/粘土、雜草      |
| 17 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム中D、小B、黑色土段C/粘土、雜草      |
| 18 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム中C、段C、黑色土段D/粘土、雜草      |
| 19 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム中C、小B、黑色土段C/粘土、雜草      |
| 20 | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム中D、小B、黑色土小C、粘土小D/粘土、雜草 |
| 21 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム中D、小C、黑色土段B、粘土小D/粘土、雜草 |
| 22 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム小C、黑色土小B、粘土段D/粘土、雜草    |
| 23 | 10YK4-4 埋藏 | ロ-ム小C、粘土、黑色土小C/粘土、雜草      |
| 24 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム小B、黑色土段B、粘土中D、段C/粘土、雜草 |
| 25 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム段C、黑色土段D/粘土、雜草         |
| 26 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム中D、黑色土段D/粘土、雜草         |
| 27 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム小B、黑色土段D、粘土小D/粘土、雜草    |
| 28 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム小C、段C、黑色土段C/粘土、雜草      |
| 29 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム中C、黑色土段C/粘土、雜草         |
| 30 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム段C、黑色土段C/粘土、雜草         |
| 31 | 10YK3-2 埋藏 | ロ-ム段D、黑色土段C、粘土段D/粘土、雜草    |
| 32 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム小B、黑色土小D、粘土小D/粘土、雜草    |
| 33 | 10YK3-2 埋藏 | 粘土小B/粘土、雜草                |
| 34 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム中C、黑色土段D/粘土、雜草         |
| 35 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム中C、黑色土段C/粘土、雜草         |
| 36 | 10YK3-3 埋藏 | ロ-ム小C、粘土段C/粘土、雜草          |
| 37 | 10YK3-4 埋藏 | ロ-ム小A、黑色土段C/粘土、雜草         |



第90图 第3号墳主体部実測図・遺物出土状況

コーナー部へ向かって浅くなり、後円部は南側中央部からくびれ部へ向かって浅くなる。東側は調査区外のため確認できなかった。

**主体部** くびれ部の中央部に位置する。掘方規模は、長軸3.34m、短軸2.88m、深さ0.94mの方形で、主軸方向はN-77°-Wである。石棺材は全て抜き取られており、覆土中から雲母片岩の破片のみが出土している。覆土はレンズ状に堆積しており、自然堆積である。底面には石材設置のための掘方が溝状に、深さ0.2mで確



TM3 主体部西側壁面出土土層断面 (Aライン)

1	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D、礫小D/粘土、礫目
2	10V10/2	赤褐色	ローム粘土	粘土、礫目
3	10V10/1	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
4	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
5	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
6	10V10/2	赤褐色	ローム小粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
7	10V10/2	赤褐色	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
8	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土小D <sup>+</sup> /礫小C <sup>+</sup> /粘土、礫目
9	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
10	10V10/4	堆	ローム中粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
11	10V10/6	堆	ローム小粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土小D <sup>+</sup> /礫小C <sup>+</sup> /粘土、礫目
12	10V10/2	赤褐色	ローム粘土	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
13	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
14	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
15	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
16	10V10/4	堆	ローム粘土	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目

17	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
18	10V10/2	赤褐色	ローム小粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
19	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
20	10V10/4	堆	ローム中粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土小D <sup>+</sup> /粘土、礫目
21	10V10/2	赤褐色	ローム中粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土中D <sup>+</sup> /粘土、礫目
22	10V10/6	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
23	10V10/4	堆	ローム中粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
24	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土小D <sup>+</sup> /礫小C <sup>+</sup> /粘土、礫目
25	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
26	10V10/2	赤褐色	ローム中粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
27	10V10/2	赤褐色	ローム中粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
28	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒C <sup>+</sup> /粘土、礫目
29	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
30	10V10/4	堆	ローム小粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土、礫目
31	10V10/4	堆	ローム中粒	赤色土粒D <sup>+</sup> /粘土小D <sup>+</sup> /礫小C <sup>+</sup> /粘土、礫目

第91図 第3号墳主体部掘方実測図

TM3 主体部東壁基土土層解説 (Bライン)

1	30YR2/3	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
2	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小C	/粘土、礫土	
3	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/硬砂D	/粘土、礫土
4	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小C	/粘土、礫土	
5	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
6	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
7	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
8	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
9	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
10	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
11	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
12	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
13	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
14	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
15	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
16	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
17	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	
18	30YR2/4	暗褐色	ローム小粒	黒色土小D	/粘土、礫土	

TM3 主体部北壁基土土層解説 (Cライン)

1	= Aライン11層				
2	30YR2/4	暗褐色	ローム小C	/粘土、黒色土粒D	/粘土、礫土
3	= Aライン12層				
4	30YR2/4	暗褐色	ローム小D	/粘土、黒色土粒C、土小C	/粘土、礫土
5	30YR2/3	暗褐色	ローム小C	/粘土、黒色土粒D	/粘土、礫土
6	= Aライン13層				
7	30YR2/3	暗褐色	ローム小C	/粘土、黒色土粒C、粘土土粒D	/粘土、礫土
8	30YR2/3	暗褐色	ローム中C	/小粒、黒色土小C	/粘土、礫土
9	= Bライン10層				
10	= Bライン11層				
11	= Bライン12層				
12	= Bライン13層				
13	30YR2/4	暗褐色	ローム小B	黒色土粒D	/粘土、礫土
14	30YR2/3	暗褐色	ローム小C	黒色土小C	/粘土、礫土
15	= Bライン11層				
16	30YR2/3	暗褐色	ローム小C	黒色土小C	/粘土、礫土
17	30YR2/3	暗褐色	ローム中B	/小粒、黒色土粒D	/粘土、礫土
18	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	/小粒、黒色土小C	/粘土、礫土
19	= Aライン14層				
20	= Aライン15層				
21	30YR2/4	暗褐色	ローム小B	黒色土粒C	/粘土、礫土

TM3 主体部南壁基土土層解説 (Dライン)

1	30YR2/3	暗褐色	ローム中C	小粒、黒色土粒D	/粘土、礫土	
2	= Aライン1層					
3	30YR2/4	暗褐色	ローム小A	黒色土粒C、レキ小D	/粘土、礫土	
4	= Bライン2層					
5	= Bライン3層					
6	30YR2/2	暗褐色	ローム小C	黒色土粒C	/粘土、礫土	
7	30YR2/3	暗褐色	ローム中C	レキ小D	/粘土、礫土	
8	= Aライン3層					
9	30YR2/3	暗褐色	ローム中C	黒色土粒C	/粘土、礫土	
10	= Aライン4層					
11	= Bライン3層					
12	= Bライン4層					
13	= Bライン5層					
14	30YR2/4	暗褐色	ローム小B	黒色土小C	/粘土、礫土	
15	= Aライン3層					
16	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	黒色土粒C	/粘土、礫土	
17	= Bライン6層					
18	30YR2/3	暗褐色	ローム中C	黒色土粒D	/粘土、礫土	
19	30YR2/2	暗褐色	ローム中C	黒色土小C	/レキ小D	/粘土、礫土
20	30YR2/2	暗褐色	ローム中C	粘土土粒C	/粘土、礫土	
21	30YR2/2	暗褐色	ローム小C	粘土土粒C	/粘土、礫土	
22	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	黒色土小D	/粘土、礫土	
23	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	黒色土小D	/粘土、礫土	
24	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	黒色土小D	/粘土、礫土	

19	30YR2/3	暗褐色	ローム小C	黒色土小D	/礫小D	/粘土、礫土
20	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	粘土	/粘土、礫土	
21	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
22	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
23	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
24	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
25	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
26	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
27	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
28	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
29	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
30	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
31	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
32	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	粘土	/粘土、礫土	
33	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	粘土	/粘土、礫土	
34	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	粘土	/粘土、礫土	
35	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	粘土	/粘土、礫土	

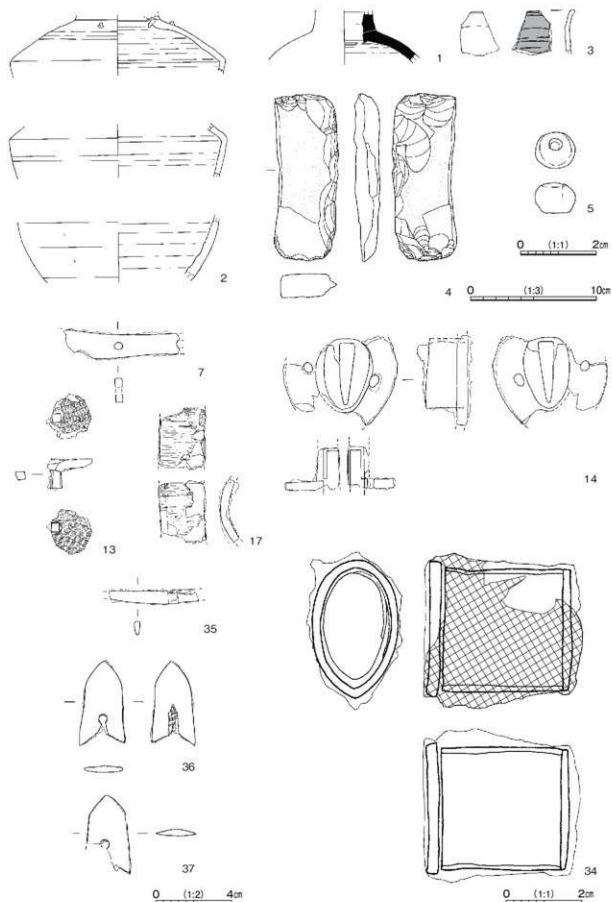
22	30YR2/4	暗褐色	ローム小C	黒色土粒D	/粘土、礫土	
23	30YR2/4	暗褐色	ローム小B	黒色土粒D	/粘土、礫土	
24	= Aライン16層					
25	30YR2/2	暗褐色	ローム中C	/粘土、黒色土粒C	/粘土、礫土	
26	= Aライン16層					
27	30YR2/3	暗褐色	ローム中C	/粘土、黒色土小C	/粘土土粒D	/粘土、礫土
28	30YR2/3	暗褐色	ローム小C	黒色土小D	/粘土、礫土	
29	30YR2/4	暗褐色	ローム小B	黒色土粒D	/粘土、礫土	
30	= Aライン25層					
31	= Aライン26層					
32	30YR2/3	暗褐色	ローム小C	/粘土、黒色土粒C	/粘土土粒D	/粘土、礫土
33	= Aライン26層					
34	30YR2/4	暗褐色	ローム小B	黒色土粒D	/粘土、礫土	
35	30YR2/3	暗褐色	ローム小A	黒色土小D	/粘土、礫土	
36	30YR2/2	暗褐色	ローム小C	黒色土小D	/粘土、礫土	
37	30YR2/4	暗褐色	ローム中A	黒色土小D	/粘土、礫土	
38	30YR2/4	暗褐色	ローム小A	黒色土粒D	/粘土、礫土	
39	= Bライン					
40	30YR2/4	暗褐色	ローム小B	粘土土粒D	/粘土、礫土	
41	= Bライン24層					
42	= Aライン21層					

25	= Aライン9層					
26	30YR2/3	暗褐色	ローム小B	/粘土、礫土		
27	30YR2/4	暗褐色	ローム小B	/粘土、礫土		
28	30YR2/3	暗褐色	ローム中B	粘土土粒D	/粘土、礫土	
29	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	小粒、黒色土小D	/粘土、礫土	
30	= Bライン27層					
31	30YR2/3	暗褐色	ローム中C	小粒、黒色土小C	/粘土、礫土	
32	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	黒色土小D	/粘土、礫土	
33	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	黒色土小D	/粘土、礫土	
34	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	黒色土小D	/粘土、礫土	
35	= Bライン29層					
36	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	黒色土粒C	/粘土、礫土	
37	30YR2/4	暗褐色	ローム中C	黒色土粒C	/粘土土粒D	/粘土、礫土
38	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	粘土土粒D	/粘土、礫土	
39	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	粘土土粒D	/粘土、礫土	
40	= Bライン30層					
41	30YR2/3	暗褐色	ローム中A	粘土土粒D	/粘土、礫土	
42	30YR2/3	暗褐色	ローム中B	粘土土粒D	/粘土、礫土	
43	= Aライン31層					
44	30YR2/4	暗褐色	ローム中B	粘土土粒D	/粘土、礫土	
45	30YR2/3	暗褐色	ローム中B	粘土土粒D	/粘土、礫土	
46	30YR2/3	暗褐色	ローム中B	粘土土粒D	/粘土、礫土	
47	= Bライン33層					

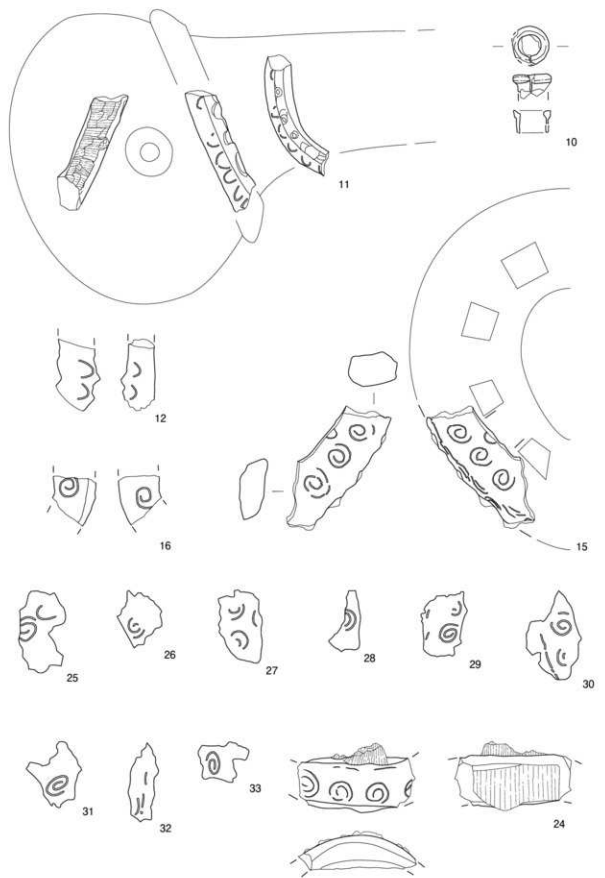
認でき、板石を組んだ箱式石棺であったと推定される。石棺の規模は、掘方底面の形状や残っていた表込め土から、長軸 23 m、短軸 1.3 m 以下、深さ 0.8 m 以上と推定される。主体部西壁は、石棺材を抜き取る際にできたと考えられる掘乱を受けている。

**出土遺物** 主体部覆土中から、土師器片 1 点（長頸瓶）、灰釉陶器片 2 点（短頸壺、瓶類）、石器 1 点（打製石斧）、石製品 1 点（丸玉）、金属製品片 110 点（直刀 4、鳩目金具 1、責金具 2、目釘 1、八憲鐸 1、鐸 2、鍔 17、鞘尻 1、刀子 1、鉄鏃 27、不明鉄製品 53）、ガラス製品 112 点（小玉）が出土している。10 は柄頭の懸通孔の鳩目金具で、鉄地金銅張である。11 は柄頭の責金具で、内面に残る木質の木目が金具に対して斜方向に入っていることから、頭椎大刀の柄頭の一部と考えられる。11・12 には羽状文の銀象嵌が施されており、同一個体と考えられるが接点はない。15 は、表裏に渦巻き状、側面に直線状の銀象嵌が施されている。折れの箇所や象嵌の施されている位置から八憲鐸と考えられる。16 にも同じ銀象嵌が確認でき同一個体と考えられる。34 は、鞘尻金具で、筒状の鞘尻金具と責金具、鞘尻板で構成されている。責金具は鉄地金銅張で緑青が浮き腐食が激しい。鞘尻金具側面には布状物質が付着している。内部には鞘木の一部と鞘木を固定するための糸が巻き付けられている。ガラス小玉は、いずれも主体部覆土を篩いにかけて回収した。そのうち 4 点の科学分析を行った。

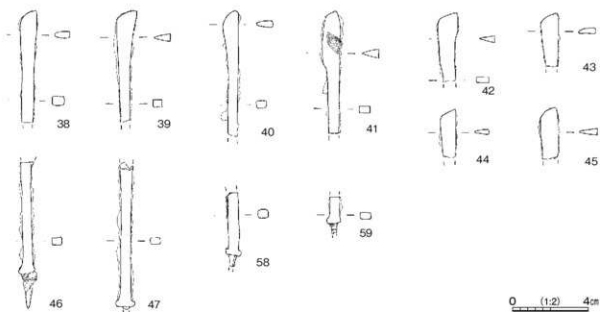
**所見** 時期は、埴形や埴輪が伴わず、刀装具の特徴から、6 世紀末～7 世紀初頭と推定される。



第92図 第3号墳出土遺物実測図(1)



第 93 图 第 3 号坑出土遗物实测图 (2)



1区



3区



4区



清浄土



0 (1:1) 2cm

第94図 第3号墳出土遺物実測図(3)

第75表 第3号墳出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	須石部	長形板	—	(4.2)	—	長石・石莖	10YR7/3 灰白-黄緑	良好	断面内・内面一部に自然焼 (5YR5-2灰オリーブ)	手付部 腹上層	
2	灰陶器部	瓶型	—	(4.9)	—	長石・石莖	2.5YR7/2 灰黄	良好	三段焼成 断面縁部接合面 外面下部陥へく陥り	主体部 腹上層	
3	灰陶器部	短筒型	—	(3.5)	—	長石・石莖	2.5YR7/1 灰白	良好	断面内面に焼	手付部 腹下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4	打製石斧	13.2	5.0	2.0	188.07	流紋岩	3方向に刃部形成 背側自然礫面		腹上層 腹中層		
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	丸玉	1.0	0.3	0.8	1.08	流紋岩			腹上層 腹中層	PL34	
番号	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	特徴		出土位置	備考	
6	直刀	61.05	25.87	5.79	(13.28)	鉄	刀身 木質付着 両部・背縁部折れ 片面割れ		1F5X 1F6X 1F7X	PL35	
7	直刀	(60.66)	(16.07)	(4.41)	(12.00)	鉄	鍔部 刀身側の目釘孔に目釘が残存。茎尻側の目釘孔は折れ。両端部折れ		2区4区 3区4区 4区5区	PL35	
8	直刀*	37.09	16.85	3.80	(26.1)	鉄	刀身 刀先* 折れ		1F5X 1F6X 1F7X	計測のみ	
9	直刀*	22.32	21.04	5.08	(3.67)	鉄	刀身 木質付着 折れ		3区5区 3区6区 3区7区	計測のみ	
10	埴土片	7.00	10.00	10.00	(0.56)	鉄	鉄地金銅製 網織の懸象		1F5X 1F6X 1F7X	PL35	
11	鍔金具	(34.97)	(11.04)	(9.45)	(3.82)	鉄	鉄地金の鍔象 裏面付着木材の木目が斜方向であることから「網織大刀」の柄首下の鍔金具* 両端部折れ		1F5X 1F6X 1F7X	PL35	
12	鍔金具*	(19.10)	(12.07)	—	(2.03)	鉄	羽状金の鍔象 11と同一形状* 両端部折れ		1F5X 1F6X 1F7X	PL35	
13	目釘	23.68	23.51	16.72	(4.80)	鉄	柄部木質付着		1F5X 1F6X 1F7X	PL36	
14	網	48.44	61.33	22.10	(47.00)	鉄	網外面に鍔口金と考えられる金属付着 網内部に柄部の木質付着 網部に凹形状の意を 認められ 網折れ		1F5X 1F6X 1F7X	PL36	
15	八重巻	(34.33)	(24.06)	(6.09)	(11.38)	鉄	両面に渦巻文・舞面に二重羽状文の鍔象 両端部折れ		1F5X 1F6X 1F7X	PL35	
16	網*	(12.98)	(11.30)	(7.97)	(2.98)	鉄	両面に渦巻文・舞面に渦巻状の鍔象 15と同一形状* 両端部折れ		1F5X 1F6X 1F7X	PL35	
17	網	(25.04)	(22.70)	5.11	(7.96)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		1F5X	PL36	
18	網	16.48	16.91	3.35	(3.31)	鉄	内外面に木質付着 折れ		1F5X	計測のみ	
19	網	30.34	19.20	5.03	(3.15)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		1F6X	PL36	
20	網	25.67	16.13	7.20	(3.20)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		1F6X	PL36	
21	網	17.59	12.66	5.60	(1.80)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		3区5区	計測のみ	
22	網	16.72	12.51	4.35	(0.98)	鉄	内外面に木質付着 折れ		4区5区	計測のみ	
23	網*	28.23	22.57	4.11	(3.73)	鉄	内外面に木質付着 柄部との接合部 折れ		腹上層	PL36	
24	網*	(31.24)	(19.02)	9.30	(5.75)	鉄	表面に渦巻文の鍔象 網の木質付着*		4区4区	PL37	
25	網*	(21.96)	(12.12)	(1.92)	(0.87)	鉄	表面に渦巻文の鍔象 両端部折れ		1F6X	PL37	
26	網*	(15.84)	(12.05)	(2.91)	(0.65)	鉄	表面に渦巻文の鍔象		1F6X	PL37	
27	網*	(19.22)	(11.80)	(3.15)	(1.03)	鉄	表面に渦巻文・端部に羽状文の鍔象		2区4区	PL37	
28	網*	(16.21)	(8.98)	(3.16)	(0.62)	鉄	表面に渦巻文の鍔象		2区4区	PL37	
29	網*	(18.43)	(12.80)	(5.28)	(1.38)	鉄	表面に渦巻文・端部に羽状文の鍔象		2区5区	PL37	
30	網*	(22.82)	(14.88)	(2.03)	(1.48)	鉄	表面に渦巻文・端部に羽状文の鍔象		3区3区	PL37	
31	網*	(17.17)	(14.81)	(3.27)	(1.14)	鉄	表面に渦巻文の鍔象		3区5区	PL37	
32	網*	(20.93)	(7.98)	(2.11)	(0.81)	鉄	表面に渦巻文*・端部に羽状文の鍔象		3区5区	PL37	
33	網*	(10.29)	(13.16)	(1.14)	(0.36)	鉄	表面に渦巻文の鍔象 保存処理時にクリーニング作業を行ったが鍔象は目視できず 他の鍔象が検出された遺物はクリーニングせず		3区5区	PL37	
34	網状	40.93	36.45	23.14	32.80	鉄	網口金には鉄製金銅製 網口金には下方がやが突る楕円形 網口金には鉄製金具付着 外面片側に木質付着 内面に網木*。それを固定するための糸付着		1F7層	PL37	
35	刀身	(47.58)	(8.24)	(3.03)	(3.29)	鉄	刀身から茎部 断面に木質付着 両端部折れ		3区5区 4区5区	PL36	
36	網	45.04	24.29	4.24	6.25	鉄	無茎象 X 網厚薄では中央部に目釘孔が確認できるが矢柄木質がふさいでいる 茎部四方折れ		3区5区	PL36	
37	網	(42.11)	(24.10)	(3.38)	(4.80)	鉄	無茎象 X 網厚薄では中央部に目釘孔が確認できるが矢柄木質がふさいでいる 茎部四方折れ		2区5区	PL36	
38	網	(59.56)	9.21	(5.04)	(5.70)	鉄	拡張部 網身長19.03mm 幅0.9mm 厚さ3.92mm 断面残長40.26mm 幅6.28mm 厚さ5.18mm 茎部欠損		2区5区 3区4区	PL36	
39	網	(59.07)	4.12 ~ 11.42	(2.47)	(4.53)	鉄	拡張部 網身長25.28mm 幅1.1mm 厚さ3.79mm 幅6.40mm 厚さ2.97mm 茎部欠損		2区5区 3区4区	PL36	
40	網	(67.40)	9.13	3.89	(5.74)	鉄	拡張部 網身長27.27mm 幅0.9mm 厚さ4.18mm 断面残長33.79mm 幅5.40mm 厚さ4.30mm 茎部欠損		1F6X	PL36	
41	網	(65.17)	5.30 ~ 9.35	4.38	(6.88)	鉄	拡張部 網身長30.12mm 幅0.9mm 厚さ4.03mm 断面残長35.05mm 幅6.21mm 厚さ3.85mm 茎部欠損		2区5区 4区6区	PL36	
42	網	(35.57)	6.32 ~ 11.40	4.06	(3.86)	鉄	拡張部 網身長 断面部・茎部欠損		1F6X 1F7X	PL36	
43	網	(28.11)	9.16	4.09	(2.77)	鉄	拡張部 網身長 断面部・茎部欠損		2区5区	PL36	
44	網	(26.27)	9.68	3.32	(2.18)	鉄	拡張部 網身長 断面部・茎部欠損		腹上層	PL36	
45	網	(26.64)	9.16	4.06	(3.15)	鉄	拡張部 網身長 断面部・茎部欠損		腹上層	PL36	
46	網	(28.22)	9.94	4.09	(5.95)	鉄	拡張部 断面部から茎部 網身長19mm 幅5mm 断面部8mm 茎部長19mm 茎部固定金銅製		4区6区		
47	網	(77.95)	10.36	4.24	(7.67)	鉄	拡張部 網身長27.27mm 幅0.9mm 厚さ4.18mm 断面残長45.13mm 幅5.40mm 厚さ4.30mm 茎部欠損		2区5区 3区5区		
48	網	63.78	6.50	4.85	(6.28)	鉄	拡張部 断面部破片		2区5区 3区5区	計測のみ	
49	網	41.42	6.19	5.44	(3.03)	鉄	拡張部 断面部破片		3区8層	計測のみ	



番号	図種	径 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
50	鏃	3039	891	473	(297)	鉄	鉄製鏃 鏃部破片	4区5X・6X	計測のみ
51	鏃	3644	812	508	(330)	鉄	鉄製鏃 鏃部破片	鏃下部	計測のみ
52	鏃	3646	1170	810	(332)	鉄	鉄製鏃 鏃部破片	2区4X	計測のみ
53	鏃	3447	789	579	(279)	鉄	鉄製鏃 鏃部破片	4区6X	計測のみ
54	鏃	2572	938	519	(242)	鉄	鉄製鏃 鏃部破片	1区5X	計測のみ
55	鏃	2601	744	586	(260)	鉄	鉄製鏃 鏃部破片	鏃下部	計測のみ
56	鏃	1888	774	488	(131)	鉄	鉄製鏃 鏃部破片	3区埋土上	計測のみ
57	鏃	1429	644	508	(094)	鉄	鉄製鏃 鏃部破片	2区埋土	計測のみ
58	鏃	(4006)	797	494	(354)	鉄	鉄製鏃 鏃部から鏃身欠損 鏃部残長 34mm 幅 6mm 鏃部幅 8mm 鏃部残長 6mm 鏃部にあきがつわかに残る	4区6X	PL36
59	鏃	(1972)	745	392	(165)	鉄	鉄製鏃 鏃部から鏃身欠損 鏃部残長 14mm 幅 5mm 鏃部幅 9mm 鏃部にあきがつわかに残る	鏃下部	PL36
60	鏃	3541	763	448	(138)	鉄	鏃部修復後 鏃部折れ	1区6X・4区5X	計測のみ
61	鏃	1911	436	252	(055)	鉄	鏃部修復後 鏃部折れ	3区5X	計測のみ
62	鏃	3159	214	297	(222)	鉄	鏃部修復後 鏃部折れ	2区5X	

番号	図種	径 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	特徴	出土位置	備考
116	小玉	3.8	1.6	1.0	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	1区1 X	PL38
117	小玉	3.8	1.6	1.5	0.02	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 欠け	1区3 X	PL38
118	小玉	3.2	2.0	1.0	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	1区3 X	PL38
119	小玉	4.0	1.3	1.6	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 未溶解ガラス片による凹凸	1区4 X	PL38
120	小玉	3.6	1.4	1.0	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	1区4 X	PL38
121	小玉	3.5	1.7	1.1	0.02	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	1区4 X	PL38
122	小玉	3.5	2.2	1.2	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 溶解不十分	1区4 X	PL38
123	小玉	3.5	1.9	1.0	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	1区5 X	PL38
124	小玉	3.9	2.2	1.2	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	1区5 X	PL38
125	小玉	4.0	2.4	1.2	0.05	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	1区6 X	PL38
126	小玉	3.8	2.2	1.0	0.06	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	1区6 X	PL38
127	小玉	3.8	2.0	1.0	0.06	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	1区6 X	PL38
128	小玉	4.0	1.8	1.4	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 溶解不十分	1区6 X	PL38
129	小玉	3.8	1.9	1.1	0.05	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	1区6 X	PL38
130	小玉	3.6	1.8	1.2	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	1区6 X	PL38
131	小玉	3.6	1.8	1.0	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	1区6 X	PL38
132	小玉	3.6	1.4	1.1	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	1区6 X	PL38
133	小玉	3.8	2.2	1.4	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	1区6 X	PL38
134	小玉	4.0	2.0	1.8	0.05	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 一部欠け	1区6 X	PL38
135	小玉	3.6	1.9	1.6	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	1区6 X	PL38
136	小玉	3.3	1.7	1.3	0.02	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 溶解不十分	1区6 X	PL38
137	小玉	3.8	2.4	1.1	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 一部欠け	1区9 遺跡	PL38
138	小玉	3.8	2.0	1.0	0.05	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 一部欠け	1区9 遺跡	PL38
139	小玉	3.7	2.0	1.5	0.30	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞	1区9 遺跡	PL38
140	小玉	1.8	2.0	1.2	0.01	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞	1区6 X	PL38
141	小玉	3.8	2.0	1.3	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 溶解不十分	1区6 X	PL38
142	小玉	3.8	2.0	1.2	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 一部欠け	1区6 X	PL38
143	小玉	3.4	2.0	0.9	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 一部欠け	2区9 遺跡 経路跡 PL38	
144	小玉	3.4	1.9	1.2	0.02	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	2区1 X	PL38
145	小玉	3.6	2.0	1.2	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	2区1 X	PL38
146	小玉	3.4	2.4	1.2	0.01	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	2区2 X	PL38
147	小玉	3.6	2.4	1.6	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	2区2 X	PL38
148	小玉	4.0	2.6	1.2	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 溶解不十分	2区3 X	PL38
149	小玉	4.0	2.6	1.2	0.06	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	2区3 X	PL38
150	小玉	3.6	2.3	1.3	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	2区3 X	PL38
151	小玉	4.0	2.4	1.4	0.06	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ	2区4 X	PL38
152	小玉	5.0	2.3	1.2	0.06	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ	2区4 X	PL38
153	小玉	4.0	2.4	1.0	0.05	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	2区4 X	PL38
154	小玉	4.0	2.4	1.2	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	2区4 X	PL38
155	小玉	3.8	1.2	1.9	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	2区5 X	PL38
156	小玉	4.0	2.1	1.4	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	2区5 X	PL38
157	小玉	3.6	2.1	1.2	0.02	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け	2区5 X	PL38
158	小玉	3.8	2.2	1.3	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 未溶解ガラス片による凹凸	2区5 X	PL38
159	小玉	3.8	2.3	1.2	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	2区5 X	PL38
160	小玉	3.9	2.0	1.0	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	2区5 X	PL38
161	小玉	3.4	1.4	1.2	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け 未溶解ガラス片による凹凸	3区4 X	経路跡 PL38
162	小玉	3.2	1.3	1.0	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	3区3 X	PL38
163	小玉	3.7	2.4	1.0	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	3区3 X	PL38
164	小玉	3.8	2.3	1.2	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	3区5 X	PL38
165	小玉	3.8	2.4	1.1	0.04	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 一部欠け	3区5 X	PL38
166	小玉	3.2	2.0	1.4	0.02	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	3区5 X	PL38
167	小玉	4.0	2.3	1.2	0.05	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	3区5 X	PL38
168	小玉	3.4	2.0	1.4	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	3区5 X	PL38
169	小玉	3.4	1.7	1.1	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	3区5 X	PL38
170	小玉	3.2	1.9	1.0	0.02	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 一部欠け	3区5 X	PL38
171	小玉	3.6	2.0	1.2	0.03	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 一部欠け 未溶解ガラス片による凹凸	3区5 X	PL38
172	小玉	3.5	1.9	1.2	0.02	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による凹凸	3区5 X	PL38
173	小玉	4.0	2.4	1.6	0.06	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	3区5 X	PL38
174	小玉	3.6	1.3	1.0	0.05	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	3区5 X	PL38
175	小玉	4.4	2.4	1.4	0.05	不明	鍍金 → 細かな気泡の充塞 孔内凹凸	3区5 X	PL38

番号	器種	径 (mm)	厚さ (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	材 質	特 徴	出土位置	備 考
176	小玉	3.6	2.0	1.4	0.02	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	3区5X	PL38
177	小玉	3.6	2.2	1.4	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満	3区5X	PL38
178	小玉	3.4	1.8	1.2	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	3区5X	PL38
179	小玉	3.8	2.4	1.2	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	3区5X	PL38
180	小玉	3.0	1.6	1.0	0.02	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	3区5X	PL38
181	小玉	4.2	2.2	1.2	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
182	小玉	3.8	1.8	1.4	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区5X	PL38
183	小玉	3.8	1.9	1.6	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 未溶解ガラス片による四凸	4区4X	PL38
184	小玉	3.7	2.2	1.2	0.02	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による四凸	4区5X	PL38
185	小玉	3.6	2.0	1.4	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区5X	PL38
186	小玉	0.09	0.09	0.09	0.011	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
187	小玉	0.40	0.09	0.09	0.041	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
188	小玉	4.0	2.6	1.2	0.06	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	4区6X	PL38
189	小玉	3.6	2.8	1.0	0.06	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	4区6X	PL38
190	小玉	3.8	2.7	1.2	0.06	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	4区6X	PL38
191	小玉	3.8	2.4	1.2	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 溶解不十分	4区6X	PL38
192	小玉	3.6	2.6	1.4	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	4区6X	PL38
193	小玉	3.5	2.3	1.1	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有 溶解不十分	4区6X	PL38
194	小玉	3.4	1.7	1.2	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
195	小玉	3.3	1.6	1.0	0.01	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 溶解不十分	4区6X	PL38
196	小玉	3.6	2.0	1.4	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
197	小玉	3.4	1.8	1.0	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 溶解不十分	4区6X	PL38
198	小玉	3.3	2.1	1.0	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	4区6X	PL38
199	小玉	3.2	1.9	1.1	0.02	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 未溶解ガラス片による四凸	4区6X	PL38
200	小玉	3.8	2.4	1.2	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	4区6X	PL38
201	小玉	3.6	2.0	1.0	0.02	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
202	小玉	3.6	2.5	1.0	0.05	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	4区6X	PL38
203	小玉	3.4	2.2	1.2	0.05	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
204	小玉	3.2	2.6	1.6	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 一部光沢有	4区6X	PL38
205	小玉	4.0	2.6	1.4	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	4区6X	PL38
206	小玉	3.7	2.2	1.4	0.05	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
207	小玉	3.4	1.7	1.0	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 不規則な色ムラ	4区6X	PL38
208	小玉	3.7	2.3	1.6	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
209	小玉	3.7	2.2	1.0	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
210	小玉	3.5	2.1	1.4	0.02	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 溶解不十分	4区6X	PL38
211	小玉	3.6	1.9	1.6	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
212	小玉	3.5	2.2	1.2	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
213	小玉	3.4	2.1	1.2	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	4区6X	PL38
214	小玉	3.5	1.7	1.3	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
215	小玉	3.6	1.2	1.3	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
216	小玉	3.6	2.3	1.4	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
217	小玉	3.2	1.7	1.1	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 不規則な色ムラ 未溶解ガラス片による四凸	4区6X	PL38
218	小玉	4.0	2.7	1.2	0.05	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
219	小玉	3.7	2.5	1.1	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 溶解不十分	4区6X	PL38
220	小玉	3.8	2.4	1.4	0.05	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	4区6X	PL38
221	小玉	3.8	2.6	1.0	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 不規則な色ムラ 溶解不十分	4区6X	PL38
222	小玉	4.2	2.1	1.4	0.04	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38
223	小玉	3.4	1.7	1.2	0.02	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 未溶解ガラス片による四凸	4区6X	PL38
224	小玉	3.4	2.1	1.0	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 未溶解ガラス片による四凸	4区6X	PL38
225	小玉	3.4	2.3	1.0	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 未溶解ガラス片による四凸	4区6X	PL38
226	小玉	3.6	2.2	1.2	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸 一部光沢有	4区6X	PL38
227	小玉	3.6	1.8	1.2	0.03	不明	陶造 ※ 細かな気泡の充満 孔内四凸	4区6X	PL38

## (2) 上境滝の古台墳群出土鉄製品蛍光 X 線分析報告

埋蔵文化財の保存処理 いしかわ

はじめに

本分析調査では、上境滝の古台墳群から出土した象嵌の施された鉄製品について、蛍光 X 線分析装置による元素マッピング分析を行い、象嵌の材質を検討した。

### 1. 試料

分析対象試料は、板状を呈する鉄製品の一部で、表面には広く錆が認められるもの、片面の所々に象嵌が認められる。

### 2. 分析方法

分析は、非破壊で鉄製品外面の元素マッピング分析、および特徴的な箇所のポイント分析(照射径 100 μm)を行った。測定には、蛍光 X 線分析装置の一種である株式会社堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000Type II を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1.00mA のロジウム (Rh) ターゲット、X 線ビーム径が 100 μm または 10 μm

m. X線検出器は高純度 Si 検出器で、検出可能元素はナトリウム (Na) ～ウラン (U) である。本装置は、試料ステージを走査させながらの測定により、元素マッピング分析が可能となる。元素マッピング分析を行った後、得られたマッピング図を基に特徴的な組成の箇所を選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析では管電圧 50kV、管電流 1.00mA、ビーム径 100  $\mu$ m、測定時間 18000s を 1 回走査、ポイント分析では管電圧 50kV、管電流自動設定、ビーム径 100  $\mu$ m、測定時間 1000s に設定した。定量分析は、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を装置付属ソフトで行った。得られた値は、合計が 100% になるようノーマライズされている。

蛍光 X 線分析は、表面分析であり、均質とは限らない金属製品の正確な組成比を必ずしも示しているとはいえないが、おおよその組成、含まれている微量元素を知る上では有効な手法である。ポイント分析により得られた結果は、厳密な値の比較検討には適しておらず、おおまかな、定性的な結果としてとらえる必要がある。

### 3. 結果および考察

鉄製品の元素マッピング分析により得られた鉄 (Fe)、銅 (Cu)、銀 (Ag)、金 (Au)、水銀 (Hg) の元素マッピング図を図版 1 に、マッピング図に示した a～f の各ポイントの半定量分析結果を表 1 に示す。ポイント分析では、鉄 (Fe)、銅 (Cu)、臭素 (Br)、銀 (Ag) が検出された。

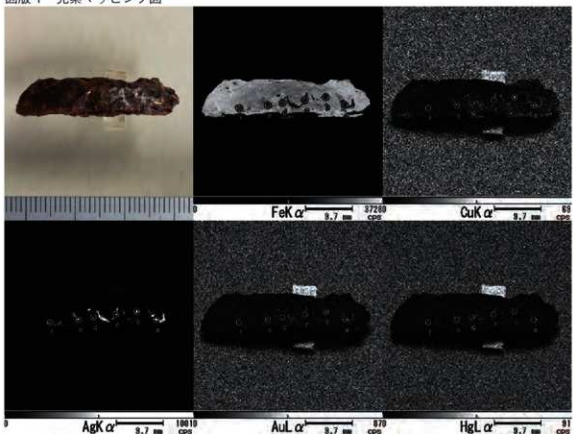
表 1 各ポイントの半定量分析結果 (mass%)

位置	Fe	Cu	Br	Ag
a	6.92	0.19	—	92.89
b	9.75	0.24	—	90.00
c	11.11	0.05	0.46	88.38
d	34.82	—	3.78	61.40
e	88.70	0.17	0.50	10.63
f	56.37	—	7.19	36.43

元素マッピング分析の結果、鉄 (Fe) の輝度が低く、銀 (Ag) の輝度が高い箇所が確認された。銀 (Ag) の輝度の高い箇所のポイント分析の結果、銀 (Ag) と鉄 (Fe) が主に検出された。鉄 (Fe) は、象嵌周囲の地の部分から検出されたものと考えられ、鉄製品に施された象嵌は、銀と考えられる。

なお、元素マッピング図では、金 (Au) や水銀 (Hg) も、銀 (Ag) と同じ位置で輝度が若干高い現象がみられた。しかし、ポイント分析では金 (Au) も水銀 (Hg) もピークが検出されず、検出限界以下と確認された。この現

図版 1 元素マッピング図



Fe: 鉄 Cu: 銅 Ag: 銀 Au: 金 Hg: 水銀

象は、測定位置のマトリックスの違いでバックグラウンド強度に差が表れたため生じたと考えられる。銅 (Cu) のマッピング図においても、金 (Au) や水銀 (Hg) と同様の現象が起きていると考えられるが、銅 (Cu) はポイント分析でもわずかに検出されており、象嵌の銀中に少量の銅が含まれていた可能性がある。ただし、銀 (Ag) と銅 (Cu) の半定量分析結果は必ずしも相関があるとはいえず、地の鉄製品中にも銅 (Cu) は少量含有されているため、鉄 (Fe) と同様に象嵌周囲の地の部分の銅 (Cu) を検出している可能性もある。また、臭素 (Br) は銀 (Ag) と反応しやすい元素で、象嵌表面に臭化銀を形成していると考えられる。

### (3) 上境滝の台古墳群出土木質付着鉄製品の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

#### I. 鉄製品付着の樹種同定

##### 1. 試料

樹種同定用試料は、不明鉄製品 (No.28) と切刃 (No.82) であるが、No.82は両面 (表裏) から採取するので、合計3点である。目立たないようにごく少量の試料を採取し、電子顕微鏡観察を行う。

##### 2. 分析方法

目立たないようにごく少量の試料を採取し、剃刀を用いて木口 (横断面)・柃目 (放射断面)・板目 (接線断面) の3断面を作成。カーボンでコーティングしたあと、電子顕微鏡で木材組織や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、鳥地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

##### 3. 結果

不明鉄製品 (No.28) 付着の木材は、放射組織、仮道管がみられ、道管に壁孔が配列しているなど針葉樹の特徴を示すが、保存が悪いことから、詳細は不明である。

切刃 (No.82) の木材は、採取試料が微細で年輪境界の情報はわからないが、軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型〜トウヒ型で、1分野に2〜3個。放射組織は単列1-15細胞高である。これらの形状から、ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (SiebetZucc.) Endlicher) に同定される。

伊東・山田編 (2012) 木材利用データベースによれば、刀の鞘や装飾具に使う木材は多岐にわたるが、ヒノキなど針葉樹が使われる例も多い。比較的軽くて丈夫、加工がしやすく狂いにくいという、ヒノキ材の特性を生かしたものだと思われる。

#### II. 鉄製品付着の布状圧痕鑑定

##### 1. 試料

布状圧痕を観察する試料は、鞘尻金具 (No.106) に巻き付けてある布状物質1点である。

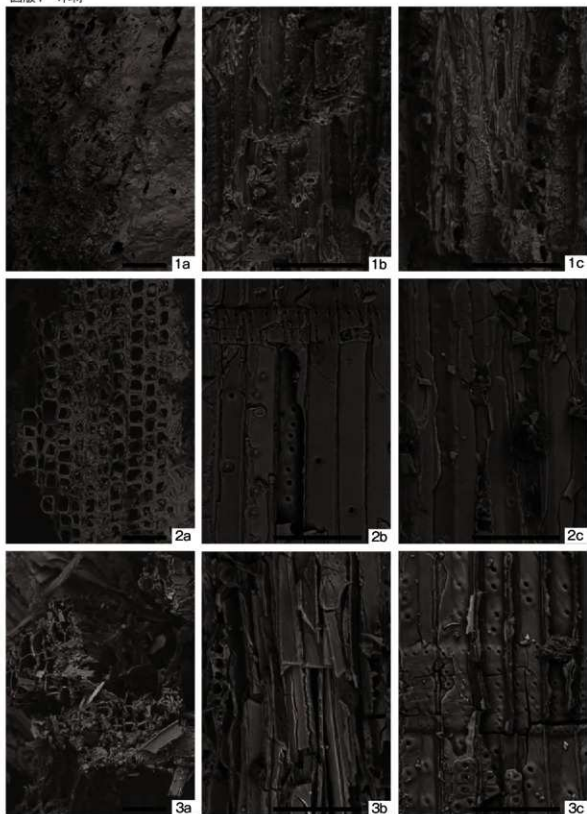
##### 2. 分析方法

マイクロスコープ (キーエンス製 VHX-1000) により表面観察を行い、同時に写真撮影を行う。

##### 3. 結果

マイクロスコープによる観察の状況を図版4に示す。布状物質は、0.5mm程度の撚糸を平織にして作られている。撚糸に用いられている繊維は、均質で長く、太さは30 $\mu$ m (0.03mm) ほどである。太さが均質で長いこと、織

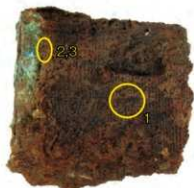
図版1 木材



1. 針葉樹(No.28)
2. ヒノキ(No.82 表)
3. ヒノキ(No.82 裏)

スケールは100 $\mu$ m  
a:木口 b:柁目 c:板目

図版2 試料外観・マイクロスコブ写真



試料(No.106)

10mm



マイクロスコブ像1(No.106)

1mm



マイクロスコブ像2(No.106)

0.5mm



マイクロスコブ像3(No.106)

0.5mm



試料(No.28)

10mm



試料 表(No.82)

10mm



試料 裏(No.82)

10mm

青丸は同定用試料採取位置

維が細いこと、劣化して黄変していることから、おそらく絹糸と思われる(劣化で黄色に変色するのは絹糸の特徴であるが、鉄分による変色の可能性もある)。ただし、確定するためには電子顕微鏡による詳細な形状観察を行う必要がある。

## 引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所。  
 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181。  
 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176。  
 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201。  
 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166。  
 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216。  
 伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース, 海青社, 449p。  
 Richter,H.G., Grosser,D., Heinzl, and Gasson,P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p。[Richter,H.G., Grosser,D., Heinzl, and Gasson,P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].  
 高池 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p。  
 Wheeler,E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之(佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p。[Wheeler,E.A., Bass,P. and Gasson,P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

## (4) 上境滝の台古墳群出土のガラス小玉等の蛍光 X 線分析

株式会社イビソク

## 1. はじめに

つくば市上境に所在する上境滝の台古墳群より出土したガラス小玉等について、蛍光 X 線分析による元素分析を行い、材質の検討を行った。

## 2. 試料と方法

分析対象は、第3号墳主体部内より出土した4点のガラス小玉である(表1)。時期は古墳時代とみられている。分析装置はエスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000  $\mu$  A のロジウム(Rh)ターゲット、X線照射径が8mmまたは1mm、X線検出器はSDD検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム(Na)～ウラン(U)であるが、ナトリウム、マグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)といった軽元素は、蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが15kV(一次フィルタ無し)・50kV(一次フィルタPb測定用・Cd測定用)の計3条件で、測定時間は各条件500～1700s、管電流自動設定、照射径1mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。得られる半定量値は、同装置での測定結果を相対的に比較するための値である。

試料は、実体顕微鏡下での観察後、非破壊で測定した。実体顕微鏡観察は、主にエタノール浸漬状態で、透過光下で行った。分析No.1は、不透明なため、エタノール浸漬せず、落射光下で観察した。なお、ガラス製造物は、透明で風化がないように見える箇所でも表面の風化が進んでおり、酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O)、酸化カリウム(K<sub>2</sub>O)の減少など表面の化学組成に変化が生じている(肥塚, 1997)。人為的に露出させた完全な新鮮面でない場合は、解釈の際に風化の影響を考慮する必要がある。

## 3. 分析結果

実体顕微鏡観察の結果、分析No.2～4はガラス中に気泡が多く観察された(図版1)。分析No.1は、不透明で石裂と判断された。分析No.3, 4は、表面がいがびつであった。

蛍光 X 線分析により得られた半定量値を表2に示す。なお、表では考察で述べる化学組成上の分類に従って試料の順番を並べ替えている。分析の結果、分析No.1以外の3点はアルカリ金属と二酸化ケイ素(SiO<sub>2</sub>)を主成分とするアルカリ珪酸塩ガラスに分類され、分析No.1は石裂と確認された。

検出できた元素は試料によって異なるが、酸化ナトリウム( $\text{Na}_2\text{O}$ )、酸化マグネシウム( $\text{MgO}$ )、酸化アルミニウム( $\text{Al}_2\text{O}_3$ )、二酸化ケイ素( $\text{SiO}_2$ )、酸化リン( $\text{P}_2\text{O}_5$ )、酸化硫黄( $\text{SO}_3$ )、酸化カリウム( $\text{K}_2\text{O}$ )、酸化カルシウム( $\text{CaO}$ )、酸化チタン( $\text{TiO}_2$ )、酸化クロム( $\text{Cr}_2\text{O}_3$ )、酸化マンガン( $\text{MnO}$ )、酸化鉄( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )、酸化コバルト( $\text{CoO}$ )、酸化ニッケル( $\text{NiO}$ )、酸化銅( $\text{CuO}$ )、酸化亜鉛( $\text{ZnO}$ )、酸化ルビジウム( $\text{Rb}_2\text{O}$ )、酸化ストロンチウム( $\text{SrO}$ )、酸化ジルコニウム( $\text{ZrO}_2$ )、酸化モリブデン( $\text{MoO}_3$ )、酸化スズ( $\text{SnO}_2$ )、酸化バリウム( $\text{BaO}$ )、酸化鉛( $\text{PbO}$ )の合計23元素である。

#### 4. 考察

実体顕微鏡観察の結果、分析No.2は、伸びた気泡や気泡列、筋状の模様等は観察されず、製作技法は不明であった。分析No.3, 4は、表面状態がいびつであり、ガラス細片を鋳型に入れて融着させ、製作されたと考えられる。分析No.1は、研磨によって成形された石裂と考えられる。

古代のガラスについては、肥塚・田村・大賀(2010など)や、中井・阿部ら(白瀬ほか, 2012など)により、詳細に分類されている。今回分析した4点について、化学組成に基づき、以下のとおり分類した。

なお、ガラスの主成分となる酸化ナトリウム( $\text{Na}_2\text{O}$ )と酸化カリウム( $\text{K}_2\text{O}$ )は、試料によっては含有量が少なかったり、検出されていなかったりすることがある。しかし、風化の影響を受けやすい元素である点や、特に酸化ナトリウム( $\text{Na}_2\text{O}$ )は蛍光X線での感度の悪い元素である点を考慮する必要がある。影響を受けにくい他の元素の化学組成より、風化したガラス小玉でも分類は可能である。

・青紺色ガラス小玉( $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系)(分析No.2, 3)

分析No.2, 3の2点は、化学組成は、酸化ルビジウム( $\text{Rb}_2\text{O}$ )と酸化ジルコニウム( $\text{ZrO}_2$ )が少なく酸化ストロンチウム( $\text{SrO}$ )が比較的多いなどの特徴により、基礎ガラスは、酸化アルミニウム( $\text{Al}_2\text{O}_3$ )が比較的少なく酸化カルシウム( $\text{CaO}$ )の量が多いタイプである、ソーダ石灰ガラス( $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系)に属すると考えられる。

発色には、コバルトイオンが主に影響していると推定される。後述の分析No.4と異なり、酸化マンガン( $\text{MnO}$ )、酸化バリウム( $\text{BaO}$ )が少なく、酸化鉛( $\text{PbO}$ )がやや多い。

$\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラスは、西アジアやエジプトなど地中海周辺地域でみられ「西方のガラス」と呼ばれる(肥塚, 2003など)。さらに、 $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラスには、ナトリウム源にナトロンと呼ばれる天然ソーダを使用したと推定される酸化マグネシウム( $\text{MgO}$ )、酸化カリウム( $\text{K}_2\text{O}$ )の少ないタイプと、ナトリウム源に植物灰を使用したと推定される酸化マグネシウム( $\text{MgO}$ )、酸化カリウム( $\text{K}_2\text{O}$ )の多いタイプに分類されており(加藤ほか, 2005など)、日本の $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラスにおいても両者の存在が明らかとなっている(田村ほか, 2011)。今回分析した $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系のソーダ石灰ガラス2点は、酸化マグネシウム( $\text{MgO}$ )、酸化カリウム( $\text{K}_2\text{O}$ )が多めで、植物灰ガラスと考えられる。ただし、今回のガラス小玉は、ガラス細片を鋳型に入れて融着させた製品である可能性があるため、後述の分析No.4ほどではなくとも、カリガラスなどが多少混ざっている可能性は否定できない。特に分析No.3は、鋳型製作である可能性が高く、実体顕微鏡観察でも紫紺色の細片が観察されるため(図版1-3)、同一材料でないガラス細片が含まれているのは明らかである。

・青紺色ガラス小玉( $\text{Na}_2\text{O}-\text{K}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系)(分析No.4)

分析No.4は、上述の青紺色ソーダ石灰ガラス( $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系)とした2点と同様に、酸化ジルコニウム( $\text{ZrO}_2$ )が少なく酸化ストロンチウム( $\text{SrO}$ )が比較的多いなどの特徴がみられる。その一方で、酸化カリウム( $\text{K}_2\text{O}$ )が分析No.2, 3よりもさらに多く、酸化ルビジウム( $\text{Rb}_2\text{O}$ )が検出されるといった特徴もみられる。また、酸化コバルト( $\text{CoO}$ )が検出される点は分析No.2, 3と共通するが、酸化マンガン( $\text{MnO}$ )がかなり多く、酸化バリウム( $\text{BaO}$ )がやや多く、酸化鉛( $\text{PbO}$ )が少ない。また、酸化モリブデン( $\text{MoO}_3$ )が検出されている。これらの特徴は、紺色系のカリガラス( $\text{K}_2\text{O}-\text{SiO}_2$ 系)にみられる特徴であり、また、鋳型製作である可能性が高い点と併せ、ソーダ石



灰ガラス( $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系)とカリガラス( $\text{K}_2\text{O}-\text{SiO}_2$ 系)を混合した、混合アルカリ石灰ガラス( $\text{Na}_2\text{O}-\text{K}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$ 系)と考えられる。

#### ・石製玉(分析 No.1)

分析 No.1 は、研磨によって成形された石製と考えられる。

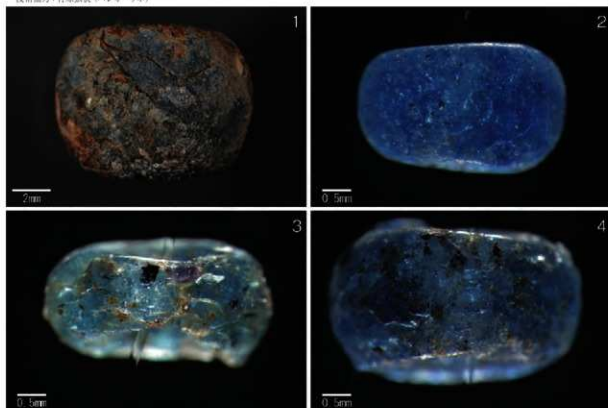
化学組成は、酸化マグネシウム ( $\text{MgO}$ ) が非常に多く、滑石ないし蛇紋岩の類と推定される。

#### 5. おわりに

上境滝の台古墳群から出土したガラス小玉等 4 点の蛍光 X 線分析を行った結果、1 点を除き、アルカリ珪酸塩ガラスと確認された。化学組成の特徴から、青紺色 2 点はソーダ石灰ガラスに、青紺色 1 点は混合アルカリ石灰ガラスに属する可能性が高い。残り 1 点は、石製品であった。

#### 引用・参考文献

- 加藤慎吾・沢田貢史・保倉明子・中井 泉・真道洋子 (2005) ボータブル蛍光 X 線分析装置によるエジプト・ラーサ遺跡出土ガラスの考古化学的研究。日本文化財科学会第 22 回大会研究発表要旨集。250-251。  
 肥塚隆保 (1997) 日本で出土した古代ガラスの歴史の変遷に関する科学的研究。132p。東京藝術大学博士学位論文。  
 肥塚隆保 (2003) 日本出土ガラスから探る古代の交易—古代ガラス材質の歴史の変遷—。沢田正昭編「遺物の保存と調査」:145-158。クハプロ。  
 肥塚隆保・田村朋美・大貫克彦 (2010) 古代ガラスと考古学材質とその歴史の変遷。月岡文化財。566。13-25。  
 松崎真由・白藏純子・池田朋生・中井 泉 (2012) 非破壊オンサイト分析による日本出土の古代ガラスの流通に関する考古化学的研究。日本文化財科学会第 29 回大会研究発表要旨集。374-375。  
 中井 泉編 (2005) 蛍光 X 線分析の実践。242p。朝倉書店。  
 作花清久・境野照彦・高橋克明編 (1975) ガラスハンドブック。1072p。朝倉書店。  
 白藏純子・阿部善也・タナクラウ・クリアンカモル・中井 泉・池田朋生・坂口圭太郎・後藤克博 (2010) 熊本県の古墳から出土したガラスビーズの考古化学的研究。日本文化財科学会第 27 回大会研究発表要旨集。254-255。  
 白藏純子・阿部善也・K. タナクラウ・中井 泉・池田朋生・坂口圭太郎・後藤克博・荒本隆宏 (2012) 熊本県出土の古代ガラスの考古化学的研究。考古学と自然科学。63。29-52。  
 田村朋美・高妻洋成・肥塚隆保 (2011) 日本出土ソーダ石灰ガラス製小玉の種類とその変遷。日本文化財科学会第 28 回大会研究発表要旨集。120-121。  
 田村朋美・高妻洋成 (2012) 弥生・古墳時代のナトロンガラス製玉類の考古化学的研究。日本文化財科学会第 29 回大会研究発表要旨集。24-25。  
 山根正之 (1989) はじめてガラスを作る人のために。195p。内田老圃堂。  
 技術協力:竹原弘展 (レオ・ラボ)



図版1 ガラス小玉等の実体顕微鏡写真 (1. 落射光、2~4. 透過光、数字は分析No.)

## 5 その他の遺構と遺物

今回の調査では、時期を明確にできなかった堅穴建物跡1棟、方形堅穴遺構1基、土坑124基、溝跡1条、ピット群2か所を確認している。以下、遺構及び遺物について記述する。

### (1) 堅穴建物跡

#### 第5号堅穴建物跡 (第95図)

**位置** 調査区中央部のB216区、標高27mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

**重複関係** 第222号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.28m、短軸2.52mの長方形で、主軸方向はN-69°-Eである。壁は高さ10~15cmで、外傾している。

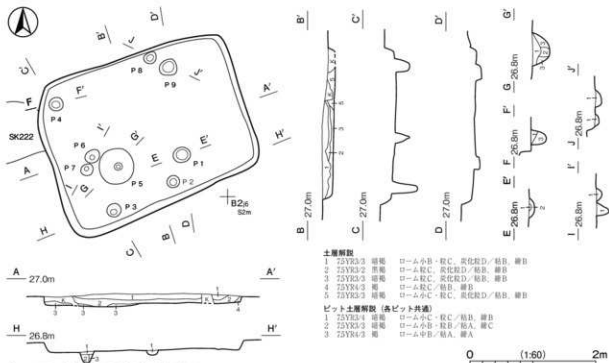
**床** 平坦で、硬化面は確認できなかった。

**ピット** 9か所。P1~P9は深さ8~42cmである。

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 縄文土器片43点(深鉢)が出土している。いずれも小片のため図示できない。

**所見** 時期は、不明である。



第95図 第5号堅穴建物跡実測図

### (2) 方形堅穴遺構

#### 第1号方形堅穴遺構 (第96図 PL4)

**位置** 調査区南部のC2e1区、標高26.6mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

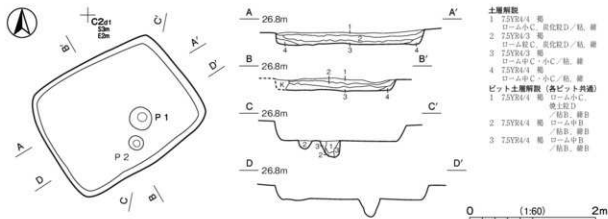
**規模と形状** 長軸2.41m、短軸1.92m長方形で、主軸方向はN-56°-Eである。壁は高さ15~28cmで、外傾している。

**ピット** 2か所。P1・P2は深さ15cm・30cmである。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)、土師器片1点が出土している。

所見 時期は、不明である。



第96図 第1号方形竪穴遺構実測図

### (3) 土坑 (第3図 第76表)

今回の調査では、出土遺物がないうため、時期が明確にできなかった土坑124基を確認している。以下、全体図(第3図)及び一覧表にて掲載する。

第76表 その他の土坑一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	縦横		壁面	底面
				縦横×縦横(m)	深さ		
2	A31	N-23°-W	楕円形	0.95 × 0.61	41	外傾	平坦
6	A33	N-47°-W	楕円形	1.21 × 0.69	14	外傾	平坦
7	A34	N-12°-W	楕円形	1.07 × 0.77	21	外傾	U字状
13	A32	—	円形	0.75 × 0.70	12	外傾	平坦
14	A33	N-59°-W	楕円形	0.90 × 0.49	14	外傾	平坦
15	A32	N-10°-E	楕円形	0.51 × 0.40	44	外傾	U字状
16	A3d	N-32°-W	楕円形	1.22 × 0.67	33	外傾	平坦
17	A32	—	円形	0.49 × 0.47	14	外傾	平坦
18	A31	N-44°-W	楕円形	1.21 × 0.74	2-3	外傾	円凸
19	B3a1	N-58°-E	楕円形	1.00 × 0.60	21	外傾	U字状
20	B3a2	N-73°-W	楕円形	1.54 × 1.15	28	外傾	U字状
22	A3d	N-50°-W	楕円形	0.56 × 0.47	20	外傾	U字状
27	A3d	N-50°-E	楕円形	0.84 × 0.74	25	外傾	U字状
29	A26	—	円形	0.45 × 0.41	25	外傾	平坦
32	A20	N-9°-W	楕円形	0.93 × 0.72	38	外傾	U字状
39	B3e-4	N-3°-E	楕円形	0.92 × 0.81	12	外傾	平坦
40	A32	N-64°-W	楕円形	1.42 × 0.50	21	外傾	平坦
42	B3e-5	—	円形	0.49 × 0.36	46	外傾	U字状
43	A30	N-49°-E	楕円形	0.79 × 0.63	13	外傾	平坦
46	B3e-4	N-84°-W	楕円形	1.80 × 1.18	26	外傾	平坦
47	B3e-4	—	円形	0.96 × 0.88	18	外傾	平坦
49	B3e-4	—	円形	0.90 × 0.30	15	外傾	平坦
50	B3e-4	N-20°-E	楕円形	0.89 × 0.70	28	外傾	平坦
51	A31	N-15°-E	楕円形	0.90 × 0.62	22	外傾	U字状
52	B3e-4	—	円形	0.56 × 0.52	25	外傾	平坦
53	B3e-4	N-87°-E	楕円形	0.50 × 0.49	15	外傾	平坦
55	B3e-4	N-66°-W	楕円形	0.49 × 0.10	4	外傾	平坦
56	B3e-4	—	円形	0.53 × 0.30	15	外傾	平坦
62	B3e-5	N-79°-E	楕円形	1.00 × 0.86	36	外傾	平坦
63	B3e-5	N-80°-E	楕円形	0.79 × 0.77	18	外傾	平坦
68	B3e-3	N-45°-E	楕円形	1.04 × 0.83	20	外傾	円凸
69	B3e-4	—	円形	0.53 × 0.3	35	外傾	平坦
70	B3e-4	N-30°-E	楕円形	0.34 × 0.22	28	外傾	U字状
71	B3d	N-58°-W	楕円形	0.82 × 0.69	24	外傾	平坦
75	B3e-4	N-5°-E	楕円形	0.65 × 0.52	28	外傾	U字状
80	B3e-5	—	円形	0.88 × 0.86	30	外傾	平坦
81	B3e-4	N-33°-E	楕円形	0.60 × 0.42	50	外傾	U字状
82	B3e-4	N-69°-W	楕円形	1.00 × 0.64	12	外傾	平坦
83	B3e-4	N-34°-W	楕円形	1.09 × 0.91	18	外傾	平坦
84	B3e-5	N-37°-W	楕円形	1.20 × 0.40	34	外傾	平坦
87	B3e-3	—	円形	0.84 × 0.80	26	外傾	平坦
89	B3e-4	N-49°-W	楕円形	0.34 × 0.25	10	外傾	平坦
92	B3e-3	N-29°-W	楕円形	1.67 × 0.90	30	外傾	平坦
94	A32	—	円形	1.19 × 1.19	17	外傾	平坦
95	B3e-3	N-23°-E	楕円形	1.30 × 0.72	59	外傾	平坦
97	B3e-3	N-82°-W	楕円形	0.92 × 0.61	34	外傾	U字状
98	B3e-2	N-35°-W	楕円形	0.27 × 0.23	77	垂直	U字状
102	B3e-4	N-42°-W	楕円形	0.66 × 0.30	26	外傾	平坦
103	B3d1	N-50°-E	楕円形	0.72 × 0.64	41	外傾	平坦
104	B3e-2	N-85°-W	楕円形	0.72 × 0.57	22	外傾	平坦
107	B3e-1	N-22°-W	楕円形	0.52 × 0.50	48	外傾	U字状
108	B3e-1	N-30°-E	楕円形	0.30 × 0.43	24	外傾	平坦
110	B3e-1	—	円形	0.99 × 0.94	106	外傾	平坦
114	B3e-4	N-59°-W	楕円形	0.62 × 0.49	32	外傾	U字状
116	B3e-3	N-30°-W	楕円形	1.06 × 0.87	22	外傾	円凸
121	B3e-3	N-23°-E	楕円形	0.56 × 0.56	20	外傾	平坦
122	B3e-3	N-5°-W	楕円形	0.88 × 0.70	20	外傾	平坦
123	B3e-3	N-15°-E	楕円形	0.82 × 0.77	70	外傾	平坦
128	B3e-9	—	円形	0.60 × 0.60	18	外傾	平坦
133	B3e-9	N-68°-E	楕円形	0.48 × 0.38	44	外傾	V字状
135	B3e-4	N-5°-E	楕円形	1.12 × 0.80	24	外傾	平坦
136	B3e-4	N-45°-E	楕円形	0.92 × 0.56	31	外傾	平坦
140	B3e-9	—	円形	0.96 × 0.90	35	外傾	U字状
141	B3e-9	—	円形	0.68 × 0.65	9	外傾	平坦
144	B3e-7	N-17°-E	楕円形	0.49 × 0.38	20	外傾	U字状
146	B3e-8	N-53°-E	楕円形	0.82 × 0.56	40	外傾	U字状
148	B3e-8	N-38°-W	楕円形	0.40 × 0.36	36	傾	U字状
149	B3e-7	N-20°-E	楕円形	0.48 × 0.32	22	外傾	U字状
151	B3e-7	N-60°-W	楕円形	0.55 × 0.43	36	外傾	平坦
153	B3e-8	—	円形	0.54 × 0.54	20	外傾	平坦
154	B3e-8	N-28°-E	楕円形	0.72 × 0.64	24	外傾	平坦
156	B3e-9	N-26°-E	楕円形	0.93 × 0.66	11	外傾	平坦
157	B3e-9	N-29°-W	楕円形	0.28 × 0.32	71	外傾	平坦
159	B3e-0	—	円形	0.26 × 0.24	28	外傾	U字状
161	B3e-0	—	円形	0.44 × 0.41	18	外傾	平坦
162	B3e-3	N-24°-E	楕円形	0.60 × 0.46	42	垂直	U字状
163	B3e-7	—	円形	0.90 × 0.88	22	外傾	平坦
164	B3e-9	N-25°-E	楕円形	0.58 × 0.42	34	外傾	平坦
165	B3e-9	N-31°-W	楕円形	0.56 × 0.41	82	外傾	U字状
166	B3e-9	N-4°-E	楕円形	0.54 × 0.42	31	外傾	平坦
168	B3e-6	—	円形	0.30 × 0.55	59	傾	U字状
177	B3e-6	—	円形	0.58 × 0.56	14	外傾	平坦

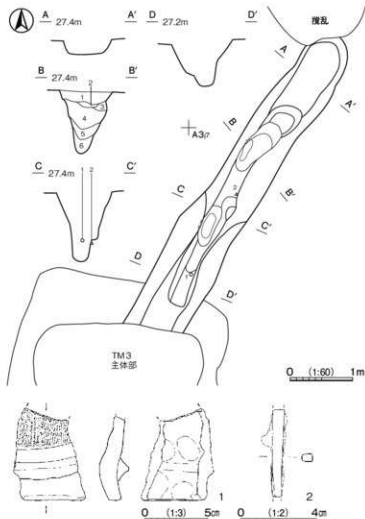
番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面
				長軸×短軸 (m)	深さ		
178	B3d5	N-38°-E	楕円形	1.12 × 0.72	70	垂直	U字状
183	B2e7	N-52°-E	楕円形	0.52 × 0.44	54	斜傾	U字状
184	B2e8	N-49°-E	楕円形	0.33 × 0.40	24	斜傾	U字状
186	B2e7	N-5°-E	楕円形	0.99 × 0.83	23	斜傾	平坦
188	B2d6	N-10°-E	楕円形	0.50 × 0.37	22	斜傾	平坦
189	B2d6	N-21°-W	楕円形	0.64 × 0.39	8-3	斜傾	円凸
198	B2d5	N-39°-E	楕円形	0.92 × 0.84	30	斜傾	U字状
199	B2d5	N-29°-E	楕円形	0.66 × 0.38	18	斜傾	平坦
200	B2d5	N-33°-E	楕円形	0.66 × 0.50	48	垂直	U字状
203	B2d6	N-41°-W	楕円形	0.78 × 0.60	32	斜傾	平坦
205	B2d4	N-77°-E	楕円形	0.70 × 0.56	34	斜傾	平坦
207	B2d5	N-2°-E	楕円形	0.89 × 0.72	24	斜傾	平坦
209	B2d4	N-18°-E	楕円形	0.90 × 0.83	46	斜傾	平坦
212	B2d6	N-37°-W	楕円形	0.80 × 0.60	70	垂直	U字状
215	B2d5	N-46°-W	楕円形	1.06 × 0.76	120	垂直	U字状
218	B2d5	—	円形	0.38 × 0.34	22	斜傾	皿状
223	B2d5	N-52°-W	楕円形	0.95 × 0.80	78	斜傾	U字状
225	B2d5	—	円形	0.58 × 0.56	17	斜傾	平坦
228	B2d6	N-14°-W	楕円形	1.19 × 0.90	19	斜傾	右段
234	B2d6	N-79°-E	楕円形	0.50 × 0.45	75	斜傾	U字状
235	C2d6	N-29°-E	楕円形	0.92 × 0.52	16	斜傾	平坦

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面
				長軸×短軸 (m)	深さ		
236	B2d5	—	円形	1.17 × 1.16	24	斜傾	円凸
239	B2d4	N-45°-W	楕円形	1.06 × 0.84	49	斜傾	平坦
249	C2d6	N-43°-E	楕円形	1.12 × 0.56	28	斜傾	平坦
251	C2d5	N-33°-E	楕円形	0.86 × 0.69	30	斜傾	平坦
252	C2d5	N-14°-W	不規則	0.82 × 0.82	64	垂直	右段
258	B2d3	—	円形	0.35 × 0.34	40	斜傾	U字状
266	C2d4	N-36°-E	楕円形	0.60 × 0.54	32	斜傾	右段
267	C2d4	N-45°-W	楕円形	1.50 × 0.92	22	斜傾	平坦
268	C2d2	—	円形	0.62 × 0.60	40	斜傾	平坦
269	C2d3	—	円形	0.82 × 0.80	62	垂直	右段
270	C2d4	N-44°-E	楕円形	1.26 × 1.13	30	斜傾	平坦
271	C2d5	N-60°-E	楕円形	0.68 × 0.60	16	斜傾	皿状
272	C2d2	N-56°-E	楕円形	0.50 × 0.60	16	斜傾	皿状
273	C2d2	N-60°-E	楕円形	0.90 × 0.80	74	垂直	右段
274	C2d2	N-25°-W	楕円形	0.92 × 0.68	56	斜傾	U字状
278	C2d2	—	円形	0.31 × 0.31	36	垂直	U字状
279	C2d2	N-28°-E	楕円形	0.53 × 0.41	18	斜傾	U字状
291	C2d3	—	円形	0.52 × 0.50	23	斜傾	平坦
303	C2d2	N-14°-W	楕円形	0.92 × 0.75	54	斜傾	平坦
307	B3e4	—	円形	0.30 × 0.30	32	斜傾	U字状
308	AM1	N-92°-W	楕円形	2.20 × 1.28	40	斜傾	円凸

#### (4) 溝跡

##### 第1号溝跡 (第97図 第77表 PL34)

位置 調査区北部のA316区、標高27mほどの台地上に位置している。



第97図 第1号溝跡・出土遺物実測図

重複関係 第3号墳を掘り込んでいる。

規模と形状 A317区から第3号墳主体部方向(N-69°-E)に、直線状に延びている。長さ5.49m、上幅0.72~0.96m、下幅0.24~0.54m、確認面からの深さ0.22~1.10mで外傾している。中央部が最深部となり、外側へ階段状に浅くなっている。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれる層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)、須恵器片2点、埴輪片2点(円筒・形象)、金属製品2点(鉄鏃)が出土している。1は、覆土下層から出土している。2は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、不明である。第3号墳主体部を掘り込んでいることから、主体部を採した際の盗掘坑と考えられる。

##### 土層関係

1. 2.5J20-3 須恵陶 ローム段C/炭化段D/粘C 緑C
2. 2.5J20-2 須恵陶 ローム段D/粘C 緑C
3. 2.5J20-2 須恵陶 ローム段D/粘C、炭化段D/粘C、緑B
4. 2.5J20-2 須恵陶 ローム段D/粘C/粘C 緑C
5. 2.5J20-3 須恵陶 ローム段C/粘D/粘C 緑C
6. 2.5J20-2 須恵陶 ローム段C/粘C 緑C
7. 2.5J20-3 須恵陶 ローム段C/粘C 緑C

第77表 第1号溝跡出土遺物一覧

番号	遺物・種類	計測値	土質	色調	焼成	成形・彫刻の特徴	出土位置	備考
1	形骸・不明	残長7.3 残幅1.8 厚さ1.4	石英・赤色粘土・ 白雲母・黒雲母	25V20.6 明赤褐色	普通	外 面：一次調整ナテハツ、二次調整ヨコナデ 内 面：一次調整ナテハツ、二次調整ナテハツ、突帯状赤押瓦 状、未調整	甕土下層	PL34

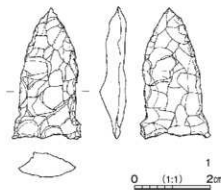
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	皿	(46)	06	04	4.15	瓦	腹部 両面彫り	甕土下層	

## (5) ビット群 (第98図 第78表 PL35)

今回の調査では、時期が明確にできなかったビット群を2か所確認した。出土遺物については実測図(第98図)及び出土遺物一覧(第78表)にて掲載する。また、配置については全体図(第3図)に、規模は一覧表にて掲載する。

第78表 第1号ビット群出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石皿	3.5	1.8	0.7	3.06	チャート	両面押瓦調整	F2	PL35



第98図 第1号ビット群出土遺物実測図

第79表 第1号ビット群ビット一覧

番号	位置	形状	規格		番号	位置	形状	規格		番号	位置	形状	規格	
			長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ
1	B 2-9	円形	37	×	35	25								
2	B 2-9	円形	35	×	32	29								
3	B 2-9	円形	26	×	25	26								
4	B 2-9	円形	45	×	43	21								
5	B 2-9	円形	38	×	37	13								
6	B 2-9	楕円形	53	×	44	50								
7	B 2-9	円形	26	×	25	17								
8	B 2-9	円形	33	×	31	25								
9	B 2-9	円形	33	×	30	42								
10	B 2-9	円形	34	×	33	66								
11	B 2-9	楕円形	34	×	29	35								
12	B 2-9	円形	32	×	31	16								
13	B 2-9	円形	34	×	32	15								
14	B 2-9	円形	36	×	35	16								
15	B 2-9	円形	30	×	28	15								
16	B 2-9	円形	29	×	27	12								
17	B 2-9	円形	36	×	35	14								
18	B 2-9	楕円形	49	×	42	26								
19	B 2-9	円形	23	×	21	12								
20	B 2-9	円形	37	×	34	111								
21	B 2-9	円形	37	×	37	40								
22	B 2-9	円形	40	×	39	19								
23	B 2-9	楕円形	45	×	37	21								
24	B 2-9	不整形円形	45	×	36	45								
25	B 2-9	円形	35	×	34	36								
26	B 2-9	楕円形	45	×	35	27								
27	B 2-9	円形	46	×	45	30								
28	B 2-9	円形	38	×	37	29								
29	B 2-9	楕円形	35	×	31	28								
30	B 2-9	円形	50	×	48	82								
31	B 2-8	円形	45	×	43	34								
32	B 2-8	円形	35	×	34	25								
33	B 2-9	楕円形	22	×	18	17								
34	B 2-8	楕円形	31	×	27	29								
35	B 2-8	楕円形	34	×	28	21								
36	B 2-8	楕円形	36	×	25	23								
37	B 2-9	円形	24	×	23	15								
38	B 2-8	円形	25	×	25	18								
39	B 2-8	円形	22	×	20	23								
40	B 2-8	楕円形	35	×	21	11								
41	B 2-8	円形	22	×	21	18								
42	B 2-8	楕円形	29	×	20	42								
43	B 2-8	楕円形	18	×	15	27								
44	B 2-8	円形	35	×	34	22								

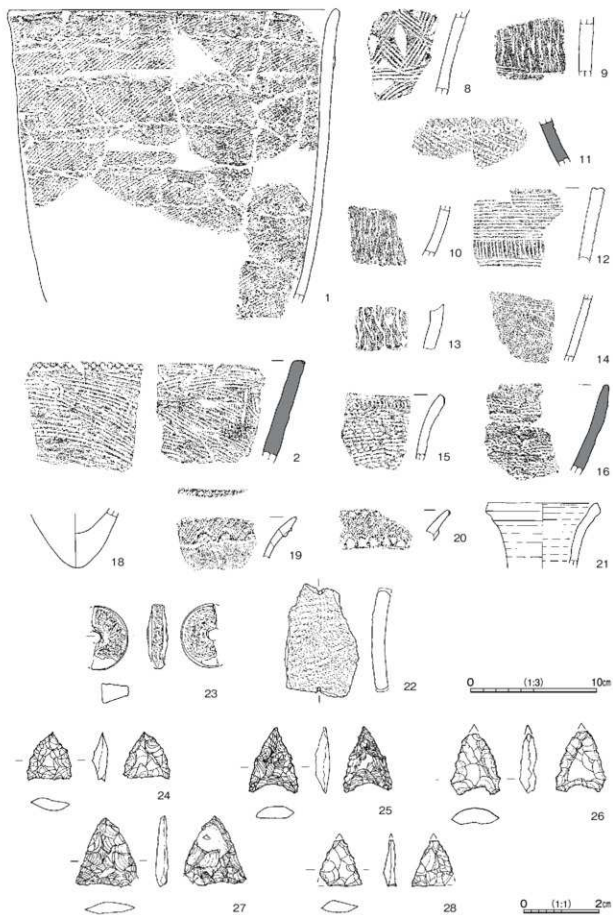
第80表 第2号ビット群ビット一覧

番号	位置	形状	規格		番号	位置	形状	規格		番号	位置	形状	規格	
			長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ
1	A20	楕円形	20	×	14	9								
2	A31	楕円形	18	×	15	8								
3	A31	円形	14	×	14	3								
4	A31	円形	22	×	22	5								
5	A31	楕円形	32	×	28	22								
6	A20	楕円形	34	×	28	30								
7	A31	円形	22	×	20	18								
8	A31	円形	26	×	25	40								
9	A31	楕円形	42	×	24	35								
10	A31	楕円形	53	×	25	34								
11	A31	円形	28	×	27	21								
12	A31	円形	22	×	20	21								
13	A31	円形	15	×	14	10								
14	A31	楕円形	22	×	17	18								
15	A31	円形	27	×	25	14								
16	A31	楕円形	33	×	27	18								
17	A31	楕円形	18	×	16	21								
18	A31	楕円形	33	×	30	29								
19	A31	円形	24	×	23	8								
20	A31	円形	20	×	20	9								
21	A31	円形	22	×	20	12								
22	A31	円形	26	×	24	11								
23	A31	円形	26	×	25	34								
24	A31	円形	26	×	24	10								
25	A21	円形	22	×	21	10								
26	A21	楕円形	32	×	28	53								
27	A21	円形	23	×	23	11								
28	A21	楕円形	22	×	17	14								
29	A21	楕円形	24	×	21	26								
30	A21	円形	20	×	19	15								
31	A31	楕円形	26	×	23	15								
32	A31	円形	20	×	18	15								
33	A21	円形	18	×	17	26								
34	A21	円形	19	×	19	21								
35	A31	円形	11	×	11	30								
36	A21	円形	12	×	12	8								
37	A31	円形	25	×	25	16								
38	A31	楕円形	47	×	36	16								
39	A21	楕円形	24	×	20	17								
40	A21	楕円形	37	×	30	21								
41	A21	円形	24	×	22	26								

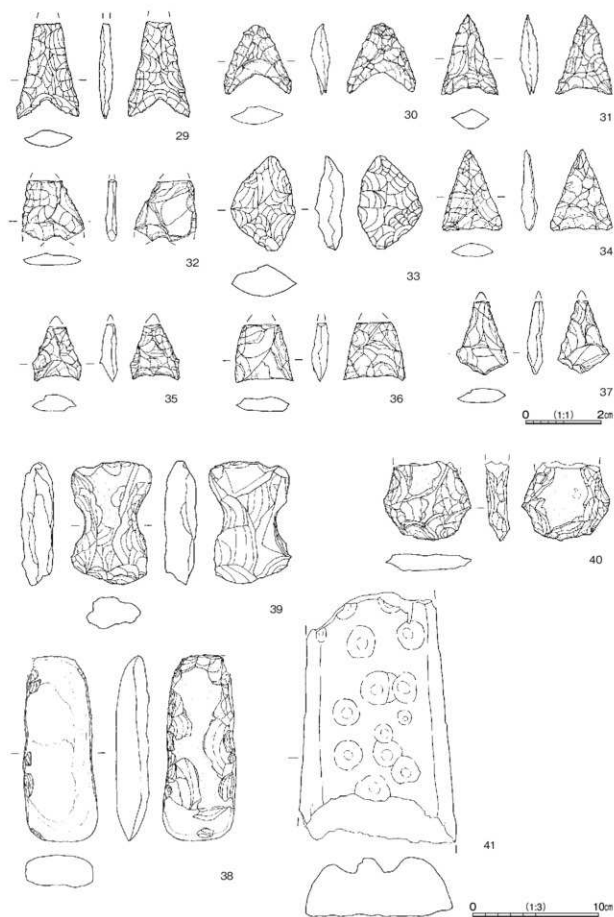
## (6) 遺構外出土遺物 (第99～101図 PL34・35)



第99図 遺構外出土遺物実測図(1)



第100图 遗物出土文物实绘图(2)



第101図 遺構外出土遺物実測図(3)

第 81 表 遺構外出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	28(6)	23(4)	—	長石・石英・礫層	5YR5/6 明赤褐色	普通	普通返し口縁 アヤギ文	表採	
2	縄文土器	深鉢	—	9(1)	—	長石・石英・礫層	5YR5/6 明赤褐色	普通	表面条状文 1/4部キザメ目	表採	
3	縄文土器	深鉢	—	4(0)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 12.5灰褐色	普通	隆縁上にキザメ目	表採	
4	縄文土器	深鉢	—	4(3)	—	長石・石英・礫層	7.5YR5/4 12.5灰褐色	普通	口縁部底状押捺 隆帯	表採	
5	縄文土器	深鉢	—	5(0)	—	長石・石英・礫層	7.5YR6/4 12.5灰褐色	普通	押引き刺突 内面磨き良好	表採	
6	縄文土器	深鉢	—	4(9)	—	長石・石英・礫層	5YR6/6 橙	普通	口縁部底状刺突文 内面磨き良好	表採	
7	縄文土器	深鉢	—	4(2)	—	長石・石英・黒雲母	10YR5/4 12.5灰黄褐色	普通	押引き刺突 内面磨き	表採	
8	縄文土器	深鉢	—	9(7)	—	長石・石英	10YR4/2 灰黄褐色	普通	斜格子目文	表採	
9	縄文土器	深鉢	—	4(8)	—	長石・石英	7.5YR5/3 12.5灰褐色	普通	底状具段文	表採	
10	縄文土器	深鉢	—	4(1)	—	長石・石英	7.5YR6/4 12.5灰褐色	普通	底状具段文	表採	
11	縄文土器	深鉢	—	3(8)	—	長石・石英・礫層	7.5YR5/3 12.5灰褐色	普通	円形刺突文	表採	
12	縄文土器	深鉢	—	6(0)	—	長石・石英	7.5YR6/6 橙	普通	條状沈線	SS 6	
13	縄文土器	深鉢	—	3(5)	—	長石・石英	7.5YR6/4 12.5灰褐色	普通	底状具段文	SS 6	
14	縄文土器	深鉢	—	5(3)	—	長石・石英・雲母	5YR6/4 12.5灰褐色	普通	沈線 柱状段縁文	SS 6	
15	縄文土器	深鉢	—	5(2)	—	長石・石英・雲母	5YR5/3 12.5灰赤褐色	普通	口縁部底状沈線 内面磨き良好	SS 6	
16	縄文土器	深鉢	—	7(1)	—	長石・石英・雲母・礫層	5YR4/4 12.5灰赤褐色	普通		SS 6	
17	縄文土器	深鉢	—	22(8)	11(0)	長石・石英	5YR5/6 明赤褐色	普通	無文	表採	一籠のみ
18	縄文土器	甕	—	4(6)	—	長石・石英	5YR5/4 12.5灰赤褐色	普通	五底部	表採	
19	弥生土器	甕	—	3(3)	—	長石・石英・雲母	2.5YR3/2 黒褐色	普通	普通1.3部 口縁部下端微細押捺 口唇部砥目	表採	
20	弥生土器	甕	—	2(4)	—	長石・石英・雲母	7.5YR5/4 12.5灰褐色	普通	口縁部下端微細押捺	表採	
21	灰燼陶器	甕	3(6)	5(1)	—	長石	2.5YR7/1 灰白色	良好	断面内面に輪	表採	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
22	土部片断	8.9	5.8	1.1	72.57	長石・石英	10YR7/4 12.5灰褐色	胴部片 両端部にキザメ目		表採	PL34
番号	器種	外径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
23	結核釜	5.1	2(9)	1(0)	19(8.1)	長石・石英・雲母	10YR6/3 12.5灰褐色	全面刺突文 一方向からの穿孔 半分欠損		SS 6	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
24	石皿	0.8	1.2	0.4	0.42	黒曜石	無蓋 両面押圧調整		表採	PL34	
25	石皿	1.7	1.3	0.4	0.59	黒曜石	基部中央劈入 両面押圧調整		表採	PL34	
26	石皿	(1.7)	1.3	0.5	(0.77)	黒曜石	基部中央劈入 両面押圧調整 先端部欠損		表採	PL34	
27	石皿	1.9	(1.6)	0.3	(0.68)	黒曜石	無蓋 両面押圧調整 片側部欠損		表採	PL35	
28	石皿	(1.5)	(1.2)	0.3	(0.53)	黒曜石	無蓋 両面押圧調整 先端部 片側部欠損		表採		
29	石皿	(2.6)	1.6	0.4	(1.19)	チャート	基部中央劈入 両面押圧調整 先端部欠損		表採		
30	石皿	1.9	1.8	0.5	0.94	チャート	基部中央劈入 両面押圧調整		表採	PL35	
31	石皿	2.1	1.5	0.5	0.91	チャート	基部中央劈入等 両面押圧調整		表採	PL35	
32	石皿	(1.6)	(1.6)	0.3	(0.90)	チャート	基部中央劈入等 両面押圧調整 先端部 両側部欠損		表採		
33	石皿	2.5	1.7	0.8	2.71	チャート	凸蓋有蓋 両面押圧調整		表採	PL35	
34	石皿	2.1	1.6	0.4	0.85	チャート	無蓋 両面押圧調整		表採	PL35	
35	石皿	(1.5)	(1.3)	0.5	(0.80)	チャート	基部中央縁のてくれ劈入 両面押圧調整 先端部欠損		表採		
36	石皿	(1.6)	(1.6)	0.4	(1.94)	安山岩	無蓋 両面押圧調整 先端部欠損		表採		
37	石皿	(2.0)	(1.4)	0.5	(0.96)	安山岩	凸蓋有蓋 両面押圧調整 先端部欠損		表採		
38	磨製石斧	14.7	5.8	2.6	359.50	ホルンフェルス	基部・両側縁部調整 ハマギリ刃 刃部は表裏磨削		表採		
39	打製石斧	9.7	6.4	2.5	174.06	燧石	分銅形 片面に自然面残る 挟り部・刃部は表裏を磨削		表採		
40	打製石斧	(6.3)	(6.2)	(1.8)	(89.00)	燧石	分銅形 表裏に自然面残る 挟り部・刃部は表裏を磨削 片方部欠損		表採		
41	石片	(19.9)	(12.5)	(4.7)	(177.6)	雲母片岩	石楯転用等 片面に凹痕		表採	P.L.	





器種別で推定した年代と差異が生じてしまうことから、現場段階で記録した層位区分を誤認していることも考えられる。また、SS 6は第3号墳墳丘下に位置しており、墳丘盛土下に第1層と第2層の間に縄文時代の層位が1層残されており（第26図参照）、現場段階での垂直分布観察時に第2層との分別ができなかった。この層位からは玉と石鏃が出土しており、縄文時代の剥片・破片が混じっている可能性が考えられるが、厳密に切り分けることはできなかった。そのため、第18～20表中の第2層出土の石器群には注意が必要である。

### 3 古墳時代

今回の調査で、古墳1基を確認した。当古墳は、つくば市に問い合わせ、第3号墳として調査を行った。当古墳主体部を掘り込んでいる第1号溝跡から形象埴輪片が1点出土しているが、古墳からの出土は無く、埴輪散布地からの混入と考えられ、埴輪を有さない古墳である。

現在、3基の古墳が確認されており、西端に位置する当古墳と東端に位置する第1号墳との距離は約280mある。遺跡範囲内には埴輪散布地が確認されており、当古墳群出土の人物と鹿の形象埴輪が出土している。桜村史には、「もとは7、8基の古墳があったと伝えられているが、主として、終戦後の混乱期にほとんど盗掘されてしまい」とあり、当古墳もこの時期に盗掘されている可能性がある。

出土遺物は盗掘時に破損したと考えられる金属製品、ガラス製品である。金属製品は、刀装具、鉄鏃は識別できたが、多くは細かな破片である。X線撮影を行ったところ、14点の金属片に象嵌が施されていた。象嵌の文様は渦巻文と羽状文に分けられ、出土している鐔、鍔などから最低3振の大刀があったと考えられる。このことは、追葬が行われていた根拠となりうる。

桜川右岸の古墳の特徴から、規模は中型に分類され、主軸方向は西を向く。一棺への追葬を普通とする「変則的古墳」が一般とされていることから、当古墳においても追葬が行われていた可能性が考えられる。

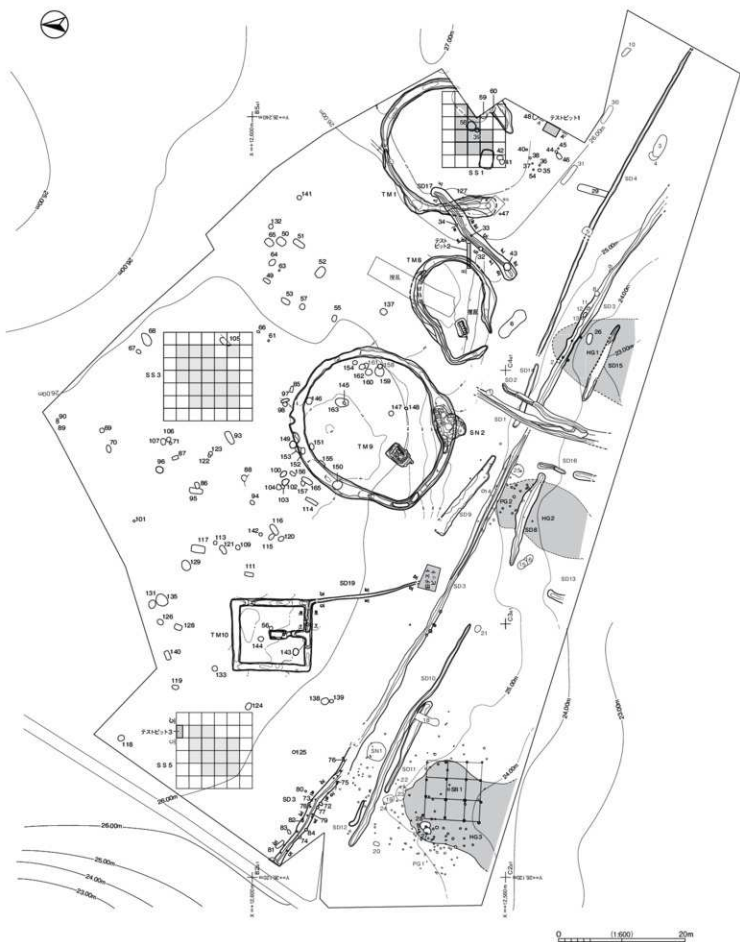
### 4 おわりに

以上、上滝滝の古墳群の旧石器時代の遺物、第3号墳について再確認を行った。当遺跡ではAT降灰以前の旧石器時代から生活の痕跡がみられる。古墳時代には古墳が造営され、建物跡などは確認できなかったことから生活域とは区別され、墓域化されていたことがうかがえる。

今回の調査は、遺跡全体の一部に過ぎず、全容を推し量るには不十分である。旧石器時代については、比較検討資料や土壌分析資料が少なく、今後、資料を増やしていくことで様相が明らかになると考えられる。古墳群については、霞ヶ浦以東桜川流域の周辺古墳との比較検討も含めて今後の課題としたい。

#### 引用・参考文献

- 『茨城県における旧石器時代研究の到達点—その現状と課題—』ひたちなか市教育委員会 2002年12月
- 高野節夫 白田正子 仲村浩一郎 高田和宏『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 中原遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第170集 2001年3月
- 駒澤悦郎『東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団調査報告第251集 2005年3月
- 近藤義郎『前方後円墳集成 東北・関東編』1994年1月
- 石橋 光『つくば地域の古墳群』『常陸の古墳群』2010年2月
- 齊藤大輔『古墳時代武器研究史のなかの刀剣研究』『古代武器研究 vol.14』古代武器研究会・山崎大学人文学部考古学研究室 2018年12月
- 杉山秀宏『古墳時代の鉄鏃について』『歴史考古学研究所論集 第八』1988年10月
- 桜村史編さん委員会『桜村史 上巻』桜村教育委員会 1982年3月
- かみつけの里博物館『第28回特別展 飾り大刀 武器からみた古墳時代のくま』2019年12月



第 102 図 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群遺構全体図

## 第4章 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群

### 第1節 調査の概要

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は、つくば市の東部、桜川右岸の標高23～26mの台地上に立地している。遺跡の範囲は南北170m、東西150mで、扇状に広がる台地の基部にあたる。調査区は遺跡の南端部、桜川低地から延びる支谷に面した台地縁辺部に位置している。調査面積は5,522㎡で、調査前の現況は開発のため整地されていた。

調査の結果、旧石器時代の石器集中地点3か所、古墳時代の古墳4基、平安時代の土坑1基、江戸時代の溝跡1条、時期不明の土坑121基、溝跡2条、粘土採掘坑1基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に10箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器片（深鉢）、土師器（甕）、須恵器（坏）、土製品（円筒埴輪・形象埴輪）、石器（ナイフ形石器・尖頭器・石核・剥片・石鏃・磨製石斧）、金属製品（刀装具・刀子・鏃）、ガラス製品（小玉）などである。

### 第2節 基本層序

#### 1 基本層序（第103図 PL15）

調査区内は東西に長く、遺構確認面は、東から西に向かいローム土から粘性の強い水性堆積土へ変化していること、遺構確認時に旧石器時代の遺物が広範囲から出土していたことから、テストピットを東部（TP1）・中央部（TP2）・西部（TP3）の3か所に設定し、ローム層序自然科学分析を行った。TP2は確認面土壌が変化し始める第8号墳周溝土層断面を、TP3は第5号石器集中地点の北壁土層断面を利用し設定した。

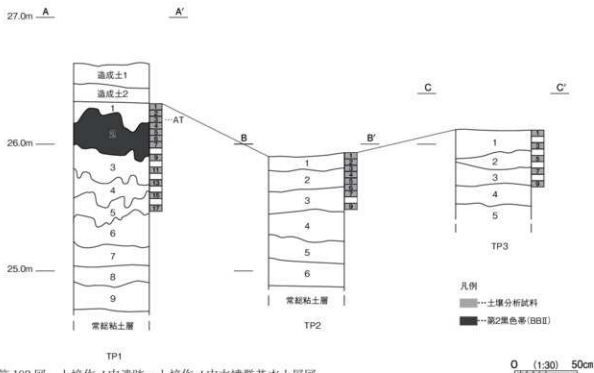
TP1の第1層上面では、造成土が2層確認できる。第1層は、黄褐色（10YR5/8）を呈するソフトローム層である。始良Tnテフラ（AT）を少量含み、粘性・締まりともに普通である。第2層は、褐色（10YR4/6）を呈するソフトローム層である。始良Tnテフラ（AT）を少量含み、粘性・締まりともに普通である。標準層序VI層とVII層の層界付近と推定される。第3層は、暗褐色（10YR3/4）を呈するソフトローム層である。シルトを少量含み、粘性が強く締まりは普通である。標準層序VII層の第2黒色帯上半部と推定される。第4層は、褐色（10YR4/4）を呈するソフトローム層である。細礫を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第5層は、にぶい黄褐色（10YR5/3）を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通である。第6層は、にぶい黄褐色（10YR6/3）を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強い。第7層は、にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈するハードローム層である。白色粒子を少量含み、粘性・締まりともに普通である。第8層は、にぶい黄褐色（10YR5/4）を呈するハードローム層である。鉄分を少量含み、粘性は強く締まりは普通である。第9層は、にぶい黄褐色（10YR6/4）を呈する粘土層である。鉄分を多量に含み、粘性・締まりともに強い。第9層下は常総粘土層である。

TP2の第1層は、褐色（10YR4/6）を呈するソフトローム層である。白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第2層は、暗褐色（10YR3/4）を呈するハードローム層である。シルトを多量に含み、粘性は普通で締まりは強い。第3層は、褐色（10YR4/4）を呈するハードローム層である。シルトを中量、赤色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第4層は、褐色（10YR4/6）を呈するハードローム層であ

る。シルトを少量、赤色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第5層は、褐色（10YR4/4）を呈するハードローム層である。シルトと赤色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通である。第6層は、にぶい黄褐色（10YR6/4）を呈する粘土層である。赤色粒子と黒色粒子を少量含み、粘性・締まりともに強い。第6層下は常総粘土層である。

TP3の第1層は、黒褐色（10YR3/2）を呈するハードローム層である。白色粒子を少量含み、粘性は普通で締まりは強い。第2層は、暗褐色（10YR3/3）を呈するハードローム層である。白色粒子を少量、黒色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強い。第3層は、暗褐色（10YR3/3）を呈するハードローム層である。白色粒子、赤色粒子を微量、黒色粒子を少量含み、粘性は普通で締まりは強い。第4層は、褐色（10YR4/4）を呈するハードローム層である。白色粒子、赤色粒子を微量、黒色粒子を少量、粘土ブロック（にぶい黄褐色 10YR6/4）小を少量含み、粘性・締まりともに強い。第5層は、明黄褐色（10YR6/6）を呈する粘土層である。粘土ブロック（にぶい黄褐色 10YR7/2）小を中量含み、粘性・締まりともに強い。

遺構確認面は、造成土下のTP1～3第1層の上面である。平成12年度につくば市教育委員会によって行われた上境作ノ内古墳群第1号墳の調査時には、地表面は標高26.4～26.8mで、地表下15～30cmで遺構が確認されている。今回の調査では同じ第1号墳は造成土を除去した際の標高が26.0～26.4mであったことから、前回の調査とは40cmほどの齟齬がある。



第103図 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群基本土層図

## 2 自然化学分析 (第104図 第83表 PL15)

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群のローム層の層序対比

バリノ・サーヴェイ株式会社

本分析調査では、上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群の立地する台地の表層を覆うローム層の分析をすることにより、ローム層の層序対比の指標を設け、周辺地域や関東地方における他の台地上のローム層との対比を行うものである。

#### (1) 試料

試料は、上境作ノ内遺跡・作ノ内古墳群の調査区内に作成された TP 1～3 の 3箇所の断面より採取された。TP 1 では、ローム層の検出面から下位のローム層において、厚さ 5cm で連続に上位より試料番号 1～18 までが採取され、これらのうちの上部の試料を中心に試料番号 1～7 の 7 点と試料番号 9～17 の奇数番号の試料 5 点の合計 12 点を分析の対象とする。TP 2 では、ローム層の検出面から下位のローム層において TP 1 と同様に試料番号 1～10 までが採取され、これらのうち、上部の試料を中心に試料番号 1～7 の 7 点と試料番号 9 の 1 点の合計 8 点を分析の対象とする。TP 3 では、他の地点と同様に採取された試料番号 1～10 までのうち、試料番号 1～9 の奇数番号の試料計 5 点を分析の対象とする。

#### (2) 分析方法

上境滝の台古墳群と同じ。

#### (3) 結果

結果を第 83 表、第 104 図に示す。重鉱物組成の層位的な傾向により、TP 1 の試料採取層位は TP 2 の試料採取層位より上位であり、TP 2 の試料採取層位は TP 3 の試料採取層位より上位であると判断される。以下に上位より述べる。

TP 1 の試料番号 1 から TP 2 の試料番号 2 までは、カンラン石と斜方輝石を主体とする重鉱物組成であり、TP 1 試料番号 1 では斜方輝石の方が多く、下位ほどカンラン石が増加し、TP 1 の試料番号 4～11 ではカンラン石の方が多く、その中で試料番号 6 にはカンラン石の量比の極大が認められる。

TP 2 の試料番号 3 以下の層位では、TP 3 の試料も含めて、斜方輝石と不透明鉱物を主体とし、少量の角閃石を伴うという重鉱物組成である。斜方輝石と不透明鉱物の量比は、どの層位も概ね同量程度であるが、TP 3 の試料番号 7 と 9 では不透明鉱物の方が圧倒的に多い。

火山ガラス比では、TP 1 の試料番号 1～3 にバブル型火山ガラスが少量含まれるが、他の層位には TP 2 においても TP 3 においても火山ガラスはほとんど含まれない。

#### (4) 考察

本地点では、TP 1 の試料番号 1～3 に少量のバブル型火山ガラスが認められている。これは、滝の台古墳群の TP 2 と同様に AT に由来する火山ガラスであると考えられる。本地点におけるその降灰層準は、試料番号 3 付近に推定される。

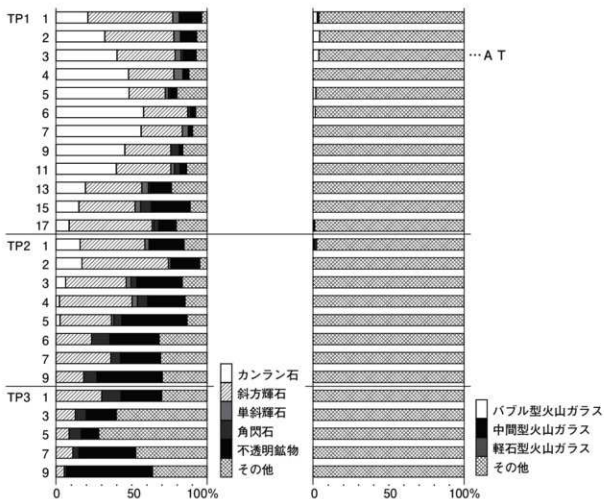
したがって、TP 1 の試料番号 1～3 は、武蔵野台地の立川ローム層の中部付近おそらく標準層序の V～VI 層付近に対比される可能性がある。そして TP 1 の試料番号 4 以下の層位は、武蔵野台地の立川ローム層の下部の VII 層以下の層位に対比されると考えられる。本地点においても、その層位では、カンラン石の多い重鉱物組成が示されている。

TP 1 の試料番号 13 以下および TP 2 と TP 3 の各試料の採取層位については、層位的に武蔵野台地の立川ローム層下部から武蔵野ローム層に相当すると考えられる。しかし、火山ガラス比では指標テフラに由来すると考えられる火山ガラスの産出が認められないことおよび、重鉱物組成ではカンラン石と斜方輝石を主体とする武蔵野台地の武蔵野ローム層とは全く異なることから、本分析結果による台地間の層序対比は難しい。今後、本分析調査の結果を基として、周辺地域におけるローム層の分析結果を蓄積し、筑波稲敷台地における標準層位を確立することが望まれる。

引用文献は、第 3 章第 2 節 2 に同じ

第 83 表 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群の重鉱物・火山ガラス比分析結果

地点名	試料番号	カンラン石		斜方輝石		単斜輝石		角閃石		サタロ		緑レン		不透明鉱物		その他		火山ガラス		その他	
		石	計	石	計	石	計	石	計	石	計	石	計	石	計	石	計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	計
TP1	1	53	140	11	1	0	0	37	8	250	7	3	1	239	250						
	2	81	114	11	1	0	0	27	16	250	11	2	0	237	250						
	3	101	96	10	4	0	0	21	18	250	10	1	0	239	250						
	4	120	75	15	0	0	0	10	30	250	2	1	0	247	250						
	5	121	60	5	3	0	0	11	50	250	5	0	2	243	250						
	6	145	73	1	5	0	0	8	18	250	4	1	1	244	250						
	7	141	68	10	2	0	0	7	22	250	0	1	1	248	250						
	9	114	76	2	14	0	0	6	38	250	0	0	1	249	250						
	11	100	90	6	9	0	0	11	34	250	0	1	0	249	250						
	13	49	93	11	3	0	0	35	59	250	0	2	0	248	250						
15	28	93	9	18	0	0	64	28	250	0	1	0	249	250							
17	22	137	3	8	1	0	29	50	250	0	3	1	246	250							
TP2	1	40	107	7	2	0	0	58	36	250	1	3	3	243	250						
	2	43	143	4	2	0	0	48	10	250	0	1	1	248	250						
	3	16	100	8	10	0	0	75	41	250	1	1	0	248	250						
	4	6	120	9	17	0	0	62	36	250	0	1	1	248	250						
	5	7	85	4	13	0	0	108	33	250	0	1	0	249	250						
	6	0	59	2	30	1	0	82	76	250	0	1	0	249	250						
	7	1	91	2	16	0	2	66	72	250	0	1	0	249	250						
	9	1	46	2	22	0	0	108	71	250	0	0	0	250	250						
	TP3	1	0	76	1	32	0	1	67	73	250	0	1	0	249	250					
3		0	32	2	18	0	1	50	147	250	0	0	0	250	250						
5		0	22	1	20	0	1	29	177	250	0	0	0	250	250						
7		0	28	0	10	0	0	94	118	250	0	0	0	250	250						
9		0	14	0	4	0	0	142	90	250	0	1	0	249	250						

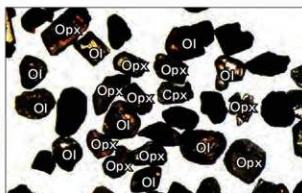


第 104 図 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群のテストピットの重鉱物組成および火山ガラス比

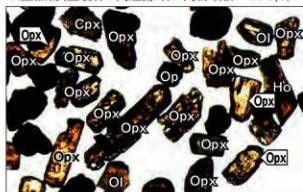
図版2 重鉱物-軽鉱物(2)



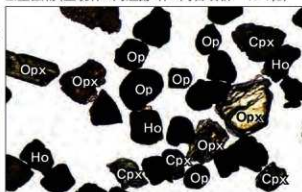
1.重鉱物(上境作/内遺跡・作/内古墳群 TP1:1)



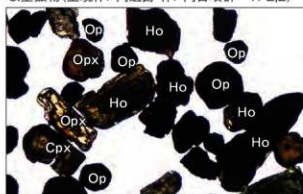
2.重鉱物(上境作/内遺跡・作/内古墳群 TP1:6)



3.重鉱物(上境作/内遺跡・作/内古墳群 TP2:2)



4.重鉱物(上境作/内遺跡・作/内古墳群 TP2:9)



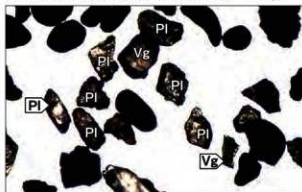
5.重鉱物(上境作/内遺跡・作/内古墳群 TP4:1)



6.重鉱物(上境作/内遺跡・作/内古墳群 TP4:9)



7.軽鉱物(上境作/内遺跡・作/内古墳群 TP1:3)



8.軽鉱物(上境作/内遺跡・作/内古墳群 TP2:1)

Ol:カンラン石, Opx:斜方輝石, Cpx:単斜輝石, Ho:角閃石, Op:不透明鉱物.

Vg:火山ガラス, Pl:斜長石.

0.5mm



## 第3節 遺構と遺物

## 1 旧石器時代の遺構と遺物

遺構確認作業中に、当時代の石器が出土していたため、表採の遺物や他時代の遺構覆土中から当時代の石器が出土した地点を中心にグリッドを設定し調査したところ、当時代の遺構は、石器集中地点を3か所確認した。出土層位は、基本層序第1・2層である（以下、第1・2層）。

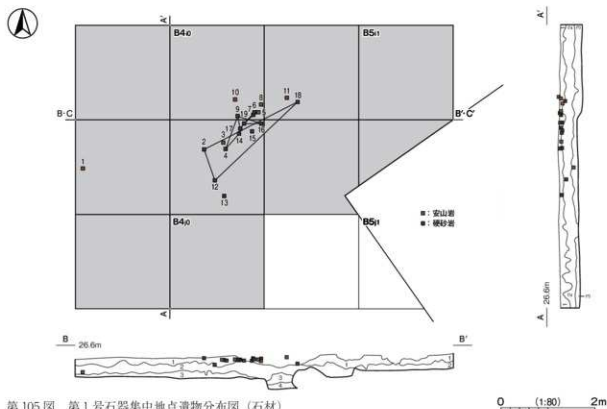
## (1) 石器集中地点

## 第1号石器集中地点（第105～107図 第84～86表 PL14・39）

**位置** 調査区北東部のB49～B40区、標高26mほどの台地上に位置している。

**遺物出土状況** 南北7.6m、東西6.8mの範囲内で、標高26.037～26.350mから、19点（総重量878.19g）の石器が出土している。内訳は、第1層から17点（安山岩6、硬砂岩11）、第2層から2点（硬砂岩）で第1層に集中している。構成器種は、石核4点（安山岩2、硬砂岩2）、剥片7点（安山岩4、硬砂岩3）、礫8点（硬砂岩）である。

**所見** 当石器集中地点からは接合資料2点が出土している。接合資料1（硬砂岩3点・石核3）、接合資料2（硬砂岩2点・礫8）、は平面分布が3m四方（B40）に集中し、垂直分布が第1層に集中する。



第105図 第1号石器集中地点遺物分布図（石材）

第84表 第1号石器集中地点層位別単位石材器種一覧

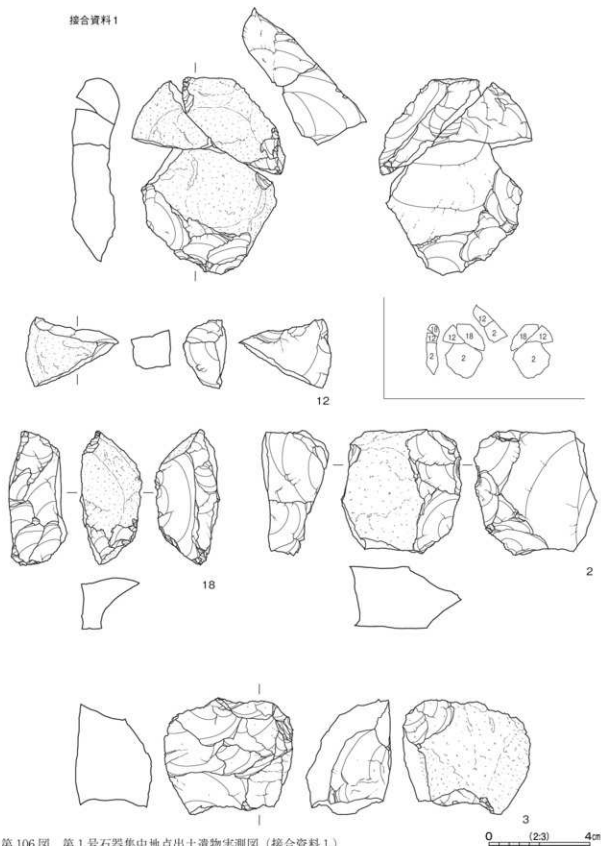
	安山岩			硬砂岩			合	
	石核	剥片	集計	石核	剥片	礫		集計
1層	2	4	6	1	2	8	11	17
2層				1	1		2	2
合計	2	4	6	2	3	8	13	19

第85表 第1号石器集中地点層位別石材重量一覧

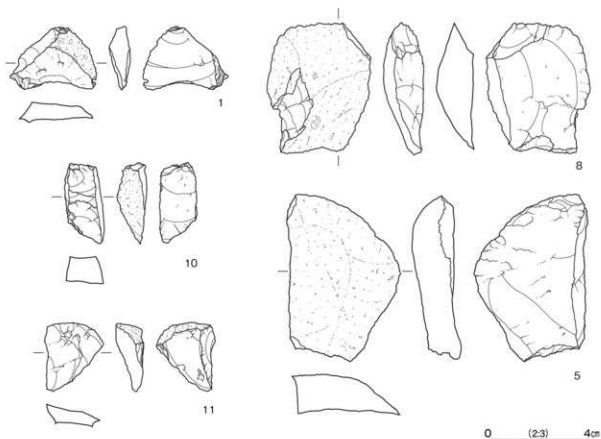
	安山岩	硬砂岩	合計 (g)
1層	195.6	639.79	835.39
2層		42.8	42.8
合計 (g)	195.6	682.59	878.19

接合資料1の分離順序は18→2+12である。剥片を素材とする剥片素材石核3点から構成される。18が折れた後、折れ面を作業面として両設打面から側面にポジティブ面を有する縦長剥片が剥離されている。

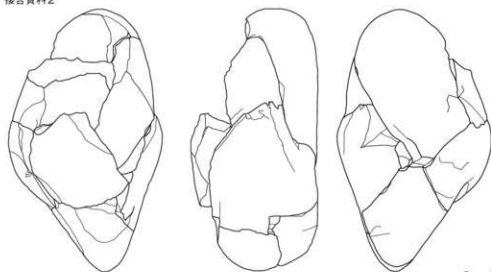
接合資料2は、打点が認められず、礫の自然節理面での割れと考えられる。



第106図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料1)



接合資料2



第107図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料2)

第86表 第1号石器集中地点出土遺物一覧

番号	部種石	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	層位	備考
1	割片	安山岩	24.75	34.30	8.38	563	側面打面の割片 後面ボジネ方反折 楔形石器から割離	1層	P1.30
2	石核	緑砂岩	48.88	47.77	25.53	6590	接合資料1 割片素材石核 後面側作業面でボジティブ面を底面とし線長または矩形の割片が得られた	1層	
3	石核	安山岩	46.00	51.04	33.80	87.21	割片素材石核 背面有側縁半手にボジティブ面	1層	P1.30
5	割片	安山岩	63.50	43.09	20.95	51.24	側面を打面 帽子状割片が垂直割れにより得られた	1層	P1.30
8	石核	安山岩	53.78	40.68	15.88	40.37	割片素材石核 後面側作業面で背面がボジティブ面のみから構成される割片が得られた	1層	P1.30
10	割片	安山岩	31.59	16.35	11.48	5.94	縦長割片 調整打面より割離 背面構成から側面打面	1層	P1.30
11	割片	安山岩	26.62	22.52	11.33	4.85	側面打面の割片 背面は大きなネガティブ面 後面有側縁は主要側縁面形成時の垂直割れ	1層	P1.30
18	石核	緑砂岩	53.02	24.90	22.80	1270	接合資料1 割片素材石核 二つの作業面 底面を有する右側縁長割片を割離 側面打面から縦長割片を割離	2層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	層位
4	礫	硬砂岩	47.82	28.81	28.04	51.04	接合資料 2	1層
6	礫	硬砂岩	57.44	46.59	27.6	90.1	接合資料 2	1層
7	礫	硬砂岩	75.71	33.8	22.41	76.05	接合資料 2	1層
9	礫	硬砂岩	44.85	34.33	35.19	76.8	接合資料 2	1層
12	石核	硬砂岩	27.57	36.94	17.03	30.10	接合資料 1	2層
13	網片	硬砂岩	30.29	15.90	11.57	5.80		1層
14	礫	硬砂岩	50.69	42.65	28.49	68.23	接合資料 2	1層

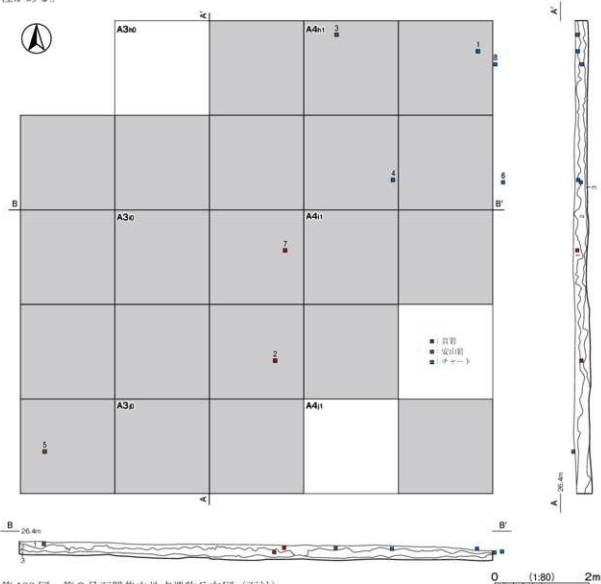
番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	層位
15	網片	硬砂岩	13.35	7.03	2.38	0.18		1層
16	礫	硬砂岩	55.40	38.11	36.17	84.87	接合資料 2	1層
17	礫	硬砂岩	59.56	57.17	35.23	130.82	接合資料 2	1層
19	礫	硬砂岩	86.58	44.35	30.37	130.47	接合資料 2	1層
接合資料 1		硬砂岩	77.91	60.36	25.00	107.83	2+12+18	
接合資料 2		硬砂岩	137.84	81.44	67.25	727.38	4+6+7+9+14+16+17+19	

### 第3号石器集中地点 (第108・109図 第87・88表 PL14・39)

**位置** 調査区北部のA3h0～A4j1区、標高26mほどの台地上に位置している。

**遺物出土状況** 南北8.8m、東西9.7mの範囲内で、標高25.950～26.129mから、8点(総重量11.22g)の石器が出土している。内訳は、第1層から6点(頁岩1、安山岩2、チャート3)、第2層から1点(チャート)、攪乱から1点(頁岩)で第1層に集中している。構成器種は、楔形石器1点(頁岩)、網片6点(頁岩1、安山岩1、チャート4)、礫1点(安山岩)である。

**所見** 当石器集中地点は、平面分布が12m四方に散逸し、出土点数も少ないことから集中地点ではない可能性がある。



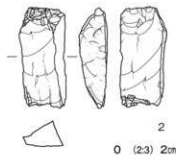
第108図 第3号石器集中地点遺物分布図(石材)

第87表 第3号石器集中地点層位別単位別石器材器種一覧・層位別石器材重量一覧

	頁岩			安山岩			計	合計
	剥片	器種	計	剥片	器種	計		
1層	1		1	1	1	2	3	6
2層							1	1
攪乱	1	1						1
合計	1	1	2	1	1	2	4	8

	頁岩	安山岩	チャート	合計
1層	0.57	1.36	1.61	3.54
2層			0.28	0.28
攪乱	7.4			7.4
合計	7.97	1.36	1.89	11.22



第109図 第3号石器集中地点出土遺物実測図

第88表 第3号集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	特徴	層位	備考					
2	楔形石斧	頁岩	39.50	17.50	10.50	7.40		背面上面及び取面下面には両側縦線による溝れ、取面打点部はフィンパルブ		攪乱 P1.30					
番号 <th>器種名</th> <th>石材</th> <th>長さ (mm)</th> <th>幅 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>重量 (g)</th> <th>層位</th> <th>番号</th> <th>器種名</th> <th>石材</th> <th>長さ (mm)</th> <th>幅 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>重量 (g)</th> <th>層位</th>	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位	番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	層位
1	剥片	チャート	15.04	12.89	2.94	0.42	1層	5	剥片	安山岩	16.60	9.94	2.87	0.51	1層
3	礫	安山岩	27.48	7.18	3.93	0.85	1層	6	剥片	チャート	12.06	8.54	1.82	0.18	1層
4	剥片	チャート	22.94	18.31	1.76	1.01	1層	7	剥片	頁岩	31.90	7.47	2.65	0.57	1層

## 第5号石器集中地点 (第110～115図 第89～92表 PL40・41)

位置 調査区西部のA 2h5～A 2j6区、標高26mほどの台地上に位置している。

遺物出土状況 南北7.2m、東西5.6mの範囲内で、標高25.873～26.162mから、43点(総重量395.7g)の石器が出土している。内訳は、第1層から23点(頁岩11、安山岩5、流紋岩5、硬砂岩1、石英1)、第2層から17点(頁岩7、安山岩2、流紋岩8)、攪乱から3点(頁岩、チャート、硬砂岩)で第1層に集中している。構成器種は、石核4点(頁岩1、安山岩1、流紋岩2)、二次加工剥片1点(頁岩)、剥片33点(頁岩16、安山岩6、チャート1、流紋岩10)、砕片3点(頁岩、流紋岩、石英)、礫2点(硬砂岩)である。

所見 当石器集中地点からは接合資料5点が出土している。

接合資料1(頁岩8点:石核1、剥片7)は、平面分布が2m四方(A 2i5)に集中し、垂直分布が第2層に集中する。分離順序は、17→23→20→43→9、22→(31+42)である。被熱の影響が認められる。また、潜在的な剥離の影響が著しく、表皮付近では同時に複数面が剥離された可能性が高い。拳大の礫から得られた大きな拱頂面を持つ礫片を石核として剥片剥離が進行している。17の礫面周辺には打撃クラックと割れ円錐状の剥離痕が認められる。

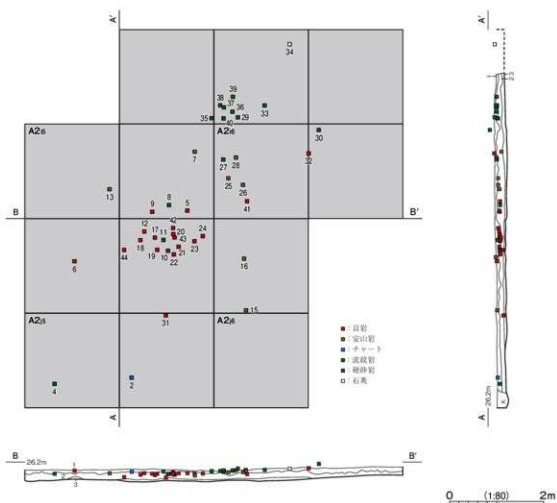
接合資料2(頁岩2点:剥片)は、平面分布が0.5m四方(A 2i5)に集中する。分離順序は、18→19である。剥片2点から構成され、頻繁な打面転移及び作業面転移がなされている。

接合資料3(流紋岩6点:石核1、剥片5)は、平面分布が1.6m四方(A 2h5・h6・i6)に集中し、垂直分布が第2層に集中する。分離順序は、39→27→37→(33+40)→35である。拳大の球状礫を素材とする。両設打面であるがほぼ打面と作業面を固定して縦長剥片の剥離が進行している。

接合資料4(流紋岩3点:剥片2、砕片1)は、平面分布が2.2m四方(A 2h6・i6)に集中し、垂直分布が第2層に集中する。分離順序は、(36+38)→30である。剥片2点とバルブスカーから構成される。礫面を多く残すことから母岩消費の序盤を示すと考えられる。36はバルブスカーであり、38の剥片と接合していることから、原位置性は高いものと推定される。

接合資料5(頁岩2点:剥片)は、平面分布が0.5m四方(A 2i5)に集中する。分離順序は、32+41である。剥片2点から構成される。主要剥離面を共有しており、その主要剥離面形成時に折れたものと考えられる。

頁岩を主とした石器群(接合資料1・2・5を含む)は、平面分布が5m四方(B 3a6～B 3b7)に集中する。



第 110 図 第 5 号石器集中地点遺物分布図 (石材)

12・21・44 は、接合資料 1 の平面分布と同じ範囲から出土しており、同一母岩と考えられ、同一時期の石器製作路の可能性ある。

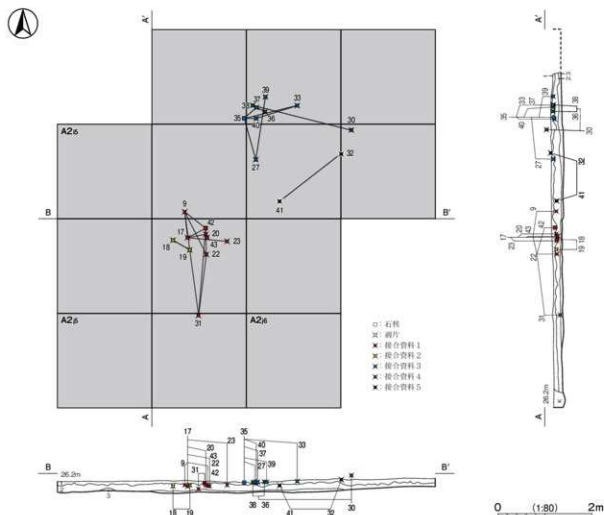
流紋岩を主とした石器群 (接合資料 3・4 を含む) は、4 を除いて、平面分布が 4 m 四方 (A 2 h5・i5・h6・i6) に集中する。11 は、接合資料 1 の平面分布と同じ範囲から出土しており、同一母岩と考えられ、同一時期の石器製作路の可能性ある。

第 89 表 第 5 号石器集中地点層別単位別石材種類一覧

	頁岩				集計	安山岩			チャート	流紋岩				集計	硬砂岩	石英	合計
	種	割二次加工片	割片	砕片		種	割片	集計		割片	種	割片	砕片				
1 層	1	1	9		11	1	4	5			4	1	5	1	1	23	
2 層		6	1	7		2	2			2	6		8			17	
覆瓦			1		1				1					1		3	
合計	1	1	16	1	19	1	6	7	1	2	10	1	13	2	1	43	

第 90 表 第 5 号石器集中地点層別単位別石材重量一覧

	頁岩	安山岩	チャート	流紋岩	硬砂岩	石英	合計 (g)
1 層	105.77	79.95		11.98	39.99	0.06	237.75
2 層	19.91	21.3		96.2			137.41
覆瓦	3.22		4.64		12.68		0
合計 (g)	128.9	101.25	4.64	108.18	52.67	0.06	395.7

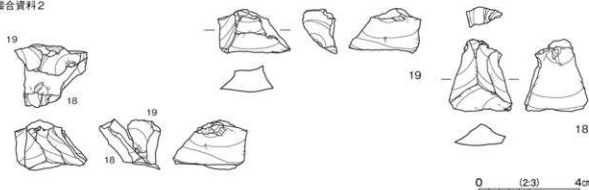


第111図 第5号石器集中地点遺物分布図(接合資料)

第91表 第5号石器集中地点出土接合資料

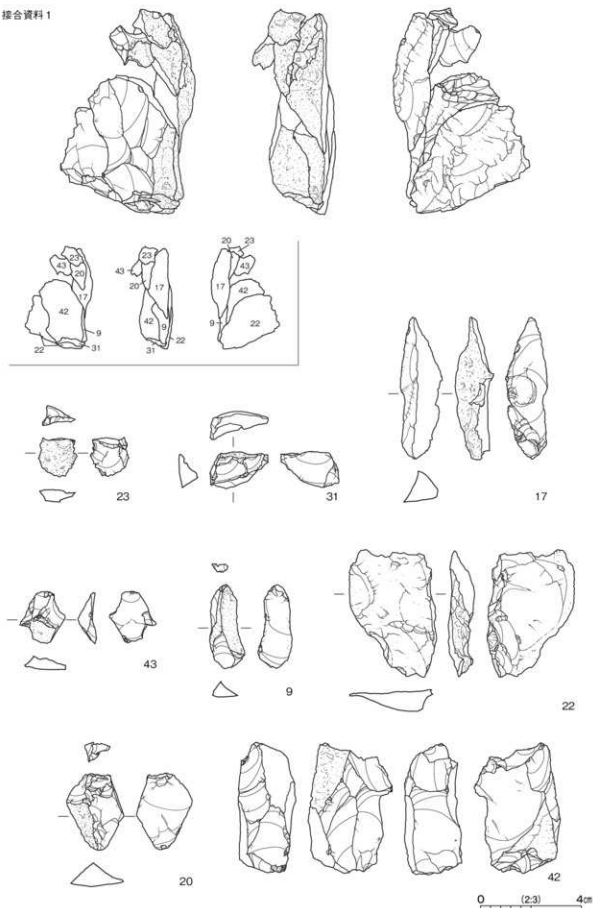
器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
接合資料1	頁岩	8074	5404	33.33	71.29	分層順序: (17→23→20→43→9)/22→(31+42)	PL40
接合資料2	頁岩	2478	2824	19.65	9.18	分層順序: 18→19	PL40
接合資料3	流紋岩	4167	4533	34.95	95.44	分層順序: 29→27→37→(33+40)→35	PL40
接合資料4	流紋岩	2506	2709	7.03	3.45	分層順序: (36+38)→30	PL41
接合資料5	頁岩	6352	3804	19.74	27.75	分層順序: 32+41	PL41
接合資料6	流紋岩	1338	1046	2.90	0.30	33+40 接合資料3と接合	PL40

接合資料2



第112図 第5号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料2)

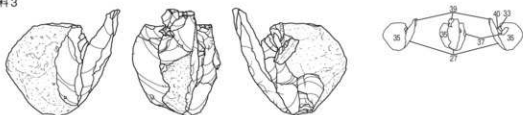
接合資料 1



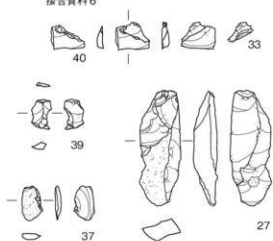
第 113 图 第 5 号石器集中地点出土物实测图(接合資料 1)



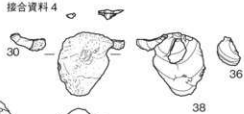
接合資料 3



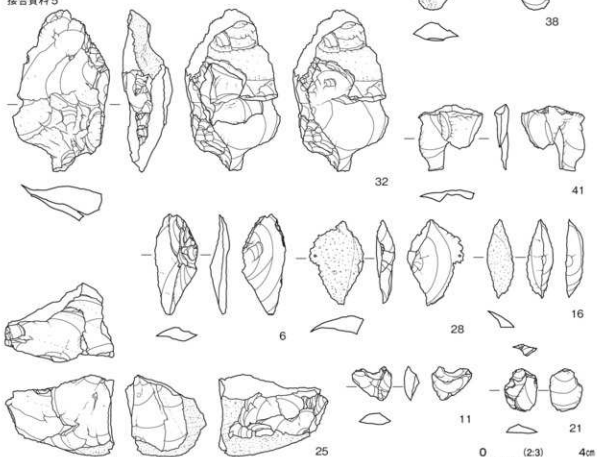
接合資料 6



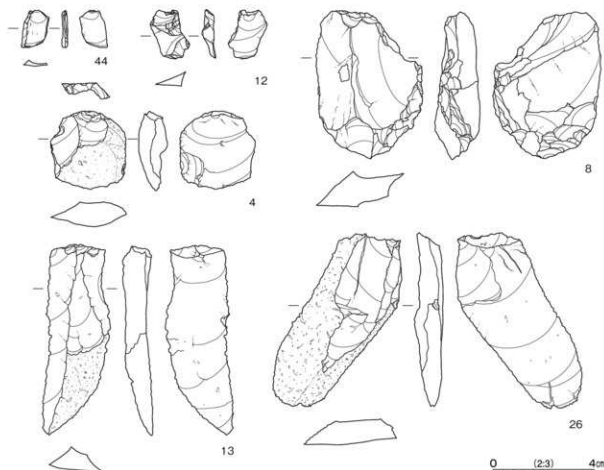
接合資料 4



接合資料 5



第 114 図 第 5 号石器集中地点出土遺物実測図(接合資料 3~6)



第115図 第5号石器集中地点出土遺物実測図

第92表 第5号集中地点出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	層位	備考
4	剥片	流紋岩	30.76	30.03	11.43	7.92	調整打面より調整された剥片	2層	PL41
6	二次加工 剥片	頁岩	39.98	17.79	8.28	2.52	打面部に主要調整面を有する二次加工。素材はゴジネガ不明のフラット面を底面とする有底楕長剥片	1層	PL41
8	石核	流紋岩	58.68	42.27	17.99	43.56	剥片を素材とした石核。作業面が複数認められ、有底楕長剥片の調整を目的としている作業面	2層	PL41
9	剥片	頁岩	32.76	14.23	7.30	2.30	接合資料1 調整面打面の楕長剥片	2層	PL40
11	剥片	流紋岩	13.41	15.75	5.96	0.43	接合資料3と同一母岩と鑑定。調整打面の剥片。断面は認められず。調整作業の終盤に調整	1層	PL41
12	剥片	頁岩	19.46	15.50	5.59	0.81	接合資料1と同一母岩と鑑定	1層	PL41
13	剥片	安山岩	75.31	26.51	13.93	18.03	調整打面の楕長剥片	2層	PL41
16	剥片	安山岩	30.84	10.54	7.31	1.51	打面が大きなゴジニア面の末端部。断面を背面に持つ剥片の末端部から得られた剥片	1層	PL41
17	剥片	頁岩	35.87	16.94	15.16	8.90	接合資料1	2層	PL40
18	剥片	頁岩	28.44	24.53	8.50	4.60	接合資料2 調整打面の剥片	2層	PL40
19	剥片	頁岩	17.42	28.57	13.71	4.50	接合資料2 調整打面の剥片	1層	PL40
20	剥片	頁岩	29.49	22.36	12.80	5.80	接合資料1	1層	PL40
21	剥片	頁岩	16.91	13.10	3.69	0.70	接合資料1と同一母岩と鑑定。調整打面の剥片。自然面は認められず。母岩消費の終盤に得られた剥片と鑑定	1層	PL41
22	剥片	頁岩	49.85	33.91	10.52	13.10	接合資料1	1層	PL40
23	剥片	頁岩	15.54	15.30	7.00	0.10	接合資料1	2層	PL40
25	石核	安山岩	31.52	42.76	31.88	37.29	断面の分布状況から争点程度の礫が素材。背面側作業面が最終調整その際に右側面の垂直割れ	1層	PL41
26	剥片	安山岩	67.83	50.80	11.61	35.66	調整打面の楕長剥片	1層	PL41
27	剥片	流紋岩	45.73	16.47	9.73	5.50	接合資料3	1層	PL40
28	剥片	安山岩	33.04	21.58	7.78	3.53	調整面打面の楕長型剥片	1層	PL41
30	剥片	流紋岩	14.00	5.00	2.00	0.10	接合資料4	1層	PL41
31	剥片	頁岩	23.10	14.18	11.12	2.30	接合資料1	2層	PL40
32	剥片	頁岩	63.00	35.00	16.00	26.20	接合資料5	1層	PL41
33	剥片	流紋岩	10.50	5.50	2.00	0.10	接合資料6	1層	PL40
35	石核	流紋岩	36.00	33.18	33.44	40.60	接合資料3 調整打面の石核。打面と作業面をほぼ固定して楕長剥片を連続的に調整	2層	PL41
36	剥片	流紋岩	11.50	7.50	1.50	0.10	接合資料4 30の主要調整面形成時のバルブスカー	2層	PL41
37	剥片	流紋岩	13.82	8.59	2.60	0.20	接合資料3 石核35になされた石核調整剥片。作業面側から背面に向けて剥片調整	2層	PL40
38	剥片	流紋岩	27.00	20.00	7.00	3.30	接合資料4 母岩消費の初期段階において打面側もしくは作業面側から調整を意図したものと鑑定	2層	PL41

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	部位	備考
39	剥片	流紋岩	11.86	7.83	2.50	0.10	接合資料3	剥離面打面の縦長剥片
40	剥片	流紋岩	13.00	9.00	2.50	0.20	接合資料6	
41	剥片	頁岩	26.06	25.53	5.68	1.60	接合資料5	表面両面にボジティブ面が認められ、明確な打点が見られず、内部から外縁へリングが拡散することから、焼熱の影響も受けつつ、磨石の剥離面が同時に削かれたものと推測
42	石核	頁岩	53.34	33.84	22.87	36.10	接合資料1	
43	剥片	頁岩	20.12	18.17	7.41	1.30	接合資料1	20 剥離面におよそ90度の打面転移がなされ、剥離
44	剥片	頁岩	14.61	11.33	2.06	0.20	接合資料1	20 剥離面打面の縦長剥片

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	部位	備考
1	剥片	頁岩	23.27	16.05	9.82	3.22	2層	
2	剥片	チャート	32.81	20.41	10.28	4.64	1層	
3	礫	硬砂岩	34.45	28.44	15.4	12.68	埋丸	
5	剥片	頁岩	38.27	27.08	12.44	14.57	1層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	部位	備考
7	剥片	安山岩	21.91	19.42	11.51	3.18	2層	
10	礫	硬砂岩	65.17	27.15	20.18	39.99	1層	
15	剥片	安山岩	19.68	17.85	4.58	1.65	1層	

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	部位	備考
24	砕片	頁岩	7.71	6.72	1.96	0.13	2層	
29	剥片	流紋岩	31.86	24.48	5.21	5.88	1層	
34	砕片	石英	7.72	7.19	1.49	0.06	1層	

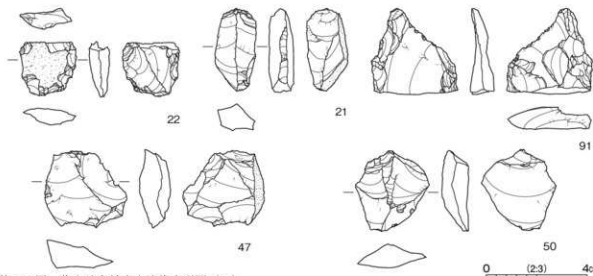
## (2) 集中地点外出土遺物 (第116・117図、第93・94表、PL42)

当遺跡では、石器集中地点以外からも石器が出土している。出土遺物は合計133点(総重量938.16g)で、内訳は、ナイフ形石器2点(安山岩、チャート)、楔形石器1点(頁岩)、尖頭器1点(デイサイト)、二次加工剥片3点(頁岩、チャート、流紋岩)、石核3点(安山岩2、チャート1)、剥片119点(頁岩2、安山岩21、黒曜石6、チャート52、流紋岩11、ホルンフェルス4、デイサイト2、硬砂岩7、砂岩2、花崗岩1、瑪瑙4、石英7)、原石1点(黒曜石)、礫2点(チャート、硬砂岩)、石鏃未製品1点(安山岩)である。また、接合資料2点が出土している。これらについては、主な石器について図示するとともに、一覧に特徴を記載する。

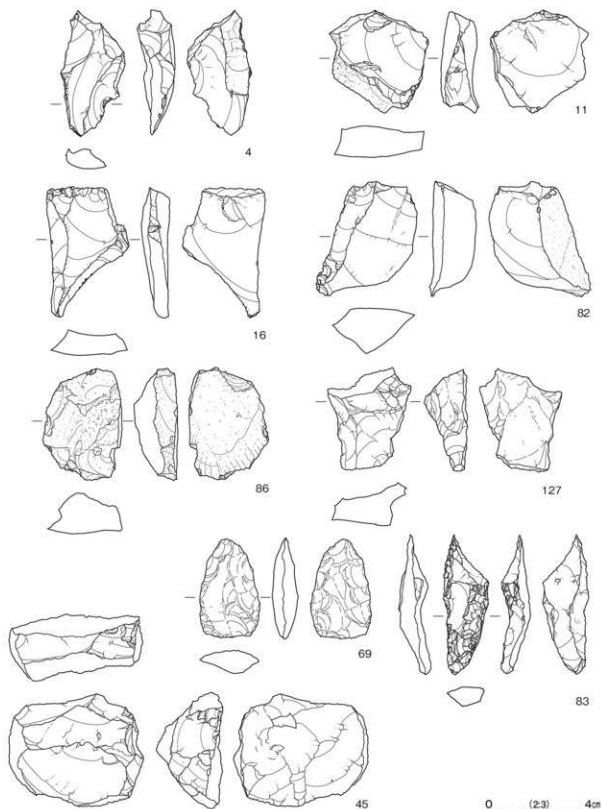
第93表 集中地点外石材単位器種・石材重量一覧

	頁岩	安山岩	黒曜石	チャート	流紋岩	ホルンフェルス	デイサイト	硬砂岩	砂岩	花崗岩	瑪瑙	石英	総計
ナイフ形石器		1		1									2
尖頭器							1						1
楔形石器	1												1
二次加工剥片	1			1	1								3
石核		2		1									3
剥片	2	21	6	52	11	4	2	7	2	1	4	7	119
石鏃未製品		1											1
原石			1										1
礫				1				1					2
総計	4	25	7	56	12	4	3	8	2	1	4	7	133

石材	総重量
頁岩	23.47
安山岩	162.91
黒曜石	28.45
チャート	337.82
流紋岩	74.36
ホルンフェルス	63.2
デイサイト	33.18
硬砂岩	149.7
砂岩	15.36
花崗岩	25.21
瑪瑙	10.04
石英	14.46
総計	938.16



第116図 集中地点外出土遺物実測図(1)



第117図 集中地点外出土遺物実測図(2)

第94表 集中地点外出土遺物一覧

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	出土遺構 グリッド	備考
4	二次加工片	頁岩	49.11	26.34	14.64	12.26	両側面打面の縁部もしくは折れ割りを素材とした二次加工片。背面構成は念心の。打面を構成する石表面の中には大きな空シヤイブ部が含まれる。打面は主要剥離面から背面側に付いた急角度の二次加工面により除去。主要剥離面縁部は主要剥離面形成と同時にもしくは形成後の前表面に付いた剥離面	3D	PL42
11	破片	流紋岩	40.39	38.82	14.71	21.06	両側面打面の形破片。右側面には石核の作業面打点部が取り込まれており、打面再生破片。	3D	PL42

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺構	備考
16	鏡片	流紋岩	51.31	33.35	11.59	13.32	銅鍍面打面の縦長鏡片 背面を構成する銅鍍面の銅鍍粒は求心の 縦線状打面転移	HD PL42
21	磨石形器	頁岩	32.66	16.80	8.13	5.65	磨石形器 ボジニア面は認められず、小型の磨を素材としたものと推定	HD PL42
22	石製本製品	安山岩	21.55	22.97	10.47	3.50	石製本製品の他、押形遺跡も認められることから石製本製品	HD PL42
45	石製本製品	安山岩	44.15	33.77	26.12	59.89	鏡面は磨粒の影響によるものと考えられる鏡面研磨のみから構成され、この面を打面として鏡片研磨	HD PL42
47	石核	安山岩	30.25	32.00	12.33	10.56	ボジニア面が認められないことから磨を素材とした石核 背面両面の作面面では共に求心の鏡片研磨作面の痕跡	SK58 PL42
50	二次加工鏡片	流紋岩	31.78	29.54	11.3	5.31	磨石形器を素材として二次加工鏡片 背面を鏡面打下にボジニア面も推定される大きなクワット形状、その後の研磨痕はほぼ全周縁が欠け 主要研磨面が認められるもの打面打点	SK117 PL42
69	矢頭器	ゴイヤイト	38.79	24.46	11.5	7.65	矢頭器もしくは石製本製品	TMS9 遺構 PL42
82	鏡片	流紋岩	45.90	39.22	18.36	23.45	銅鍍面打面の縦長鏡片 背面石核には主要研磨面の銅鍍粒と異なる大きなボジニア面 鏡片素材石核から研磨	TMS9 遺構 PL42
83	ナ(石)形器	チャート	55.11	18.2	12.94	8.29	磨石形器を素材 空射を指印に似た一側面加工のナ(石)形器 鏡面に側面に主要研磨面と同時、同時に形成後の鏡面加工はほぼ全周縁が欠け 主要研磨面が認められるもの打面打点にはほぼ全て二次加工、主要研磨面の打点が残置されていることから石核面打下は打面が残置	TMS9 遺構 PL42
86	原石	黒曜石	43.93	31.33	17.24	21.81	背面両面に細かい銅鍍粒が認められるが、自然面がほぼ全面を覆う原石	TMS9 遺構 PL42
91	二次加工鏡片	チャート	33.66	34.3	9.52	7.47	背面両面に見られる加工面は全て押形研磨 石製本製品もしくは石製の本製品と推定	TMS9 遺構 PL42
127	鏡片	安山岩	40.14	32.76	17.08	15.34	銅鍍面打面の縦長鏡片	TM10 遺構 PL42
集合資料1	流紋岩		17.83	23.32	11.6	3.97	59+61	TM1 PL42
集合資料2	輝砂岩		40.84	31.24	36.82	50.04	35+36	HD

番号	器種名	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	出土遺構	備考
1	鏡片	チャート	18.13	12.23	10.11	1.85	HD	
2	鏡片	チャート	13.43	10.64	3.63	0.54	HD	
3	鏡片	輝砂岩	23.62	14.38	4.01	1.33	HD	
5	鏡片	流紋岩	15.02	14.43	2.80	0.67	HD	
6	鏡片	石英	11.62	6.68	1.58	0.12	HD	
7	鏡片	石英	43.85	12.26	11.27	7	HD	
8	鏡片	安山岩	35.88	12.93	8.87	4.75	HD	
9	鏡片	黒曜石	6.76	6.56	1.44	0.04	HD	
10	鏡片	黒曜石	32.05	26.86	7.77	5.88	HD	
12	鏡片	チャート	14.31	14.26	3.36	0.84	HD	
13	石核	チャート	41.26	34.43	28.84	8.87	HD	
14	鏡片	チャート	36.05	18.13	6.1	4.44	HD	
15	磨	輝砂岩	38.92	40.13	13.01	29.80	HD	
17	鏡片	安山岩	51.34	29.13	6.88	7.30	HD	
18	鏡片	チャート	8.87	5.61	1.04	0.08	HD	
19	鏡片	チャート	19.01	16.18	2.91	0.87	HD	
20	鏡片	チャート	24.43	18.96	13.66	6.55	HD	
23	鏡片	花崗岩	35.47	33.54	23.51	25.28	HD	
24	鏡片	チャート	22.70	20.00	16.16	14.06	HD	
25	鏡片	安山岩	47.86	25.73	7.28	7.13	HD	
26	鏡片	安山岩	18.59	18.49	4.27	1.80	HD	
27	鏡片	チャート	28.77	16.16	7.41	3.49	HD	
28	鏡片	チャート	47.23	23.22	19.94	19.89	HD	
29	鏡片	安山岩	12.67	8.74	1.97	0.23	HD	
30	鏡片	安山岩	20.64	9.25	4.66	0.88	HD	
31	鏡片	チャート	25.12	13.33	3.97	1.43	HD	
32	鏡片	安山岩	25.43	20.26	4.99	3.02	HD	
33	鏡片	輝砂岩	29.68	23.35	8.33	4.96	HD	
34	鏡片	安山岩	15.87	14.02	3.44	0.82	HD	
35	鏡片	輝砂岩	34.58	31.15	23.29	30.14	HD	
36	鏡片	輝砂岩	41.89	28.82	16.68	19.90	HD	
37	鏡片	チャート	42.4	41.32	10.54	18.42	HD	
38	鏡片	チャート	12.47	10.12	9.02	0.85	HD	
39	鏡片	チャート	11.28	7.98	2.18	0.39	HD	
40	鏡片	チャート	26.63	3.07	13.29	10.70	HD	
41	鏡片	チャート	34.86	18.56	18.56	14.21	HD	
42	鏡片	輝砂岩	45.94	31.76	23.81	36.90	HD	
43	鏡片	頁岩	34.76	13.84	11.18	4.17	HD	
44	鏡片	チャート	31.46	25.15	16.40	11.81	HD	
46	鏡片	流紋岩	38.85	15.77	5.92	3.41	HD	
48	鏡片	黒曜石	30.37	19.45	10.36	4.24	SK86	
49	鏡片	石英	16.62	14.41	6.62	1.04	SK86	
51	鏡片	安山岩	25.08	18.89	5.8	2.93	HD	
52	鏡片	黒曜石	20.34	10.16	1.87	0.31	SK137	
53	鏡片	黒曜石	21.19	12.73	6.92	1.7	SK146	
54	鏡片	チャート	25.22	16.51	6.27	2.23	SK162	
55	鏡片	チャート	17.86	17.23	4.21	1.33	SD17	
56	鏡片	チャート	20.72	12.86	1.96	0.56	SD17	
57	鏡片	チャート	30.15	17.71	4.11	2.12	SD17	
58	鏡片	石英	33.75	29.46	10.17	6.1	SD19	
59	鏡片	流紋岩	17.94	17.59	5.19	1.3	TM1	
60	鏡片	チャート	13.13	6.87	1.83	0.19	TM1	
61	鏡片	流紋岩	20.13	19.75	5.49	2.67	TM1	
62	鏡片	安山岩	40.68	35.18	11.63	17.18	TM1	
63	鏡片	チャート	21.17	8.14	7.45	1.43	TM1	
64	鏡片	18+7+13	66.66	41	27.05	38.26	TM1	
65	鏡片	チャート	45.07	23.99	8.72	14.52	TM1	
66	鏡片	チャート	18.48	17.62	6.48	2.27	TM1	
67	鏡片	チャート	11.51	8.9	2.88	0.28	TM1	
68	鏡片	チャート	38.77	20.95	14.56	14.31	TM1	
70	鏡片	輝砂岩	36.08	25.95	7.1	5.48	TM1	
71	鏡片	チャート	19.66	4.37	3.93	0.51	TM1	
72	鏡片	チャート	40.20	22.17	7.93	TM1		
73	鏡片	流紋岩	22.29	20.6	4.95	1.88	TM1	
74	鏡片	18+7+13	38.18	11.4	7.1	3.27	TM1	
75	鏡片	チャート	22.97	16.9	4.57	1.56	TM1	
76	鏡片	18+7+13	48.4	45.6	4.42	21.11	TM1	
77	鏡片	チャート	22.39	13.58	9.17	2.29	TM1	
78	鏡片	輝砂岩	53.03	30.21	11.36	21.19	TM1	
79	鏡片	安山岩	40.12	38.25	9.2	16.66	TMS8	
80	鏡片	チャート	34.44	27.29	12.38	15.1	TMS9	
81	鏡片	ゴイヤイト	46.85	45.99	14.08	25.09	TMS9	
84	鏡片	安山岩	32.82	25.11	6.23	6.11	TMS9	
85	鏡片	安山岩	26.32	16.04	5.57	2.83	TMS9	
87	鏡片	流紋岩	19.02	16.69	3.81	1	TMS9	
88	鏡片	安山岩	44.13	36.71	6.81	8.88	TMS9	
89	鏡片	安山岩	16.56	15.94	5.06	1.03	TMS9	
90	鏡片	チャート	45.45	17.13	9.06	6.32	TMS9	
92	磨	チャート	60.6	29.89	15.95	29.16	TMS9	
93	鏡片	チャート	7.7	4.57	1.63	0.04	TMS9	
94	鏡片	チャート	6.89	3.08	1.4	0.03	TMS9	
95	鏡片	チャート	8.75	8.52	4.6	0.3	TMS9	
96	鏡片	安山岩	20.99	11.1	4.33	0.92	TMS9	
97	鏡片	チャート	13.47	7.99	7.65	0.72	TMS9	
98	鏡片	石英	7.97	4.26	1.34	0.05	TMS9	
99	鏡片	黒曜石	7.54	6.71	1.58	0.06	TMS9	
100	鏡片	チャート	5.03	3.99	2.14	0.01	TMS9	
101	鏡片	黒曜石	4.87	2.93	2.24	0.02	TMS9	
102	鏡片	安山岩	21.31	20.02	7.71	3.73	TMS9	
103	鏡片	チャート	18.33	15.53	2.98	0.76	TMS9	
104	鏡片	石英	5.75	3.8	2.13	0.04	TMS9	
105	鏡片	石英	7.84	5.29	2.41	0.11	TMS9	
106	鏡片	黒曜石	7.13	4.8	2.79	0.09	TMS9	
107	鏡片	チャート	4.8	3.22	0.73	0.01	TMS9	
108	鏡片	安山岩	10.57	9.07	1.79	0.19	TMS9	
109	鏡片	チャート	13.65	7.16	3.7	0.38	TMS9	
110	鏡片	チャート	6.35	5.99	1.96	0.09	TMS9	
111	鏡片	チャート	14.4	9.17	0.57	0.01	TMS9	
112	鏡片	黒曜石	4.68	4.74	2.43	0.28	TMS9	
113	鏡片	流紋岩	9.62	5.83	2.89	0.12	TMS9	
114	鏡片	チャート	13.84	7.33	6.35	0.47	TMS9	
115	鏡片	チャート	9.05	3.68	1.84	0.07	TMS9	
116	鏡片	チャート	11.62	6.45	2.8	0.17	TMS9	
117	鏡片	チャート	10.47	7.21	1.28	0.12	TMS9	
118	鏡片	安山岩	17.47	17.02	2.54	0.64	TMS9	
119	鏡片	流紋岩	9.37	5.42	1.27	0.07	TMS9	
120	鏡片	安山岩	9.67	3.48	1.41	0.05	TMS9	
121	鏡片	チャート	5.49	3.9	0.69	0.01	TMS9	
122	鏡片	チャート	4.96	4.81	1.79	0.05	TMS9	
123	鏡片	チャート	7.35	4.83	2.16	0.07	TMS9	
124	鏡片	チャート	6.64	5.85	2.91	0.08	TMS9	
125	鏡片	チャート	11.83	12.55	6.91	1.09	TM10	
126	鏡片	輝砂岩	39.24	22.49	10.82	6.27	TM10	
128	鏡片	輝砂岩	34.5	20.95	6.96	4.06	TM10	
129	鏡片	チャート	43.41	36.51	27.51	40.89	TM10	
130	鏡片	黒曜石	6.97	6.43	1.04	0.04	TM10	
131	鏡片	チャート	7.08	4.98	0.82	0.04	TM10	
132	鏡片	ゴイヤイト	8.35	2.66	0.67	0.02	TM10	
133	鏡片	頁岩	20.72	14.89	4.23	1.39	TM10	

## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、古墳4基を確認した。当古墳群は、つくば市教育委員会の分布調査では7基とされていたが、今回の調査で、新たに3基の古墳を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

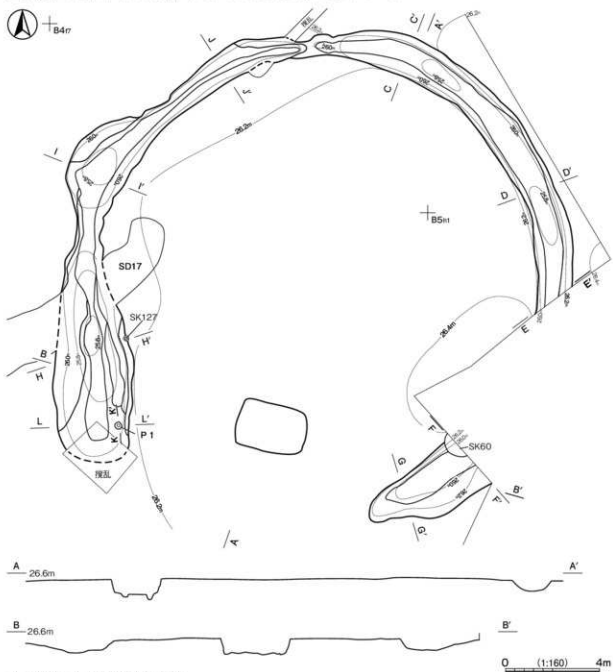
### 古墳

#### 第1号墳 (第118～125図 第95～97表 PL10・43～47)

**位置** 調査区東部のB4f7～C5a1区、標高26mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

**現況及び調査経過** 第1号墳主体部は、つくば市教育委員会により、石棺を記録保存するための発掘調査と、周溝の確認調査を、平成12年8月17日から9月14日の期間で行っている。

**重複関係** 周溝は、第17号溝、第60・127号土坑に掘り込まれている。



第118図 第1号墳完掘実測図

**規模と平面形** 墳形は前方後円墳(帆立貝形)と想定されるが、墳丘及び前方部は削平されている。主軸方向はN-157°-Wである。規模は、後円部径22.4m、くびれ部幅11.2mである。

**周溝** 調査区外へ延びる後円部東側の一部は未確認で、前方部は削平されている。周溝は、上幅0.7~3.4m、下幅0.3~1.2m、深さ0.2~0.6mで、西側くびれ部付近の幅、深さがともに最大値である。深さは、くびれ部から北へ向い浅くなる。東側の一部は調査区外のため確認できなかった。

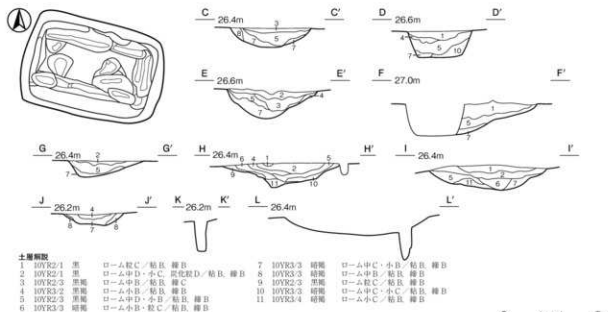
**周溝土層** 11層に分層できる。層準の対比は黒色土を基準として、上下に大きく2群に分けられる。第1群(第1・2層)は腐植土が自然堆積したもので、第2群(第3~11層)は墳丘や周溝外からの崩落等による流入土でローム主体土である。

**遺物出土状況** 周溝から、土師器片113点(坏2、器台1、高坏2、鉢1、甕107)、須恵器片5点(坏)、埴輪片305点、石器20点(尖頭器1、剥片19)が出土している。周溝東側くびれ部付近からは、埴輪片47点がまとめて出土している。覆土上層の自然堆積土からの出土であり投棄されたと推定される。埴輪片は白雲母・黒雲母を含み、県南地域でみられる埴輪の特徴を示し、胎土から5群に分類できる。種類の判明できた埴輪片は、円筒埴輪201点、形象埴輪31点(人物3、馬1、不明27)、器財埴輪2点(機織)である。

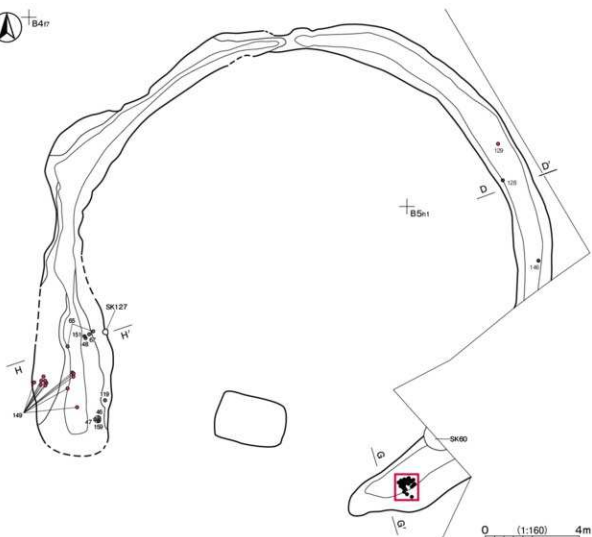
**出土遺物** 人物埴輪137は、人物の首部から右腕で、首に、勾玉と丸玉が交互に表現されている。胴部への腕部結合方法は、胴部に腕部を差し込み、胴部内面に粘土を充填して結合させている。胎土は、器財埴輪135と酷似していることから同一個体と考えられる。

形象埴輪138は、馬具を装着した馬形埴輪で、頭頂部から鞍前輪までの破片である。頭頂部は、左側に耳を表現した穴の一部を確認できる。この耳の後ろを回した位置の左右側面に、面繋の革紐表現がある。また、たてがみの上部を前輪に接するように頭部から延びてくる手綱の革紐表現がある。前輪を基準とし、首から頭部の形状を推定すると、首はやや垂れ、頭部を下方へ向けた馬形埴輪であると推測される。

器財埴輪135は、基台部とその上に2本一対で直立した柱状脚部の破片である。類例から、機織形埴輪と考えられる。脚部のうち、右脚部には対となる脚間内側の右脚部上方から下方へ、さらに、台座前方中央から後方へ延びる紐が表現されている。また、右脚部の上部にある粘土の剥れ痕が、前方部から後方へ傾斜するため、傾斜をもった機台を表現したものと考えられる。このことから有機台腰機(地機)の埴輪と推測される。有機

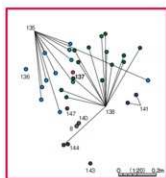
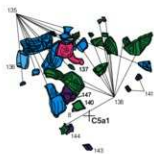


第119図 第1号墳周溝土層断面図

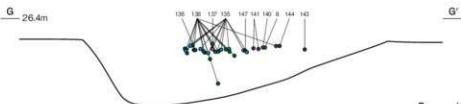


0 (1:160) 4m

0 (1:80) 2m



- : 円筒埴輪
- : 形象埴輪 (人物)
- : 形象埴輪 (馬形)
- : 形象埴輪 (不明)
- : 器埴輪 (織織)



0 (1:20) 0.5m

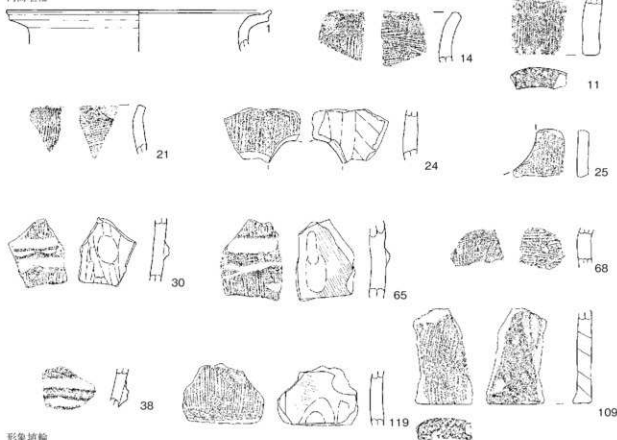
第 120 图 第 1 号埴輪出土状況图



台腰機（地機）は、綜絢が招木と連結し、天秤仕掛けにより足で操作することができることから、右脚内側に垂下し基台中央へ延びる紐表現は、招木から足元に延びる紐を表現していると考えられる。なお、基台上面には、別に部材の剥れ痕を1か所確認できる。器財埴輪 136 は、135 の柱状脚部と製作方法や胎土、焼成具合が酷似することから同一個体と考えられる。破断面の両面に互い違いに円柱状の部材の剥れ痕を確認できる。

所見 時期は、埴形や埴輪が伴わないことから、6世紀末～7世紀初頭に推定される。

## 円筒埴輪

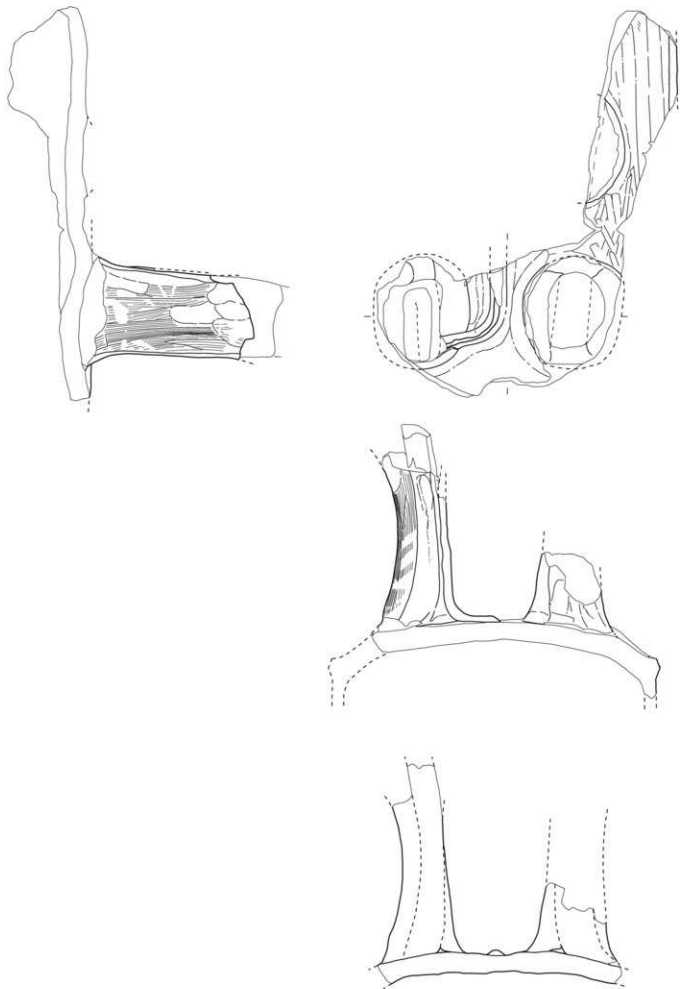


## 形象埴輪



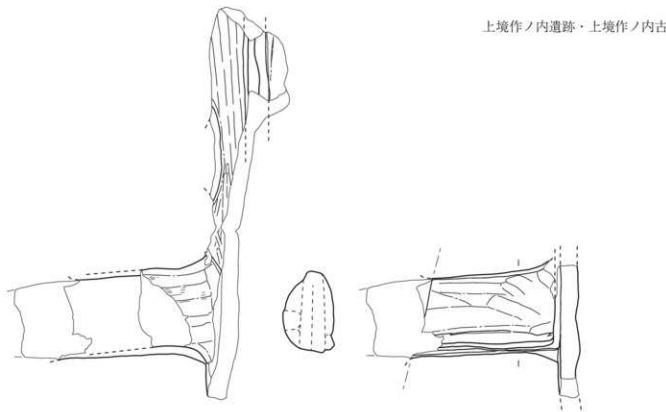
第121図 第1号墳出土遺物実測図(1)

0 (1:3) 5cm



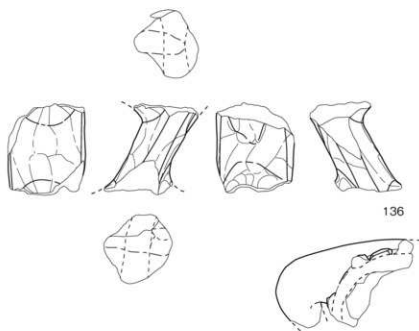
第122图 第1号墳出土遺物実測図(2) 器財植輪(機織)

0 (1:4) 10cm

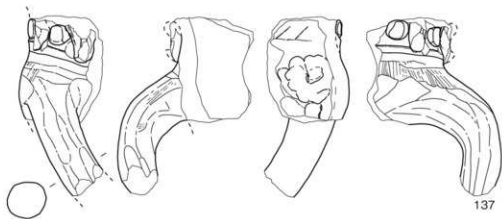


--- 貼付補強粘土端部の傾斜方向

135



136



137

第123図 第1号墳出土遺物実測図(3) 器財埴輪(機織・人物)

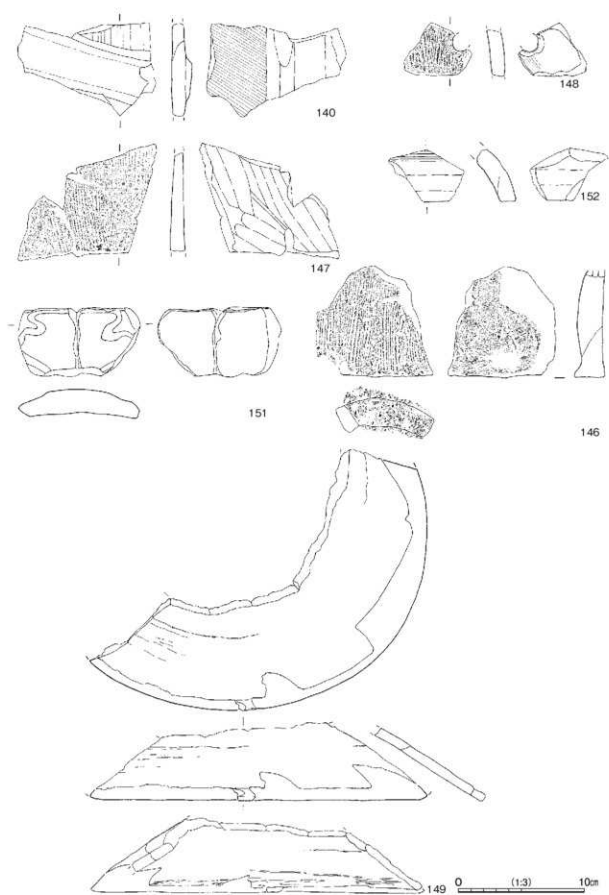
0 (1:4) 10cm



138

0 (1:3) 10cm

第 124 图 第 1 号出土物实测图 (4) 形象埴輪 (馬形)



第125図 第1号墳出土遺物実測図(5)

第95表 第1号墳出土遺物一覧

番号	種類	図録	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	検出	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
1	土師器	要	20.7	3.2	—	長石・石黄・赤鉄	5YR5/4	にぶい赤焼	普通	口縁縁のみ上げ	ナデ	周溝上	遺物

第96表 第1号墳出土遺物一覧(円筒埴輪)

番号	埴輪種類	長さ mm	口径 mm	高さ mm	底径 mm	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴	出土位置	備考
2	円筒 尖帯部	3.3 (4.9) 0.8	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土	5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タナデ	周溝2区	一箇のみ	
3	円筒 尖帯部	3.8 (3.8) 1.0	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突起部着押圧痕	周溝2区	一箇のみ	
4	円筒 口縁部	3.2 (3.2) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩 胎土	2.5YR5/8 橙	普通	外面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	周溝3区	一箇のみ	
5	円筒 口縁部	3.2 (3.2) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	7.5YR6/6 橙	普通	内外面ともに摩成が著しく調整不明	周溝3区	一箇のみ	
6	円筒 尖帯部	3.6 (5.3) 0.9	—	三角	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：タナデ 突起部着押圧痕	周溝3区	一箇のみ	
7	円筒 胴部	5.3 (3.8) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	7.5YR6/6 橙	普通	外面：タテハケ 内面：タナデ 内外面ともに摩成が著しい	周溝3区	一箇のみ	
8	円筒 胴部	3.8 (4.0) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：タテハケ 内面：タナデ 内外面ともに摩成が著しい	周溝3区	一箇のみ	
9	円筒 胴部	3.6 (5.0) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：斜方ナデ後タナデ 外面の調整痕から突起部の痕跡	周溝3区	一箇のみ	
10	円筒 胴部	3.1 (4.5) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	2.5YR6/6 橙	普通	外面：タテハケ 内面：タナデ	周溝3区	一箇のみ	
11	円筒 底部	1.8 (4.4) 1.4	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土	5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：タテハケ 内面：タナデ 底部：未調整	周溝3区	PL43	
12	円筒 底部	3.7 (3.8) 1.4	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩 胎土	7.5YR6/6 橙	普通	内外面ともに摩成が著しく調整不明	周溝3区	一箇のみ	
13	円筒 尖帯部	3.2 (2.6) 0.7	—	台形 M字	白雲母 石黄・長石 胎土	7.5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：突起部着押圧痕	周溝4区	一箇のみ	
14	円筒 口縁部	4.2 (3.9) 1.0	—	—	白雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	7.5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：タテハケ後1段部ヨコハケ後ヨコナデ 内面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ	周溝5区	PL43	
15	円筒 口縁部	3.4 (3.7) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	7.5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：タテハケ後1段部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ 全体的に摩成が著しい	周溝5区	一箇のみ	
16	円筒 口縁部	3.9 (2.2) 1.0	—	—	白雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	7.5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：タテハケ後1段部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ	周溝5区	一箇のみ	
17	円筒 口縁部	3.9 (3.0) 0.9	—	—	白雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	7.5YR6/6 橙	普通	外面：タテハケ後1段部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ	周溝5区	一箇のみ	
18	円筒 口縁部	3.1 (3.8) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	7.5YR6/6 橙	普通	外面：タテハケ後1段部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ	周溝5区	一箇のみ	
19	円筒 口縁部	3.2 (3.5) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・細礫 胎土	7.5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：タテハケ後1段部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ 全体的に摩成が著しい	周溝5区	一箇のみ	
20	円筒 口縁部	3.4 (4.5) 0.8	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	7.5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：タテハケ後1段部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ 全体的に摩成が著しい	周溝5区	一箇のみ	
21	円筒 口縁部	3.1 (3.0) 0.9	—	—	白雲母 石黄・長石 胎土	7.5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：タテハケ後1段部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ	周溝5区	PL43	
22	円筒 口縁部	3.0 (3.2) 0.8	—	—	白雲母 石黄・長石 胎土	7.5YR6/6 橙	普通	外面：口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ	周溝5区	一箇のみ	
23	円筒 口縁部	3.1 (2.8) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	7.5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：タテハケ後1段部ヨコナデ 内面：ヨコハケ後1段部ヨコナデ	周溝5区	一箇のみ	
24	円筒 透孔	4.2 (6.0) 1.0	円形 (4.0)	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	7.5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：タテハケ 内面：斜方ナデ後タナデ	周溝5区	PL43	
25	円筒 透孔	3.9 (4.0) 0.9	円形 (4.0)	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	7.5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：タテハケ 内面：ナデ	周溝5区	PL43	
26	円筒 透孔	4.2 (2.7) 1.0	円形 (4.0)	—	白雲母 石黄・長石・花崗岩 胎土	7.5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：タテハケ後ヨコナデ 内面：タナデ 外面の調整痕から突起部の痕跡	周溝5区	一箇のみ	
27	円筒 透孔	3.3 (4.4) 1.0	円形 (3.0)	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	7.5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：タテハケ 内面：タナデ	周溝5区	一箇のみ	
28	円筒 透孔	4.3 (2.8) 1.0	(3.0)	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	7.5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：タテハケ 内面：タナデ	周溝5区	一箇のみ	
29	円筒 透孔	3.4 (3.7) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土	7.5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：タテハケ 内面：タナデ	周溝5区	一箇のみ	
30	円筒 尖帯部	3.4 (4.6) 1.0	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	5YR5/4 にぶい赤焼	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：突起部着押圧痕 ナデ	周溝5区	PL43	
31	円筒 尖帯部	4.7 (4.3) 0.8	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	7.5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 突起部着押圧痕	周溝5区	一箇のみ	
32	円筒 尖帯部	4.1 (4.2) 1.1	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	7.5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	周溝5区	一箇のみ	
33	円筒 尖帯部	3.7 (4.2) 0.9	—	台形 M字	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土	7.5YR5/6 弱赤焼	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：斜方ナデ	周溝5区	一箇のみ	

番号	墳形 種類	長さ 幅 高さ	透孔状	発見 時期	動 土	色 調	構成	調整・整形の特徴	出土位置	備 考
34	円筒 夾器部	(4.1) (4.0) 0.9	—	三角	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
35	円筒 夾器部	(3.6) (3.9) 1.0	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
36	円筒 夾器部	(3.9) (4.5) 0.9	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	調整5区	一覧のみ
37	円筒 夾器部	(5.6) (5.9) 0.9	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
38	円筒 夾器部	(3.3) (4.3) 0.8	—	右形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	調整5区	PL43
39	円筒 夾器部	(3.0) (4.0) 0.8	—	三角	白雲母 石英・長石・花崗岩 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
40	円筒 夾器部	(3.2) (4.0) 1.1	—	三角	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	調整5区	一覧のみ
41	円筒 夾器部	(4.1) (4.0) 1.1	—	右形 M字	白雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
42	円筒 夾器部	(2.6) (4.3) 0.8	—	右形	白雲母 石英・長石 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	調整5区	一覧のみ
43	円筒 夾器部	(4.4) (2.9) 1.0	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ヨコナデ	調整5区	一覧のみ
44	円筒 夾器部	(3.0) (3.4) 0.9	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	調整5区	一覧のみ
45	円筒 夾器部	(2.3) (2.9) 1.4	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	調整5区	一覧のみ
46	円筒 夾器部	(3.2) (2.5) 1.1	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	調整5区	一覧のみ
47	円筒 夾器部	(4.0) (3.9) 0.9	—	右形	白雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：斜方向ナデナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
48	円筒 夾器部	(4.8) (3.5) 1.1	—	右形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
49	円筒 夾器部	(2.8) (3.9) 0.9	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
50	円筒 透孔 夾器部	(3.7) (3.9) 0.7	(4.0)	右形 M字	白雲母・黒雲母 石英・長石 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
51	円筒 夾器部	(4.9) (4.6) 1.1	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
52	円筒 夾器部	(3.8) (2.7) 1.0	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	調整5区	一覧のみ
53	円筒 夾器部	(2.2) (4.0) 0.9	—	右形 M字	白雲母 石英・長石 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	調整5区	一覧のみ
54	円筒 夾器部	(3.2) (3.9) 1.0	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
55	円筒 夾器部	(4.3) (3.9) 0.9	—	右形	白雲母 石英・長石 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
56	円筒 夾器部	(3.1) (4.0) 0.9	—	右形	白雲母 石英・長石 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	調整5区	一覧のみ
57	円筒 夾器部	(3.5) (3.4) 1.0	—	—	白雲母 石英・長石 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	内外面ともに磨削が著しく調整不明	調整5区	一覧のみ
58	円筒 夾器部	(4.5) (2.4) 1.0	—	右形	白雲母 石英・長石 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：二次調整ヨコナデ	調整5区	一覧のみ
59	円筒 夾器部	(3.5) (3.1) 1.1	—	右形	白雲母 石英・長石 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	内外面ともに磨削が著しく調整不明	調整5区	一覧のみ
60	円筒 夾器部	(3.9) (3.1) 1.1	—	右形	白雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：斜方向ナデナデ 発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
61	円筒 夾器部	(2.9) (2.7) 1.2	—	右形	白雲母 石英・長石・花崗岩 粘土①	75YR5/6 明橙	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：ナデ	調整5区	一覧のみ
62	円筒 夾器部	(3.2) (3.9) 1.1	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR5/4 にぶい黄	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：発巻後着押圧	調整5区	一覧のみ
63	円筒 夾器部	(3.5) (4.1) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR6/6 橙	普通	内外面ともに磨削が著しく調整不明	調整5区	一覧のみ
64	円筒 夾器部	(3.1) (2.9) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：タテナデヨコナデ 内面：ナデ 発巻後着押圧 外面の調整痕から発巻前の顔れ	調整5区	一覧のみ
65	円筒 夾器部	(4.4) (4.1) 1.3	—	右形	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子 粘土①	25YR5/8 明赤黄	普通	外面：一次調整タテハケ、二次調整ヨコナデ 内面：発巻後着押圧 斜方向ナデナデ	調整5区	PL43
66	円筒 調整	(3.8) (4.8) 1.2	—	—	白雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	75YR6/6 橙	普通	外面：タテナケ 内面：タテナデ	調整5区	一覧のみ
67	円筒 調整	(4.4) (5.0) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 粘土①	5YR5/6 明赤黄	普通	外面：タテナケ 内面：タテナデ	調整5区	一覧のみ

番号	産地 種類	長さ 幅	透孔数	染色 状態	胎土	色調	構成	調整、整形の特徴他	出土位置	備考
68	円筒 胴部	(35) (45) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	75Y35/6 明褐色	普通	外面：タナハケ後上ヨコナデ 内面：ヨコナデ	周溝5区	PL43
69	円筒 胴部	(33) (38) 0.8	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/8 明褐色	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
70	円筒 透孔 胴部	(24) (47) 0.9	円形	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・花崗岩 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
71	円筒 胴部	(35) (27) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：斜方向ハケ	周溝5区	一覧のみ
72	円筒 胴部	(24) (26) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：ナデ	周溝5区	一覧のみ
73	円筒 胴部	(22) (37) 1.2	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	5Y36/8 暗	普通	外面：タナハケ 内面：斜方向ハケ	周溝5区	一覧のみ
74	円筒 胴部	(39) (28) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・花崗岩 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：斜方向ハケ 内面：ヨコナデ	周溝5区	一覧のみ
75	円筒 胴部	(43) (44) 0.8	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・赤色粒子 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：一部斜方向ハケ	周溝5区	一覧のみ
76	円筒 胴部	(37) (38) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
77	円筒 胴部	(47) (40) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	5Y35/6 明赤褐色	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
78	円筒 胴部	(44) (46) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
79	円筒 胴部	(37) (50) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・赤色粒子 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ後ヨコナデ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
80	円筒 胴部	(40) (53) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
81	円筒 胴部	(30) (26) 1.2	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	5Y36/8 暗	普通	外面：斜方向ハケ 外面半環状が美しい	周溝5区	一覧のみ
82	円筒 胴部	(37) (63) 1.2	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
83	円筒 胴部	(47) (29) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・花崗岩 胎土	75Y35/6 明褐色	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
84	円筒 胴部	(39) (43) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・赤色粒子 胎土	75Y35/6 明褐色	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
85	円筒 胴部	(30) (62) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・赤色粒子 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
86	円筒 胴部	(32) (32) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石・花崗岩 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
87	円筒 胴部	(41) (37) 1.2	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/6 明褐色	普通	外面：タナハケ後ヨコナデ 内面：タナナデ 外面の調整痕から変形部での割れ	周溝5区	一覧のみ
88	円筒 胴部	(43) (32) 0.8	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ後ヨコナデ 内面：ヨコナデ	周溝5区	一覧のみ
89	円筒 胴部	(32) (30) 0.9	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/6 明褐色	普通	外面：タナハケ 内面：ヨコナデ	周溝5区	一覧のみ
90	円筒 胴部	(30) (38) 1.1	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
91	円筒 胴部	(33) (49) 0.9	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
92	円筒 胴部	(19) (20) 0.8	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：ヨコナデ 縦割	周溝5区	一覧のみ
93	円筒 胴部	(33) (37) 0.9	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/6 明褐色	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
94	円筒 胴部	(26) (42) 1.4	—	—	白雲母 右夷・赤色粒子 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ後ヨコナデ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
95	円筒 胴部	(33) (33) 1.0	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
96	円筒 胴部	(30) (41) 0.9	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ後ヨコナデ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
97	円筒 胴部	(33) (34) 0.8	—	—	白雲母 右夷・長石・花崗岩 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
98	円筒 胴部	(28) (34) 1.1	—	—	白雲母 右夷・長石・赤色粒子 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ後ヨコナデ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
99	円筒 胴部	(36) (34) 0.7	—	—	白雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
100	円筒 胴部	(28) (27) 1.0	—	—	白雲母 右夷・長石・花崗岩 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
101	円筒 胴部	(31) (38) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 右夷・長石 胎土	75Y35/4 L.赤・黄	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ



番号	遺物種類	長さ 幅 厚	透孔径	発出 位置	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴	出土位置	備考
102	内筒 胴部	(4.7) (3.6) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：タナハケ黄ヨコナデ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
103	内筒 胴部	(2.8) (2.6) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
104	内筒 胴部	(3.1) (3.2) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/6 明焼	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
105	内筒 胴部	(3.6) (3.6) 0.8	—	—	白雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：タナハケ 内面：斜方向ハケ	周溝5区	一覧のみ
106	内筒 胴部	(2.8) (4.1) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
107	内筒 胴部	(3.7) (4.4) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
108	内筒 胴部	(4.6) (3.7) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ	周溝5区	一覧のみ
109	内筒 胴部	(7.6) (4.7) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR6/4 に近い	普通	外面：タナハケ 内面：タナナデ 底部：径100cm程度 未調整 商家による芯み	周溝5区	片取
110	内筒 底部	(3.4) (3.9) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	5 YR6/6 暗	普通	外面：タナハケ 内面：ナデ 底部：未調整 商家による芯み	周溝5区	一覧のみ
111	内筒 口縁部	(2.1) (2.1) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土①	5 YR5/4 に近い赤黒	普通	外面：タナハケ黄口縁部ヨコナデ 内面：ヨコハケ黄口縁部ヨコナデ	周溝6区	一覧のみ
112	内筒 尖部	(4.5) (3.8) 1.2	—	右形	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	5 YR6/6 明赤焼	普通	外面：一次調整タナハケ、二次調整ヨコナデ 内面：タナナデ 尖部接着押圧痕	周溝6区	一覧のみ
113	内筒 尖部	(3.3) (4.2) 1.0	—	右形	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	5 YR6/6 明赤焼	普通	外面：一次調整タナハケ、二次調整ヨコナデ 内面：斜方向ハケ 尖部接着押圧痕	周溝6区	一覧のみ
114	内筒 尖部	(3.5) (4.0) 1.2	—	右形	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：一次調整タナハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 尖部接着押圧痕	周溝6区	一覧のみ
115	内筒 尖部	(4.0) (3.8) 1.2	—	右形	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/6 明焼	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：ナデ 尖部接着押圧痕	周溝6区	一覧のみ
116	内筒 尖部	(3.0) (2.9) 1.0	—	右形	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	内外面ともに焼成が著しく調整不明	周溝6区	一覧のみ
117	内筒 尖部	(3.5) (2.7) 1.0	—	右形	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：焼成が著しい	周溝6区	一覧のみ
118	内筒 尖部	(2.3) (3.8) 1.2	—	右形	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土①	2.5YR6/8 暗	普通	内外面ともに焼成が著しく調整不明	周溝6区	一覧のみ
119	内筒 胴部	(4.7) (6.2) 1.0	—	右形	白雲母・黒雲母 石黄・長石・赤色粒子 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：一次調整タナハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ヨコハケ赤ナデナデ 斜方向ハケ 内面に押圧痕があることから尖部接着の痕あり	周溝6区	片取
120	内筒 胴部	(2.9) (2.7) 1.0	—	—	白雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR6/6 暗	普通	内外面ともに焼成が著しく調整不明	周溝6区	一覧のみ
121	内筒 胴部	(4.1) (2.5) 0.9	—	—	白雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：タナハケ 内面：ナデ	周溝6区	一覧のみ
122	内筒 胴部	(2.7) (3.3) 0.9	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：タナハケ黄ヨコナデ 内面：ヨコハケ	周溝6区	一覧のみ
123	内筒 胴部	(3.2) (3.7) 1.1	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	内外面ともに焼成が著しく調整不明	周溝6区	一覧のみ
124	内筒 胴部	(2.9) (3.8) 1.2	—	—	白雲母 石黄・長石 胎土①	2.5YR6/8 暗	普通	外面：ハケ 内面：焼成が著しい	周溝6区	一覧のみ
125	内筒 口縁部	(4.0) (4.1) 1.2	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩 胎土①	5 YR5/4 に近い赤黒	普通	外面：一次調整タナハケ、二次調整ヨコナデ 内面：ヨコハケ黄口縁部ヨコナデ	周溝7区	一覧のみ
126	内筒 尖部	(3.2) (3.0) 0.9	—	右形 M字	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：二次調整ヨコナデ 内面：尖部接着押圧痕 全体的に焼成が著しい	周溝7区	一覧のみ
127	内筒 胴部	(4.1) (2.2) 1.0	—	—	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩 胎土①	7.5YR5/4 に近い	普通	外面：タナハケ 内面：斜方向ハケ	周溝1区	一覧のみ

第97表 第1号墳出土遺物一覧(形象埴輪)

番号	遺物種類	長さ 幅 厚	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴	出土位置	備考
128	形骸 不明	(3.6) (8.9) 0.7~1.6	石黄・赤色粒子・白色粒子 胎土①	7.5YR6/6 暗	良好	裏面の赤雲母・タナハケに正がり中央部に線刻のものを表した込んだ。中央部線刻ハケ調整を行った部品を接合したため凸状のハケ目がインプリントされた 外面：細ミナナデ一部赤黒 内面：ヨコハケ・ハケ・2部内日本 彫2部	周溝1区	PL44
129	形骸 人骨 (北境遺跡)	(7.1) (4.2) 0.7	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土①	7.5YR5/6 明焼	普通	内面は区部の基部に筋線部を施し付け 外面の調整が非常に丁寧 外面：タナハケナデ等ヨコナデ斜方向ハケ調による見取 筋線部の基部にタナハケ 全体的に焼成が著しい	周溝1区	PL44
130	形骸 不明	(2.3) (4.4) 2.3	白雲母・黒雲母 石黄・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 胎土①	7.5YR5/6 明焼	普通	筒ナデ一部黒赤 胎土から彫刻痕の彫影と同一個体と考えられる	周溝1区	一覧のみ
131	形骸 不明	(4.8) (3.7) 1.1	石黄・長石 胎土①	7.5YR7/6 暗	良好	内外面ともにナデ 胎土から彫刻痕と同一個体と考えられる	周溝1区	一覧のみ
132	形骸 不明	(3.9) (2.5) 0.7	白雲母・黒雲母 石黄・長石 胎土①	7.5YR5/6 明焼	普通	内外面ともにナデ 胎土から彫刻痕と同一個体と考えられる	周溝1区	一覧のみ

番号	発注 種類	長さ 幅 厚さ	船土	色調	地成	調整・彫刻の特徴	出土位置	備考
133	彫象 馬形 首	(25) 10 3.0	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR7-4 にぶい	普通	外面 ナメ 内面 ナメ 孔径 1.0cmの突起 船土位置や船土から彫刻と同一体でありそうと考えられる	階溝2区	一 覧 の み
134	彫象 不明	(17) 22.0 1.2	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子 船土⑤	75YR7-4 にぶい	普通	外面 ハテ 内面 ナメ	階溝2区	一 覧 の み
135	宙肘 機械	(30.4) (17.6) 1.5	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR5-3 にぶい	普通	舟形外面 断面は階溝でハテ直。表面はヨコナメ 内面 断面は右に左方向のナメが。断面では前後方向へのナメ 機械 長さ 20 × 6.0 × (4.0) cm板状の素材を使用。素材にチタハク 素材に調整 をせず。表面はヨコナメ。上部は舟形を強調する突起があり。側面に上部 から下へ向かう溝が舟形に合わせて縁取りを施す。 裏面 石。両側面に舟形の取組のわずかな突起(五)と同じく素材を埋め 彫り (四)から4.2cm前後の距離	階溝3区	PL6 PL7
136	宙肘 機械	(6.9) (6.2) (3.2)	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR5-3 にぶい	普通	上下階溝面 断面は舟形をなすように突起のものが彫り付けられている 外面 ナメ 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 彫り 船土から機械と同一体と考えられる	階溝3区	PL6
137	宙肘 人物 (女性)	(13.7) (7.4) 1.3	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR5-4 にぶい	普通	外面 ナメ 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 内面 ナメ 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 内面 ナメ 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用	階溝3区	PL7
138	彫象 馬形	(36.9) (21.8) 8.7	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR5-4 にぶい	普通	断面から彫刻部分でナメが 外面 チタハク後ヨコナメ 断面・手前・後面を彫り付け後ナメ 前後斜方向ハ テ後ヨコナメ 内面 ナメ 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 内面 ナメ 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用	階溝3区	PL5
139	彫象 馬形 引手	(6.1) (6.0) (1.5)	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR5-4 にぶい	普通	馬体部分に長引手を含む 外面 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 内面 ナメ 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用	階溝3区	PL5
140	彫象 馬形 馬具帯首	(7.4) (13.0) 0.8 ~ 1.4	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR5-6 明赤	普通	断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 外面 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 内面 ナメ 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用	階溝3区	PL5
141	彫象 不明	(3.9) (2.4) 0.9	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR5-6 明赤	普通	外面 ハテ 内面 ナメ	階溝3区	一 覧 の み
142	彫象 不明	(4.4) (3.9) 0.8 ~ 1.3	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR5-4 にぶい	普通	断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 外面 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用 内面 ナメ 断面から機械断面と同様の突起 (1.5 × 0.7 × 2) を使用	階溝3区	PL4
143	彫象 不明	(2.1) (3.0) 1.3 ~ 1.5	白雲母・黒雲母 石英・炭化物 船土⑤	75YR5-6 明赤	普通	外面 ナメ 内面 断面からのナメ 断面 断面からのナメ ハテ 2cm内に6本 幅2mm	階溝3区	PL4
144	彫象 不明	(3.3) (4.9) 0.9	白雲母 石英・長石 船土⑤	25YR5-6 明赤	普通	外面 1.0mm後ヨコナメ 三角上の突起彫り付けヨコナメ調整 内面 1.0mm後内側ナメ 舟へのナメナメ 突起彫り付け調整	階溝3区	PL4
145	彫象 不明	(4.1) (5.0) 1.3	白雲母・黒雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 船土⑤	5YR5-4 にぶい	普通	外面 ハテ 内面 ナメ 断面 断面から彫象地輪と考えられる	階溝3区	一 覧 の み
146	彫象 不明	(8.6) (8.4) 2.0 ~ 2.4	白雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	5YR5-6 明赤	普通	外面 チタハク 内面 断面からのナメ。2次調整ナメ 断面 断面から彫象地輪と考えられる	階溝3区	PL4
147	彫象 不明	(9.2) (11.0) 1.1	白雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	25YR5-4 にぶい	普通	外面 ナメ 内面 ナメ 断面 断面から彫象地輪と考えられる	階溝4区	PL4
148	彫象 不明	(4.2) (5.4) 1.2	白雲母・黒雲母 石英・長石・石英・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	5YR5-6 明赤	普通	外面 ナメ 内面 ナメ 断面 断面から彫象地輪と考えられる	階溝3区	PL4
149	彫象 人物 首	(6.3) (3.1) (1.1)	石英・長石・網腐 船土⑤	75YR6-6 暗	普通	人物彫刻の上彫りになる 断面から彫象地輪と考えられる	階溝5区	PL4
150	彫象 人物 首	(2.5) (8.7) 1.0	石英・長石・網腐 船土⑤	75YR6-6 暗	普通	内外面ともに磨滅が著しく(調整不明) 断面から彫象地輪と考えられる	階溝5区	一 覧 の み
151	彫象 不明	(5.4) (8.7) 2.1	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR6-6 暗	不具	外面 ナメにのみ磨滅 内面 磨滅不明 全体的に磨滅が著しい	階溝5区	PL4
152	彫象 不明	(4.1) (6.0) 1.4	白雲母・黒雲母 石英・長石・花崗岩・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR5-6 明赤	普通	外面 上部をヨコナメ 断面は舟形をヨコナメ調整 内面 ナメ 断面 断面から彫象地輪と考えられる	階溝3区	PL4
153	彫象 不明	(4.2) (4.9) 1.4	白雲母 石英・長石・赤色粒子・炭化物 船土⑤	75YR6-8 暗	普通	外面 ナメ 内面 磨滅不明 断面 断面からのナメ ハテ 2cm内に10本 幅2mm	階溝5区	一 覧 の み
154	彫象 不明	(4.0) (3.7) 1.7	白雲母 石英・長石 船土⑤	5YR5-6 明赤	普通	外面 ハテ 内面 ハテ後ナメ	階溝5区	一 覧 の み
155	彫象 不明	(7.9) (5.5) 1.4	白雲母 石英・長石・花崗岩 船土⑤	75YR5-2 灰黄	良好	板状 内面はぶい暗色 (75YR5-4) 外面 ナメ 内面 ナメ	階溝3区	一 覧 の み
156	彫象 不明	(4.8) (9.2) 1.4	白雲母 石英・長石・花崗岩 船土⑤	75YR6-4 にぶい	良好	板状やや舟形 内面は明褐色 (75YR5-6) 外面 ナメ 内面 ナメ	階溝5区	一 覧 の み
157	彫象 不明	(6.1) (7.2) 1.4	白雲母 石英・長石・花崗岩 船土⑤	75YR7-6 暗	普通	板状 外面 ナメ後ナメ 内面 ナメ 全体的に磨滅が著しい	階溝5区	一 覧 の み
158	彫象 不明	(4.3) (4.8) 1.5	白雲母 石英・長石・花崗岩 船土⑤	75YR6-6 暗	普通	板状 全体的に磨滅が著しく(調整不明)	階溝5区	一 覧 の み
159	彫象 不明	(5.8) (5.2) (1.4)	白雲母 石英・長石・花崗岩 船土⑤	75YR5-3 にぶい	普通	内外面ともに磨滅により調整不明	階溝5区	一 覧 の み
160	彫象 不明	(3.9) (3.3) 0.7	白雲母 赤色粒子・白色粒子 船土⑤	5YR6-6 暗	良好	舟形 外面 ヨコナメ後ヨコナメ 内面 ナメ	階溝8区	一 覧 の み

## 第8号墳 (第126～130図 第98～100表 PL.8・9・48～50)

**位置** 調査区東部のB4g1～B4j5区、標高26mほどの台地縁辺部に位置している。

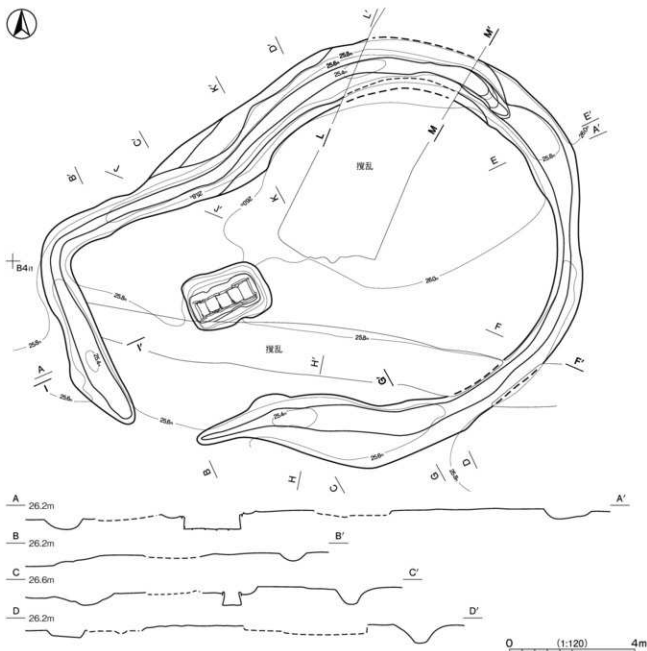
**現況及び調査経過** 表土除去作業中に第8号墳の主体部を確認した。新発見の古墳である。

**規模と平面形** 墳形は前方後円墳と想定されるが、墳丘は削平されている。主軸方向はN-112°-Wである。

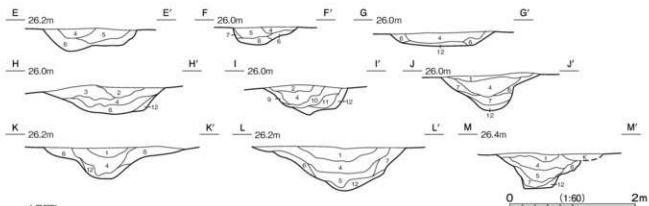
規模は、総長17.3m、墳長14.6m、後円部径9.7m、くびれ部幅6.4m、前方長6.9m、前方幅6.8mである。

**周溝** 前方部南東コーナー部は斜面部に差し掛かる位置で削平されている。周溝は、上幅0.7～2.0m、下幅0.1～0.9m、深さ0.3～0.7mで、くびれ部付近の幅、深さがともに最大値である。深さは、後円部では、くびれ部から北に向って浅くなり、前方部では前方部コーナーに向かって浅くなる。

**周溝土層** 12層に分層できる。層準の対比は黒色土を基準として、上下に大きく2群に分けられる。第1群(第1・2層)は腐植土が自然堆積したもの、第2群(第3～12層)は墳丘や周溝外からの崩落等による流入土でローム主体土である。

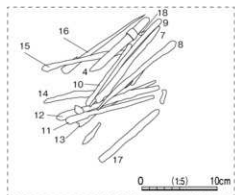
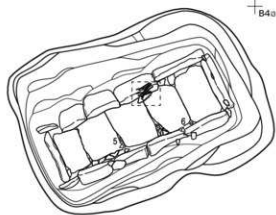


第126図 第8号墳完掘実測図

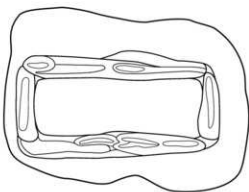


土層解説

- |               |                           |                |                       |
|---------------|---------------------------|----------------|-----------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐色 | ローム粒D、白色粘土粒C / 粘B、礫A      | 7 10YR3/4 暗褐色  | ローム小C / 粘B、礫B         |
| 2 10YR2/2 黒褐色 | 白色粘土粒C、粘土アロク小C、小石 / 粘B、礫A | 8 10YR3/4 暗褐色  | ローム粒D、白色粘土粒D / 粘A、礫B  |
| 3 10YR3/1 黒褐色 | ローム小C、白色粘土粒D / 粘B、礫B      | 9 10YR4/4 暗褐色  | ローム小C / 粘A、礫A         |
| 4 10YR3/1 黒褐色 | ローム粒C、白色粘土粒C / 粘B、礫B      | 10 10YR3/2 黒褐色 | ローム小C / 粘B、礫A、礫B      |
| 5 10YR3/2 黒褐色 | ローム粒D / 粘B、礫B             | 11 10YR3/2 黒褐色 | ローム粒C / 粘A、礫B         |
| 6 10YR3/3 暗褐色 | ローム小B / 粘B、礫B             | 12 10YR3/4 暗褐色 | ローム小C、粘土アロク小C / 粘A、礫B |

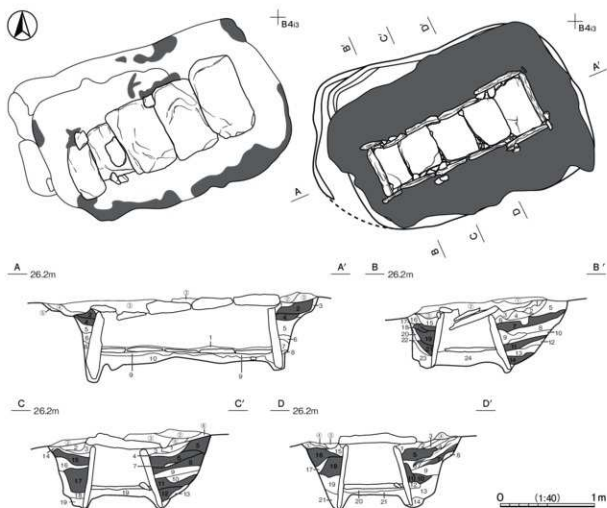


墓石



0 (1:40) 1m

第 127 図 第 8 号墳土層断面・石棺内遺物出土状況・箱式石棺展開図



## 主体部石積上部土層解説

- |           |    |                              |
|-----------|----|------------------------------|
| ① 10YR2/2 | 黒泥 | ローム粒C、白色粒子粒D、黒色土ブロック小D/粘土、練土 |
| ② 10YR2/2 | 黒泥 | ローム粒D、粘土、練土                  |
| ③ 10YR2/3 | 黒泥 | ローム粒C、白色粒子粒C/粘土、練土           |
| ④ 10YR2/1 | 黒泥 | ローム粒D、粘土、練土                  |
| ⑤ 10YR2/2 | 黒泥 | ローム粒D、粘土、練土                  |
| ⑥ 10YR3/1 | 黒泥 | ローム粒D、白色粒子粒D、黒色土ブロック小C/粘土、練土 |

## 主体部Aライン土層解説

- |            |     |                              |
|------------|-----|------------------------------|
| 1 10YR3/2  | 黒泥  | ローム粒D、粘土ブロック小D/粘土、練土         |
| 2 10YR2/2  | 黒泥  | 粘土ブロック小A/粘土、練土               |
| 3 10YR2/2  | 黒泥  | ローム粒D、粘土、練土                  |
| 4 10YR2/2  | 黒泥  | 粘土ブロック小A/粘土、練土               |
| 5 10YR3/4  | 暗褐色 | ローム小C、粘土ブロック粒D/粘土、練土         |
| 6 10YR2/2  | 黒泥  | 粘土ブロック粒C/粘土、練土               |
| 7 10YR2/2  | 黒泥  | 粘土ブロック粒B/粘土、練土               |
| 8 10YR2/2  | 黒泥  | ローム粒D、粘土ブロック粒D/粘土、練土         |
| 9 10YR3/3  | 暗褐色 | ローム粒D、白色粒子粒D、粘土ブロック粒D/粘土、練土  |
| 10 10YR4/3 | 二色砂 | ローム粒D、白色粒子粒D、黒色土ブロック小D/粘土、練土 |

## 主体部Bライン土層解説

- |            |     |                                 |
|------------|-----|---------------------------------|
| 1 10YR2/2  | 黒泥  | ローム粒C、粘土、練土                     |
| 2 10YR2/2  | 黒泥  | ローム粒C、炭化粒D/粘土、練土                |
| 3 10YR2/2  | 黒泥  | ローム小C、粘土、練土                     |
| 4 10YR2/2  | 黒泥  | ローム粒D、粘土ブロック小C、10YR6/2炭灰層/粘土、練土 |
| 5 10YR3/3  | 暗褐色 | ローム小B、粘土、練土                     |
| 6 10YR2/2  | 黒泥  | 粘土ブロック小C/粘土、練土                  |
| 7 10YR2/2  | 黒泥  | 粘土ブロック小B/粘土、練土                  |
| 8 10YR2/1  | 黒泥  | ローム粒D、粘土ブロック粒C/粘土、練土            |
| 9 10YR2/2  | 黒泥  | 粘土ブロック小C/粘土、練土                  |
| 10 10YR2/2 | 黒泥  | ローム粒D、粘土ブロック粒D/粘土、練土            |
| 11 10YR2/2 | 黒泥  | 粘土ブロック小B/粘土、練土                  |
| 12 10YR2/2 | 黒泥  | ローム粒D、粘土                        |
| 13 10YR2/2 | 黒泥  | ローム小C、粘土ブロック粒C/粘土、練土            |
| 14 10YR2/2 | 黒泥  | 粘土ブロック小A/粘土、練土                  |
| 15 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、粘土ブロック小C/粘土、練土            |
| 16 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、粘土ブロック小C/粘土、練土            |
| 17 10YR5/4 | 二色砂 | 粘土ブロック小A/粘土、練土                  |
| 18 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、粘土ブロック小B/粘土、練土            |
| 19 10YR4/3 | 二色砂 | 粘土ブロック小A/粘土、練土                  |
| 20 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒C、粘土ブロック粒C/粘土、練土            |
| 21 10YR4/3 | 二色砂 | 粘土ブロック小A/粘土、練土                  |
| 22 10YR2/2 | 黒泥  | ローム粒D、粘土ブロック粒D/粘土、練土            |
| 23 10YR2/2 | 黒泥  | 粘土ブロック小A/粘土、練土                  |
| 24 10YR4/3 | 二色砂 | 粘土ブロック小A/粘土、練土                  |

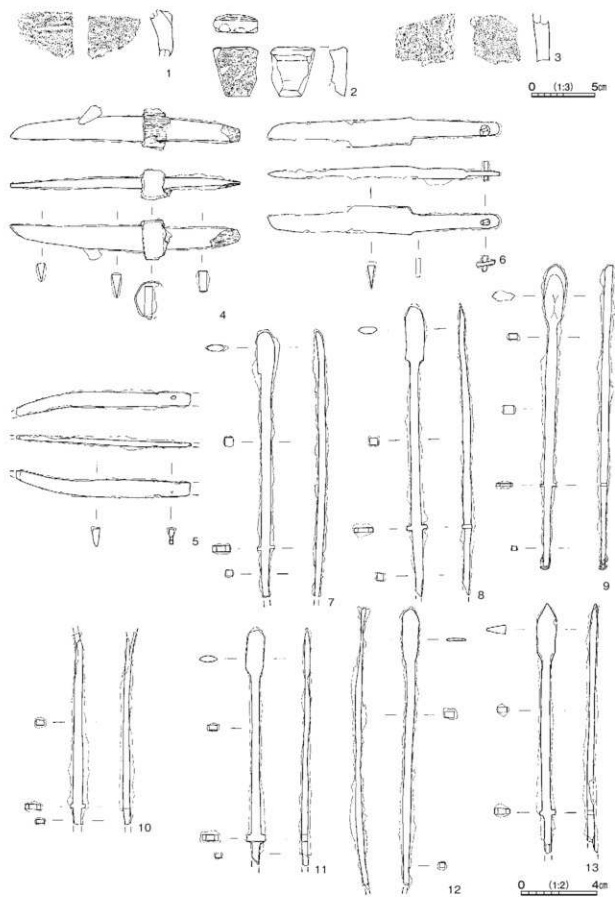
## 主体部Cライン土層解説

- |            |     |                           |
|------------|-----|---------------------------|
| 1 10YR2/3  | 黒泥  | ローム粒C、炭化粒C、粘土ブロック粒D/粘土、練土 |
| 2 10YR3/2  | 暗褐色 | ローム小D、炭化粒D、粘土ブロック粒D/粘土、練土 |
| 3 10YR3/2  | 暗褐色 | ローム粒D/粘土ブロック小C/粘土、練土      |
| 4 10YR4/4  | 暗褐色 | ローム小C、粒D、粘土ブロック粒C/粘土、練土   |
| 5 10YR3/3  | 暗褐色 | 粘土ブロック小A/粘土、練土            |
| 6 10YR3/2  | 暗褐色 | 粘土ブロック小A/粘土、練土            |
| 7 10YR3/4  | 暗褐色 | ローム粒D、粘土ブロック小B、粒B/粘土、練土   |
| 8 10YR3/3  | 暗褐色 | 粘土ブロック小B、粒B/粘土、練土         |
| 9 10YR4/3  | 二色砂 | ローム小D/粘土、練土               |
| 10 10YR3/2 | 暗褐色 | ローム小C、粘土ブロック粒D/粘土、練土      |
| 11 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘土ブロック小A/粘土、練土            |
| 12 10YR3/4 | 暗褐色 | 粘土ブロック小C、粒C/粘土、練土         |
| 13 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D、粘土ブロック粒D/粘土、練土      |
| 14 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D、粒C/粘土、練土   |
| 15 10YR2/3 | 暗褐色 | ローム小D、粒C、粘土ブロック小D/粘土、練土   |
| 16 10YR2/3 | 暗褐色 | ローム小D、粒C、粘土ブロック小D/粘土、練土   |

## 主体部Dライン土層解説

- |            |     |                       |
|------------|-----|-----------------------|
| 1 10YR2/3  | 黒泥  | ローム粒D/粘土、練土           |
| 2 10YR3/3  | 暗褐色 | ローム粒B、黒色土ブロック小C/粘土、練土 |
| 3 10YR3/2  | 暗褐色 | 粘土ブロック小C/粘土、練土        |
| 4 10YR3/3  | 暗褐色 | ローム小B、粘土、練土           |
| 5 10YR3/2  | 暗褐色 | 粘土ブロック小B/粘土、練土        |
| 6 10YR2/2  | 黒泥  | 粘土ブロック小C/粘土、練土        |
| 7 10YR3/2  | 暗褐色 | 粘土ブロック小A/粘土、練土        |
| 8 10YR3/2  | 暗褐色 | ローム粒B、粘土ブロック粒D/粘土、練土  |
| 9 10YR3/2  | 暗褐色 | 粘土ブロック小A/粘土、練土        |
| 10 10YR3/2 | 暗褐色 | ローム粒D/粘土、練土           |
| 11 10YR3/2 | 暗褐色 | 粘土ブロック小B/粘土、練土        |
| 12 10YR2/2 | 黒泥  | ローム粒D、粘土ブロック小C/粘土、練土  |
| 13 10YR3/2 | 暗褐色 | 粘土ブロック小B/粘土、練土        |
| 14 10YR2/2 | 黒泥  | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 15 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 16 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 17 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 18 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 19 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 20 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 21 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 22 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 23 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 24 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 25 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 26 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 27 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 28 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 29 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 30 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 31 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 32 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 33 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 34 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 35 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 36 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 37 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 38 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 39 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 40 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 41 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 42 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 43 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 44 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 45 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 46 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 47 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 48 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 49 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |
| 50 10YR4/3 | 二色砂 | ローム小D、粘土ブロック小D/粘土、練土  |

第128図 第8号墳埋葬施設掘方土層断面実測図

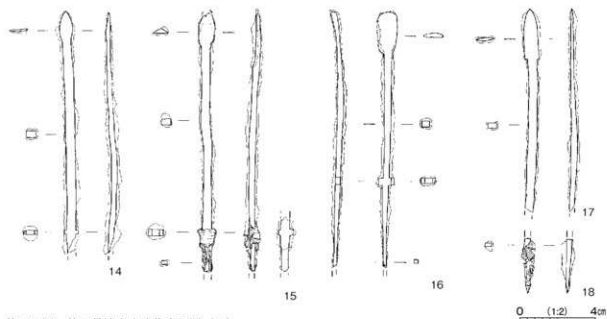


第129图 第8号坑出土实物实图(1)

**主体部** くびれ部の中央部に位置する。石棺の蓋石は5枚組で、長軸22m、短軸0.7～0.9mである。蓋石は北東から南西に向かって傾斜し、サイズが小さくなる。高低差は12cmである。箱式石棺の規模は、棺床内法寸法で、長軸1.72m、短軸は北東小口側で0.56m、南西小口側で0.44mで、南西側が狭くなっている。主軸方向はN-112°-Wで、深さは、北東小口側で0.45m、南西小口側で0.40mで北東側が高くなっている。石棺は片岩の板石を用いて構築されている。板石は、蓋石3枚、小口石各1枚、右壁石5枚、左壁石5枚を箱形に組み、棺床は、5枚の板石を敷き、隙間を割石で敷き詰めている。壁は北側で13～18°、南側で7～10°内傾している。石棺掘方の裏込め状況は、板石を立てるため粘土混じりのローム土で固め、板石間の隙間を粘土と割石を用いて塞いでいる。その後、裏込め土を充填している。大きく3層に分けられ、下から、粘土混じりのローム土層、ローム土層、粘土層の順に板石上端付近まで裏込めしている。蓋石上に粘土を貼り付けている痕跡はみられなかった。石棺床下は、粘土混じりのローム土に割石を入れて平坦にして床板石を敷き詰めている。南西側掘方は墓坑構築時よりも、蓋石上部の深さで一段浅く広がっている。また、埋め戻された形跡があり、追葬の可能性はある。

**出土遺物** 周溝からは土師器片34点(坏5、甕29)、須恵器片2点(甕)、磁器片1点、陶器片2点、縄文土器片86点(深鉢)、埴輪片3点(円筒埴輪1、形象埴輪2)、石器14点(尖頭器1、剥片10、磨石3)、瓦片3点が出土している。いずれも覆土層からの出土で混入と考えられる。また、いずれも細片のため図示できない。石棺内部からは、副葬品と考えられる金属製品25点(刀子3、鉄鏃18、不明鉄製品4)が出土している。石棺北壁中央部からまともな、21・22は南壁付近から出土している。覆土は1cm程度しかなく、床石直上からの出土である。

**所見** 時期は、墳形や埴輪が伴わないことから、6世紀末～7世紀初頭に推定される。



第130図 第8号墳出土遺物実測図(2)

第98表 第8号墳出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	刀子	12.20	1.30	0.15～0.5	(26.80)	鉄	刀身長さ20mm、厚さ4～5mm、鋼長さ10mm、幅20mm、厚さ3mm、基部長さ40mm、幅10mm、厚さ5mm、基部基部に木目付痕	石棺内	PL50
5	刀子	(9.30)	(1.40)	0.2～0.3	(9.00)	鉄	刀身残長75mm、厚さ4mm、基部残長17mm、幅8mm、厚さ3mm、基部に目釘孔、両端部欠損	石棺内	PL50
6	刀子	12.30	1.60	0.2～1.1	(15.02)	鉄	刀身長さ77mm、厚さ3mm、基部長さ47mm、幅8mm、厚さ3mm、基部に目釘孔に目釘	石棺内	PL50
7	鏃	14.10	0.95	0.3～0.5	15.90	鉄	長距離 鏃身長22.57mm、幅9.5mm、厚さ3.17mm、鋼部長90.32mm、幅5.19mm、厚さ3.94mm、両部幅9.10mm、厚さ3.30mm、基部残長24.76mm、幅3.66～4.87mm、厚さ3.01～3.18mm、基部先端欠損	石棺内	PL49
8	鏃	(15.20)	1.10	0.3～0.5	(16.00)	鉄	長距離 鏃身長29.16mm、幅10.0mm、厚さ2.78mm、鋼部長88.63mm、幅4.41mm、厚さ4.21mm、両部幅10.76mm、厚さ5.13mm、基部残長34.41mm、幅3.97～3.51mm、厚さ3.30～3.42mm、基部先端欠損	石棺内	PL49

番号	図種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
9	蓋	36.10	1.10	0.25～0.4	(16.34)	鉄	長径蓋 蓋身長31.99mm 幅10.94mm 厚さ4.03mm 蓋部長84.73mm 幅4.25mm 厚さ3.93mm 蓋部幅54.40mm 厚さ3.62mm 蓋部長43.90mm 幅3.50～4.53mm 厚さ2.55～3.51mm 蓋部先端木貫付着	石棺内	PL49
10	蓋	(10.20)	0.80	0.2～0.4	(10.83)	鉄	長径蓋 蓋身欠損 蓋部長92.72mm 幅1.55mm 厚さ3.01mm 蓋部長8.00mm 幅3.39mm 蓋部長8.64mm 幅4.08～4.31mm 厚さ2.67～3.92mm 蓋部先端欠損	石棺内	PL50
11	蓋	(12.50)	1.10	0.2～0.4	(9.85)	鉄	長径蓋 蓋身先端欠損 残長25.55mm 幅9.12mm 厚さ1.72mm 蓋部長96.96mm 幅3.58mm 厚さ2.67mm 蓋部長9.29mm 厚さ3.13mm 蓋部長12.12mm 幅3.15～4.00mm 厚さ2.91～3.06mm 蓋部先端欠損	石棺内	PL49
12	蓋	14.60	0.9	0.15～0.35	12.01	鉄	長径蓋 蓋身長27.47mm 幅2.65mm 厚さ1.50mm 蓋部長118.12mm 幅2.59～4.77mm 厚さ2.50～3.52mm 蓋部・蓋部欠損	石棺内	PL49
13	蓋	(13.30)	1.00	0.2～0.4	(13.88)	鉄	長径蓋 蓋身先端欠損 残長27.28mm 幅10.42mm 厚さ4.18mm 蓋部長84.19mm 幅4.69mm 厚さ2.46mm 蓋部長8.42mm 厚さ2.91mm 蓋部長31.63mm 幅3.95～4.65mm 厚さ2.12mm 蓋部先端欠損	石棺内	PL49
14	蓋	(12.80)	0.90	0.1～0.4	(11.13)	鉄	長径蓋 蓋身先端欠損 残長9.92mm 幅4.56mm 厚さ2.30mm 蓋部長107.65mm 幅5.15mm 厚さ2.80mm 蓋部長7.24mm 厚さ2.36mm 蓋部長9.96mm 幅4.15～4.93mm 厚さ2.44mm 蓋部先端欠損	石棺内	PL49
15	蓋	(13.70)	1.00	0.2～0.5	(12.43)	鉄	長径蓋 蓋身先端欠損 残長15.91mm 幅7.40mm 厚さ2.13mm 蓋部長101.42mm 幅4.71mm 厚さ3.48mm 蓋部長7.56mm 厚さ3.11mm 蓋部長19.26mm 幅3.00mm 厚さ2.41mm 蓋部・蓋部・蓋部木貫付着 蓋部先端欠損	石棺内	PL49
16	蓋	(13.10)	0.2～1.1	0.2～0.4	(9.52)	鉄	長径蓋 蓋身先端欠損 残長22.50mm 幅11.02mm 厚さ2.16mm 蓋部長67.11mm 幅3.74mm 厚さ3.26mm 蓋部長6.96mm 厚さ2.92mm 蓋部長41.88mm 幅1.87～3.33mm 厚さ2.25mm	石棺内	PL49
17	蓋	(10.80)	0.80	0.2～0.4	(6.65)	鉄	長径蓋 蓋身長26.97mm 幅8.25mm 厚さ1.25mm 蓋部長80.96mm 幅4.87mm 厚さ2.56mm 蓋部・蓋部欠損	石棺内	PL49
18	蓋	(2.90)	0.70	0.20	(0.99)	鉄	長径蓋 蓋身部・蓋部欠損 蓋部長2.85mm 幅4.10mm 厚さ2.37mm 木貫付着 蓋部先端欠損	石棺内	PL50

#### 第99表 第8号墳出土遺物一覧 (円筒埴輪)

番号	遺物種類	長さ 幅 厚さ	透孔径	発掘層	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴	出土位置	備考
1	円筒 両面部	(3.0) (4.5) 1.2	一	台形 M1	白雲母 石英・長石・花崗岩・ 赤色粒子	5Y87-6 橙	普通	外面：発露部ヨコナデ 内面：ナナデ 発露部側凹	周溝	発露部は 残れ込み PL48

#### 第100表 第8号墳出土遺物一覧 (形象埴輪)

番号	遺物種類	長さ 幅 厚さ	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴	出土位置	備考
2	形像 不明	(3.8) (3.5) 1.0～1.3	白雲母 赤色粒子・黒色粒子	7.5Y87/4 に濃い橙	普通	外面：1層部に磨面 内面：内面及び口縁部にヨコナデ 透孔有	周溝	残れ込み PL48
3	形像 不明	(4.5) (4.5) 1.1	白雲母 石英・長石 胎土上	2.5Y86-6 橙	普通	外面：ナデ 磨面面にナデ 内面：ナデ	周溝	残れ込み PL48

#### 第9号墳 (第131～133図 第101表 PL11・48・50)

**位置** 調査区中央部のB3b5～B4i2区、標高26mほどの台地縁部に位置している。

**現況及び調査経過** 表土除去作業中に第9号墳の主体部を確認した。つくば市の分布調査では確認されていなかった古墳である。

**重複関係** 周溝前方部は南東側を第2号粘土採掘坑に掘り込まれている。

**規模と平面形** 墳形は前方後円墳(帆立貝式)と想定されるが、墳丘は削平されている。主軸方向はN-141°-Wである。規模は、総長25.9m、墳長23.2m、後円部径20.8m、くびれ部幅14.2m、前方長4.3m、前方幅11.4mである。後円部はやや東に寄る。

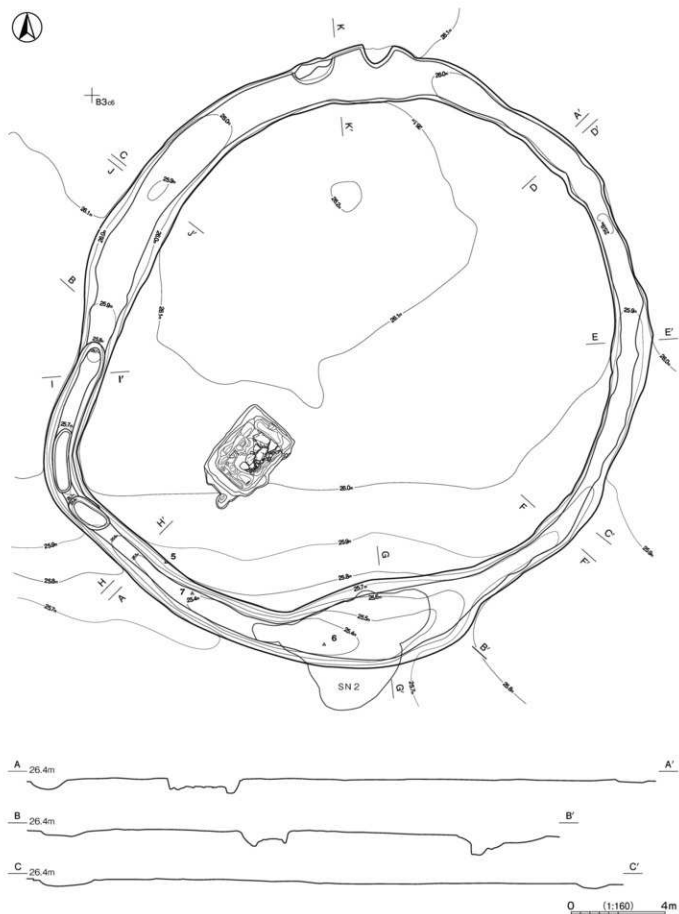
**周溝** 周溝は、上幅1.0～2.7m、下幅1.0～1.6m、深さ0.1～0.4mで、くびれ部付近の幅、深さがともに最大値である。深さは、後円部では、くびれ部から北へ向い浅くなり、前方部では前方部コーナーへ向かい深くなる。確認面が北西から南東へ傾斜しているため、南東側の周溝幅は狭くなっている。

**周溝土層** 11層に分層できる。墳丘や周溝外からの崩落等による流入土でローム主体土である。

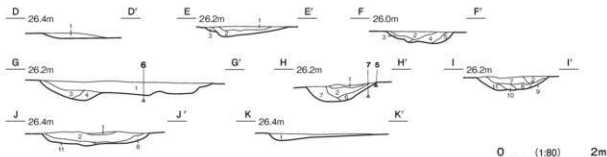
**主体部** くびれ部の中央部に位置する。掘方規模は、長軸3.56m、短軸2.48m、深さ0.60mの方形で、主軸方向はN-141°-Wである。石棺材はほとんどが抜き取られていたが、南東部コーナーの南壁1枚、床石6枚は原位置をとどめていた。床石は割石で、確認面からの深さ0.35mである。覆土は、レンズ状に堆積しており、自然堆積である。底面には石材設置のための掘方が溝状に、深さ0.12～0.54mで確認でき、板石を組んだ箱式石棺であったと推定される。石棺の規模は、掘方底面の形状から、長軸2.85m、短軸1.9mで、深さは0.35m以上と推定される。覆土中から出土している板石は、遺棄された蓋石と考えられる。

**出土遺物** 周溝からは、土師器片22点(坏3、甕19)、陶器片3点、縄文土器片55点(深鉢)、埴輪片2点(形象埴輪)、土製品1点(不明)、石器15点(ナイフ形石器2、剥片9、打製石斧1、石鏃1、礫2)、金属製品3点(直刀、刀子、刀装具)が、主体部からは、土師器片1点(坏)、須恵器片2点(甕)、埴輪片1点(形象



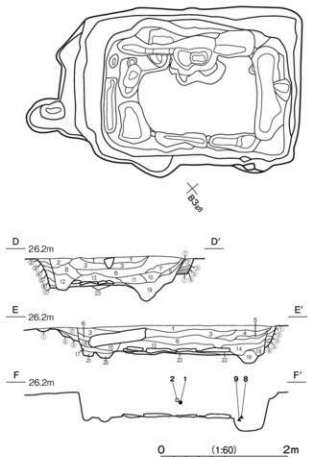
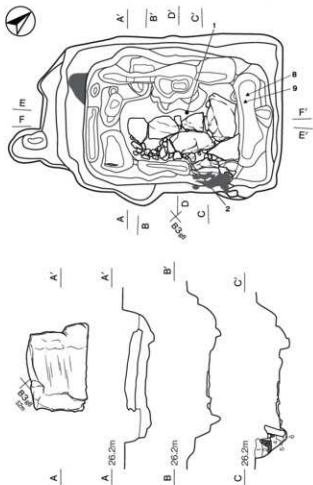


第131図 第9号墳完掘実測図



土層解説

- |              |                    |               |                     |
|--------------|--------------------|---------------|---------------------|
| 1 10YR2/2 黒腐 | ローム中C、白色粒子粒C/粘B、雜B | 7 10YR2/2 黒腐  | ローム粒B、白色粒子粒D/粘B、雜B  |
| 2 10YR2/1 黒  | ローム粒D/粘B、雜B        | 8 10YR2/3 黒腐  | ローム小C/粘B、雜B         |
| 3 10YR2/2 黒腐 | ローム小B/粘B、雜B        | 9 10YR3/4 暗褐  | ローム小A/粘B、雜B         |
| 4 10YR2/2 黒腐 | ローム粒C、白色粒子粒D/粘B、雜B | 10 10YR2/2 黒腐 | ローム粒C/粘B、雜B         |
| 5 10YR3/3 暗褐 | ローム小B/粘B、雜B        | 11 10YR3/2 黒腐 | ローム小C・粒C、炭化物C/粘B、雜B |
| 6 10YR2/2 黒腐 | ローム小D・粒D/粘B、雜B     |               |                     |



Cライン土層解説

- |              |                                |
|--------------|--------------------------------|
| 1 10YR3/4 暗  | ローム粒C、粘土プロック小D、灰色土プロック小C/粘B、雜B |
| 2 10YR4/4 暗  | ローム粒C、粘土プロック小C/粘B、雜B           |
| 3 10YR8/2 灰白 | ローム粒D、炭化物D、灰白色粘土プロック大B/粘B、雜B   |

D-Eライン土層解説

- |               |                                   |
|---------------|-----------------------------------|
| 1 10YR2/3 黒腐  | ローム粒A/粘B、雜B                       |
| 2 10YR2/3 黒腐  | ローム小C、粘土プロック粒C、灰色土プロック小D/粘B、雜B    |
| 3 10YR2/2 黒腐  | ローム粒B、粘土プロック小D・粒C/粘B、雜B           |
| 4 10YR2/2 黒腐  | ローム小C、粒B、黄色土プロック小C/粘B、雜B          |
| 5 10YR2/2 黒腐  | ローム粒B/粘B、雜B                       |
| 6 10YR3/3 暗褐  | ローム小B・粒B、粘土プロック小B、黄色土プロック小C/粘B、雜A |
| 7 10YR2/2 黒腐  | ローム小D、粘土プロック小D/粘B、雜B              |
| 8 10YR2/1 黒   | ローム粒C、粘土プロック中D・小C・粒B/粘B、雜B        |
| 9 10YR3/3 暗褐  | 粘土プロック粒D、黄色土プロック小C/粘B、雜B          |
| 10 10YR2/2 黒腐 | ローム小C、粘土プロック小D・粒D/粘B、雜B           |
| 11 10YR2/1 黒  | ローム粒C、粘土プロック粒D/粘B、雜B              |
| 12 10YR2/3 黒腐 | ローム小C・粒C/粘B、雜B                    |

D-Eライン断面土層解説

- |              |                                    |
|--------------|------------------------------------|
| ① 10YR2/3 暗褐 | ローム小C・粒C、炭化物D、灰白色粘土プロック小D・粒D/粘B、雜B |
| ② 10YR4/4 暗  | ローム小B・粒B、炭化物D、灰白色粘土プロック小D/粘B、雜A    |
| ③ 10YR3/4 暗褐 | ローム小C・粒C、灰白色粘土プロック小D・粒D/粘B、雜B      |
| ④ 10YR3/3 暗褐 | ローム小D・粒D、炭化物D、灰白色粘土プロック小D・粒D/粘B、雜B |

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| 4 10YR2/2 黒腐 | ローム粒D、粘土プロック小D/粘B、雜B  |
| 5 10YR4/4 暗  | ローム粒C、粘土プロック小C/粘B、雜B  |
| 6 10YR3/3 暗褐 | ローム粒C、黄色土プロック小C/粘B、雜A |

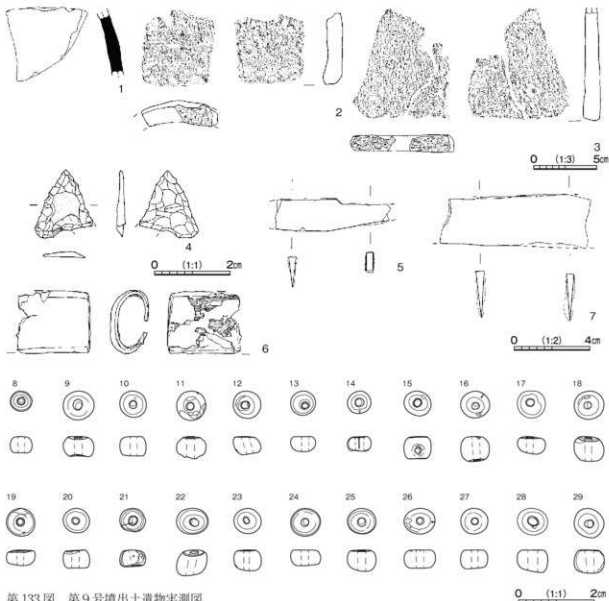
- |               |                              |
|---------------|------------------------------|
| 13 10YR2/2 黒腐 | ローム小C、粘土プロック小D・粒D/粘B、雜B      |
| 14 10YR2/2 黒腐 | ローム粒C、粘土プロック小D・粒C/粘B、雜B      |
| 15 10YR2/2 黒腐 | ローム小C、粘土プロック粒C/粘B、雜C         |
| 16 10YR2/2 黒腐 | ローム小C、粘土プロック小B/粘B、雜B         |
| 17 10YR2/2 黒腐 | ローム小B、粘土プロック小C/粘B、雜B         |
| 18 10YR2/2 黒腐 | ローム小C、黄色土プロック小C/粘B、雜B        |
| 19 10YR2/2 黒腐 | ローム小C、粘土プロック中D・小C・粒B/粘B、雜B   |
| 20 10YR2/3 暗褐 | ローム小C・粒B、粘土プロック小D/粘B、雜B      |
| 21 10YR2/2 黒腐 | ローム小C、黄色土プロック小C/粘B、雜B        |
| 22 10YR2/2 黒腐 | ローム粒D、粘土プロック小C/粘B、雜A         |
| 23 10YR4/4 暗  | ローム粒D、黄色土プロック小C、白色粒F D/粘B、雜A |

- |              |                                    |
|--------------|------------------------------------|
| ⑤ 10YR4/4 暗  | ローム小D・粒C、灰白色粘土プロック粒D/粘B、雜B         |
| ⑥ 10YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒C、炭化物D、灰白色粘土プロック小D・粒D/粘B、雜B |
| ⑦ 10YR2/3 暗褐 | ローム小C、炭化物D、粘B、雜B                   |

第 132 図 第 9号墳周溝土層断面図・埋葬施設土層断面図

埴輪、石器 34 点 (剥片)、金属製品 4 点 (不明)、ガラス製品 22 点 (小玉) が出土している。ガラス製品の  
内 20 点は、覆土を飾って確認したものであり、残り 2 点は床石と床石の隙間から出土している。

所見 時期は、埴形や埴輪が伴わないことから、7 世紀前葉と推定される。



第 133 図 第 9 号墳出土遺物実測図

第 101 表 第 9 号墳出土遺物一覧

番号	種別	図種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手延の特徵はか	出土位置	備考
1	須恵器	葉	—	(5.9)	—	長石・石英	10YR7/2 に近い青碧	普通	外面に自然釉 (5YR5/2 灰オリーブ)	壘土中	
番号	埴輪 種類	長さ 幅 厚さ	胎土		色調	焼成	調整・整形の特徴		出土位置	備考	
2	不明	(6.3) (6.1) 1.4	内面砂 石英・長石・花崗岩		5YR5/6 明赤黒	普通	外面：一部タテハケ 内面：十字 底面：調整 一部欠け		壘溝	遺れ込み PL48	
3	埴輪*	(9.1) (8.5) 1.3	内面砂・黒色砂 石英・長石・赤色砂子・ 炭化物		5YR5/6 明赤黒	普通	外面：一部タテハケ 内面：十字 平底状 底面未調整		壘溝	遺れ込み PL48	
番号	器種名	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴		出土位置	備考	
4	石鏡	安山岩	1.8	(1.2)	0.2	(3.22)	基部中央陥入 基部内縁欠損 表面自然面残る		壘溝壁土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	刀子	(6.10)	1.70	0.40	(11.44)	鉄	刀身残長 32 mm 幅 4 mm 基部残長 2.8 mm 両端部欠損		壘土部		
6	刀筭尺	(4.00)	3.30	0.10	(12.84)	鉄	筒状のパーツ 内側に木質付着 一部欠損		壘溝	PL50	
7	直刀	(8.00)	2.90	0.40	(20.00)	鉄	刀身 残長 80 mm 幅 2.9 mm 厚さ 4 mm 両端部欠損		壘溝	PL50	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
8	小玉	0.57	0.43	0.17	0.17	不明	青銅 管切り法・両小口面研磨 球状の気泡 孔内面磨らか	覆土下層	PL50		
9	小玉	0.82	0.54	0.23	0.48	不明	青銅 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 孔縁広がる	覆土下層	PL50		
10	小玉	0.70	0.64	0.64	0.18	0.37	不明	青銅 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 全体に細かなび割れ 孔縁広がる	1区3X	PL50	
11	小玉	0.78	0.53	0.19	0.43	不明	青銅 管切り法・両小口面研磨 片面未調整 全体にうろこ状のび割れ	1区3X	PL50		
12	小玉	0.73	0.80	0.07	0.35	不明	青銅 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか	1区3X	PL50		
13	小玉	0.66	0.39	0.05	0.23	不明	青銅 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか	2区4X	PL50		
14	小玉	0.6	0.42	0.08	0.19	0.20	不明	青銅 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 孔縁広がる	3区3X	PL50	
15	小玉	0.83	0.07	0.60	0.30	0.40	不明	青銅 管切り法 両小口同心円状研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 孔縁広がる	4区3X	PL50	
16	小玉	0.75	0.75	0.60	0.05	0.19	不明	青銅 管切り法 両小口面研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 表面三日月状痕	4区3X	PL50	
17	小玉	0.71	0.71	0.36	0.47	0.33	不明	青銅 管切り法 両小口面研磨 同心円状研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか	4区3X	PL50	
18	小玉	0.75	0.75	0.60	0.18	0.32	不明	紫銅 管切り法 両小口同心円状研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 表面孔と平行に研磨	4区4X	PL50	
19	小玉	0.75	0.35	0.40	0.17	0.32	ソーダ石灰ガラス	青銅 管切り法 両小口面研磨 片面同心円状研磨 孔内面磨らか 孔縁広がる 表三日月状痕	1区6方	蛍光X線分析 PL50	
20	小玉	0.65	0.70	0.44	0.47	0.16	0.35	ソーダ石灰ガラス	青銅 管切り法 両小口同心円状研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 表面三日月状痕	1区6方	蛍光X線分析 PL50
21	小玉	0.62	0.66	0.41	0.40	0.29	0.23	カリガラス	紫銅 管切り法 両小口面研磨 細かな気泡多 孔形歪 内面歪 孔縁広がる 孔に平行するび割れ 表面三日月状痕 再研磨	1区6方	蛍光X線分析 PL50
22	小玉	0.68	0.64	0.55	0.21	0.46	ソーダ石灰ガラス	青銅 管切り法 両小口同心円状研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 表面三日月状痕	遺跡上	蛍光X線分析 PL50	
23	小玉	0.67	0.71	0.33	0.14	0.37	不明	青銅 管切り法 両面小口研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 孔縁広がる	4区6方	PL50	
24	小玉	0.71	0.80	0.07	0.42	0.2	不明	青銅 管切り法 両面小口研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか	4区6方	PL50	
25	小玉	0.68	0.70	0.42	0.05	0.22	不明	青銅 管切り法 両面小口同心円状研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 表面三日月状痕	4区6方	PL50	
26	小玉	0.69	0.83	0.45	0.19	0.41	不明	青銅 管切り法 両面小口研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 表面三日月状痕	4区6方	PL50	
27	小玉	0.71	0.65	0.60	0.18	0.38	不明	青銅 管切り法 両面小口研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 表面三日月状痕	4区6方	PL50	
28	小玉	0.76	0.82	0.68	0.40	0.48	不明	紫銅 管切り法 両面小口同心円状研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔形歪 内面磨らか 表面三日月状痕	4区6方	PL50	
29	小玉	0.74	0.80	0.57	0.40	0.23	0.53	不明	青銅 管切り法 両面小口同心円状研磨 孔と平行に伸びる気泡の径 孔内面磨らか 表面孔と平行に研磨	4区6方	PL50

#### 上境滝の古墳群出土のガラス小玉等の蛍光 X 線分析

上境ノ内遺跡・上境ノ内古墳群出土のガラス小玉の蛍光 X 線分析

株式会社イビシク

つくば市上境字ノ内に所在する上境ノ内遺跡・上境ノ内古墳群より出土したガラス小玉について、蛍光 X 線分析による元素分析を行い、材質の検討を行った。

#### 1 試料と方法

分析対象は、第9号墳主体部内より出土した4点のガラス小玉である(表1)。時期は古墳時代とみられている。

分析装置はエスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社

社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1000  $\mu$ A のロジウム (Rh) ターゲット、X 線照射径が 8mm または 1mm、X 線検出器は SDD 検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することで S/N 比の改善が図れる。検出可能な元素はナトリウム (Na) ～ウラン (U) であるが、ナトリウム、マグネシウム (Mg)、アルミニウム (Al) といった軽元素は、蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが 15kV (一次フィルタ無し)・50kV (一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用) の計 3 条件で、測定時間は各条件 500 ～ 1700s、管電流自動設定、照射径 1mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を行った。得られる半定量値は、同装置での測定結果を相対的に比較するための値である。

試料は、実体顕微鏡下での観察後、非破壊で測定した。実体顕微鏡観察は、主にエタノール浸漬状態で、透過光下で行った。なお、ガラス製造物は、透明で風化が見えないように見える箇所でも表面の風化が進んでおり、酸化ナトリウム (Na<sub>2</sub>O)、酸化カリウム (K<sub>2</sub>O) の減少など表面の化学組成に変化が生じている(塚塚, 1997)。

表1 分析対象一覧

分析 No.	色調	遺構番号	出土位置	時代	寸法 (cm)	
					径	高さ
1	青銅	第9号墳 主体部内	1区6方A	古墳時代	0.9	0.4
2	青銅	第9号墳 主体部内	1区6方B	古墳時代	0.6	0.4
3	紫銅	第9号墳 主体部内	1区6方C	古墳時代	0.6	0.4
4	青銅	第9号墳 主体部内	遺跡上	古墳時代	0.8	0.5

人為的に露出させた完全な新鮮面でない場合は、解釈の際に風化の影響を考慮する必要がある。

## 2 分析結果

実体顕微鏡観察の結果、いずれもガラス中に気泡が多く観察された（図版1）。

蛍光X線分析により得られた半定量値を表2に示す。なお、表では考察で述べる化学組成上の分類に従って試料の順番を並べ替えてある。分析の結果、いずれもアルカリ金属と二酸化ケイ素（ $\text{SiO}_2$ ）を主成分とするアルカリ珪酸塩ガラスに分類された。

検出できた元素は試料によって異なるが、酸化ナトリウム（ $\text{Na}_2\text{O}$ ）、酸化マグネシウム（ $\text{MgO}$ ）、酸化アルミニウム（ $\text{Al}_2\text{O}_3$ ）、二酸化ケイ素（ $\text{SiO}_2$ ）、酸化リン（ $\text{P}_2\text{O}_5$ ）、酸化硫黄（ $\text{SO}_3$ ）、酸化カリウム（ $\text{K}_2\text{O}$ ）、酸化カルシウム（ $\text{CaO}$ ）、酸化チタン（ $\text{TiO}_2$ ）、酸化マンガン（ $\text{MnO}$ ）、酸化鉄（ $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ）、酸化コバルト（ $\text{CoO}$ ）、酸化ニッケル（ $\text{NiO}$ ）、酸化銅（ $\text{CuO}$ ）、酸化ルビジウム（ $\text{Rb}_2\text{O}$ ）、酸化ストロンチウム（ $\text{SrO}$ ）、酸化ジルコニウム（ $\text{ZrO}_2$ ）、酸化モリブデン（ $\text{MoO}_3$ ）、酸化スズ（ $\text{SnO}_2$ ）、酸化バリウム（ $\text{BaO}$ ）、酸化鉛（ $\text{PbO}$ ）の合計21元素である。

## 3 考察

実体顕微鏡観察では、いずれも孔に対して平行に伸びた気泡や気泡列が観察された。ガラスを管状に引き伸ばした後、管を切って製作する引き伸ばし法（管切り法）により製作されたと考えられる。

古代のガラスについては、肥塚・田村・大賀（2010など）や、中井・阿部ら（白瀬ほか、2012など）により、詳細に分類されている。今回分析した4点について、化学組成に基づき、以下のとおり分類した。

なお、ガラスの主成分となる酸化ナトリウム（ $\text{Na}_2\text{O}$ ）と酸化カリウム（ $\text{K}_2\text{O}$ ）は、試料によっては含有量が少なかったり、検出されていなかったりすることがある。しかし、風化の影響を受けやすい元素である点や、特に酸化ナトリウム（ $\text{Na}_2\text{O}$ ）は蛍光X線での感度の悪い元素である点を考慮する必要があり、影響を受けにくい他の元素の化学組成より、風化したガラス小玉でも分類は可能である。

### ・紫紺色ガラス小玉（ $\text{K}_2\text{O}\text{-SiO}_2$ 系）（分析No.3）

分析No.3は、化学組成は、酸化カルシウム（ $\text{CaO}$ ）と酸化ストロンチウム（ $\text{SrO}$ ）が少なく、酸化ルビジウム（ $\text{Rb}_2\text{O}$ ）が検出されるといった特徴がみられ、基礎ガラスはカリガラス（ $\text{K}_2\text{O}\text{-SiO}_2$ 系）と考えられる。なお、酸化カリウム（ $\text{K}_2\text{O}$ ）自体はそれほど多く検出されなかったが、風化の影響と考えられる。

紺色系の発色については、コバルトイオンが大きく影響していると考えられる。酸化マンガン（ $\text{MnO}$ ）がかなり多く、酸化バリウム（ $\text{BaO}$ ）がやや多く、酸化鉛（ $\text{PbO}$ ）が少ないというのが紺色系のカリガラスにみられる特徴で、着色原料のコバルト鉱石の特徴と考えられる。また、酸化モリブデン（ $\text{MoO}_3$ ）が検出されることがあるのも、紺色系のカリガラスにみられる特徴である。今回分析した分析No.3は、色調が紫がかっており、マンガンイオンの影響がうかがわれた。ただし、酸化マンガン（ $\text{MnO}$ ）が多ければ紫系になると一概にはいえず、溶融時の雰囲気の違いによりマンガンイオンの状態に違いが出たための発色と推定される。マンガンイオンは、2価（ $\text{Mn}^{2+}$ ）では実質的に無色、3価（ $\text{Mn}^{3+}$ ）では紫系の発色をする（作花・境野・高橋編、1975）。

表2 半定量分析結果（mass%）

分析 色調	Na <sub>2</sub> O	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	SO <sub>3</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CoO	NiO	CuO	Rb <sub>2</sub> O	SrO	ZrO <sub>2</sub>	MoO <sub>3</sub>	SnO <sub>2</sub>	BaO	PbO	
3 紫紺	—	0.29	1.73	89.29	0.43	0.03	2.45	1.34	0.18	1.70	1.64	0.08	—	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	—	—	0.48	—
1 青紺	14.22	5.12	3.55	63.86	0.75	0.14	2.97	7.15	0.11	0.09	1.33	0.05	0.01	0.11	—	0.07	0.02	—	0.01	0.11	0.48	—
2 青紺	14.86	4.47	2.25	66.26	0.64	0.48	2.86	5.52	0.27	0.16	2.00	0.11	—	0.13	—	0.11	0.03	—	—	—	—	0.25
4 青紺	3.50	3.07	2.83	75.66	0.82	0.72	2.61	6.74	0.57	0.12	2.04	0.10	—	0.13	—	0.10	0.05	—	—	0.29	0.16	—

・青紺色ガラス小玉 ( $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$  系) (分析 No. 1, 2, 4)

分析 No.1, 2, 4 の3点は、化学組成は、酸化ルビジウム ( $\text{Rb}_2\text{O}$ ) と酸化ジルコニウム ( $\text{ZrO}_2$ ) が少なく酸化ストロンチウム ( $\text{SrO}$ ) が比較的多いなどの特徴により、基礎ガラスは、酸化アルミニウム ( $\text{Al}_2\text{O}_3$ ) が比較的少なく酸化カルシウム ( $\text{CaO}$ ) の量が多いタイプである。ソーダ石灰ガラス ( $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$  系) に属すると思われる。

発色には、コバルトイオンが主に影響していると推定される。上述のカリガラスの紺色系と異なり、酸化マンガ (MnO) が少なく、酸化鉛 ( $\text{PbO}$ ) がやや多い。

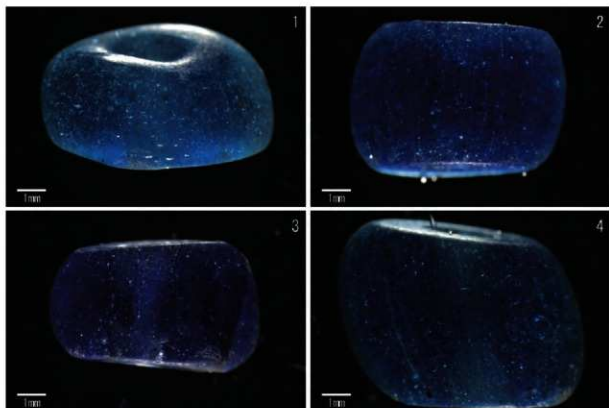
$\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$  系のソーダ石灰ガラスは、西アジアやエジプトなど地中海周辺地域でみられ「西方のガラス」と呼ばれる (肥塚, 2003 など)。さらに、 $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$  系のソーダ石灰ガラスには、ナトリウム源にナトロンと呼ばれる天然ソーダを使用したと推定される酸化マグネシウム ( $\text{MgO}$ )、酸化カリウム ( $\text{K}_2\text{O}$ ) の少ないタイプと、ナトリウム源に植物灰を使用したと推定される酸化マグネシウム ( $\text{MgO}$ )、酸化カリウム ( $\text{K}_2\text{O}$ ) の多いタイプに分類されており (加藤ほか, 2005 など)、日本の  $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$  系のソーダ石灰ガラスにおいても両者の存在が明らかとなっている (田村ほか, 2011)。今回分析した  $\text{Na}_2\text{O}-\text{CaO}-\text{SiO}_2$  系のソーダ石灰ガラス2点は、酸化マグネシウム ( $\text{MgO}$ )、酸化カリウム ( $\text{K}_2\text{O}$ ) が多めで、植物灰ガラスと考えられる。

#### 4 おわりに

上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群から出土したガラス小玉4点の蛍光 X 線分析を行った結果、いずれもアルカリ珪酸塩ガラスと確認された。化学組成の特徴から、紫紺色1点はカリガラスに、青紺色3点はソーダ石灰ガラスに属する可能性が高い。

引用・参考文献

上境歳の台古墳群出土のガラス小玉等の蛍光 X 線分析 に同じ



図版1 ガラス小玉の実体顕微鏡写真 (透過光、数字は分析No.)

## 第10号墳 (第134・135図 第102表 PL12・43・50)

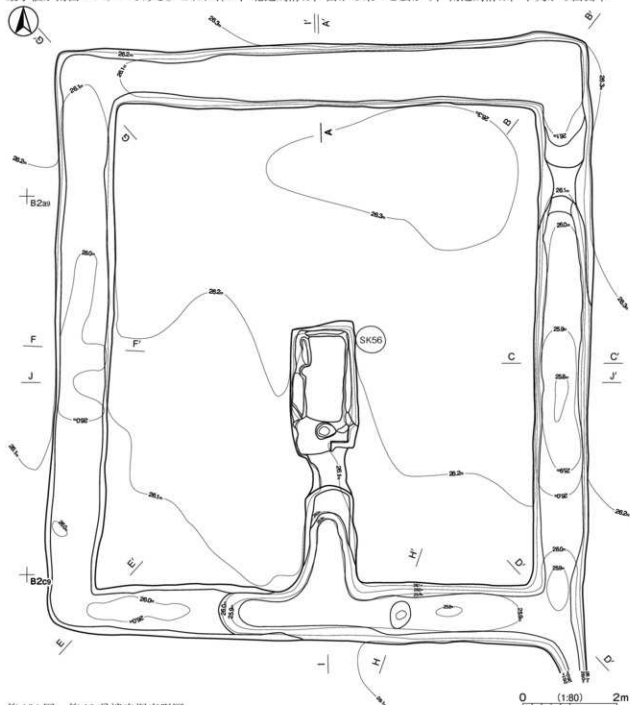
**位置** 調査区東部のA 2j9～B 3d2区、標高26mほどの台地縁辺部の平坦面に位置している。

**現況及び調査経過** 表土除去作業中に第10号墳の周溝及び主体部を確認した。新発見の古墳である。

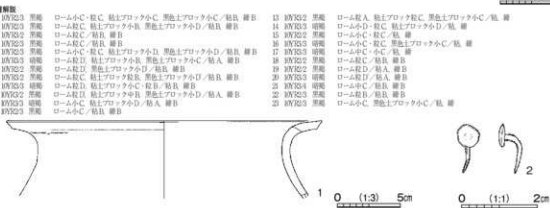
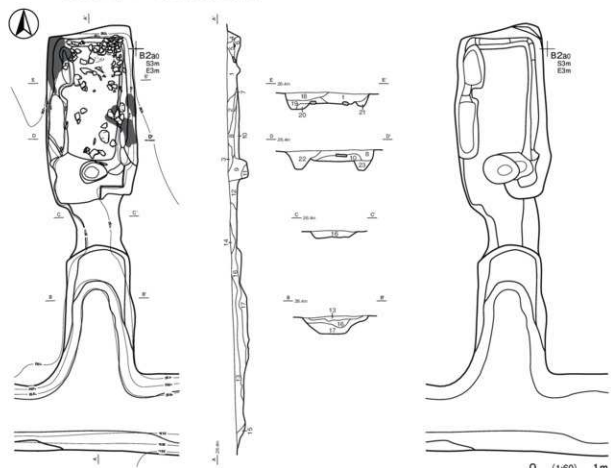
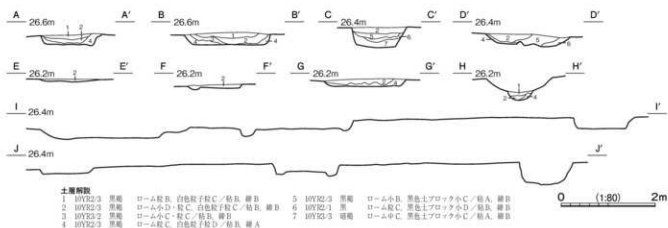
**重複関係** 第19号溝跡は南東コーナーから南へ延びる。周溝底面とほぼ同じ深さで、幅はやや狭くなる。周溝南東コーナーで西に折れ墓道方向へと伸びているが周溝との境界は明瞭ではない。

**規模と平面形** 墳形は方形で、墳丘は削平されている。主軸方向はN-0°である。規模は、総長12.6m、墳長10.5mである。1辺の長さ、9.2～10.5mの長方形である。

**周溝** 周溝は、上幅1.0～1.7m、下幅0.7～1.0m、深さ0.1～0.4mである。幅は最大値が北東コーナー、最小値が南西コーナーである。これに伴い、北辺周溝は、西から東へと広がり、南辺周溝は、中央から西側半



第134図 第10号墳発掘実測図



第 135 図 第 10 号墳周溝・埋葬施設・土層断面・出土遺物実測図



分が狭くなっている。東・西辺周溝はほぼ同じ幅である。深さは、南西コーナーが最も浅く、東辺中央部が最も深くなっている。

**周溝土層** 7層に分層できる。墳丘と周溝外からの崩落等による流入土である。

**主体部** 石材が抜き取られ、裏込め土は玄室南東コーナーに一部残存し、上部は削平されている。コの字状に板石を立てるための掘方が溝状に周り、玄室入り口部にはピットが確認できた。墓道は、周溝と同じ幅、深さで玄室に向かい、玄室入り口手前で階段状に二段高くなっている。

**出土遺物** 周溝からは土師器片16点(甕)、縄文土器片25点(深鉢)、石器8点(剥片4, 碎片1, 磨石1, 礫2)が出土している。1は、西辺周溝底面から逆位で出土している。主体部からは、陶器片1点、縄文土器片3点(深鉢)、金属製品6点(鉄1, 不明5)が出土している。

**所見** 時期は、墳形や出土遺物から、7世紀代と推定され、当古墳群の中では最も新しい段階に位置付けられる。

第102表 第10号墳出土遺物一覧

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	土師器	甕	25.0	6.1	—	長石・石英・雲母	5YR6/6橙	普通	口径部縮み上げ ナテ	周溝 甕土下層	PL43
番号	器種	長さ	幅	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
2	鉄	1.30	0.60	0.24	鋼	非部折れ曲がる 腐食が激しい			主体部	PL50	

第103表 古墳一覧

番号	形状	位置	方向	規模				周溝			埋葬施設	5/2出土遺物	時代	備考	
				総長	短長	法円径/楕円径	前方長	前方幅	上端	下端					深さ
TM1	前方後円墳	B47～C54	N157°W	—	—	22.4	11.2	—	0.7～3.4	0.3～1.2	0.2～0.6	板式石棺	6世紀後半	PL10	
TM8	前方後円墳	B43～B45	N112°W	17.3	14.6	9.7	6.4	6.9	6.8	0.7～2.0	0.1～0.9	0.3～0.7	板式石棺	刀子・鉄鏝	6世紀後半 PL 8・9
TM9	前方後円墳	B35～B42	N141°W	25.9	23.2	20.8	14.2	4.3	11.4	1.0～2.7	1.0～1.6	0.1～0.4	板式石棺	ガラス小玉	6世紀後半 PL11
TM10	方墳	A29～B32	—	12.6	10.5	9.2	10.5	—	1.0～1.7	0.7～1.0	0.1～0.4	板式石棺	土師器	7世紀 PL12	

### 3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

#### 土坑

##### 第128号土坑 (第136図 第104表 PL13・43)

**位置** 調査区西部のA 2h0区、標高26mほどの台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸1.18m、短軸0.94mの長方形で、長軸方向はN-28°-Eである。深さ38cmで東壁は内傾、西壁は外傾し、南・北壁は直立している。底面は平坦である。

**覆土** 5層に分層できる。ブロック状の含有物がみられることから、埋め戻されている。

**遺物出土状況** 須恵器片2点(坏)が出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から平安時代、規模や形状から墓坑と推定される。



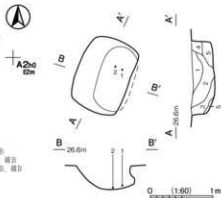
#### 土層解説

- 1 10YR2/2 赤褐色 ローム中D・小C・粒C、炭化腐D・粒D、礫目  
2 10YR2/4 暗褐色 ローム中D・小C・粒C、炭化腐D・粒D、礫目  
3 10YR3/2 黒褐色 ローム小D・粒C、炭化腐D・粒D、礫目  
4 10YR4/3 に近い黄褐色 ローム小D・粒D、炭化腐D・粒D、礫目  
5 10YR3/4 暗褐色 ローム中D・粒D、炭化腐D・粒D、礫目

第136図 第128号土坑・出土遺物実測図

第104表 第128号土坑出土遺物一覧

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	12.6	4.5	6.0	長石・石英・雲母	2.5YR6/2 灰赤	良好	外・内面はクロナテ	甕土下層	PL43
2	須恵器	坏	12.7	4.1	6.0	長石・石英・雲母・細礫	10YR6/4 に近い黄褐色	良好	外・内面はクロナテ	甕土下層	PL43



#### 4 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、平成21年度調査区から延びる第3号溝跡を確認した。遺構は一覧と全体図に示す(第102図)。

##### 溝跡

第105表 第3号溝跡

番号	位置	方向	平面形	規模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
3	B 2a1 ~ B 2d5	N-123°-W	直線	(222)	0.82 ~ 1.51	0.09 ~ 0.32	0.26 ~ 0.43	浅いU字状	外堀	自然 陶器(天目茶碗)	PL13

#### 5 その他の遺構と遺物 (第102・137図 第106～110表 PL13・43・48)

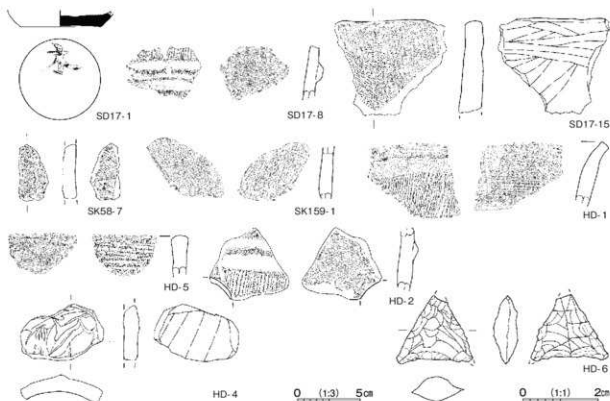
今回の調査では、時期を明確にできなかった土坑121基、溝跡2条、粘土採掘坑1基を確認している。遺構は、一覧と全体図(第102図)に示す。

##### (1) 土坑

第106表 その他の土坑一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面
				長軸×短軸(m)	深さ		
32	B46	-	円形	0.64 × 0.60	0.24	95% 平坦	
33	B46	-	円形	0.22 × 0.22	0.40	95% U字状	
34	B46	-	円形	0.36 × 0.36	0.32	95% U字状	
35	C48	N-2°-E	円形	0.53 × 0.43	0.42	95% U字状	
36	C49	N-66°-W	楕円形	0.38 × 0.27	0.20	95% U字状	
37	C49	-	円形	0.24 × 0.23	0.17	95% U字状	
38	C44	N-61°-E	楕円形	0.38 × 0.32	0.29	95% U字状	
40	C49	-	円形	0.29 × 0.28	0.25	95% U字状	
41	B49	-	円形	0.82 × 0.77	0.21	95% 平坦	
42	B49	S-5°-E	楕円形	1.00 × 0.78	0.30	95% 有段	
43	C45	N-57°-E	楕円形	1.28 × 1.15	0.20	95% 平坦	
44	C49	N-29°-E	楕円形	0.50 × 0.42	0.28	95% U字状	
45	C49	-	円形	0.25 × 0.24	0.36	95% U字状	
46	C49	N-52°-E	楕円形	1.04 × 0.68	0.32	95% 平坦	
47	B47	N-35°-E	楕円形	0.30 × 0.26	0.25	95% U字状	
48	C46	N-64°-W	楕円形	0.86 × 0.72	0.53	95% 平坦	
49	B44	N-30°-E	楕円形	1.22 × 0.58	0.13	95% 平坦	
50	B45	N-32°-E	楕円長方形	1.53 × 1.18	0.15	95% 平坦	
51	B45	N-31°-E	楕円形	2.03 × 0.83	0.21	95% 平坦	
52	B44	N-52°-W	楕円長方形	1.88 × 1.30	0.13	95% 平坦	
53	B45	N-32°-E	楕円形	1.32 × 0.80	0.16	95% 平坦	
54	C48	-	円形	0.27 × 0.25	0.31	95% U字状	
55	B43	N-72°-W	楕円形	1.04 × 0.69	0.7	95% 平坦	
56	B2a0	-	円形	0.60 × 0.60	0.6	95% 平坦	
57	D43	-	円形	0.92 × 0.87	0.6	95% 平坦	
58	B40	N-46°-E	楕円形	1.48 × 1.38	0.76	95% 平坦	
59	B40	N-38°-W	楕円形	1.12 × 0.52	0.50	95% 平坦	
60	B51	N-43°-W	楕円形	2.46 × 0.92	0.68	95% 平坦	
61	B42	N-45°-W	楕円形	0.36 × 0.28	0.21	95% U字状	
63	B44	N-42°-W	楕円形	0.30 × 0.27	0.46	95% U字状	
64	B45	N-41°-W	楕円形	1.28 × 0.86	0.16	95% 平坦	
65	B45	N-43°-E	楕円長方形	1.44 × 1.08	0.57	95% 平坦	
66	B42	N-24°-E	楕円形	0.54 × 0.34	0.30	95% U字状	
67	A41	N-47°-E	楕円形	0.70 × 0.60	0.75	95% U字状	
68	A10	N-60°-E	楕円形	2.19 × 2.29	0.30	95% 平坦	
69	A36	-	円形	0.74 × 0.72	0.30	95% U字状	
70	A37	N-80°-E	楕円形	1.26 × 0.71	0.23	95% 平坦	
71	A38	-	円形	0.41 × 0.39	0.33	95% U字状	
72	B23	N-26°-E	楕円形	0.63 × 0.40	0.44	95% U字状	
73	B24	-	円形	1.35 × 0.34	0.39	直立 円筒状	
74	B22	-	円形	0.46 × 0.43	0.27	95% U字状	
75	B24	-	円形	0.30 × 0.11	0.40	内堀 U字状	
76	B24	N-56°-E	楕円形	0.40 × 0.32	0.21	直立 U字状	
77	B23	N-43°-W	楕円形	0.48 × 0.37	0.16	95% U字状	
78	B23	N-51°-W	楕円形	0.48 × 0.35	0.18	95% U字状	
79	B23	-	円形	0.59 × 0.38	0.19	95% U字状	
80	B23	-	円形	0.33 × 0.31	0.13	95% U字状	
81	B22	N-38°-W	楕円長方形	1.59 × 0.60	0.9	95% 平坦	
82	B23	-	円形	0.35 × 0.34	0.15	95% U字状	
83	B22	N-60°-E	楕円形	0.65 × 0.77	0.14	95% U字状	
84	B22	-	円形	0.48 × 0.46	0.26	95% U字状	
85	B36	N-77°-E	楕円形	0.96 × 0.49	0.29	95% 平坦	
86	A36	N-68°-E	楕円長方形	1.06 × 0.65	0.40	95% 平坦	
87	A37	N-19°-W	長方形	1.02 × 0.56	0.16	95% 平坦	
88	A36	N-34°-E	楕円形	0.88 × 0.83	0.44	95% U字状	
89	A38	N-84°-E	楕円形	0.41 × 0.37	0.18	95% U字状	
90	A39	-	円形	0.39 × 0.38	0.16	95% U字状	
95	A38	N-38°-E	楕円長方形	2.30 × 0.96	0.26	95% 平坦	
96	A39	N-40°-E	楕円形	0.78 × 0.61	0.14	95% 平坦	
96	A36	N-5°-E	楕円長方形	2.13 × 0.89	0.27	95% 平坦	
99	A36	N-31°-E	楕円形	1.24 × 1.07	0.31	95% 平坦	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面
				長軸×短軸(m)	深さ		
97	B39	N-16°-W	楕円長方形	1.28 × 0.50	0.14	外堀 平坦	
98	B39	-	円形	0.72 × 0.68	0.42	外堀 平坦	
100	B36	N-43°-W	楕円形	1.22 × 0.75	0.24	外堀 U字状	
101	A35	-	円形	0.34 × 0.32	0.14	外堀 U字状	
102	B36	N-39°-W	楕円形	1.21 × 0.90	0.18	外堀 平坦	
103	B36	N-46°-E	楕円形	0.70 × 0.50	0.28	外堀 U字状	
104	B36	N-52°-E	楕円形	0.88 × 0.76	0.18	外堀 平坦	
105	A42	N-28°-E	楕円形	1.98 × 0.80	0.45	外堀 平坦	
106	A38	N-65°-E	楕円形	0.81 × 0.70	0.14	外堀 平坦	
107	A38	N-83°-E	楕円形	1.04 × 0.80	0.45	95% U字状	
109	A34	N-63°-E	楕円形	0.83 × 0.68	0.47	外堀 U字状	
111	A32	N-12°-E	長方形	1.40 × 0.60	0.45	外堀 有段	
113	A34	-	円形	0.60 × 0.58	0.28	外堀 U字状	
114	B35	N-32°-E	長方形	2.04 × 0.58	0.17	外堀 平坦	
115	B34	N-43°-W	楕円形	1.19 × 0.66	0.20	外堀 平坦	
118	B34	N-57°-E	楕円形	1.90 × 0.87	0.51	95% 平坦	
117	B33	N-11°-E	長方形	2.20 × 1.17	0.36	外堀 有段	
118	A36	N-26°-W	楕円形	1.06 × 0.90	0.28	外堀 平坦	
119	A28	N-11°-E	楕円形	1.10 × 0.68	0.29	外堀 U字状	
120	B34	N-29°-W	楕円形	1.03 × 0.73	0.19	外堀 U字状	
121	A33	N-57°-E	楕円形	1.50 × 0.77	0.35	外堀 U字状	
122	A37	N-28°-E	楕円形	0.50 × 0.33	0.41	直立 円筒状	
123	A37	N-33°-E	楕円形	0.64 × 0.58	0.28	外堀 U字状	
124	A27	N-52°-W	楕円形	1.18 × 0.82	0.25	外堀 平坦	
125	B25	-	円形	0.53 × 0.50	0.13	外堀 平坦	
126	A31	N-48°-E	楕円形	1.06 × 0.80	0.30	外堀 U字状	
127	B47	-	円形	0.24 × 0.23	0.30	直立 U字状	
129	A23	N-80°-E	楕円形	1.66 × 1.32	0.43	95% 平坦	
131	A31	N-29°-E	楕円形	1.28 × 1.10	0.64	外堀 U字状	
132	B46	N-57°-W	楕円形	0.83 × 0.71	0.30	外堀 平坦	
133	A29	-	円形	0.89 × 0.86	0.25	外堀 平坦	
135	A31	N-24°-E	楕円形	2.08 × 1.72	0.62	外堀 平坦	
137	B45	N-17°-E	楕円形	1.16 × 1.02	0.33	外堀 平坦	
138	B27	N-17°-W	楕円形	1.25 × 1.03	0.27	外堀 平坦	
139	B27	N-7°-W	楕円長方形	0.64 × 0.56	0.22	外堀 U字状	
140	A29	N-7°-E	長方形	1.50 × 0.75	0.10	外堀 平坦	
141	B47	-	円形	0.74 × 0.70	0.15	外堀 U字状	
142	B47	-	円形	0.58 × 0.54	0.18	外堀 U字状	
143	B29	N-3°-W	楕円形	1.10 × 0.94	0.38	直立 円筒状	
144	B35	N-9°-W	楕円形	0.90 × 0.86	0.24	外堀 平坦	
145	B35	N-11°-E	楕円形	2.06 × 1.40	0.26	外堀 直立	
146	B39	-	円形	1.10 × 0.96	0.20	外堀 U字状	
147	B39	-	円形	0.80 × 0.78	0.14	外堀 U字状	
148	B39	N-11°-E	楕円形	0.56 × 0.40	0.22	外堀 平坦	
149	B37	-	円形	1.15 × 1.10	0.23	外堀 平坦	
150	B36	N-29°-W	楕円形	1.83 × 1.26	0.41	外堀 U字状	
151	B37	N-81°-E	楕円形	1.05 × 0.72	0.30	外堀 平坦	
152	B37	N-90°-E	楕円形	1.04 × 0.65	0.30	外堀 平坦	
153	B37	N-39°-E	楕円形	1.08 × 0.83	0.42	外堀 U字状	
154	B41	N-2°-W	楕円形	0.75 × 0.64	0.40	外堀 U字状	
156	B37	N-47°-E	楕円形	1.30 × 0.69	0.52	有段 平坦	
158	B36	N-37°-E	楕円形	0.97 × 0.51	0.17	外堀 平坦	
159	B35	N-85°-E	楕円形	0.87 × 0.63	0.41	外堀 平坦	
158	B40	-	円形	0.78 × 0.75	0.40	外堀 U字状	
159	B30	N-83°-E	楕円形	1.52 × 1.41	0.43	外堀 U字状	
160	B30	N-8°-W	楕円形	1.15 × 1.03	0.34	外堀 平坦	
161	B41	N-8°-W	楕円形	0.80 × 0.52	0.26	外堀 U字状	
162	B41	N-25°-E	楕円形	1.05 × 0.82	0.20	外堀 U字状	
163	B39	N-47°-E	楕円形	0.58 × 0.38	0.28	外堀 U字状	
163	B36	N-30°-E	楕円形	1.73 × 0.76	0.50	直立 平坦	



第137図 第17号溝跡、第58・159号土坑・遺構外出土遺物実測図

第107表 第17号溝跡、第58・159号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SD17-1	須臾器	杯	—	(14)	6.4	灰石・石炭・雲母・赤色粘土	7.5YR5/6 に近い褐色	普通	底部器書「木」	溝土中	PL43
SD17-8	須臾器	杯	(47)・(60)・(69)	—	—	白雲母・石炭・灰石・赤色粘土	7.5YR5/3 に近い褐色	普通	器部：台形・M字 外面：二次調整タテハテ、二次調整ヨコナデ 内面：タテナデ	溝土中	PL48
SD17-15	須臾器	瓶	(57)・(64)・17	—	—	白雲母・石炭・灰石・赤色粘土	5YR5/3 系	普通	外面：斜方向ハケヨコナデ 内面：斜方向ナデ上部のみヨコナデ 底面：輪郭ハケ調整面が灰色になっていることから外面を灰色で着色	溝土中	PL48
SK58-7	須臾器	不明	(45)・(24)・11	—	—	白雲母・石炭・灰石・赤色粘土 灰化層	2.5YR6/6 系	良好	外面：縦線面にハケヨ	溝土中	PL48
SK159-1	須臾器	不明	(50)・(52)・10	—	—	白雲母・石炭・灰石・赤色粘土 灰化層	2.5YR5/6 系 明褐色	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	溝土中	PL48

## (2) 溝跡 (第102・137図 第108表 PL12・13・48)

第108表 その他の溝跡一覧

番号	位置	方向	形状	規模 (m)			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ	上幅	下幅					
17	B48 ~ C44	N - 48° - E	直線	18.95	1.29 ~ 2.03	0.44 ~ 1.19	0.08 ~ 0.17 浅いU字状	外傾	自然	土師器・須臾器・埴輪	PL13
19	B3-9 ~ B3-2	N - 6° - E S - 6° - E	屈曲	(21.65)	0.8 ~ 0.55	0.35 ~ 0.40	0.12 ~ 0.22 浅いU字状	外傾	自然	縄文土器	PL12

## (3) 粘土採掘坑 (第102図 第109表 PL13)

第109表 その他の粘土採掘坑

番号	位置	長径方向	平面形状	規模 (m)		断面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径	深さ					
2	B36-7 ~ B30	N - 74° - E	不定形	8.5 × 4.3	0.58 ~ 1.28	内傾・外傾	西凸	自然	石積石材	本誌→TM9 図漢 PL13

## (4) 遺構外出土遺物 (第137図 第110表 PL48)

第110表 遺構外出土遺物一覧

番号	器種・種類	長さ・幅・厚さ	胎土	色調	焼成	調整・整形の特徴他	出土位置	備考	
HD-1	内傾・須臾器	(56)・(74)・12	白雲母・雲母・石炭・灰石・赤色粘土	5YR5/6 系 明褐色	普通	外面：一次調整タテハテ、二次調整ヨコナデ 内面：輪ハテ、二次調整で口縁ヨコナデ	表採	PL48	
HD-2	内傾・須臾器	(57)・(63)・11	白雲母・石炭・灰石	5YR5/6 系 に近い褐色	普通	外面：一次調整タテハテ、二次調整ヨコナデ 内面：ナデ、調整面が灰色	表採	PL48	
HD-4	須臾器・須臾器	(44)・(65)・(6)8	白雲母・雲母・石炭・灰石・赤色粘土・灰化層	5YR5/6 系	普通	外面：縦線面に斜方向に行った彫削のハケヨ調整 内面：ナデ 胎土：中心部と同一層位と考えられる	表採	PL48	
HD-5	須臾器・不明	(33)・(34)・13	白雲母・雲母・石炭・灰石・灰化層	5YR5/6 系 明褐色	普通	外面：一次調整タテハテ、二次調整ヨコナデ 内面：輪ハテ、二次調整で口縁ヨコナデ	表採	PL48	
番号	器種名	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
HD-6	石鏡	安山岩	1.8	2.0	0.6	(154)	基部中央やや凹入 先端部欠陥	表採	

## 第4節 総括

### 1 はじめに

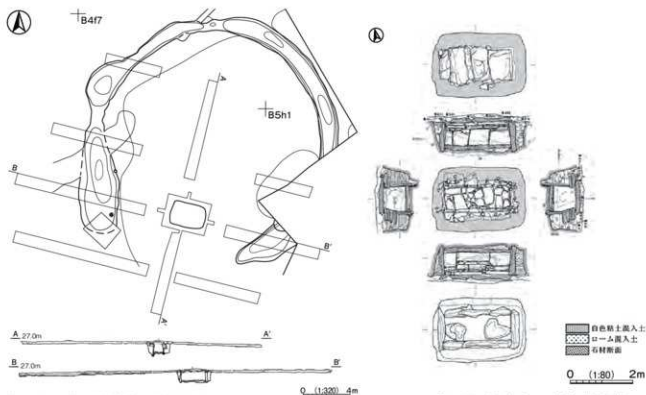
今回の調査で、古墳4基を確認した。つくば市の調査では7基からなる古墳群であったが、今回の調査で新たに3基の古墳を確認した。市に問い合わせ、第8～10号墳として調査を行った。

第1・8・9号墳は、桜川右岸の古墳の特徴から、規模は中型の前方後円墳（帆立貝形）に分類され、主体部の主軸方向は西向きあるいはやや西を向く。一棺への追葬を普通とする「変則的古墳」が一般とされていることや<sup>1)</sup>、つくば市の調査により、第1号墳からは最低3個体の人骨が確認されていることから<sup>2)</sup>、第8・9号墳においても追葬が行われていた可能性が考えられる。第8号墳石棺内からは3本の刀子が出土しており、やはり複数回の追葬が想定される。

以下、第1号墳周溝出土の埴輪について検討し、総括とする。

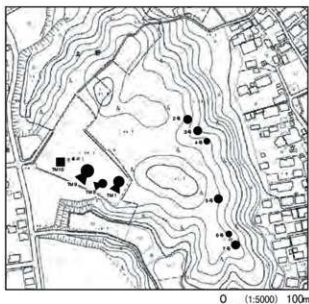
### 2 上境作ノ内古墳群第1号墳出土の埴輪について

桜川流域の古墳は約113基の古墳が確認されている。そのうち、埴輪を有する古墳は31基である。そのうち左岸では99基のうち27基から円筒埴輪、形象埴輪（人物・動物）、器財埴輪が、右岸では14基のうち4基から円筒埴輪が確認されている。当古墳群は右岸に位置しており、形象埴輪、器財埴輪の出土例は稀である。特に第1号墳から出土した機械形埴輪は、全国的にみても稀な埴輪であり、機械形埴輪としては3例目、有機台腰機（地機）としては2例目である。



第139図 第1号墳箱式石棺展開図

註 2) から縮小・一部合成し転載



第138図 上境作ノ内古墳群分布図

埴輪片は胎土から大まかに5群に分類でき、円筒埴輪は、胎土から色で茶・赤・灰色の3群、形象・器財埴輪は、雲母の含有で2群に分類できる。円筒埴輪はいずれも雲母を含み、つくば市内から出土している埴輪の特徴に当てはまる。形象埴輪のうち人物埴輪の上衣と想定される埴輪片は雲母を含まない胎土であり、他地域からの搬入品と考えられる。

### 3 上境作ノ内古墳群第1号墳出土の機織形埴輪について

まず、機織形埴輪とした135・136・137の特徴について確認する。

135の基台部に僅かに残る天井の突帯から、基台部の平面形は、楕円形や隅丸長方形と推測される。この基台天井部の長軸が片方へ寄った位置に柱状部2本が並立する。その一方の柱状部内側面には、粘土紐を貼付けた突帯が、基台天井部へ垂下し、並立する柱状部の間の中央を通して直線的に基台天井部の中心方向に伸びている。この並立する柱状部が、全国で初めて機織形埴輪2例が確認された栃木県下野市甲塚古墳の機織形埴輪のうち、有機台腰機（地機）が表現された機織形埴輪と類似していたため、これを基に検討した（以下、甲塚例とする）<sup>④</sup>。その結果、本例135にある並立して直立した柱状部を、有機台腰機の機台を支える「前脚部」として、また甲塚例にはみられない前脚部内側面を垂下する突帯は、有機台腰機にある招木から垂下して足元へ延びる「足紐」と推測し、機織形埴輪と確定した。なお、機織の機台上部構造については出土していないため不明である。また、136・137は同一地点から出土し、胎土・焼成等から同一個体として同定した。特に136は、成形方法が135の柱状部と同様で、長方形の粘土板を芯材に用いていることから、地機の構造部材と同定した（以下、長方形粘土板とする）。136の両端部の破断面には、それぞれに方向を違えて弧状に剥がれた接合部の痕跡を確認できる。この点に注意を要するが、高さ6.5cmの短い板材とすれば、機台の後脚部であった可能性も考えられる。なお、実測図の提示に際し、両端の剥離面を水平にしているが、長方形粘土板を芯材としているため、これを直立させた場合、剥離痕のある面が斜めになる。この場合、基台の天井部面へ接合部が斜めとなるため、後脚部ではなく、他の構造部材となる可能性がある。

以上が、機織形埴輪とした根拠である。本例は、破片資料のため制約はあるが、構造を理解するため、甲塚例の有機台腰機（地機）の機織形埴輪を基に、本例の復元図（第140・141図）を提示する。以下、復元に際して検討した内容と、残存している部位に視られる甲塚例との相違点について触れる。

#### （1）復元図の作成について

**基台部** 本例前脚部の平面位置と基台部突帯の位置を基に、甲塚例の平面図と合う縮尺を検討し、縮尺2/3で位置関係がほぼ一致したことから、これを基にして基台部のサイズを復元し、さらに各部を復元した。なお、前脚部から垂下して天井部に延びる足紐表現と推測される突帯は、復元した基台平面形の長軸方向でほぼ中軸線上に位置していることを確認できる。

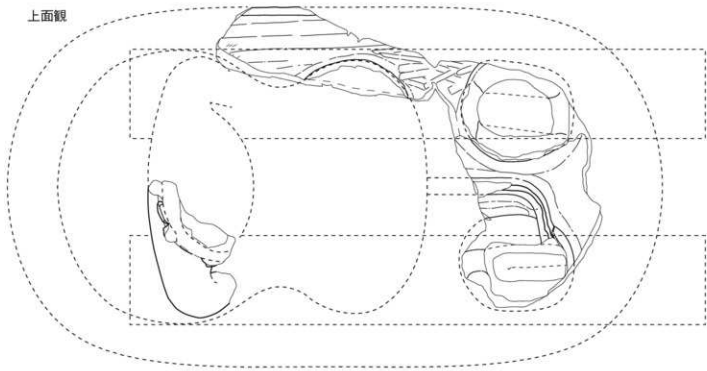
**人物部** 甲塚例の縮尺2/3でサイズが一致することから、甲塚古墳例の平・側面図の位置で復元した。また、基台に残る左前脚部後方の剥離痕は、甲塚例に下衣が表現されていることから、下衣の裳裾部分が剥離したと推測した。

**機台部** 基台部から推定される地機の機台部までの高さは、基台部へ接合するための補強粘土の大半がきれいに剥離して前脚部の芯材が残っていることから、残る芯材の上部に機台となる粘土板がのせられていたと想定した。

機台部の傾斜角の決定には、右脚部内側面の上部にある斜めに残る粘土剥離痕の傾斜角と、甲塚例の機台傾斜角が一致することから、残存する右脚の長方形粘土板上部に機台が接する位置で、甲塚例の側面図を基に機台部を復元した。機台の長さは、推定した人物が座る部分と、機台の後脚部を推定して復元案とした。

正面図として示した機台部の間隔は、本例脚の剥がれラインで織機機台部がのる位置としたことから、甲塚例より幅広で、前方で狭くならず平行で延びるよう復元した。

上面観

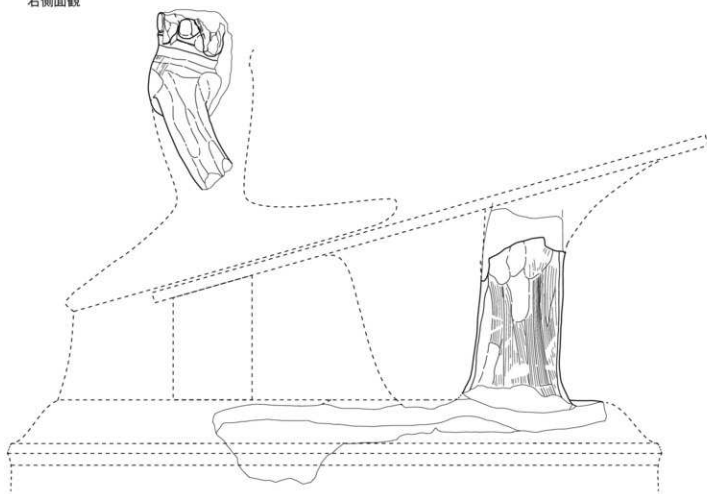


推定値

基台部 最大幅 38cm

最大長 69cm

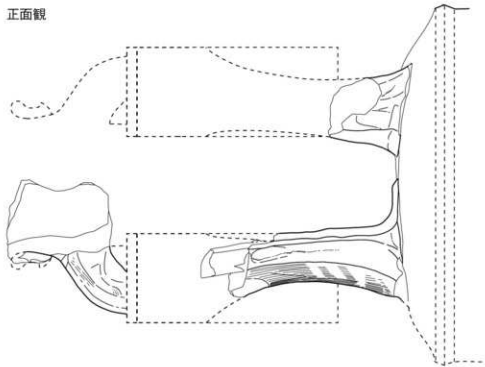
右側面観



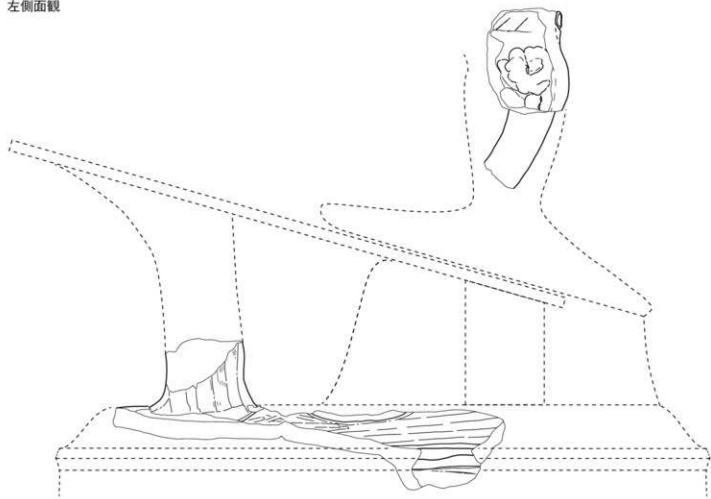
第 140 図 第 1 号墳出土機織形埴輪復元図 (1)

0 (1:4) 10cm

正面観



左側面観



第141図 第1号墳出土機織形埴輪復元図(2)

0 (1:4) 10cm

## (2) 下野市甲塚古墳出土例との相違点について

**基台部について** 本例の基台部は、基台部の外縁突帯が幅1～2cmの断面が逆台形の突帯であるのに対し、甲塚例は、外縁突帯を水平方向に大きく張り出させている。また、基台内面の中央やや後方に天井部の加重を支えていたとみられる補強帯がある。本例の天井部内面は、長軸方向の撫で調整のみで補強帯の痕跡はない。本例の基台は、甲塚古墳例よりも一回り小さいサイズであることから、基台の天井部をドーム状にすることで、上部の加重を分散させることが可能であったと推測しておきたい。

**前脚部について** 本例前脚部の残存高は甲塚例より1.2倍ほど高く、特に成形に大きな違いがある。甲塚例の前脚部は、横断面がほぼ円形の中空で成形されるのに対し、本例は横断面が長方形の中実で、粘土板を二つ折りした長方粘土板を芯材として成形されている。この長方板を立て、基台接合部の外側面に多くの粘土紐を縦にして補強粘土を貼付け、内側面側の接合部の粘土貼付けを少なくし長方形粘土板の平坦面を残すようにしている。接合補強粘土の外側面への偏りは、脚内側面を垂下し、両脚間を通る足紐の表現をするため、内側の間隔を保つようにして製作されたものと考えられる。この足紐表現の貼付け突帯の断面観察から、粘土紐は、折損上部は長方粘土板の表面に貼られた部分が、貼付け高さ0.7cm、幅1.0cmで、断面図を作成した脚部下方では高さ1.0cm幅1.5cmであり、基台部との接合補強粘土より突出するよう粘土紐を太くさせつ、粘土紐1本で突帯表現と接合補強粘土を兼ねるように貼付けられている。

脚部が中空成形ではなく、中実成形であるため、本例の基台上部の構造の重量が重いと考えられる。あえて中実の前脚部を長方板状に製作されているのは、足紐表現もあることから実際の地機前脚部の板材を忠実に表現していると推測される。本例に招木から延びる足紐が忠実に表現されていることから、機台へ取り付けられた前脚部の板材の向きも正確に表現されていると推測される。よって、本例のモデルとなった地機の前脚部の構造は、板材の木端（こば）が機台に対して前後し、板目が側面となるように取り付けられていたと考えられる。この前脚部の形状の違いから、地機の前脚部材には、円柱状の丸材と板材が用いられる二者があったと推測される。なお、細部まで忠実に表現されたことを重視すれば、足紐は人物の足元まで延び、ともすれば足首に巻かれていた可能性もあろう。

## 4 おわりに

今回の調査では、古墳4基と同時期の集落は確認できず、台地縁辺部に位置する当遺跡は、墓域となっていたことがうかがえる。当古墳群と同時期の集落は、古墳の主軸方向から考え、調査区よりも南西側に広がっていることが想定される。古墳の規模や埋葬品から集落内の有力者の古墳と考えられる。

以上、検討不足や課題も多く、推測した部分も多々あるが、器財埋輪の復元図を提示することで、出土事例の少ない機織形埋輪の認定に資すれば幸いである。なお、本例を機織形埋輪とする際の検討から、実測図の表現方法や復元案の作成にあたり、賀来孝代氏に多大なるご助言いただいた。記して感謝申し上げます。

### 注

- 1) 石橋 光 「つくば市域の古墳群」『常陸の古墳群』2010年2月
- 2) 石橋 光 広瀬季一郎 関口友紀 「土境作ノ内1号墳発掘・確認調査」『つくば市内道路—平成12年度発掘調査報告—』つくば市教育委員会 2001年3月
- 3) 鎌原政博 宮内良隆 今橋浩一 『市之代古墳群第3号墳調査報告』取手市教育委員会 1978年3月
- 4) 木村友樹 『甲塚古墳発掘調査報告書 下野国分寺跡史跡整備に伴う発掘調査報告書』栃木県下野市教育委員会 2014年3月

### 引用・参考文献

- 小川貴行 「土境作ノ内道路 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XVI」茨城県教育財団文化財調査報告第366集 2013年3月
- 土生剛治 賀来孝代 『千草B古墳群 下妻市高道祖千草地区工業団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』下妻市教育委員 2017年3月
- 日高 慎 『東国古墳時代の文化と交流』2015年10月
- 東村純子 『考古学からみた古代日本の終焉』2011年3月
- 近藤義郎 『前方後円墳集』東北・関東編 1994年1月



写 真 图 版



上境作ノ内古墳群第1号墳出土埴輪





上境滝の台古墳群全景（鉛直から）



上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群全景（鉛直から）



第3号墳 (西から)



第3号墳 墳丘残存部



第3号墳 埋葬施設埋没状況



第3号墳 埋葬施設



第3号墳 埋葬施設掘方



第3号墳 埋葬施設（北壁）



第3号墳 埋葬施設裏込土土層（北壁）



第3号墳 埋葬施設（南壁）



第3号墳 埋葬施設裏込土土層（南壁）



第3号墳 埋葬施設（東壁）



第3号墳 埋葬施設裏込土土層（東壁）



第3号墳 埋葬施設（西壁）



第3号墳 埋葬施設裏込土土層（西壁）



第2号竪穴建物跡



第3号竪穴建物跡



第1号方形竪穴遺構



第85号土坑 遺物出土状況



第193号土坑 遺物出土状況



第220号土坑 遺物出土状況



テストピット



テストピット 分析用試料土壌採取状況

PL5



第1号石器集中地点 遺物出土状況



第2号石器集中地点 遺物出土状況

PL6



第3号石器集中地点 遺物出土状況



第4号石器集中地点 遺物出土状況



PL7



第5号石器集中地点 遺物出土状況



第6号石器集中地点 遺物出土状況



第8号墳



第8号墳 箱式石棺蓋石確認状況



第8号墳 箱式石棺蓋石検出状況



第8号墳 箱式石棺内部確認状況 (1)



第8号墳 箱式石棺内部確認状況 (2)



第8号墳 箱式石棺内部確認状況 (3) (東から)



第8号墳 石棺内遺物出土状況 (東から)



第8号墳 箱式石棺 (鉛直)



第8号墳 石棺掘方裏込土土層断面 (西から)



第8号墳 石棺東側掘方小口裏込土土層断面 (南から)



第8号墳 石棺南東コーナー部目地粘土 (南壁)



第8号墳 箱式石棺板石検出状況



第8号墳 埋葬施設掘方 (西から)



第1号墳



第1号墳 周満南東部遺物出土状況 形象増輪



第1号墳 周満北東部遺物出土状況 形象増輪



第1号墳 周満南西部遺物出土状況 円筒増輪



第1号墳 埋葬施設掘方



第9号墳



第9号墳 埋葬施設確認状況



第9号墳 埋葬施設内石材検出状況



第9号墳 埋葬施設（南から）



第9号墳 埋葬施設掘方

PL12



第10号墳



第10号墳 埋葬施設内石材検出状況



第10号墳 埋葬施設掘方



第19号溝跡



第17号溝跡 (南から)



第3号溝跡 (西から)



第95号土坑 (右上)



第117号土坑



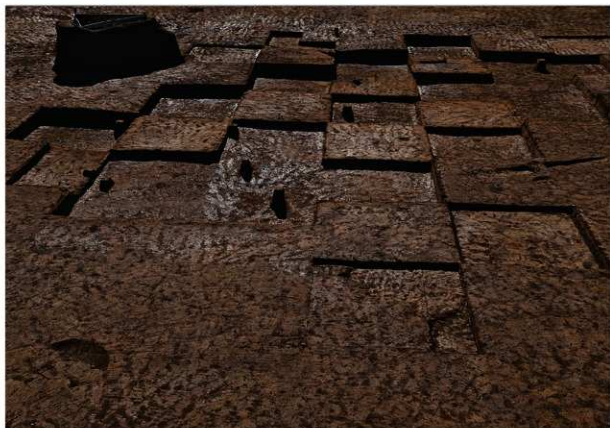
第128号土坑 遺物出土状況



第1号粘土探掘坑



第1号石器集中地点 遺物出土状況



第3号石器集中地点 遺物出土状況





第5号石器集中地点 遺物出土状況



テストピット1



テストピット1 分析用試料土壌採取状況



テストピット2



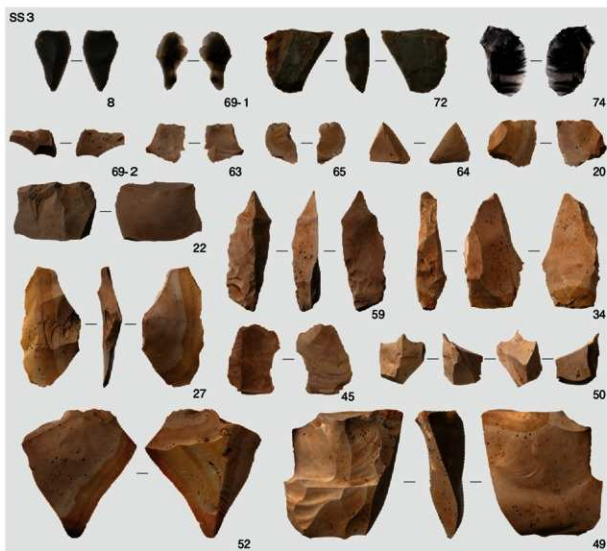
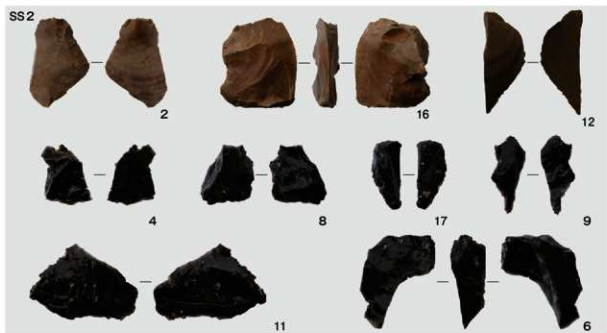
テストピット3

PL16



第1·2号石器集中地点出土石器

PL17



第2・3号石器集中地点出土石器



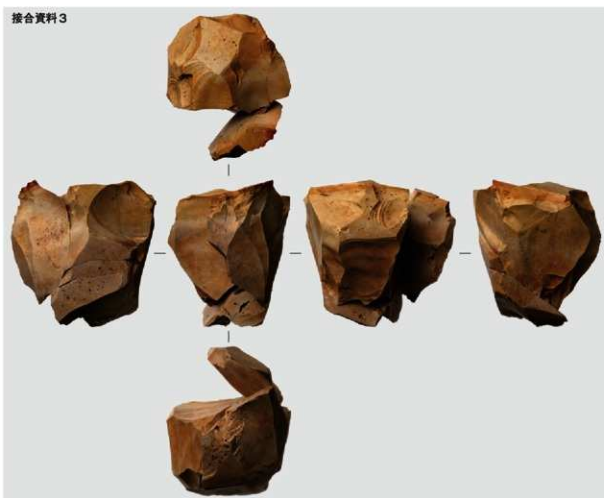
接合資料1

第3号石器集中地点出土石器(接合資料1)

接合資料2

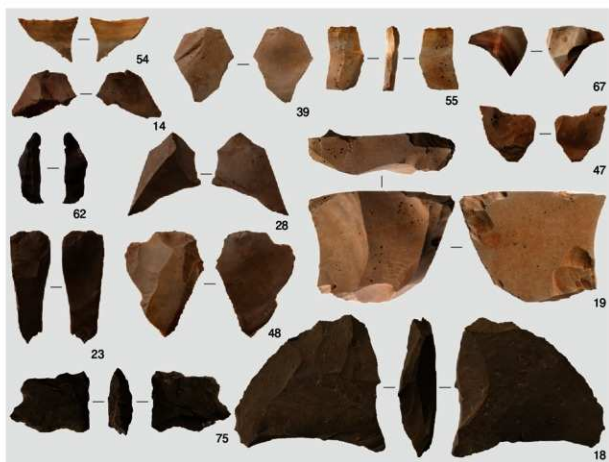
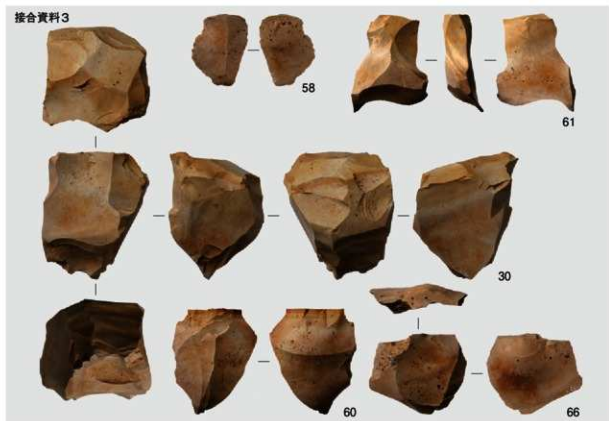


接合資料3



第3号石器集中地点出土石器 (接合資料2・3)

接合資料3



第3号石器集中地点出土石器 (接合資料3)

PL21

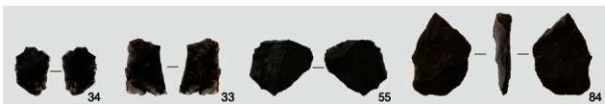
SS3

接合資料4



SS4

接合資料1



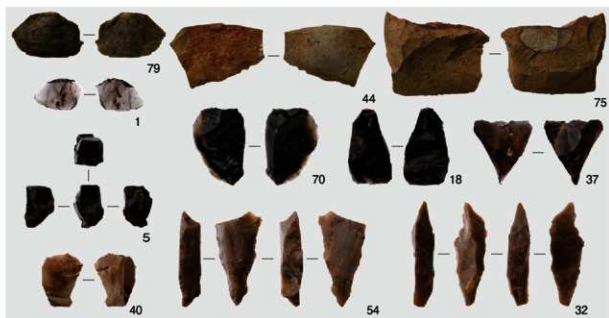
第3号石器集中地点出土石器(接合資料4)

第4号石器集中地点出土石器(接合資料1)

接合資料 2



接合資料 4



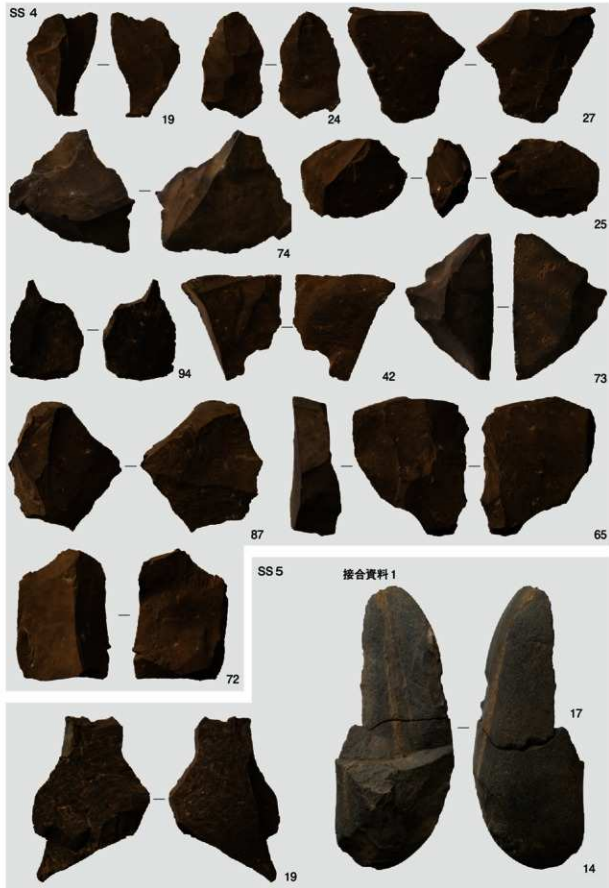
第4号石器集中地点出土石器 (接合資料 2・4)





第4号石器集中地点出土石器（接合資料3・5）

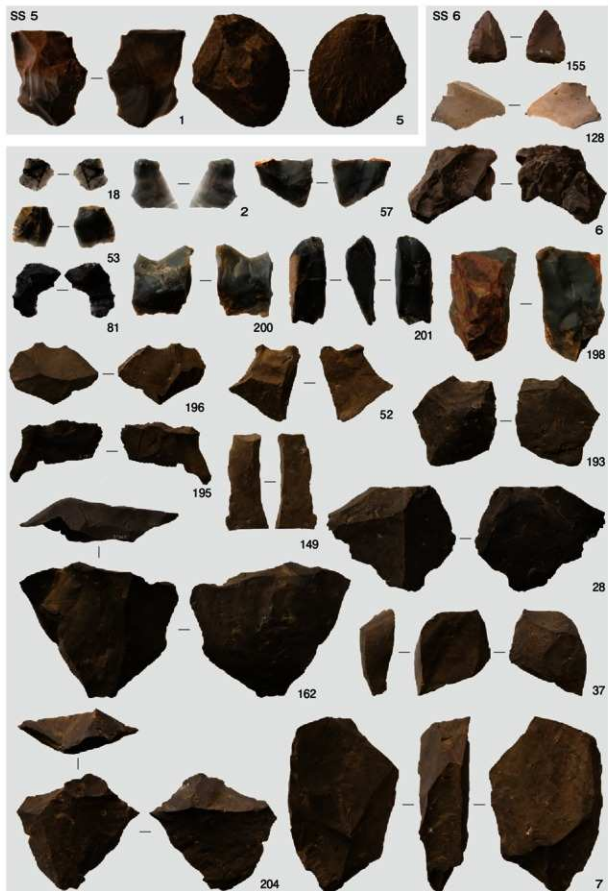
PL24



第4号石器集中地点出土石器

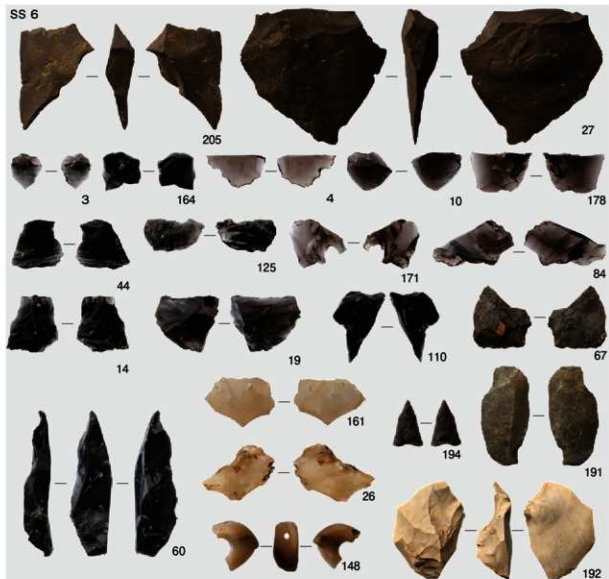
第5号石器集中地点出土石器 (接合資料 1)

PL25



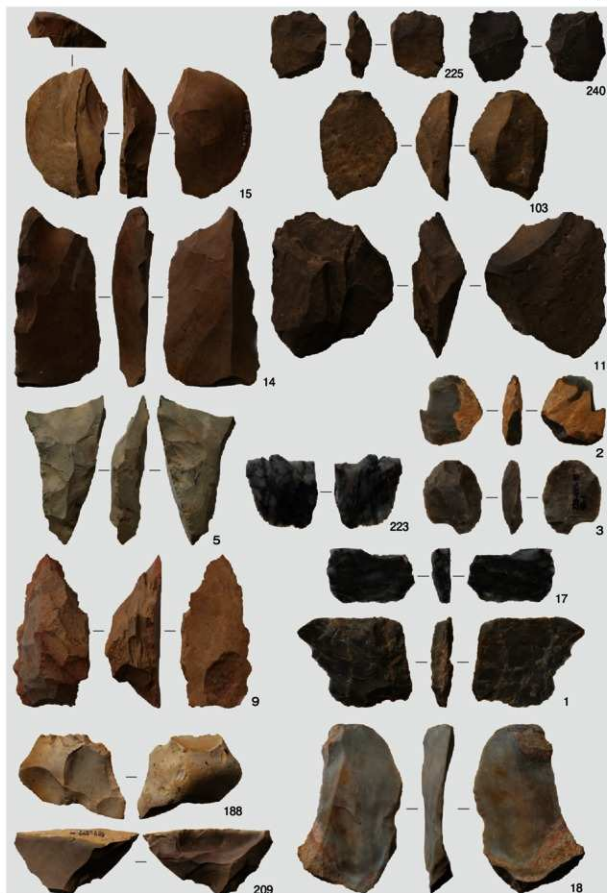
第5・6号石器集中地点出土石器

PL26

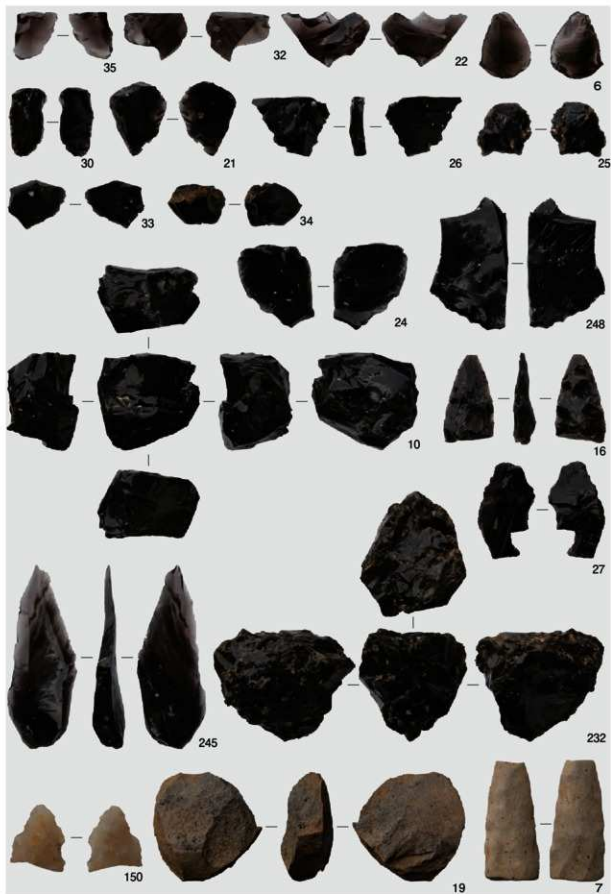


第6号石器集中地点·集中地点外出土石器

PL27



集中地点外出土石器 (1)

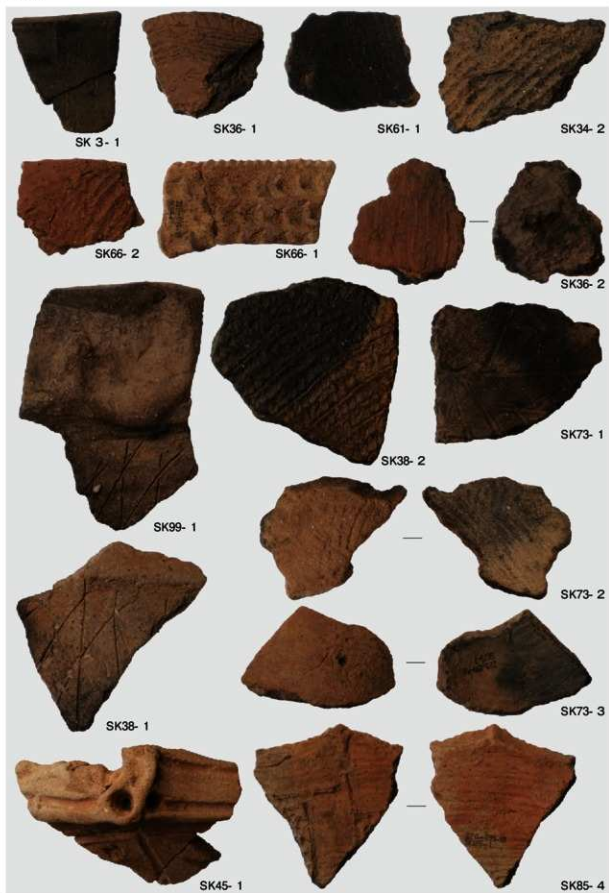


集中地点外出土石器 (2)

PL29



第2・3・6号型穴建物跡、第33・85号土坑出土遺物



第3·34·36·38·45·61·66·73·85·99号土坑出土土器

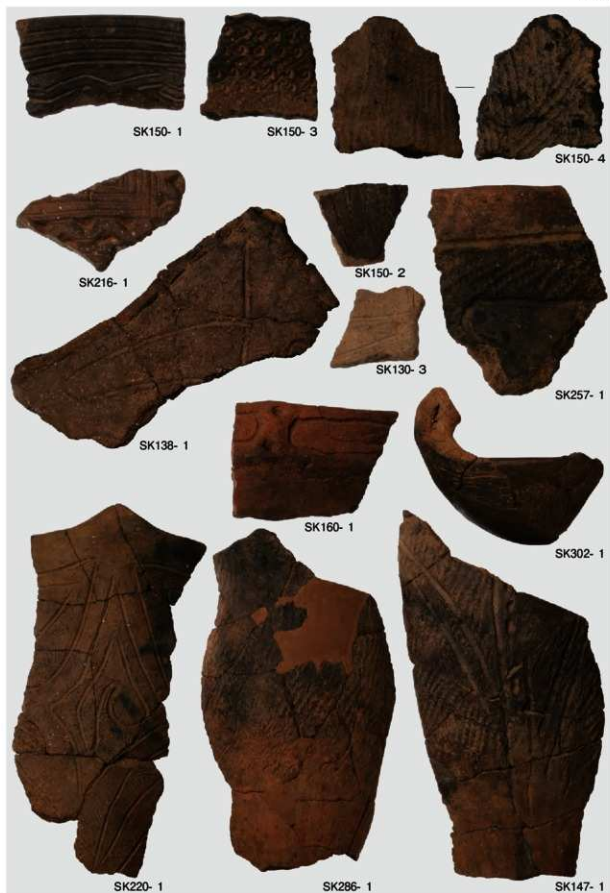


PL31



第78・85・96・113・126・130号土坑出土土器





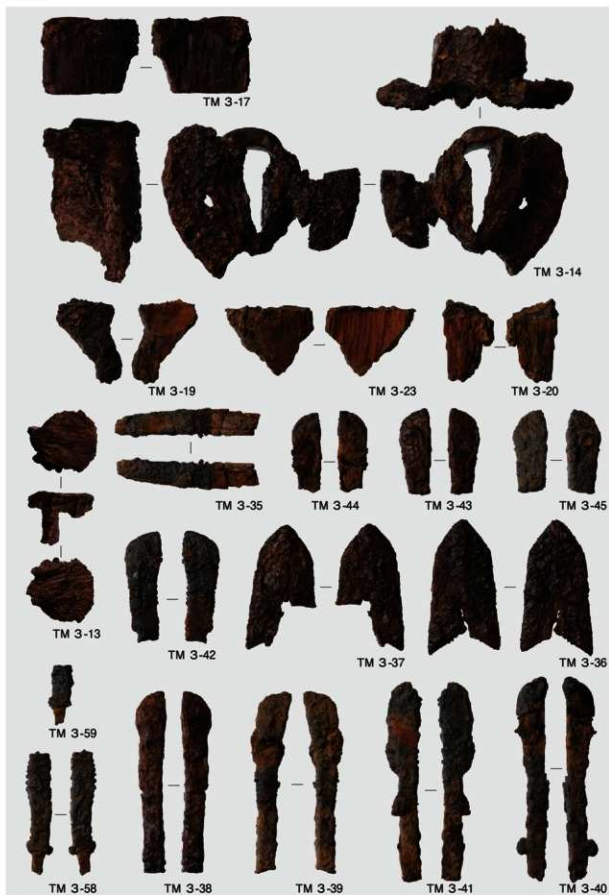
第 130・138・147・150・160・216・220・257・286・302 号土坑出土土器



第 193・242・260・261・276 号土坑，第 1 号溝跡，第 3 号墳，遺構外出土遺物

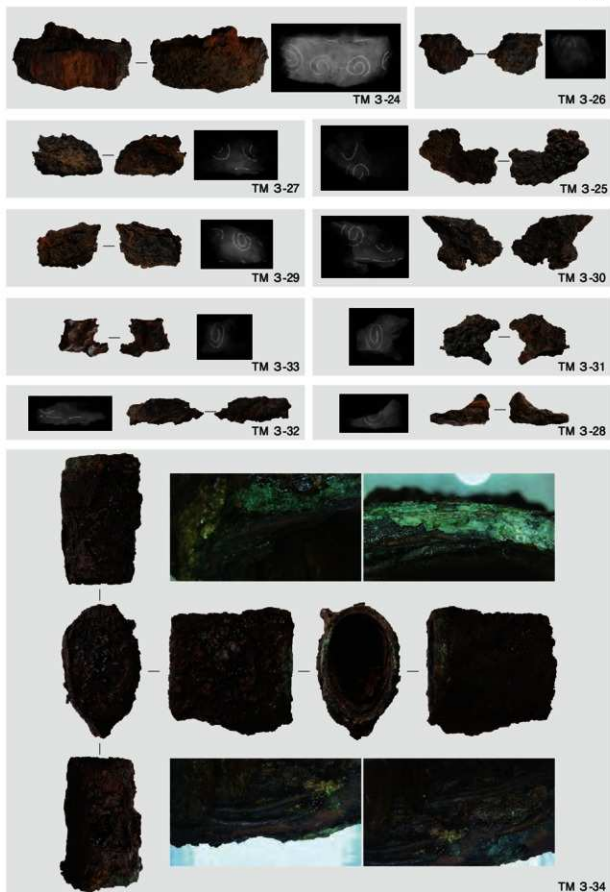


第3・4・5号石器集中地点、第11・66号土坑、第1号ビット群、遺構外出土石器  
第3号墳出土金属製品（1）



第3号墳出土金属製品(2)

PL37



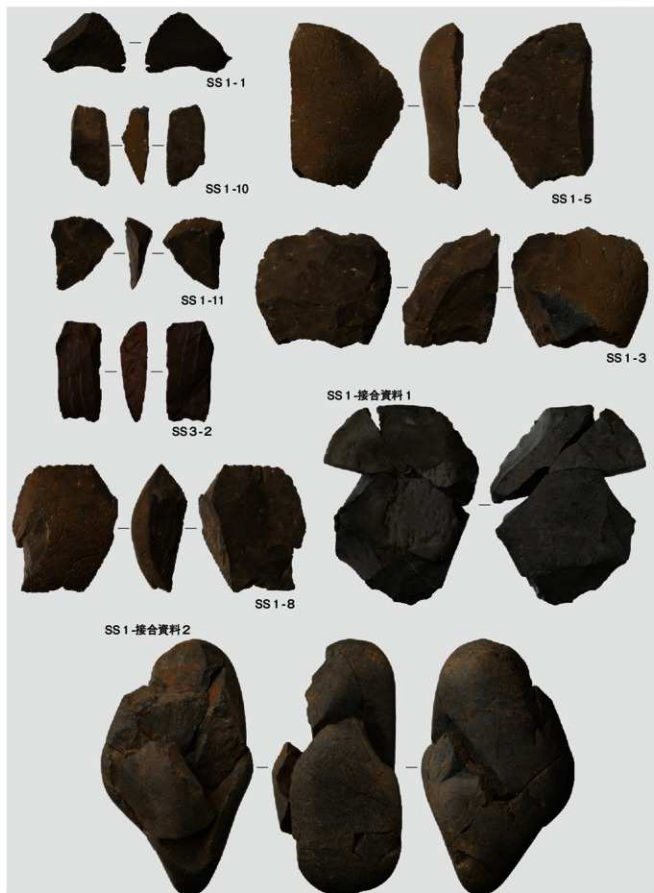
第3号墳出土金属製品（3）

PL38



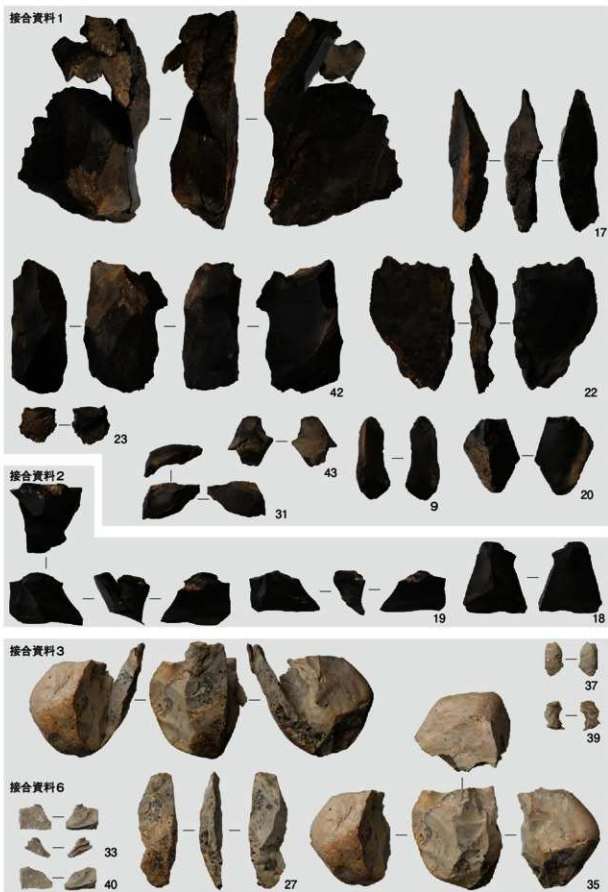
第3号墳出土ガラス製品 (2倍に拡大)





第1号石器集中地点出土石器 (接合資料1・2)

第3号石器集中地点出土石器

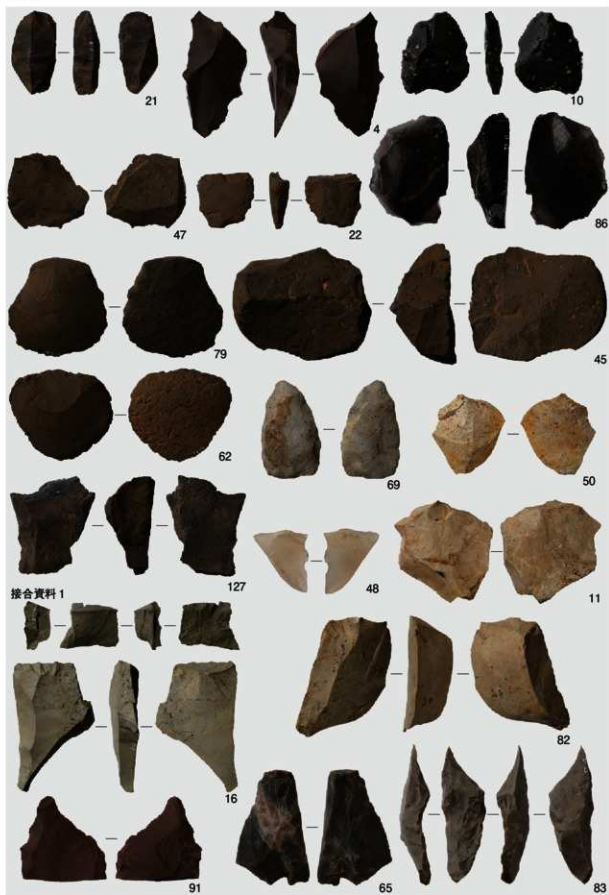


第5号石器集中地点出土石器 (接合資料 1 ~ 3・6)

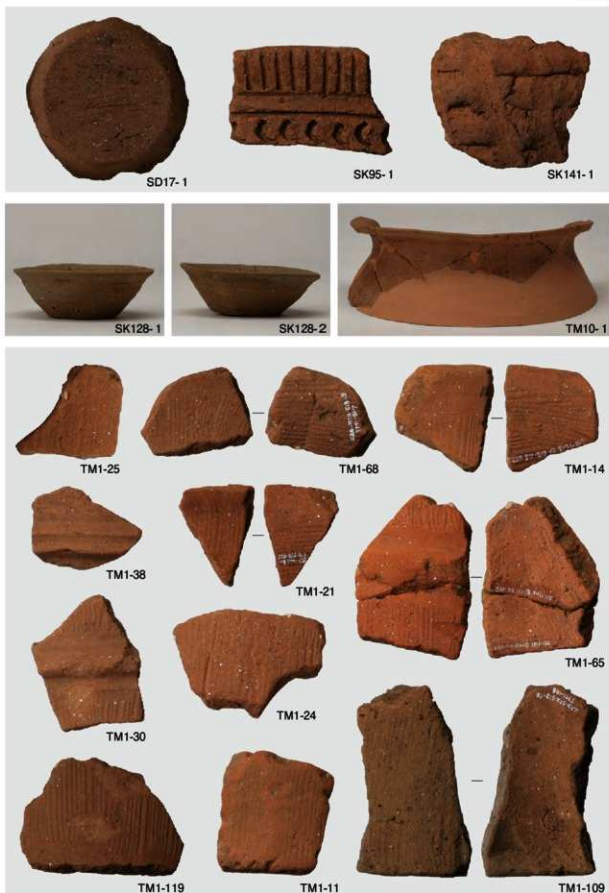
PL41



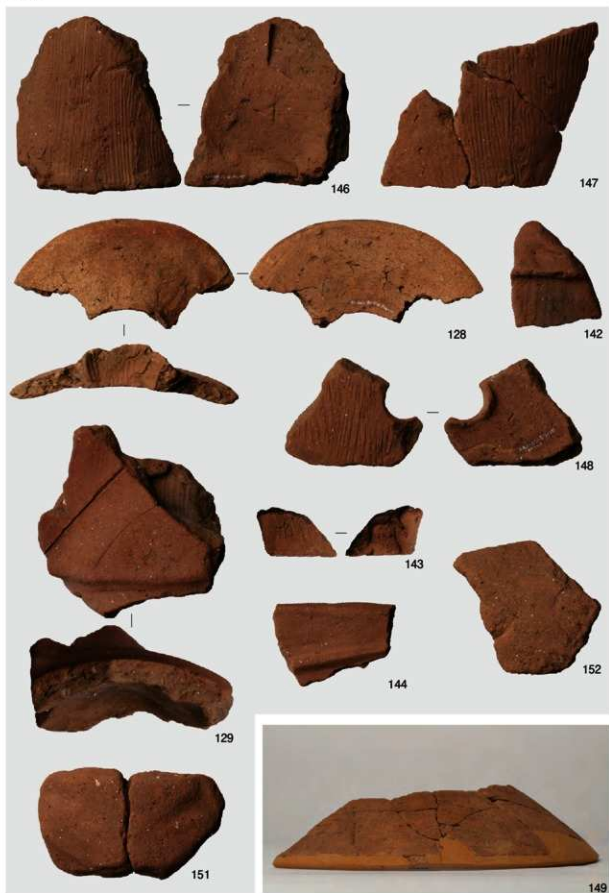
第5号石器集中地点出土石器（接合資料4・5）



集中地点外出土石器（接合資料 1）



第17号溝跡，第95・128・141号土坑，第10号墳出土土器，第1号墳出土円筒埴輪



第 1 号墳出土形象埴輪



第1号墳出土形象埴輪（馬形）

PL46



第1号墳出土器財埴輪 (機織形)



PL47



135



137

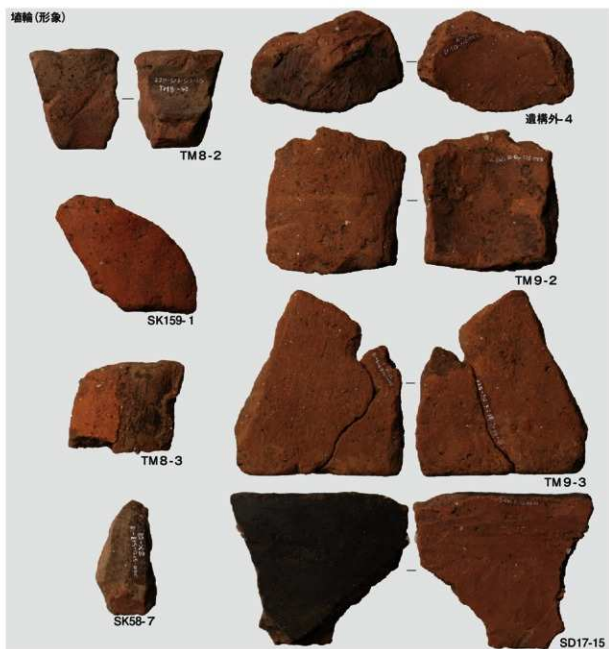
第1号墳出土器財埴輪（機織形・人物）

PL48

埴輪(円筒)

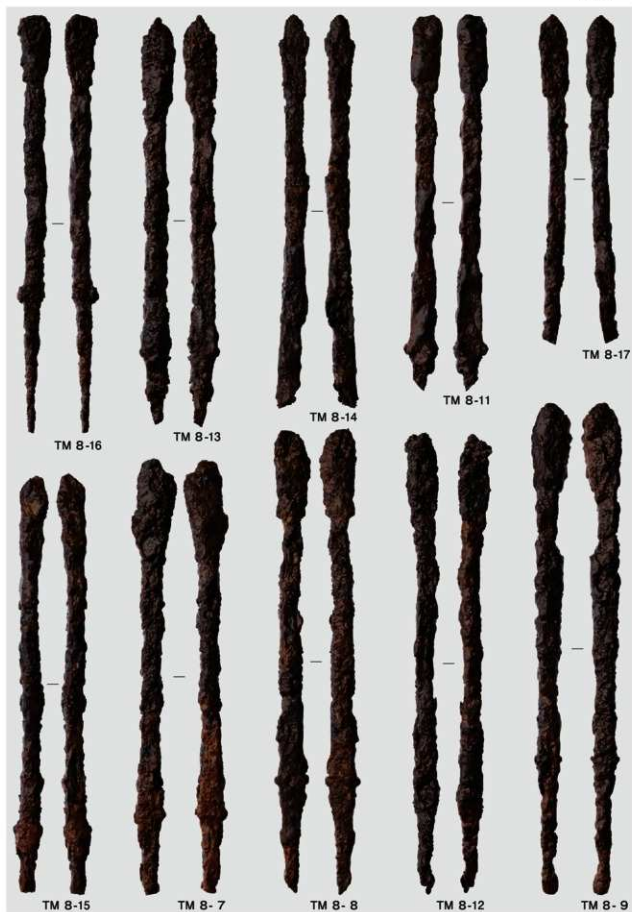


埴輪(形象)

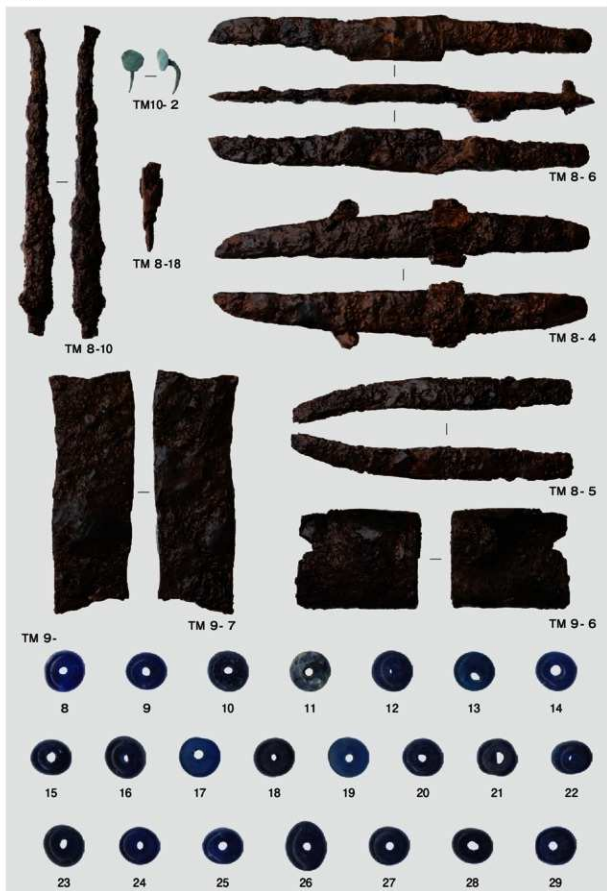


第8・9号墳，第17号溝跡，第58・159号土坑，遺構外出土埴輪（円筒・形象）

PL49



第8号墳出土金属製品



第8・9・10号墳出土金属製品，第9号墳出土ガラス製品（2倍に拡大）

## 抄 録

ふりがな	かみざかいさきのだいこふんぐん、かみざかいさくのうちいせきに・かみざかいさくのうちこふんぐん								
書名	上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡2・上境作ノ内古墳群								
副書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXIV								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第450集								
著者名	三浦裕介 埋蔵文化財の保存処理いしかわ パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社イビソク								
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2021(令和3)年3月16日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
上境滝の台古墳群	茨城県つくば市 上境 297 番地ほか	08220 1 099	36度 7分 38秒	140度 7分 28秒	25 ~ 27m	20180501 ~ 20180930	3,415 m <sup>2</sup>	中根・金田台 特定土地区画 整理事業に伴 う事前調査	
上境作ノ内遺跡・ 上境作ノ内古墳群	茨城県つくば市 上境 185-1 番地ほか	08220 512-513	36度 6分 49秒	140度 7分 23秒	23 ~ 26m	20180901 ~ 20181231	5,522 m <sup>2</sup>		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
上境滝の台古墳群	旧石器	石器集中地点	6か所	石器(ナイフ形石器・楔形石器・ 台形様石器・石斧・削器・掻 器・石核・二次加工剥片・剥片・ 砕片・礫)	石器終通地点 から、AT以 前の石器が出 土している。 第3号墳から 象嵌が施され た鉄製品が出 土している。				
	集落跡	縄文	土坑	184基	縄文土器(深鉢・浅鉢)、石器(垂 飾り・石鏃・磨製石斧・石皿・ 磨石・敲石)				
		弥生	竪穴建物跡	4棟	弥生土器(甕)、土製品(紡錘 車)、石器(石鏃・磨石)				
	墓域	古墳	古墳	1基	須恵器片(長頸瓶)、灰軸陶器 (瓶類・短頸壺)、石器(丸玉)、 金属製品(直刀・鳩目金具・ 黄金具・目釘・鏝・鏡・銅瓦・ 刀子・鏃)、ガラス製品(小玉)				
	その他	時期不明	竪穴建物跡 方形竪穴遺構 土坑 溝跡 ピット群	1棟 124基 1条 2か所	埴輪片(形象)、石器(ナイフ 形石器・楔形石器・削器・掻 器・台形様石器・尖頭器・二 次加工剥片、石器未製品・石核・ 剥片・砕片・玉・石鏃・凹石)				
上境作ノ内遺跡・ 上境作ノ内古墳群	集落跡	旧石器	石器集中地点	3か所	石器(石核・二次加工剥片・ 剥片・砕片・礫)	第1号墳周溝 から、機織形 埴輪が出土し ている。			
	墓域	古墳	古墳	4基	土師器片(坏・器台・高坏・鉢・ 甕)、須恵器片(坏)、埴輪片(円 筒・形象・器財)、金属製品(直 刀・刀装具・刀子・鉄鏃・鏝・ 不明)、ガラス製品(小玉)				
	その他	平安	土坑	1基	須恵器片(坏)				
		江戸	溝跡	1条	陶器(天目茶碗)				
		時期不明	土坑 溝跡 粘土採掘坑	121基 2条 1基	石器(ナイフ形石器・尖頭器・ 楔形石器・二次加工剥片・石核・ 剥片・石鏃・原石・礫)				
要約	上境滝の台古墳群は、旧石器時代から古墳時代にかけての複合遺跡である。縄文・弥生時代には集落、古墳時代には墓域となる。旧石器時代の遺物は、3万年前より下層から出土している。古墳は前方後円墳(帆立貝形)で、変則的古墳である。 上境作ノ内遺跡・上境作ノ内古墳群は、旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。古墳3基を今回の調査で新たに確認した。第1・8・9号墳は前方後円墳(帆立貝形)で変則的古墳である。第1号墳周溝からは器財埴輪(機織)が出土している。								

## 印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2020
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2020
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2020
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CC 2020でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第450集

つくば市

上境滝の台古墳群

上境作ノ内遺跡2

上境作ノ内古墳群

中根・金田台特定土地区画整理事業  
地内埋蔵文化財調査報告書XXIV

令和3（2021）年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒310-0911 水戸市見和3丁目1528番地の38  
TEL 0120-23-1473